

# 八田奈呂遺跡Ⅰ

四国横断自動車道（伊野～須崎）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999年3月

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター



# 八田奈呂遺跡Ⅰ

四国横断自動車道（伊野～須崎）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1999年3月

(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター





仁淀川と八田地区





八田奈呂遺跡遠景



八田奈呂遺跡完掘狀況



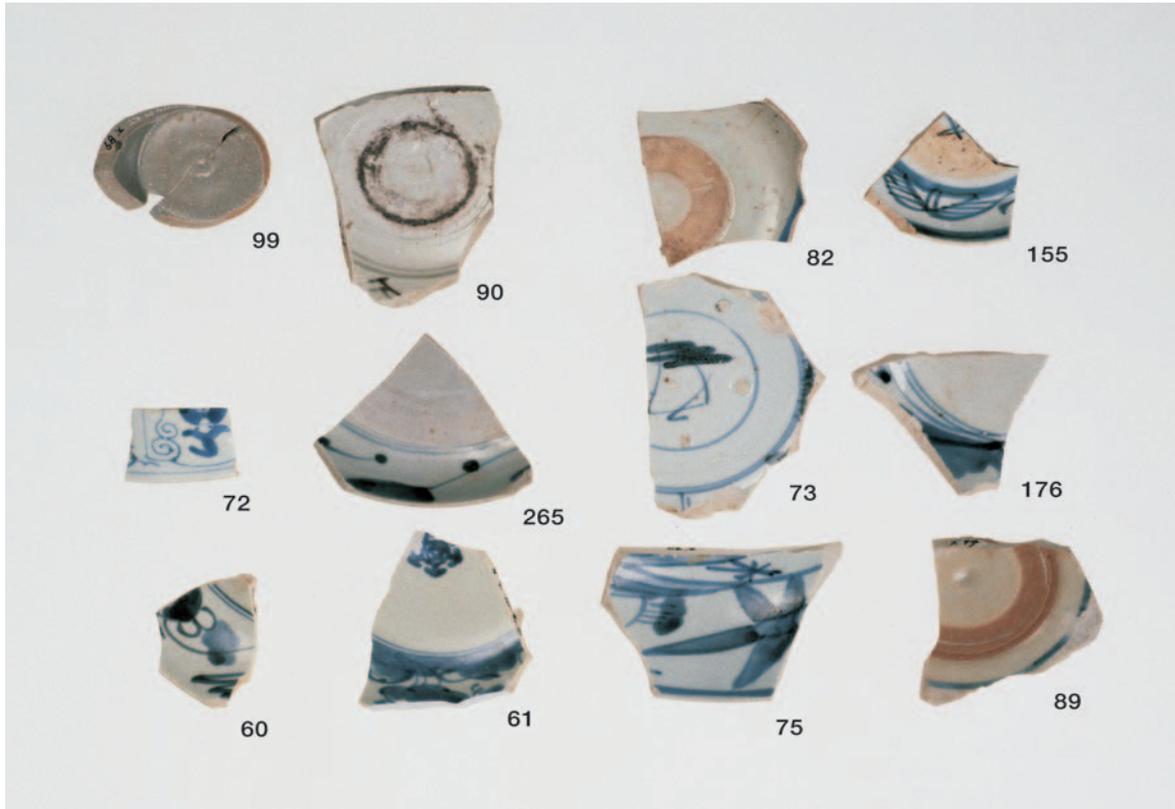


八田栃谷遺跡遠景

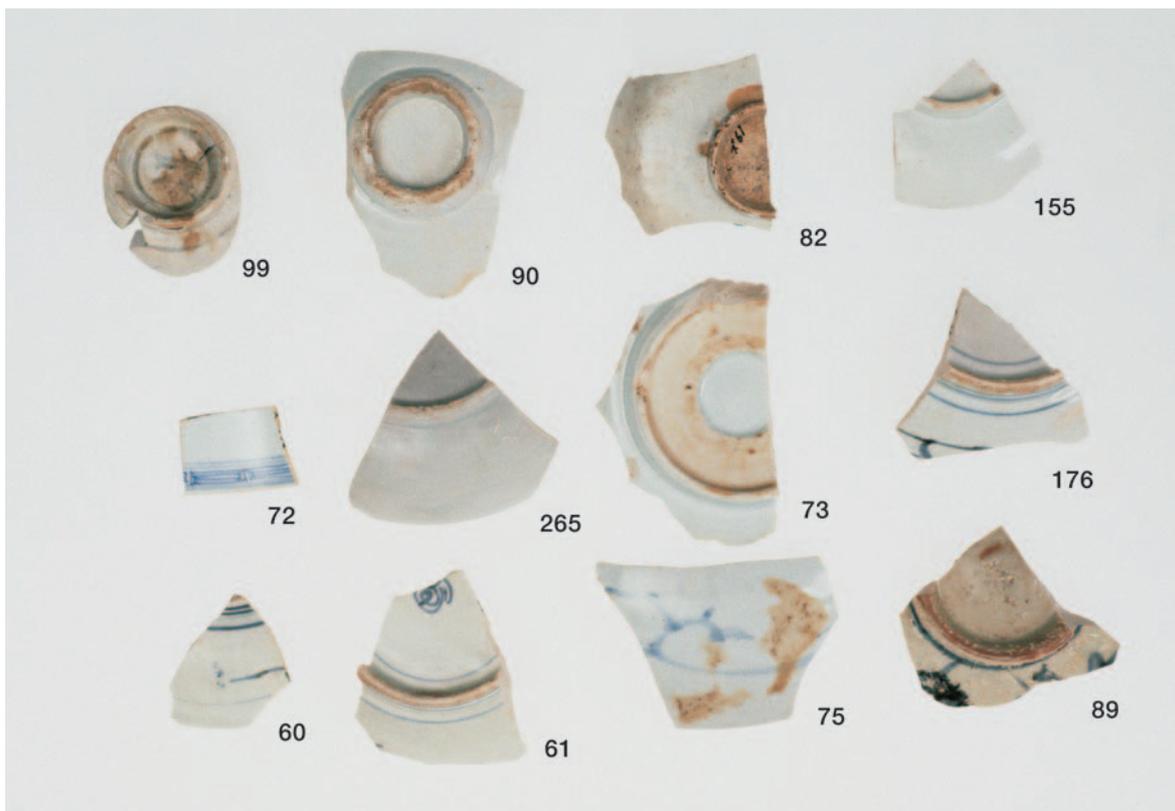


八田神母谷遺跡遠景





八田奈呂遺跡出土遺物（表）



八田奈呂遺跡出土遺物（裏）



# 序

これまで数々の四国横断自動車道建設工事に伴う埋蔵文化財の発掘調査が行われてきました。そしてそこでは多くの貴重な発見が相次ぎ、高知県の古き歴史を解き明かすうえでも大きな成果を得ています。八田奈呂遺跡をはじめとする今回の伊野町八田地区の調査においても同様に貴重な成果を得ることができました。八田奈呂遺跡の調査では中世から近世にかけての生活ぶりを示す多数の資料が出土し、その時代の集落跡を主とする遺跡の存在が確認され、八田栃谷遺跡では弥生時代から古墳時代にかけての祭祀跡を主とする遺跡の存在を確認しました。これにより、地域の歴史をより明らかに振り返ることができることと思います。

発掘調査による成果は、現在そして未来をより良く生きていくための材料とするため、高知県の諸地域の歴史を解明していくうえでかけがえのない文化遺産として、伝えられなければいけません。本報告書により埋蔵文化財を含む歴史を知ることに対する理解と関心が一層深められれば幸いです。最後になりましたが、今回の発掘調査を実施するにあたり、御配慮、御協力いただきました関係各位に対しましてここに厚く御礼申し上げます。

1999年3月

財団法人 高知県文化財団 埋蔵文化財センター  
所長 古谷 碩志

# 例 言

1. 本書は、高知県文化財団埋蔵文化財センターが平成7年度・8年度・9年度に実施した四国横断自動車道建設に伴う八田奈呂遺跡発掘調査、八田栃谷遺跡発掘調査及び八田地区（1～3区）試掘調査の報告書である。なお、八田奈呂遺跡の調査区1区～6区については報告書『八田奈呂遺跡Ⅱ』において発掘調査の報告を行う。
2. 八田奈呂遺跡、八田栃谷遺跡共に、高知県吾川郡伊野町八田に所在する。
3. 発掘調査は、以下の通り実施した。

八田奈呂遺跡は、試掘調査は平成8年1月～平成8年3月まで、本調査は平成8年4月～平成9年5月まで実施した。

八田栃谷遺跡は、平成7年12月～平成8年1月まで実施した。

八田地区（1～3区）試掘調査は、平成7年9月～平成8年12月まで実施した。
4. 調査面積

八田奈呂遺跡は、試掘調査525㎡、平成8年度調査29,000㎡、平成9年度調査4,000㎡。

八田栃谷遺跡は、425㎡。

八田地区（1～3区）試掘は、1,700㎡うち3区は750㎡。
5. 調査体制
  - (1) 八田奈呂遺跡

大野佳代子（高知県文化財団埋蔵文化財センター 専門調査員）  
江戸 秀輝（同 主任調査員）
  - (2) 八田栃谷遺跡

江戸 秀輝  
坂本 憲昭（高知県文化財団埋蔵文化財センター 調査員）
  - (3) 八田地区（1～3区）試掘調査

坂本 憲昭  
江戸 秀輝
  - (4) 総務担当

吉岡 利一（高知県文化財団埋蔵文化財センター 主幹）  
大原 裕幸（同 主幹）
  - (5) 本書の執筆・編集は江戸が行った。調査・測量については出原恵三氏・松村信博氏・下村裕氏・山本純代氏（高知県文化財団埋蔵文化財センター）に協力を得た。また報告書作成にあたっては出原恵三氏・浜田恵子氏・藤方正治氏に、遺物写真撮影については池澤俊幸氏に協力を得た。
6. 出土遺物については、大橋康二氏（佐賀県教育庁文化財課）、橋本久和氏（高槻市立埋蔵文化財センター）にご教示をいただいた。記して深く感謝の意を表したい。

7. 発掘現場作業員は下記の方々である。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

浅井美枝 板原史明 今村重臣 上野太一郎 梅原美智 大賀幸子 大塚耕平 岡田晃 岡林千代亀  
岡本まみ 岡本美恵子 産田康子 笠原郁子 加志崎悦子 川埜龍三 川端章江 国沢英子 国沢和  
代 国沢節子 窪内笑 小泉響子 小路口聡 佐々木智文 末政淑子 末政則幸 仙頭洋子 高橋初  
滝沢昭子 田中克佳 田中友紀子 近沢美恵子 近沢洋子 土居隆弘 土居敏江 徳平真也 徳弘匠  
友松貴史 中岡きよ 長沢健太 西尾正盛 西田成美 西村信一郎 西村説子 西村里津子 花田洋  
通 浜田克子 弘田恵子 藤岡京子 藤本和 細井裕介 本田壮史 前田和彦 松井英晃 松本明美  
松本純子 松本忠雄 松本恵 宮崎歩 宮崎雅和 宮地紀子 邑中三代市 本山みどり 森沢健次郎  
山本智子 横川香代 吉井裕子 吉村政之 吉本善子

(重機操作運転は国沢工業の皆さん)

8. 遺物整理・報告書作成に関する作業員は下記の方々である。記して感謝の意を表したい。(敬称略)

岩貞泰代 岩本須美子 大原喜子 尾崎富喜 小野山美香 川久保香 楠瀬憲子 久万公子  
小松経子 高橋千代 田村美鈴 橋田美紀 浜田雅代 東村知子 前田玲子 松木富子 山本裕美子  
山本由里 矢野雅

9. 出土遺物は高知県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

# 本文目次

第Ⅰ章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境	1
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	3
第Ⅱ章 調査に至る経過と調査の方法	7
1. 調査に至る経過	7
2. 調査の方法	8
第Ⅲ章 八田奈呂遺跡調査成果	9
1. 調査区の概要	11
2. 検出遺構と出土遺物	11
(1) 第1検出面(近代～)	11
(2) 第2検出面(中世～近世)	17
(3) 第3検出面(中世)	19
(4) その他(～古代)	21
(5) 出土遺物	21
3. 八田奈呂遺跡出土遺物観察表	39
4. 八田奈呂遺跡出土遺物実測図	49
第Ⅳ章 八田栃谷遺跡調査成果	79
1. 調査区の概要	79
2. 検出遺構と出土遺物	79
3. 八田栃谷遺跡出土遺物観察表	87
4. 八田栃谷遺跡出土遺物実測図	94
第Ⅴ章 八田地区3区試掘調査成果	109
1. 調査区の概要	112
2. 検出遺構と出土遺物	112
3. 八田地区3区試掘出土遺物観察表	118
4. 八田地区3区試掘出土遺物実測図	121
第Ⅵ章 考 察	141
1. 八田奈呂遺跡について中世・近世における状況	141
2. 八田栃谷遺跡における祭祀の位置づけ	141
3. 八田地区3区の試掘による概況	142
4. 八田地区3遺跡の関連性	142

# 挿図目次

図 1 - 1	遺跡位置図	1
図 1 - 2	八田奈呂遺跡周辺の遺跡分布図	2
図 3 - 1	八田奈呂遺跡位置図	10
図 3 - 2	八田奈呂遺跡調査区（試掘位置図）	12
図 3 - 3	八田奈呂遺跡調査区（第 1 検出面）	13
図 3 - 4	八田奈呂遺跡調査区（第 2 検出面）	14
図 3 - 5	八田奈呂遺跡調査区（第 3 検出面）	15
図 3 - 6	八田奈呂遺跡土層断面図（11区～17区）	16
図 3 - 7	八田奈呂遺跡土層断面図（19区・23区、25区）	17
図 3 - 8	八田奈呂遺跡20区道路状遺構断面図	18
図 3 - 9	八田奈呂遺跡22区（第 2 検出面）S B 位置図	20
図 3 - 10	八田奈呂遺跡15・16・17区（第 2 検出面）S B 位置図	22
図 3 - 11	八田奈呂遺跡22区（第 3 検出面）S B 位置図	23
図 3 - 12	八田奈呂遺跡 S B 1～4 平面図及びエレベーション図	24
図 3 - 13	八田奈呂遺跡 S B 5～8 平面図及びエレベーション図	25
図 3 - 14	八田奈呂遺跡 S B 9～12 平面図及びエレベーション図	26
図 3 - 15	八田奈呂遺跡 S B 13～15 平面図及びエレベーション図	27
図 3 - 16	八田奈呂遺跡 S B 16～18 平面図及びエレベーション図	28
図 3 - 17	八田奈呂遺跡 S B 19・20 平面図及びエレベーション図	29
図 3 - 18	八田奈呂遺跡14区（第 2 検出面）平面図	30
図 3 - 19	八田奈呂遺跡15区（第 2 検出面）平面図	30
図 3 - 20	八田奈呂遺跡16区（第 2 検出面）平面図	30
図 3 - 21	八田奈呂遺跡17区（第 2 検出面）平面図	30
図 3 - 22	八田奈呂遺跡19・20区（第 2 検出面）平面図	31
図 3 - 23	八田奈呂遺跡21・22区（第 2 検出面）平面図	32
図 3 - 24	八田奈呂遺跡25区平面図	33
図 3 - 25	八田奈呂遺跡18区（第 3 検出面）平面図	34
図 3 - 26	八田奈呂遺跡19・20区（第 3 検出面）平面図	35
図 3 - 27	八田奈呂遺跡22区（第 3 検出面）部分平面図	36
図 3 - 28	八田奈呂遺跡21・22区平面図	37～38
図 3 - 29	八田奈呂遺跡23・24・25区（第 3 検出面等）平面図	36
図 3 - 30	八田奈呂遺跡出土遺物	49
図 3 - 31	八田奈呂遺跡出土遺物	50

図 3 - 32	八田奈呂遺跡12・14・21調査区出土遺物	51
図 3 - 33	八田奈呂遺跡15・20調査区出土遺物	52
図 3 - 34	八田奈呂遺跡16・17調査区出土遺物	53
図 3 - 35	八田奈呂遺跡18・19・20調査区出土遺物	54
図 3 - 36	八田奈呂遺跡20調査区出土遺物	55
図 3 - 37	八田奈呂遺跡20調査区出土遺物	56
図 3 - 38	八田奈呂遺跡21調査区出土遺物	57
図 3 - 39	八田奈呂遺跡21調査区出土遺物	58
図 3 - 40	八田奈呂遺跡22調査区出土遺物	59
図 3 - 41	八田奈呂遺跡22調査区出土遺物	60
図 3 - 42	八田奈呂遺跡22調査区出土遺物	61
図 3 - 43	八田奈呂遺跡23・24調査区出土遺物	61
図 3 - 44	八田奈呂遺跡その他出土遺物	62
図 3 - 45	八田奈呂遺跡31調査区出土遺物	63
図 3 - 46	八田奈呂遺跡試掘 T R 20・23・25・39・34・36出土遺物	64
図 4 - 1	八田栃谷遺跡位置図	80
図 4 - 2	八田栃谷遺跡トレンチ位置図	81
図 4 - 3	八田栃谷遺跡 T R 1・2 土層断面図	83
図 4 - 4	八田栃谷遺跡 T R 3～5 土層断面図	84
図 4 - 5	八田栃谷遺跡 T R 7～17土層断面図	85
図 4 - 6	八田栃谷遺跡遺物出土位置状況図	86
図 4 - 7	八田栃谷遺跡出土遺物 1	94
図 4 - 8	八田栃谷遺跡出土遺物 2	95
図 4 - 9	八田栃谷遺跡出土遺物 3	96
図 4 - 10	八田栃谷遺跡出土遺物 4	97
図 4 - 11	八田栃谷遺跡出土遺物 5	98
図 4 - 12	八田栃谷遺跡出土遺物 6	99
図 4 - 13	八田栃谷遺跡出土遺物 7	100
図 4 - 14	八田栃谷遺跡出土遺物 8	101
図 5 - 1	八田神母谷遺跡位置図	110
図 5 - 2	八田神母谷遺跡 (八田地区 3 区) 試掘トレンチ位置図	111
図 5 - 3	八田神母谷遺跡 (八田地区 3 区) 試掘トレンチ土層断面図 1	114
図 5 - 4	八田神母谷遺跡 (八田地区 3 区) 試掘トレンチ土層断面図 2	115
図 5 - 5	八田神母谷遺跡 (八田地区 3 区) 試掘トレンチ土層断面図 3	116
図 5 - 6	八田神母谷遺跡 (八田地区 3 区) 試掘トレンチ土層断面図 4	117
図 5 - 7	八田地区 3 区試掘 T R 1・2 出土遺物	121

図5-8	八田地区3区試掘TR5出土遺物	122
図5-9	八田地区3区試掘TR6・8・12・14・16・18出土遺物	123
図5-10	八田地区3区試掘TR13出土遺物	124
図5-11	八田地区3区試掘TR19・21・23出土遺物	125
図5-12	八田地区3区試掘TR23出土遺物	126
図5-13	八田地区3区試掘TR24・28・29・その他出土遺物	127

# 写真図版

- PL. 1 仁淀川と八田地区
- PL. 2 八田奈呂遺跡遠景・八田奈呂遺跡完掘状況
- PL. 3 八田栃谷遺跡遠景・八田神母谷遺跡遠景
- PL. 4 八田奈呂遺跡出土遺物
- PL. 5 八田奈呂遺跡完掘状況全景
- PL. 6 八田奈呂遺跡11区～17区完掘状況・17区完掘状況
- PL. 7 八田奈呂遺跡16区～20区完掘状況・20～22区完掘状況
- PL. 8 八田奈呂遺跡22区完掘状況・19区23～26区完掘状況
- PL. 9 八田奈呂遺跡11区下側土層断面・12区下側土層断面・13区下側土層断面・14区下側土層断面・15区下側土層断面・16区下側土層断面・17区下側土層断面・19区・23区北側土層断面
- PL. 10 八田奈呂遺跡19区柱穴等・20区道路状遺構等・21区流路跡等・22区柱穴土坑等・22区柱穴・23区柱穴等・22区作業風景・調査に従事した人々
- PL. 11 八田奈呂遺跡遺物出土状況 22区・T R 22・T R 23
- PL. 12 八田奈呂遺跡出土遺物 12・20・21・29・35・63・65・66
- PL. 13 八田奈呂遺跡出土遺物 70・75・77・81・87・110・136・159
- PL. 14 八田奈呂遺跡出土遺物 169・172・181・184・209・212・215・222
- PL. 15 八田奈呂遺跡出土遺物 227・247・248・261・262・263・308・271
- PL. 16 八田奈呂遺跡出土遺物 58・156・255・185
- PL. 17 八田奈呂遺跡出土遺物 238・143・239・147・240・264・145  
八田奈呂遺跡出土遺物 180・234・124・229・125・127・230・114・118
- PL. 18 八田奈呂遺跡出土遺物 21・20・29・51・313・199・40  
八田奈呂遺跡出土遺物 270・269・268・267
- PL. 19 八田栃谷遺跡T R 1・T R 2・T R 6完掘
- PL. 20 八田栃谷遺跡遺物出土状況 T R 1・T R 2・T R 3・T R 5
- PL. 21 八田栃谷遺跡遺物出土状況 T R 6
- PL. 22 八田栃谷遺跡出土遺物 90・57・45・41・134・135
- PL. 23 八田栃谷遺跡出土遺物 23・58・9・48・82・125・136・137
- PL. 24 八田栃谷遺跡出土遺物 38・75・77・110・115・64・60・61
- PL. 25 八田地区3区試掘調査前風景
- PL. 26 八田地区3区試掘作業風景 T R 2・T R 5
- PL. 27 八田地区3区試掘 T R 2・T R 4・T R 5・T R 6・T R 7・T R 8・T R 10・T R 12
- PL. 28 八田地区3区試掘 T R 13・T R 18・T R 20・T R 21・T R 23・T R 28・T R 29・T R 30
- PL. 29 八田地区3区試掘遺物出土状況 T R 5・T R 18

- PL. 30 八田地区 3 区試掘遺物出土状況 TR 21・TR 23
- PL. 31 八田地区 3 区試掘遺物出土状況 TR 4・TR 13（遺構検出状況）・TR 13・TR 23
- PL. 32 八田地区 3 区試掘出土遺物 8・13・15・19・22・24
- PL. 33 八田地区 3 区試掘出土遺物 31・32・33・55・34・37
- PL. 34 八田地区 3 区試掘出土遺物 71・38・75・81・28・29・49・50・76
- PL. 35 八田地区 3 区試掘出土遺物 39・40・3・10・11・75・80
- PL. 36 八田地区 3 区試掘出土遺物 27・17・6・7・16・26・21・23



# 第I章 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

## 1. 地理的環境

八田奈呂遺跡・八田栃谷遺跡・八田神母谷遺跡の所在する吾川郡伊野町は、高知県の中央部、吾川郡の中央に位置する。東は土佐郡鏡村・高知市、南は吾川郡春野町・土佐市、南西は高岡郡日高村、西は高岡郡越知町、北は吾川郡吾北村に接する。仁淀川が西から南西縁に沿って蛇行しながら南東に流れたのち、町の中心部をなす南東部の中央を南流する。北部は鷹羽ヶ森をはじめとする標高1,000m以下の山々が連なり、南部には丘陵と、東西方向の標高15~20mの沖積層である低地がある。全体として仁淀川及びその支流である勝賀瀬川・小野川・早稲川・宇治川・奥田川などの河谷や低地に集落が立地する。暖温帯の照葉樹林に町域のほとんどが覆われているが、北部山地の高所は冷涼帯で落葉樹林をみる。冬は温和で、かつて製紙の天日乾燥に役立ったが、夏の台風による豪雨は古来しばしば洪水の害をもたらした。特に増水した仁淀川本流が南部低地に逆流して滞水の害を与え、また北部山地では山腹斜面・溪谷の崩壊などの被害が起こる。

中でも八田は、町の南東部。仁淀川の左岸、町の中心部の南に位置する。仁淀川の支流奥田川が南西流する。西は弘岡井筋と仁淀川がほぼ並行して南流し、比較的平野の多い地である。

八田堰についてだが、近世初期、八田村（現伊野町八田）から仁淀川対岸の大内村（現伊野町大内）に向かって設けられた堰で、その河水は弘岡井筋を通じて、下流左岸域を灌漑した。昭和初期にコンクリート化され、現在も残る。工事は奉行職野中兼山・普請奉行一木権兵衛の指導下で、慶安元年（1648）に開始され、4年後の承応元年（1652）に完成した（南路志）。現在は西北方向に直線的に川を横断しているが、もとは西北方向に下流に向かって湾曲していた。規模も時代により若

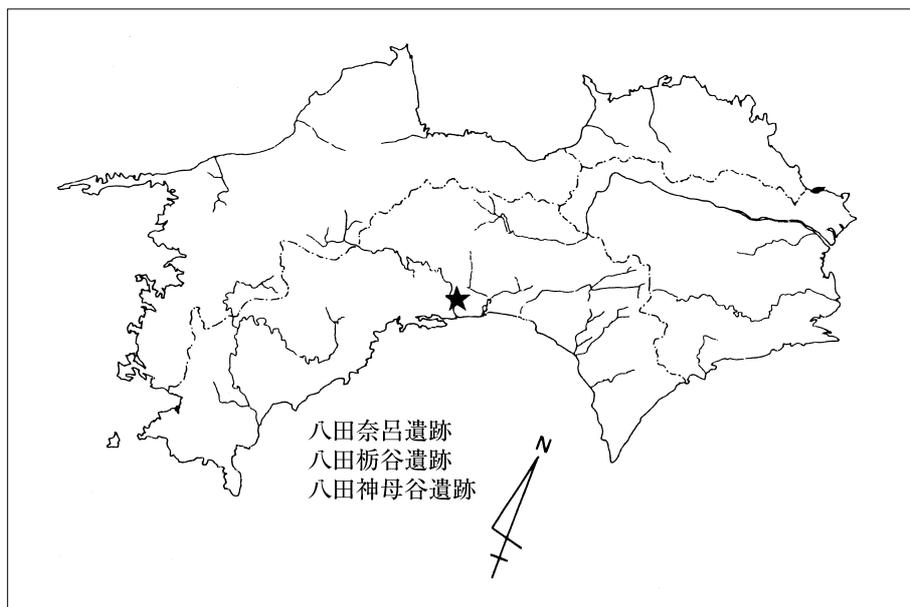


図1-1 遺跡位置図



図1-2 八田奈呂遺跡周辺の遺跡分布図

干の差があり、当初は長さ230間、幅25間（土佐州郡志）、文化年間（1804～1818）頃は長さ250間（南路志）、明治初期には長さ228間、幅10間3尺、高さ1間4尺（南海之偉業）。「南海之偉業」に「構造スルニ大石木材ヲ用フ」とあるが、直方体の枠に組込んだ松丸太を河中に据え、この中に栗石を入れてその上を割石で覆ったものであった。この技術は近代まで周辺農村に伝えられた。また弘岡井筋が仁淀川に流入する奥田川と立体交差するところは、末田底塚とよばれた井筋構築時の難工事の場所であったという記録もある。また、「西分村史」によれば、八田村域では同井筋の水位が高かったため灌漑できなかつたが、元禄6年（1693）から水車による揚水が許可されたが、下流新田の水不足や筏流しの支障になれば水車は撤去するという条件であったため、宝暦年中（1751～64）には撤去を求められている。早魃のときはこの水車をめぐって、八田村と下流村々との間に激しい水論が展開された。

## 2. 歴史的環境

次に、歴史的環境について、伊野町を中心にみていくと、古くは字塔ノ向から縄文前期の土器、字盗田からも同時期の土器が出土、宇治川左岸の奥名からは多くの縄文中期中葉の土器が発見された。大デキでは縄文後期・晩期の土器の出土、八田栃谷では縄文晩期の磨製石斧や弥生中期の弥生土器および石包丁も出土し、バーガ森北斜面でも弥生時代の石包丁が発見された。そして弥生中期

	名 称	種 別	時 代		名 称	種 別	時 代
1	八田奈呂遺跡	集落跡	弥生・古代～近世	25	岩瀧ノ鼻遺跡A	散布地	弥生
2	八田栃谷遺跡	散布地・祭祀跡	弥生～近世	26	岩瀧ノ鼻遺跡B	散布地	古墳
3	八田神母谷遺跡	祭祀跡・集落跡	縄文～近世	27	新田遺跡	散布地	古墳
4	波川北遺跡	散布地	弥生	28	観音ノ鼻遺跡	散布地	古墳
5	宮ノ東遺跡	散布地	弥生	29	観音ノ平遺跡	散布地	古墳
6	鎌田城跡	城館跡	中世	30	清滝愛宕山遺跡	散布地	古墳
7	月田上神社遺跡	祭祀遺跡	近世	31	東灘沖屋敷遺跡	散布地	古墳・中世
8	ハギ原遺跡	散布地	中世	32	居徳遺跡群	祭祀跡・集落跡	縄文～古代
9	門田遺跡	散布地	中世	33	天崎遺跡	集落跡	弥生～中世
10	寺門遺跡	散布地	弥生	34	曾我山城跡	城館跡	中世
11	次郎丸遺跡	散布地	弥生	35	人麻呂様城跡	城館跡	中世
12	天神遺跡	散布地	中世	36	八幡遺跡	散布地	古墳
13	天神溝田遺跡	散布地	弥生	37	御太子宮遺跡	散布地	中世
14	音竹城跡	城館跡	中世	38	八幡光本遺跡	散布地	古代
15	バーガ森北斜面遺跡	集落跡	弥生・中世	39	野田遺跡	散布地	縄文～中世
16	高海老遺跡	散布地	弥生	40	八田城跡	城館跡	中世
17	塔の向遺跡	散布地	弥生	41	奥谷遺跡	散布地	弥生
18	北山前遺跡	散布地	古墳	42	巖島遺跡	散布地	古代～中世
19	大デキ遺跡	散布地	縄文～古墳	43	八幡宮西ノ城跡	城館跡	中世
20	サジキ遺跡	散布地	弥生～中世	44	古市遺跡	散布地	中世
21	奥名遺跡	散布地	縄文	45	吉良屋敷跡	散布地	弥生
22	坂口遺跡	散布地	弥生	46	吉良城跡	城館跡	弥生
23	枝川3号古墳	古墳	古墳	47	西ノ芝遺跡	散布地	弥生
24	枝川2号古墳	古墳	古墳				

後半の竪穴住居跡が3棟発見され、高地性集落の存在も確認された。弥生後期の遺跡は寺門から壺・甕・高杯などの土器が発見され、天神溝田では弥生終末期の土器のほかに、銅剣・銅戈・叩石なども出土した。

古墳時代になると、大デキでは土師器の高杯が出土している。波川の城戸で須恵器、サジキの須恵器の出土がある。古墳は、枝川古墳群として3基の横穴式石室墳がみられ、八田には1基の後期古墳があった。いずれも小型の円墳で、内部に横穴式石室をもつ6～7世紀代のものである。なお枝川1号墳では、石室内部から須恵器・玉類・ガラス製品・銀環・鉄刀子などが出土した。

八田の岩滝ノ鼻遺跡についてだが、仁淀川の支流奥田川に沿う平野の山麓近くにある2箇所の遺跡で、標高は15m前後。岩滝ノ鼻で発見された細形銅剣出土遺跡（岩滝ノ鼻A地点遺跡）と、奥田川河川敷で発見された古墳時代中期の遺物出土遺跡（岩滝ノ鼻B地点遺跡）で、両遺跡は距離的に150mほどしか離れていない。なおA地点遺跡は岩滝遺跡ともいわれ、昭和31年（1956）に発見。B地点遺跡はそれ以前、奥田川の河川工事に伴って発見され、八田遺跡ともいわれる。A地点遺跡出土の細形銅剣は全長31.7cm、漆黒色の良質の青銅製で、しかも関上に双孔をもつもので、単独の発見である。B地点遺跡は地下3mから袋状鉄斧1個が、古墳時代中期の馬場末式土器の壺形土器に伴って出土している。B地点遺跡を350m下った八田新田の奥田川河川敷からは、これも奥田川改修工事に伴って須恵器と丸木舟が発見され新田遺跡とよばれている。

律令制の支配が進められ郡郷制が施行されると、この伊野町の多くは吾川郡の管轄下に入ったとみられる。当初吾川郡は8郷からなり、仁淀川の両側に拡大したが、承和8年（841）に折半され、仁淀川左岸が吾川郡、右岸が高岡郡とされた。「和名抄」に見える郷のうち、伊野町域の大半は吾川郡大野郷に属したと思われるが、西岸の波川付近は高岡郡の吾川郷に属したと考えられ、南部の八田地区を吾川郡桑原郷に入れる説もある。枝川・池内は土佐郡朝倉郷に属したと見られる。

仁淀川沿いの自然堤防上に主として集落が発達すると、その核として神社が祀られる。神谷の天岩戸別安国玉主天神社は延喜式内社と推定され（土佐国式社考）、梶本神社の勧請は延暦12年（793）と伝えられる。

文治元年（1185）、源頼朝の守護・地頭設置により、吾川郡は京都六条若宮八幡の別当職付属の所領とされた。吾川郡のうち、大野・仲村両郷は室町期以後、六条若宮八幡を管轄する京都の醍醐寺三宝院門跡の所領であった。弘長3年（1263）、梶本神社に造立、奉納された八角形漆塗神輿には銘文が記され、国司・将軍家・領家・預所とその代官の繁栄を祈るためであった。

南北朝期には当地の在地領主層が二分して分裂抗争していた状況がある。南北朝の動乱を通じて、名主層はそれぞれ成長したが、室町期に守護領国制が崩壊すると、蓮池城（現土佐市）の大平氏が南部から勢力をのぼし、のち本山郷（現本山町）の本山氏が勢力を南下させ、この地を支配するに至った。本山氏は朝倉城（現高知市）を拠点とし、弘治～永禄年間（1550～70）頃には、高岡郡東部・吾川郡南部の仁淀川沿岸地域を支配下に組み入れた。本山氏は天文9年（1540）に弘岡（現春野町）の吉良氏を滅ぼし、蓮池を本拠とする大平氏を圧迫して仁淀川下流を占領した。長宗我部氏が本山氏を永禄6年（1563）朝倉城より本山郷に駆逐してからは、当地も長宗我部氏の支配下に組み入れられ、長宗我部元親の弟吉良親貞の所領となった。

長宗我部氏は天正16～19年にかけて当地方の検地を行い、吉良氏の滅亡後に伊野村・八田村・下分の再検地を慶長2年（1597）に行っており、同年の大野郷伊野村・八田之村・下分・楠瀬村・神谷村・小野村・勝賀瀬村の各地検帳が残っている。

江戸時代になると、寛保3年（1743）の郷村帳に見える伊野町域の村々は、吾川郡伊野・八田・神谷・賀田・小野・鹿敷・柳ノ瀬・柏原・楠ノ瀬・勝賀瀬、土佐郡真木（槇）・枝川・池ノ内・中追・成山、高岡郡鎌田・大内・波川の18か村を数える。開発事業では野中兼山による鎌田堰・八田堰の構築がある。仁淀川本流をせき止め、高岡井筋・弘岡井筋に導いた。伊野町域は仁淀川の上流に位置するため、兼山の事業は伊野に集中していたが、用水の恩恵はほとんど当地域にはなかった。

そして伊野町の和紙についてだが、成山七色紙の製作に成功したものに安芸家友があった。家友は安芸城主安芸国虎の次男として生まれたが、国虎が滅亡し、当時8歳の家友は各地を流浪後成山村にて七色紙の製法に没頭。慶長5年山内一豊が国主に封じられると、家友は土産に持参した七色紙を賞されて徳川将軍家に献上することになる。七色紙とは黄紙・浅黄紙・桃色紙・柿色紙・紫色紙・萌黄紙・朱善寺紙をいう。家友は御用紙方役を任命されて成山に居住する。以来成山14戸、伊野10戸の御用紙漉家が指定されて将軍家の献上紙や土佐藩札の原紙などの上質紙を製紙したので、製法の秘密は厳守を命じられたが生活は保証された。近世の土佐和紙は御用紙漉きを中心に発展したが、一般農家の副業的な製紙も盛んになり、土佐藩は正徳年間（1711～16）頃御蔵紙制度を布告した。農民は指定量紙を御蔵に納入したのちに平紙の自由販売を許された。制度が過酷であったため農民騒動が各地で発生している。文政9年（1826）御用紙漉家に生まれた吉井源太は製紙器具の改良を工夫し、製法も分業化したので生産量が増大した。明治維新後には販売も自由になって企業化が急速に進展する。

伊野町市街部は近世初頭にはまったく形成されていなかった。ここに町屋ができたのは、「土佐州郡志」の芝町についての記載から元禄年間（1688～1704）の初期頃と思われる。椙本神社の門前に近い七丁が芝に芝町として生まれる。在郷町として近世後期に発展するのは、仁淀川水運の発達により上流の物資が谷の河港に荷揚げされ、椙本神社上手の間屋坂に並ぶ商人によって取り引きされるようになってからである。商品の重点は紙で、紙商人が成長したほか多くの屋号を持った商人がおり、130の屋号が認められる。また商人に支えられて俳諧を中心に町人文芸も発達した。紙を除けば、一般に北部山地は木材・薪炭の生産があり、また南部低地には駄賃稼ぎなどの副業もあった。

鹿敷村庄屋所助の家に近世中期までの長期にわたる年代記（鹿敷村庄屋覚書）が残されている。内容は天候とそれによる不作や飢餓の記録であり、仁淀川の洪水や米麦の値上がり不作に苦しむ農民に追い討ちをかける様子が記述されている。

#### 〔参考文献〕

- 『高知県の地名』日本歴史地名大系40巻 平凡社 1983年  
『39 高知県』角川日本地名大辞典 角川書店 1986年  
『伊野町史』 1973年



## 第Ⅱ章 調査に至る経過と調査の方法

### 1. 調査に至る経過

四国横断自動車道（伊野～須崎間）建設工事に伴い、事前に高知県教育委員会事務局文化振興課（現、文化財保護室）と日本道路公団高松建設局（現、四国支社）高知工事事務所との間で、工事範囲内の埋蔵文化財の取り扱いについて協議・調整が行われ、伊野町・土佐市・須崎市の建設工事予定地内について試掘調査を実施することとなった。

伊野町八田地区については、平成7年4月1日付で、財団法人高知県文化財団埋蔵文化財センターと日本道路公団高松建設局との間で、「平成7年度四国横断自動車道（南国～伊野及び伊野～須崎）埋蔵文化財発掘調査委託契約」が締結された。

伊野町八田地区は、調査の都合上、伊野町八田地区1区（現、八田奈呂遺跡）、八田地区2区（現、八田栃谷遺跡）、八田地区3区（現、八田神母谷遺跡）、八田地区4区の計4箇所について、試掘調査が計画された。

平成7年8月21日から試掘調査に関する事前の現地調査が行われ、平成7年9月4日から八田地区試掘調査準備が現地で始まり、平成7年9月20日から八田地区試掘調査機械掘削が開始された。この段階で、八田地区4区については、諸事情により試掘は実施できず、調査時期を次年度とし、八田地区3区から試掘調査に着手した。

平成7年12月、八田地区3区については一部を除き試掘調査を実施、完了し、協議・調整の結果、工事との関係から、先行して本調査を実施することになった。

平成7年12月15日八田地区3区本調査着手、平成7年12月18日八田地区3区本調査掘削開始。

八田地区3区の本調査と同時に並行して、八田地区2区、八田地区1区の試掘調査も実施された。

以上の試掘調査の結果、各調査区いずれからも遺構及び遺物が発見され、八田地区1区は「八田奈呂遺跡」、八田地区2区は「八田栃谷遺跡」、八田地区3区は「八田神母谷遺跡」ということで遺跡に指定された。八田地区4区については、後の試掘調査の結果、遺跡の存在は認められず、本調査の必要はないということになった。

八田神母谷遺跡の本調査及び八田栃谷遺跡、八田奈呂遺跡の試掘調査は続けて実施し、平成8年3月31日終了し、平成8年4月1日付の「平成8年度四国横断自動車道（南国～伊野及び伊野～須崎）埋蔵文化財発掘調査委託契約」により、平成8年4月より、八田奈呂遺跡・八田栃谷遺跡・八田神母谷遺跡について本調査が実施された。八田栃谷遺跡については工事との関係上、試掘調査の際に拡張して調査を実施し、本調査の多くを、ほぼ完了した。八田神母谷遺跡の本調査は平成9年2月28日終了した。八田奈呂遺跡の本調査は平成9年3月31日まで実施し、一部次年度へ継続して行うこととなった。平成9年4月1日付の埋蔵文化財発掘調査委託契約により、平成9年4月より平成9年5月26日まで実施し調査を完了した。

## 2. 調査の方法

八田奈呂遺跡・八田栃谷遺跡・八田神母谷遺跡（八田地区3区）の3遺跡は、調査に至る経過でも述べているように、当初、調査範囲である伊野町八田地区を4地区に設定して、それぞれの調査区について試掘調査を実施した。まず、試掘調査については、基本的には一つが5m×5mの試掘トレンチとし、現地の地形等諸条件に応じたトレンチを設定し、パワーショベル及び人力により表土を除去した後、人力により遺物包含層の掘削及び遺構の検出・掘削を行った。検出遺構・遺物の出土状況及び土層については写真撮影を行い、測量により平面図・断面図を作成した。これらの試掘調査の成果を基礎資料とし本調査の範囲を設定し、本調査を実施した。

本調査については、調査範囲を幾つかの調査区に区分して、それぞれ、除草・伐採したうえで表土等をパワーショベルにより掘削した後、遺物包含層を人力により掘り下げ、遺構・遺物の検出作業を進めた。検出遺構の完掘、出土遺物の取り上げを行い調査を進めた。検出遺構・遺物出土状況・土層等は写真撮影を行い、測量により平面図・断面図を作成することにより、写真・図面により記録を残した。

測量については、試掘は既存する基準点・水準点を利用し公共座標を基に、また、本調査はそれぞれの調査区内に新たに基準点を設置し公共座標を基本に実施した。

基本的には以上であるが、3遺跡個々に調査の方法が諸条件により異なっているため詳細についてはそれぞれの調査成果の章において述べることとする。

## 第Ⅲ章 八田奈呂遺跡調査成果



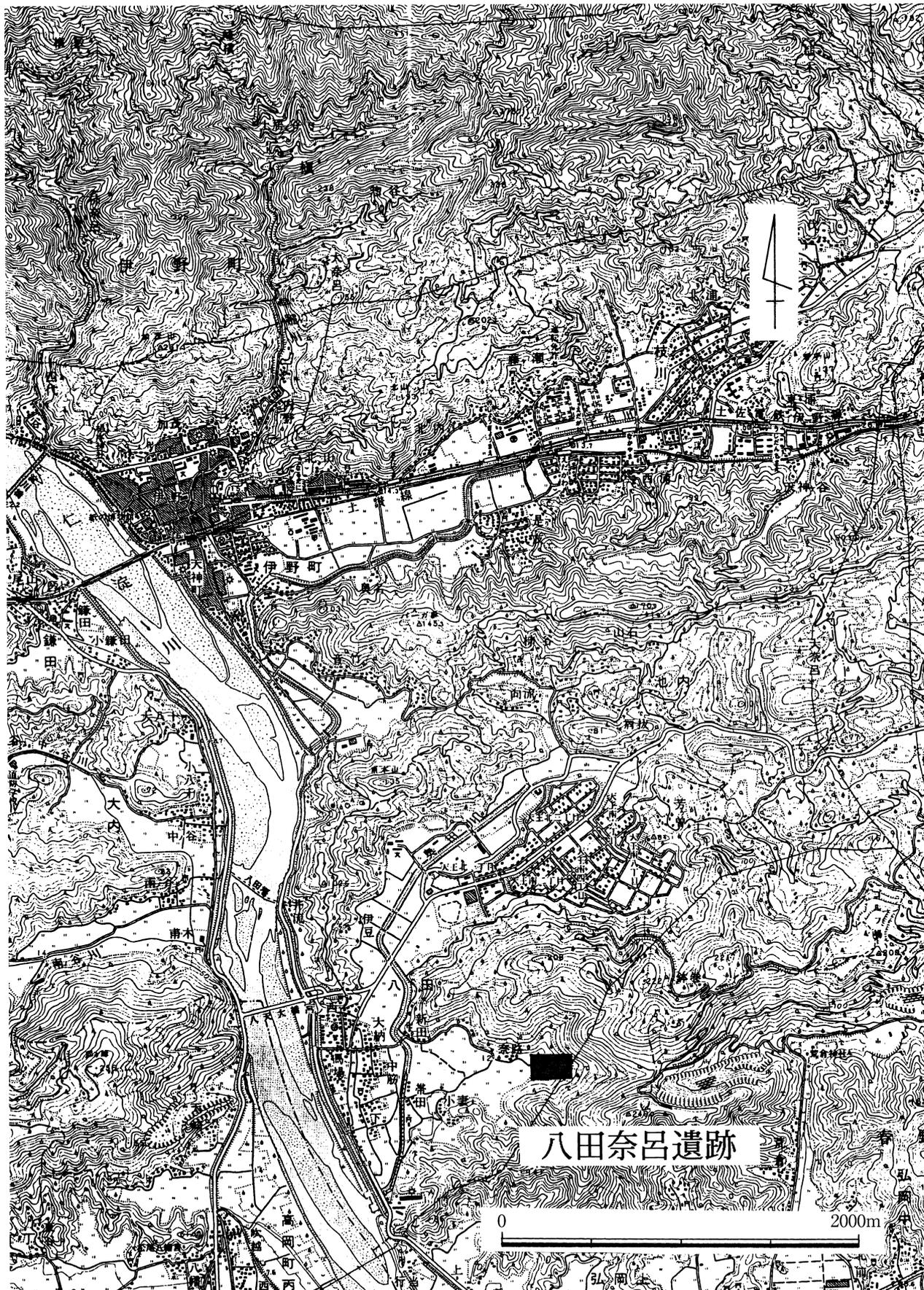


图 3-1 八田奈呂遺跡位置图

## 第Ⅲ章 八田奈呂遺跡調査成果

### 1. 調査区の概要

八田奈呂遺跡は仁淀川の東岸、吾川郡伊野町と吾川郡春野町の町境になる山の北側で、谷地形部分の緩斜面に所在している。南北両側をを谷に挟まれた尾根部から低湿地にかけて展開している。八田奈呂遺跡は伊野町八田地区1区・2区試掘調査における38箇所の試掘トレンチの内、八田地区1区に該当し、試掘トレンチは21箇所が該当する。これらの試掘調査の結果、本調査が必要と考えられる部分について調査区を設定し本調査を実施した。

まず調査は、調査区内の植物の伐採・除草から始めた。その後、現地の現在の地形を基本にし、調査区1区～6区の6箇所の調査区、調査区11～26区の16箇所の調査区、調査区31区の計23箇所の調査区を設定し本調査を開始した。

その内、調査区1区～6区までの調査成果については調査報告書『八田奈呂遺跡Ⅱ』において報告することとし、本報告書ではその他の調査区についての調査の記録を報告する。

調査は、調査範囲全体を各調査区の状況に応じて、調査区ごとに、基本的に第1次の検出作業を実施し大部分の調査区において調査が終了した段階で、第2次の検出作業を実施し、第1検出面同様に調査を進め、その後第3次の検出作業を実施し、第3検出面の調査を進めた。その他部分的に確認的な調査を実施した。

基本層序は、調査区上部は比較的堆積が少なく、また耕作のための掘削等により遺構面が掘削されている部分も見られた。まず表土（耕作土）・旧耕作土等、次に灰褐色土となる。場所によればこの次に、すぐに検出面があらわれる部分が多かった。調査区の下部になると、この下層に黒灰褐色土があり、微妙な色調の変化がみられた。調査区上部は以上の土層の下層には地山あるいは黄褐色系の土砂堆積の何度かの繰り返しが見られた。下部では、この黄褐色系の土層は徐々に深い部分に潜り込んでいく。上部で茶褐色土の検出面にみられた遺構の多くは、下部では黒灰褐色系の小礫混じりの場所に、土坑・柱穴等が残されていた。

### 2. 検出遺構と出土遺物

#### (1) 第1検出面（近代～）

まず第1検出面の調査についてだが、発掘調査対象範囲において表土・耕作土等を掘削し検出作業を実施した。この段階では特にこれといった遺構の検出は見られなかった。出土する遺物については主に近代以降の陶磁器であり、中に中世の土師片や近世の陶磁器も少し混在していた。

八田奈呂遺跡一帯は過去に古い時期より果樹園が営まれていたという記録が残っており、現在の地形に近いものは、ほぼこの時期にはできており、それ程姿を変えてはいないのではないだろうか。また、この時期の開墾によって遺構が掘削された部分が幾らかあることが確認できる。



図 3 - 2 八田奈呂遺跡調査区 (試掘位置図)

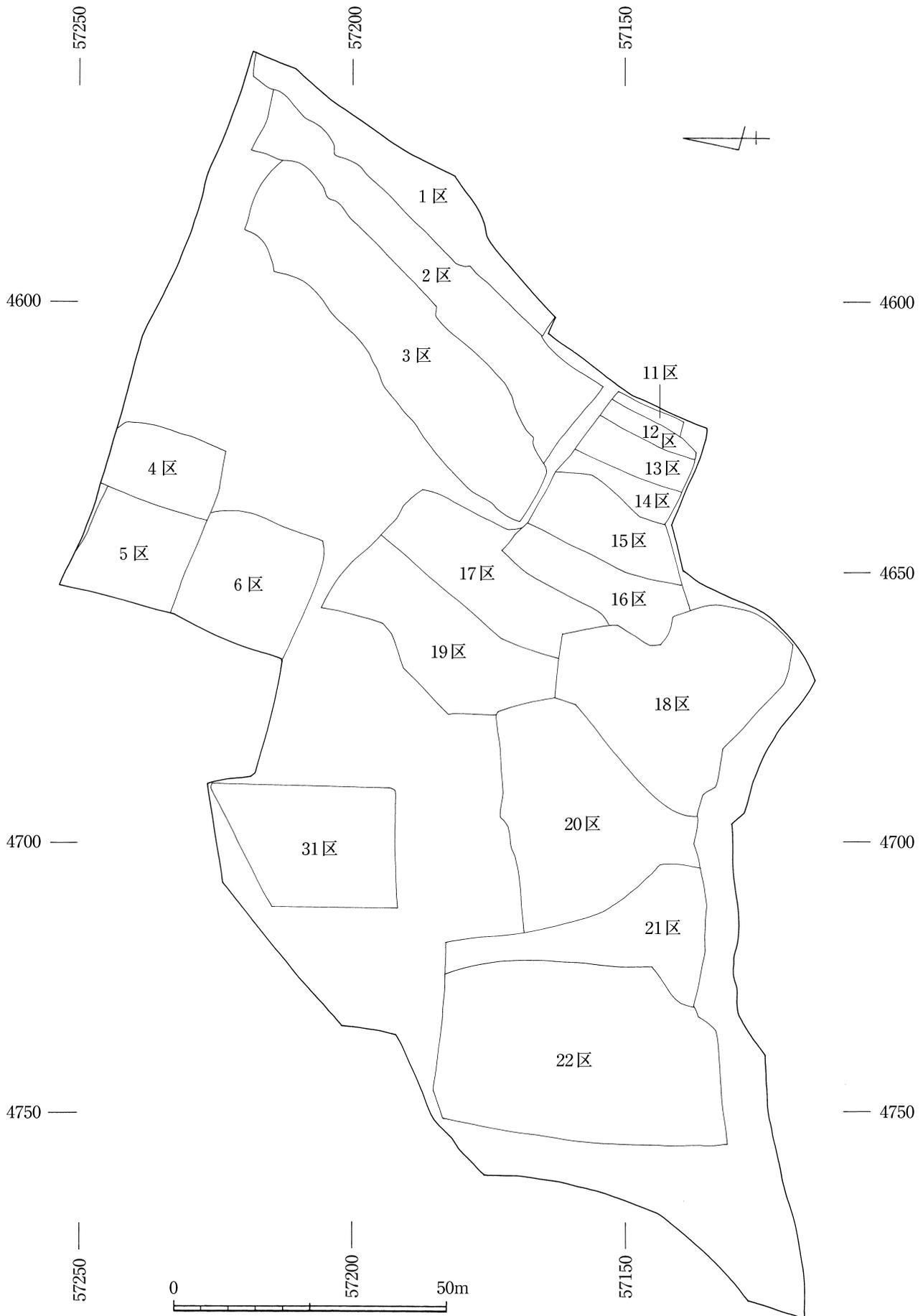


图 3-3 八田奈呂遺跡調査区 (第 1 検出面)

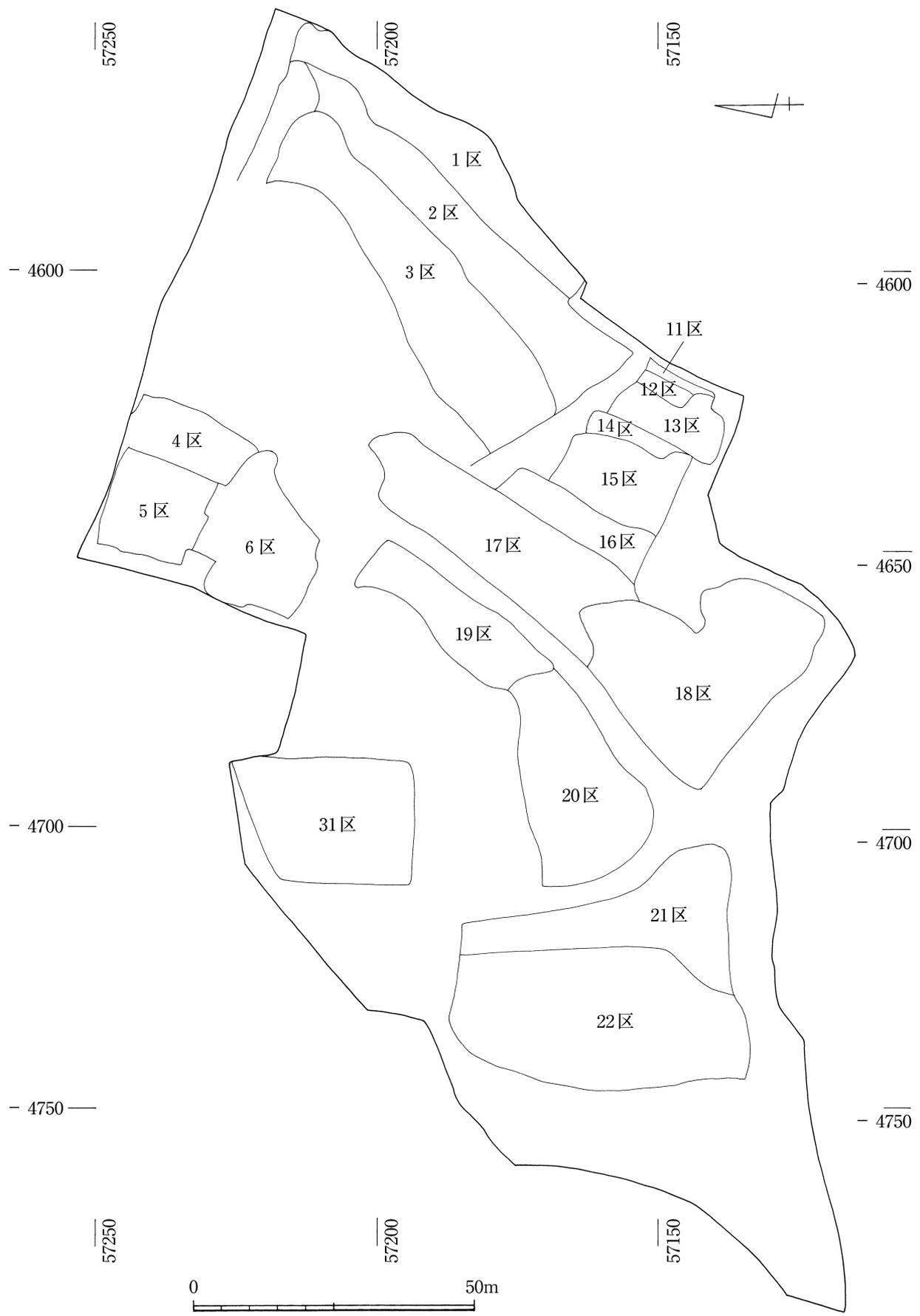


図3-4 八田奈呂遺跡調査区 (第2検出面)

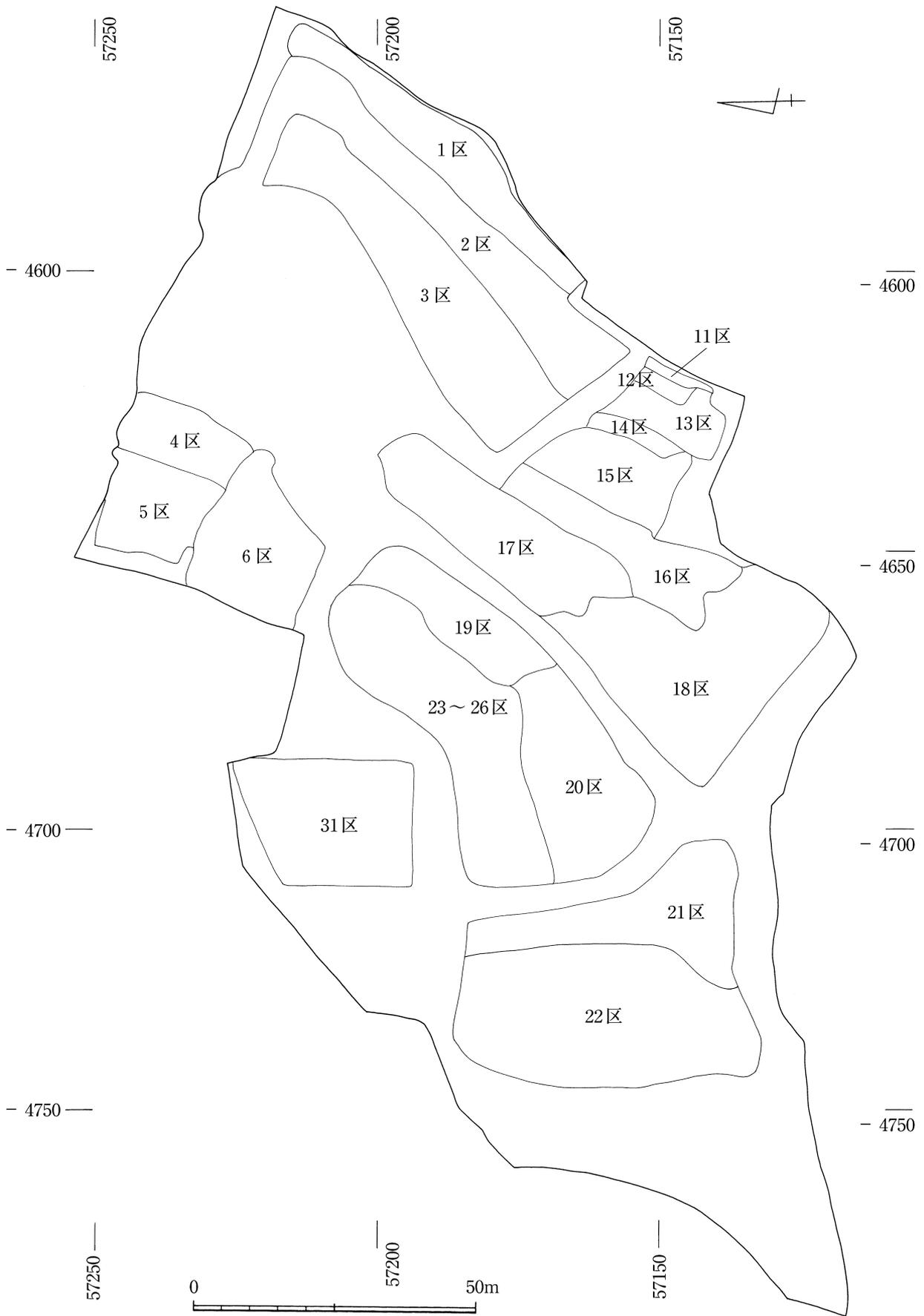


図3-5 八田奈呂遺跡調査区 (第3検出面)

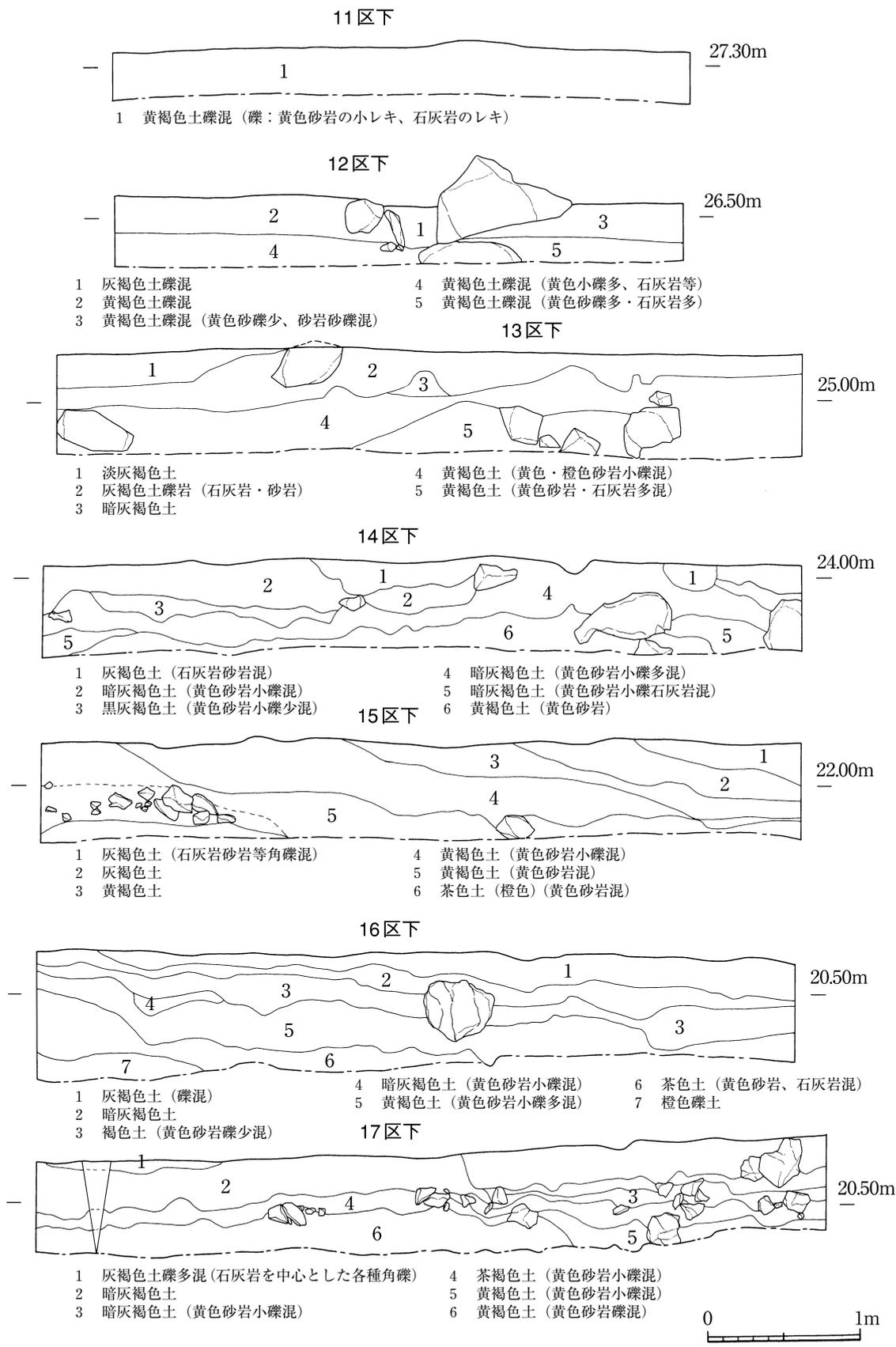


図3-6 八田奈呂遺跡土層断面図 (11区~17区)

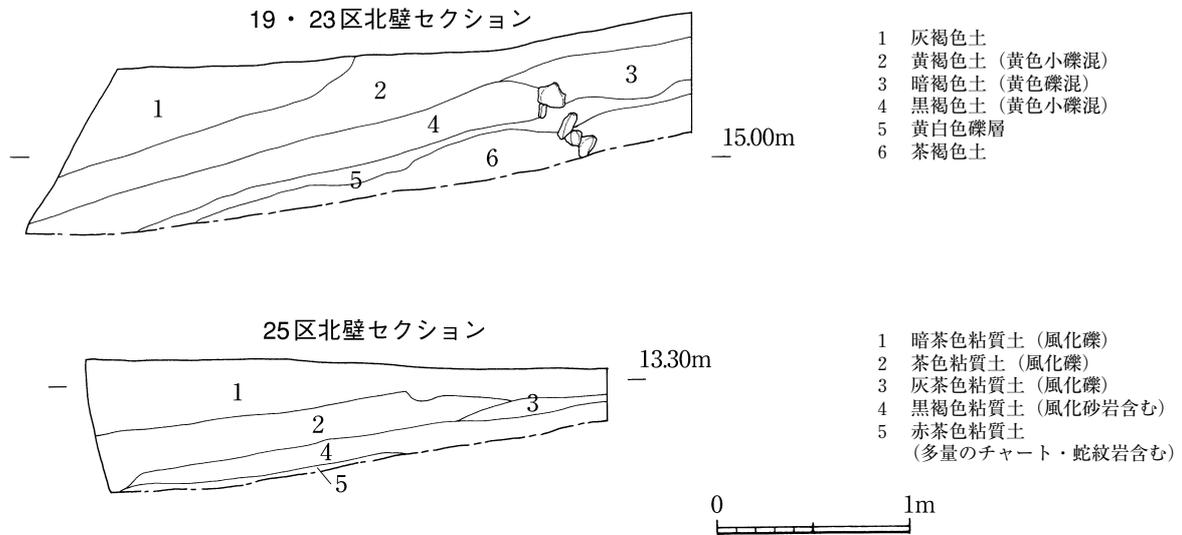


図3-7 八田奈呂遺跡土層断面図 (19・23区 25区)

検出した幾つかあった農耕用の水を溜めていたと思われる土坑の中に不用になった近代の陶磁器を廃棄したという形が見られた。

## (2) 第2検出面 (中世～近世)

第2検出面の調査についてだが、第1検出面の調査を終えた後、第1検出面を構成するものであり同時に下層の生活面の遺物包含層でもある土層の掘り下げを実施し検出作業を進めた。結果、調査区によって近世の遺物包含層及び遺構、そして中世の遺物包含層及び遺構を確認することができた。

次に検出遺構について挙げていく。

### S B 1

調査区22区北西部で検出した梁間1間 (2.00～2.20m)、桁行2間 (3.80～3.90m) の南北棟建物跡である。東側柱の柱穴1個が未検出である。棟方向はN-19°-Eである。柱間寸法は梁 (東西) が2.00mと2.20m、桁行 (南北) が1.40mと2.50mである。柱穴は径36～56cmの円形である。

### S B 2

調査区15区北西部で検出した梁間1間 (2.20～2.40m)、桁行2間 (3.40～3.80m) の南北棟建物跡である。西側柱の柱穴1個が未検出である。棟方向はN-17°-Eである。柱間寸法は梁 (東西) が2.20mと2.40m、桁行 (南北) が1.80mである。柱穴は径40～104cmのほぼ円形であるが、幾つかの柱穴は後に土坑によって姿を変えている。

### S B 3

調査区15区北東部で検出した梁間1間 (1.90～2.20m)、桁行1間 (3.50～3.70m) の南北棟建物跡である。東西柱の柱穴2個が未検出である。棟方向はN-2°-Eである。柱間寸法は梁 (東西) が1.90mと2.20mである。柱穴は径32～60cmの円形である。

### S B 4

調査区16区中央部で検出した梁間1間 (2.90m)、桁行2間 (4.30～4.40m) の南北棟建物跡であ

る。棟方向はN-32°-Eである。柱間寸法は梁（東西）が2.90m、桁行（南北）が1.80m～2.50mである。柱穴は径32～72cmのほぼ円形である。

#### S B 5

調査区17区北部で検出した梁間2間（3.40～3.60m）、桁行2間（3.40～3.60m）の南北棟建物跡である。棟方向はN-29°-Wである。柱間寸法は梁（東西）が1.70～1.80m、桁行（南北）が1.50m～2.00mである。柱穴は径40～60cmのほぼ円形である。

#### S B 6

調査区17区中央部で検出した梁間1間（1.70～2.00m）、桁行1間（2.40m）の東西建物跡である。棟方向はN-46°-Wである。柱間寸法は梁（南北）が1.70～2.00m、桁行（東西）が2.40mである。柱穴は径32～64cmの円形である。

#### S B 7

調査区17区中央部で検出した梁間1間（2.80～3.00m）、桁行2間（3.30～3.40m）の南北棟建物跡である。棟方向はN-35°-Eである。柱間寸法は梁（東西）が2.80～3.00m、桁行（南北）が1.00～2.50mである。柱穴は36～48cmの円形である。

第2検出面で確認された建物跡につながる可能性のある柱穴は以上の通りである。一応上のように取り出してはいるが他の組み合わせ、あるいは建物として不成立な部分も考えられる。

#### 道路状遺構

次に、検出された遺構の中に道路状遺構がある。この遺構は調査区20区において東西方向で調査区を横切る形で検出された。幅は1.0～1.5mで道の両側に径が10～20cmの石を積みその石の中に茶褐色土を入れ固める形で形成されている。道の厚さは約20cm前後である。検出された（残存していた）長さは約20mであった。20区の道路状遺構の検出された周辺は、本来検出面は小礫を多く含む黒褐色土や黒灰褐色土である場所で、これらは南東に位置していた谷部分からの堆積により土地を形成したと考えられる。そういう状況下に道が作られていた。道の東端は19区に近い地面の安定した茶褐色土の検出面につながっている。道は比較的不安定な砂礫混じりの部分のみに作ってあった。

その他の遺構は、調査区14区から17区までが主に中世の柱穴と近世の土坑が検出され、調査区19区から後が主に中世の遺構を中心に検出した。調査区31区については遺物包含層のみで遺構の検出はなかった。

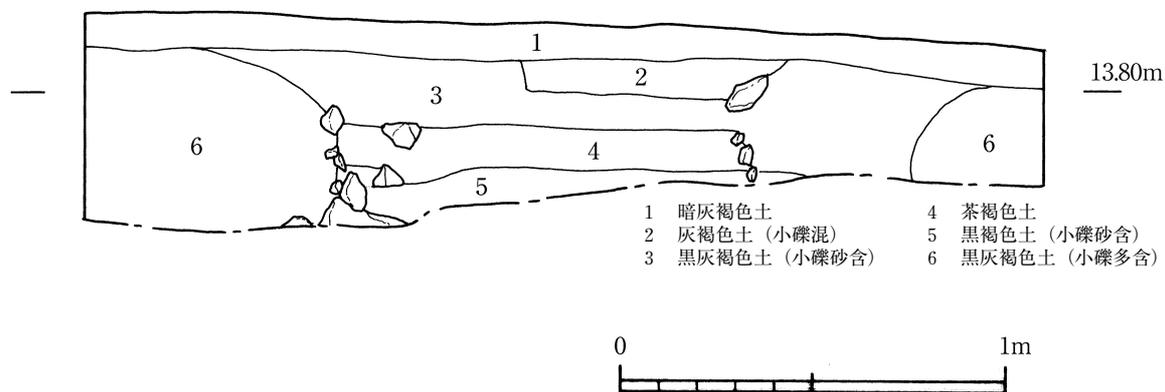


図3-8 八田奈呂遺跡20区道路状遺構断面図

## (3) 第3検出面(中世)

## S B 8

調査区22区北端部で検出した梁間1間(1.30m)、桁行2間(2.40~2.60m)の東西棟建物跡である。棟方向はN-56°-Eである。柱間寸法は梁(南北)1.30m、桁行(東西)が1.00~1.40mである。柱穴は径36~48cmの円形である。

## S B 9

調査区22区北西部で検出した梁間2間(2.60m)、桁行3間(3.60~4.10m)の南北棟建物跡である。北妻柱の柱穴1個が未検出である。棟方向はN-40°-Eである。柱間寸法は梁(東西)が1.20~1.40m、桁行(南北)が0.70~1.60mである。柱穴は径36~48cmの円形である。

## S B 10

調査区22区北西部で検出した梁間1間(1.80~2.00m)、桁行2間(2.90m)の東西棟建物跡である。棟方向はN-57°-Wである。柱間寸法は梁(南北)が1.80~2.00m、桁行(東西)が1.30~1.60mである。柱穴は径32~64cmの円形である。

## S B 11

調査区22区中央部北寄りで検出した梁間1間(1.50~1.70m)、桁行3間(3.40~3.70m)の南北棟建物跡である。棟方向はN-41°-Eである。柱間寸法は梁(東西)が1.50~1.70m、桁行(南北)が1.60~2.00mである。柱穴は径32~40cmの円形である。

## S B 13

調査区22区中央部で検出した梁間2間(2.40~2.60m)、桁行2間(2.50~3.20m)の東西棟建物跡である。棟方向はN-49°-Eである。柱間寸法は梁(南北)が1.00~1.40m、桁行(東西)が1.10~1.80mである。柱穴は径28~44cmである。

## S B 14

調査区22区中央部で検出した梁間1間(1.40~1.50m)、桁行2間(1.50~1.70m)の東西棟建物跡である。棟方向はN-79°-Wである。柱間寸法は梁(南北)が1.40~1.50m、桁行(東西)が0.70~1.00mである。柱穴は28~48cmの円形である。

## S B 15

調査区22区中央部で検出した梁間1間(1.60m)、桁行1間(2.00m)の南北建物跡である。棟方向はN-40°-Eである。柱間寸法は梁(東西)が1.60m、桁行(南北)が2.00mである。柱穴は40~48cmの円形である。

## S B 16

調査区22区東部で検出した梁間1間(1.50~1.80m)、桁行4間(5.00~5.50m)の東西棟建物である。南側柱が3間と変則的である。棟方向はN-63°-Eである。柱間寸法は梁(南北)が1.50~1.80m、桁行(東西)が0.90~2.10mである。柱穴は40~56cmの円形である。

## S B 17

調査区22区中央部南よりで検出した梁間2間(2.50~3.10m)、桁行5間(6.10~6.30m)の南北棟建物跡である。北から1間目の柱通りに間仕切り柱が立つ。棟方向はN-44°-Eである。柱間

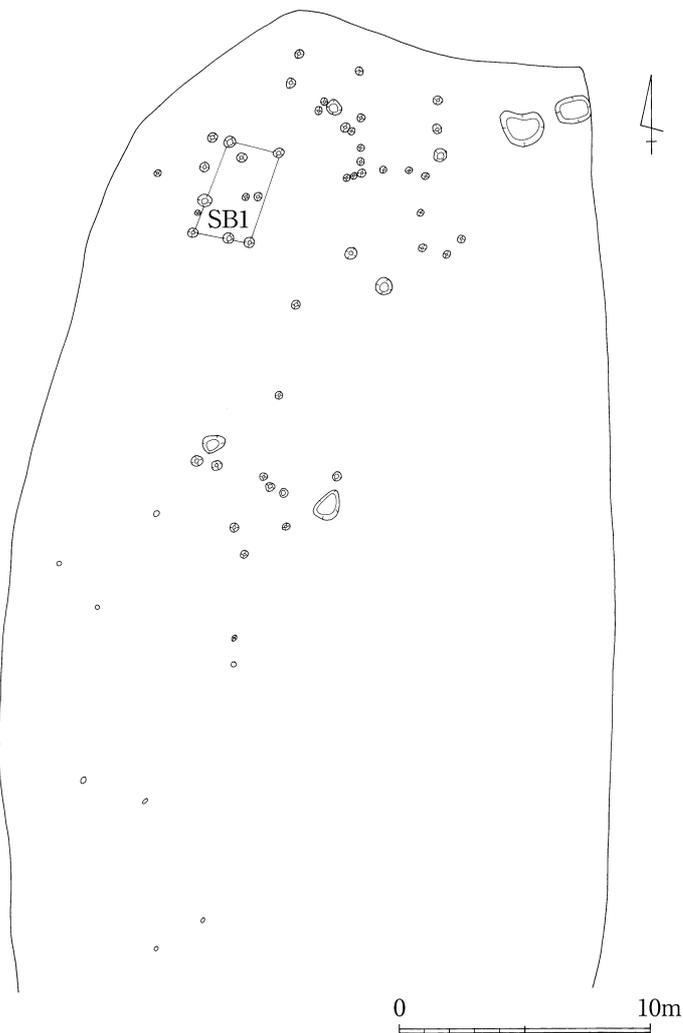


図3-9 八田奈呂遺跡22区(第2検出面)SB位置図

寸法は梁(東西)が $1.20\sim 1.60\text{m}$ 、桁行(南北)が $0.90\sim 1.80\text{m}$ である。柱穴は径 $32\sim 64\text{cm}$ の円形である。

#### S B 18

調査区22区西部で検出した梁間1間( $2.20\sim 2.30\text{m}$ )、桁行5間( $7.70\sim 8.20\text{m}$ )の東西棟建物跡である。棟方向は $N-87^{\circ}-E$ である。柱間寸法は梁(南北)が $2.20\sim 2.30\text{m}$ 、桁行(東西)が $1.20\sim 1.90\text{m}$ である。柱穴は径 $28\sim 64\text{cm}$ の円形である。

#### S B 19

調査区22区西部で検出した梁間1間( $2.60\sim 2.80\text{m}$ )、桁行2間( $3.20\sim 3.30\text{m}$ )の東西棟建物跡である。棟方向は $N-88^{\circ}-E$ である。柱間寸法は梁(南北)が $2.60\sim 2.80\text{m}$ 、桁行(東西)が $1.20\sim 2.10\text{m}$ である。柱穴は径 $40\sim 56\text{cm}$ の円形である。

#### S B 20

調査区22区南部で検出した梁間1間( $1.30\sim 1.80\text{m}$ )、桁行2間( $1.60\text{m}$ )の南北棟建物跡である。北西隅の柱穴1個が未検出。棟方向は $N-6^{\circ}-E$ である。柱間寸法は梁(東西)が $1.30\sim 1.80\text{m}$ 、桁行(南北)が $0.80\sim 0.90\text{m}$ である。柱穴は径 $40\sim 48\text{cm}$ の円形である。

第3検出面における建物跡の形成の可能性のあるものは以上の通りであるが、状況は第2検出面の場合と同様である。

第3検出面では新たに、18区・19区・20区で若干の柱穴と21区22区で多くの柱穴・土坑を検出した。11区～17区等では新たな遺構はほとんど検出しなかった。特に22区では第2検出面で検出した多くの中世の遺構及び出土した遺物とあまり時期差を置かず掘り下げた調査区より同じ中世の遺物が出土し、柱穴も検出できた。これは当初段差のある土地に建物を建てていたものをある時期に人為的或いは自然現象によって、この調査区一帯の低い部分が埋まってしまい、その後段差のない広い土地に建物を建てたと考えることができる。

#### (4) その他（～古代）

その他には、調査区25区とした部分は試掘トレンチを拡張したもので、複数の土坑状の掘り込みが連結し、流路を形成していると考えられる状況になっており、土坑中からは弥生時代後期の土器片と思われる遺物が出土していた。遺物の出土が少量であり全体を検出した深さまで掘り下げるとは、諸条件から判断して実施せずに部分的に拡張確認のみを行った。結果新たに同時期の遺物の出土は見られなかった。しかし、同時代の遺構検出面としては調査区25区の標高になり調査区の下部につながっていくものと考えられる。

調査区23区・26区では古代の遺物の出土も見られたが、それに伴うと確認できる遺構の検出は全く断定はできかねるといった状況である。

#### (5) 出土遺物

八田奈呂遺跡の出土遺物については、もっとも多く出土しているものが中世の土師器である。遺構出土の遺物と、各調査区の遺物包含層出土の遺物について個々にみている。

まず調査区22区の約100個の柱穴から遺物の出土があった。ほとんどが中世の土師器の杯と小皿で他には瓦質の鍋や備前の播り鉢等があった。12区からは備前の播り鉢・染付け皿・土師質鍋・肥前系染付け皿・瀬戸美濃系陶胎染付け碗等が出土した。14区からは丹波の甕等が出土した。15区からは土師器の杯・肥前系染付け皿・肥前系呉器形碗・京焼風陶器碗・灰釉陶器碗・肥前系鉢・瓦等が出土した。16区からは肥前（波佐見）皿・堺の播り鉢・京焼き風陶器碗等が出土した。17区からは土師器小皿・土師器鍋・白磁の杯・備前の播り鉢・肥前系染付け碗・京焼き風陶器碗等が出土した。18区からは備前の播り鉢・能茶焼き陶胎染付け等が出土した。19区からは肥前系ソバ猪口・福建省漳州窯の陶胎染付け小皿等が出土した。この漳州窯産の遺物については考察で少し述べることにする。20区からは土師器杯・土師器小皿・瓦器碗・土師器鍋・瓦質鍋・土師器鉢・須恵器壺・瓦質火鉢・東播系須恵器コネ鉢・備前播り鉢・備前甕・龍泉窯青磁碗・白磁皿・肥前系染付け皿・能茶焼き播り鉢・陶器甕等が出土した。21区からは土師器杯・土師器小皿・龍泉窯青磁碗・龍泉窯青磁稜花皿・肥前系碗・土師器鍋・瓦質鍋・備前甕・肥前系鉢・堺播り鉢等が出土した。22区からは土師器杯・土師器小皿・土師器鍋・土師器羽釜・瓦質鍋・須恵器甕・備前播り鉢・東播系須恵器コネ鉢・龍泉窯青磁碗・龍泉窯青磁稜花皿・白磁皿・備前甕・石鍋等が出土した。23区からは土師器杯・土師器皿・肥前系鉢・土錘・土師器鍋・須恵器壺等が出土した。24区からは土師器杯等が出土した。他に石臼・古銭等の出土もあった。31区からは土師器杯・土師器小皿・土師器皿・土師器碗・土師器鉢・東播系須恵器・龍泉窯青磁碗・瓦質鍋等が出土した。試掘の際には、TR23からは須恵器壺・弥生土器甕・古式土師器甕等が出土した。TR25からは土師器杯・土師器小皿・瓦質鍋・白磁皿等が出土した。TR36からは台付灯明皿等が出土した。これら出土遺物の中で八田奈呂遺跡を語る際に必要なものについては考察で取り上げる。



图 3-10 八田奈呂遺跡 15・16・17区 (第2検出面) SB位置図

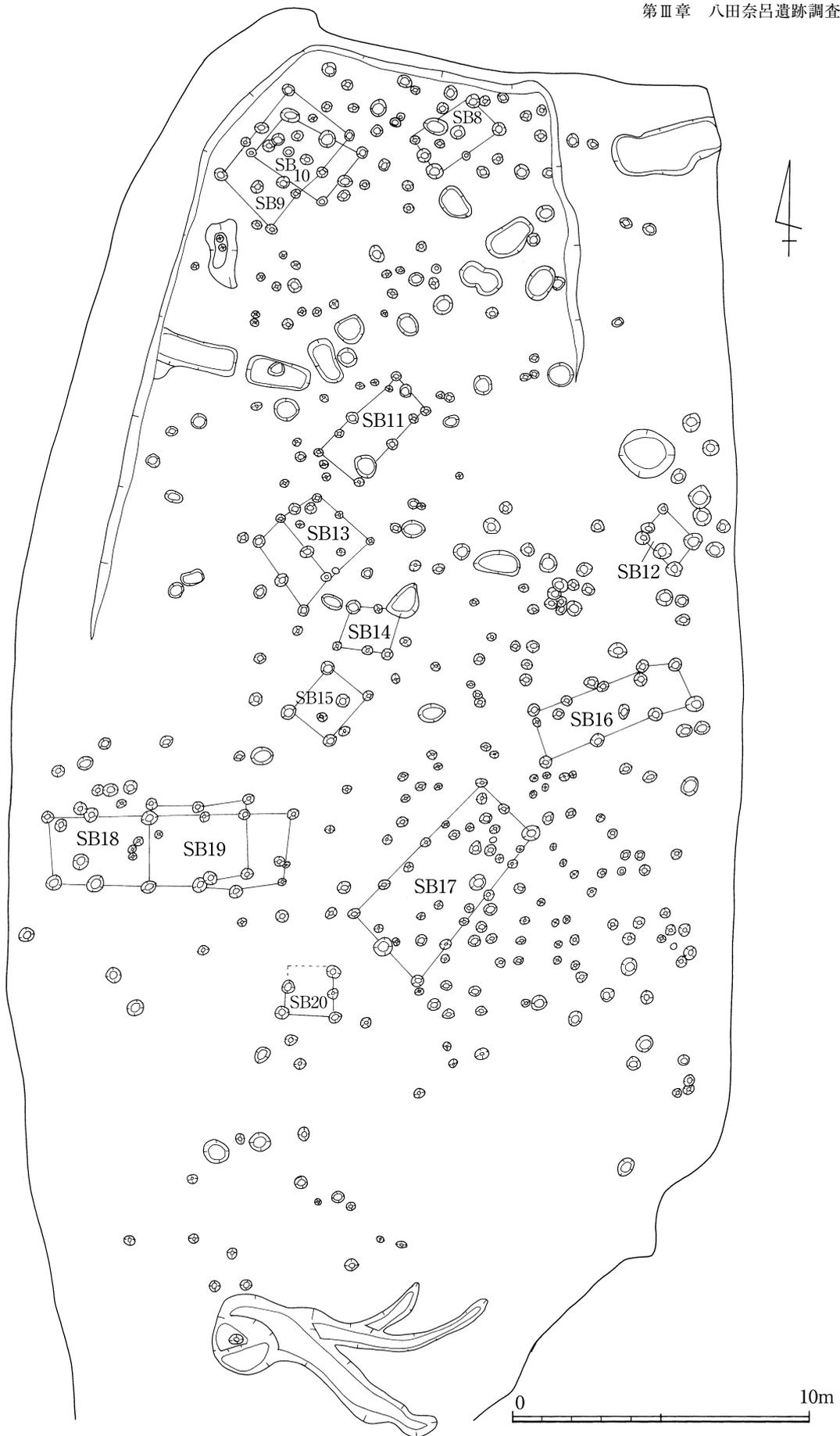


図3-11 八田奈呂遺跡 22区 (第3検出面) SB位置図

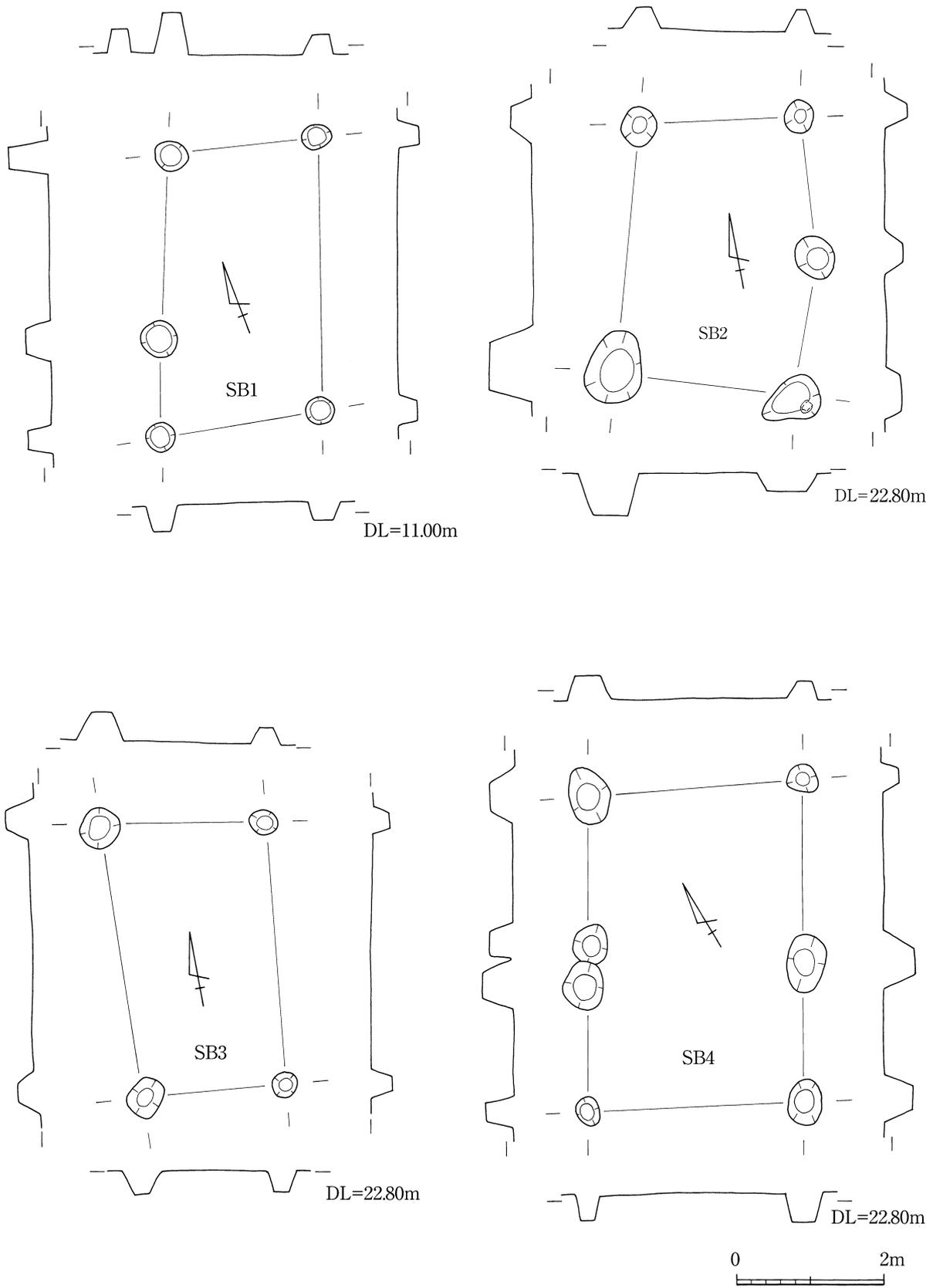


図3-12 八田奈呂遺跡 SB1~4平面図及びエレベーション図

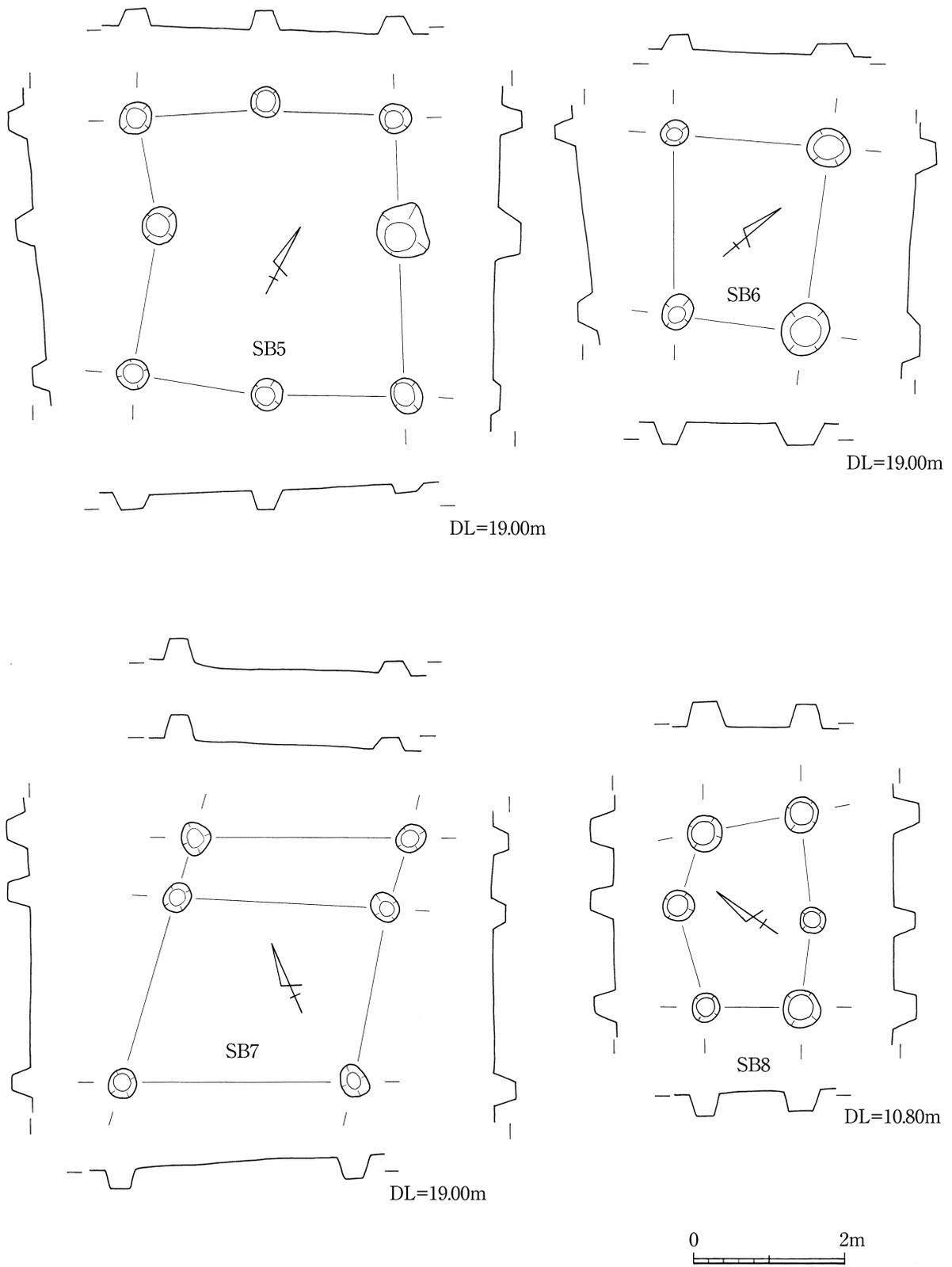


図3-13 八田奈呂遺跡 SB5～8平面図及びエレベーション図

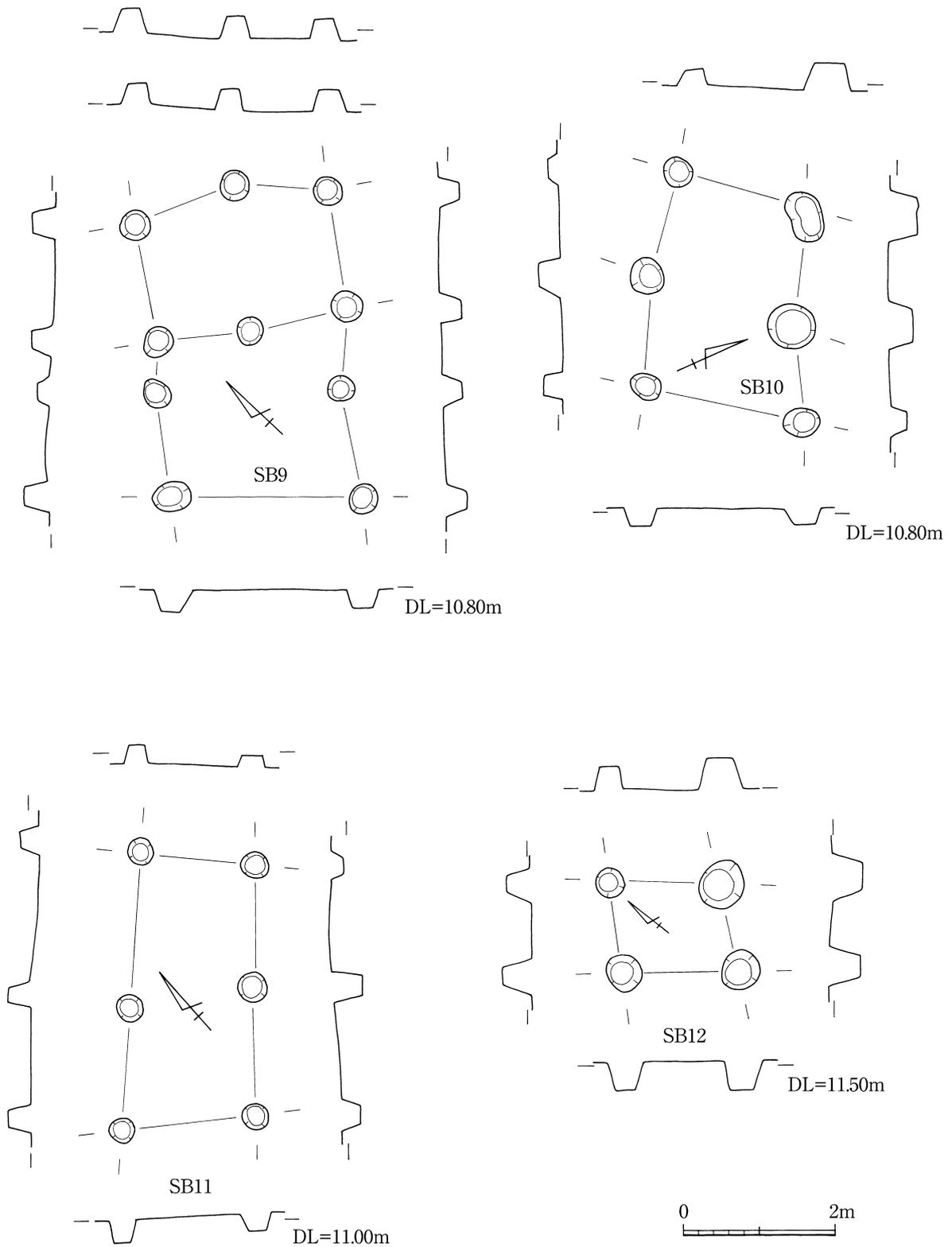


図 3 - 14 八田奈呂遺跡 SB9~12平面図及びエレベーション図

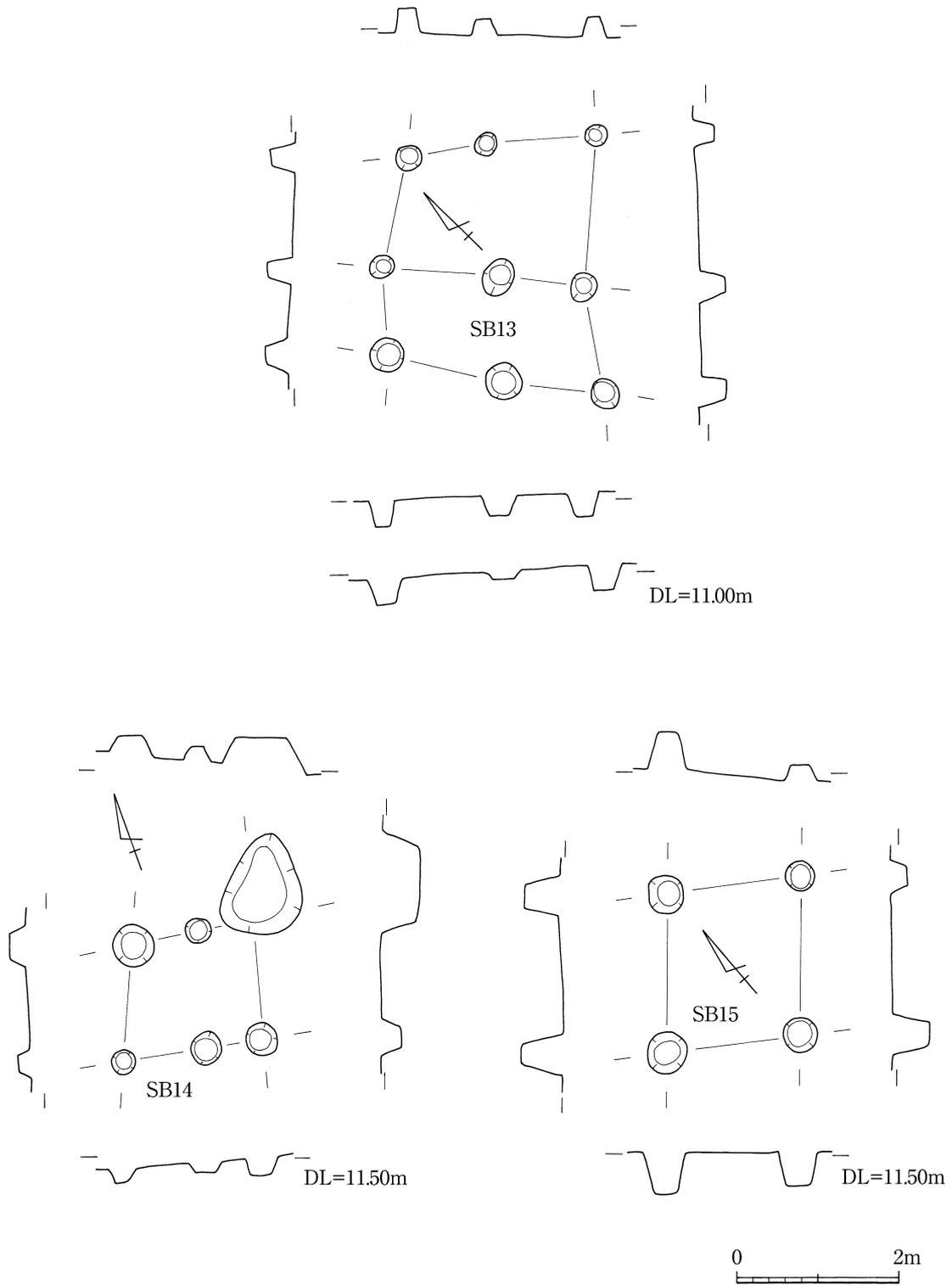


図 3-15 八田奈呂遺跡 SB13~15平面図及びエレベーション図

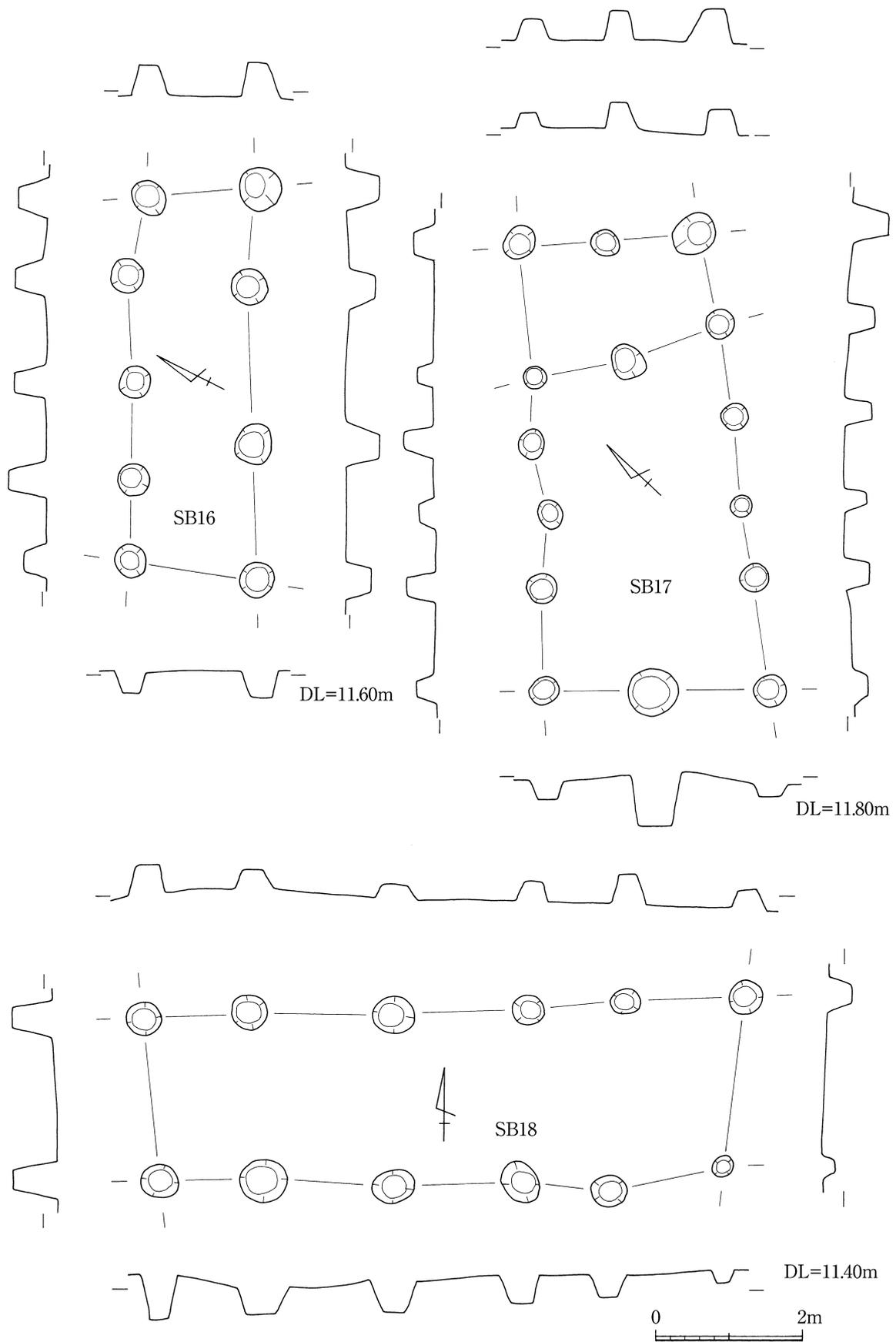


図3-16 八田奈呂遺跡 SB16~18平面図及びエレベーション図

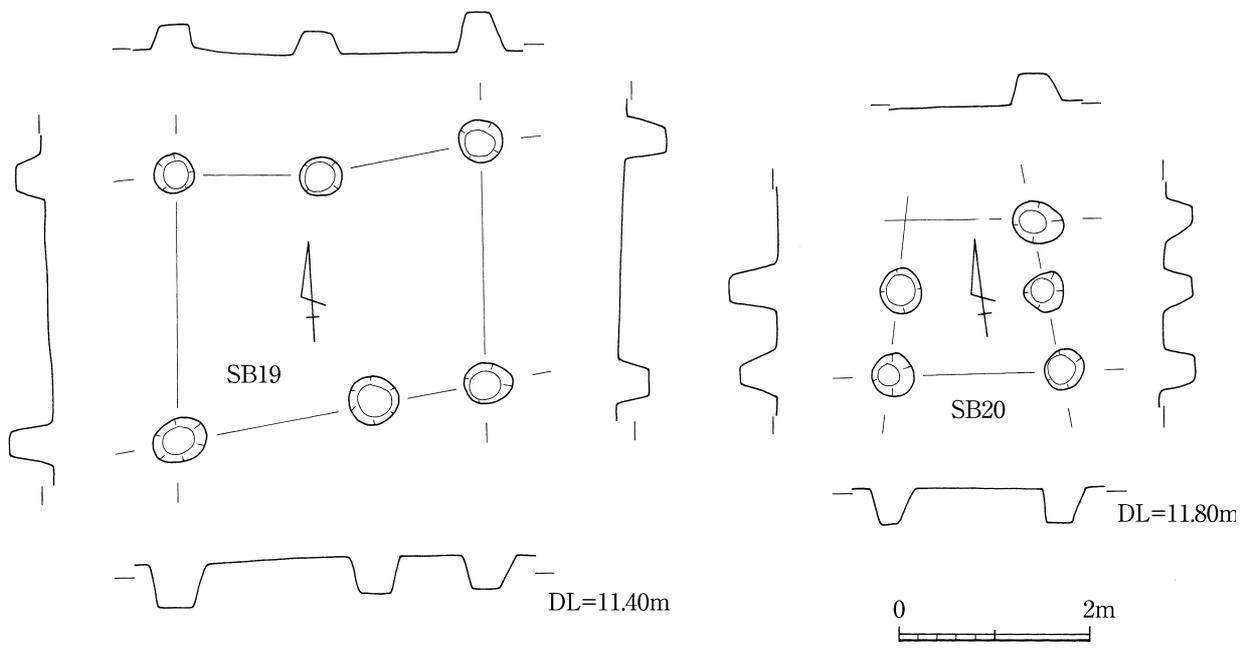


図 3-17 八田奈呂遺跡 SB19・20平面図及びエレベーション図

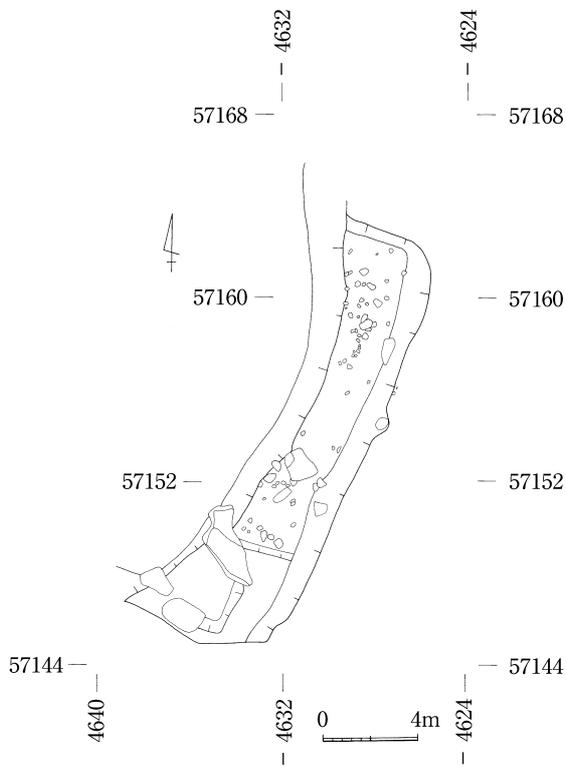


图 3-18 八田奈呂遺跡 14区 (第2検出面) 平面図



图 3-19 八田奈呂遺跡 15区 (第2検出面) 平面図

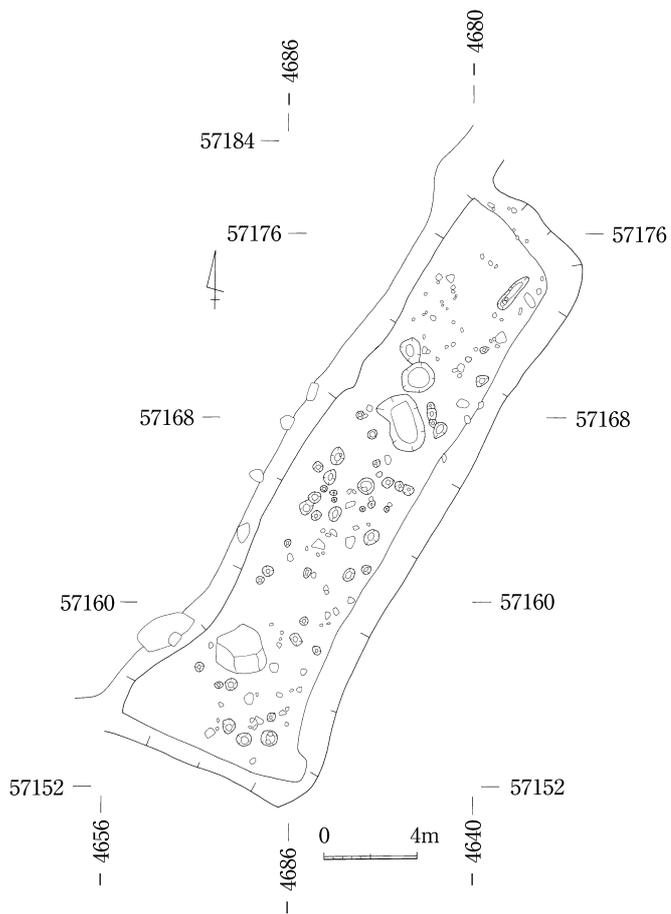


图 3-20 八田奈呂遺跡 16区 (第2検出面) 平面図



图 3-21 八田奈呂遺跡 17区 (第2検出面) 平面図



图 3-22 八田奈呂遺跡 19・20区 (第 2 検出面) 平面図



图 3-23 八田奈呂遺跡 21・22区 (第2検出面) 平面図

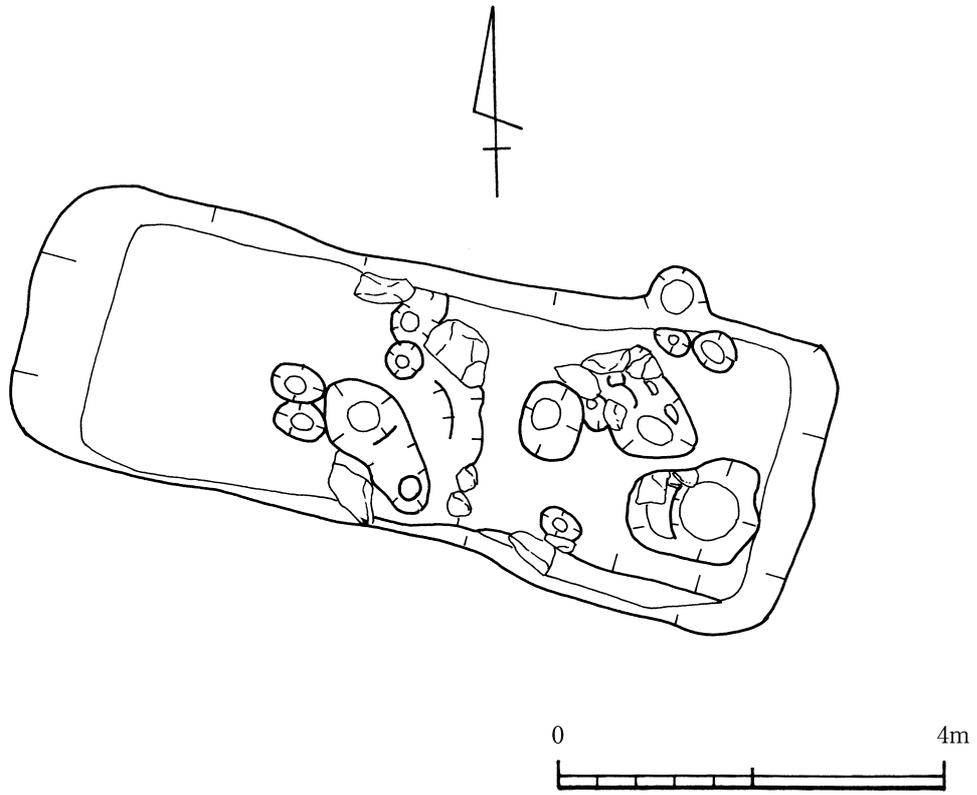


图 3 -24 八田奈呂遺跡 25区平面図

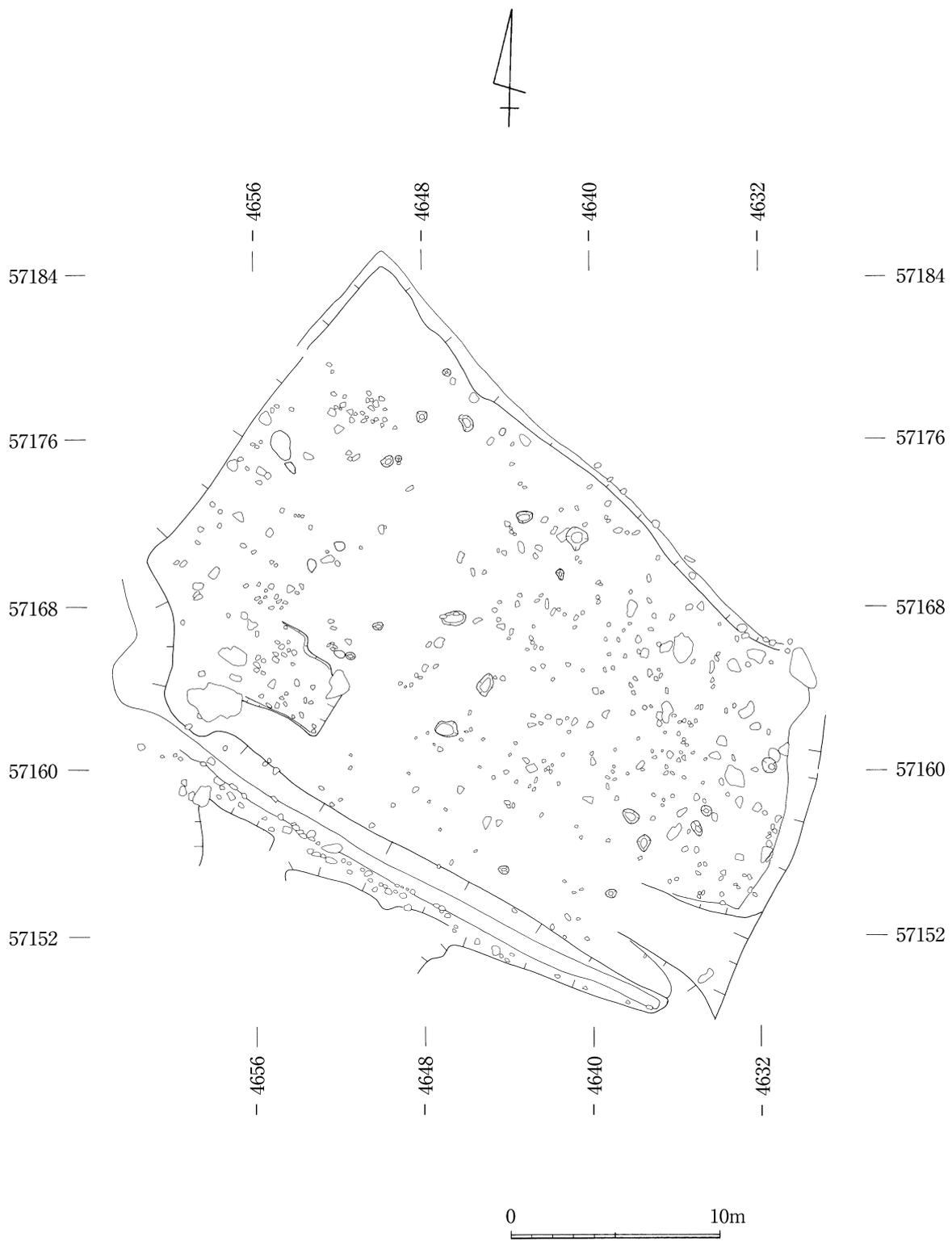


图 3-25 八田奈呂遺跡 18区 (第3検出面) 平面図

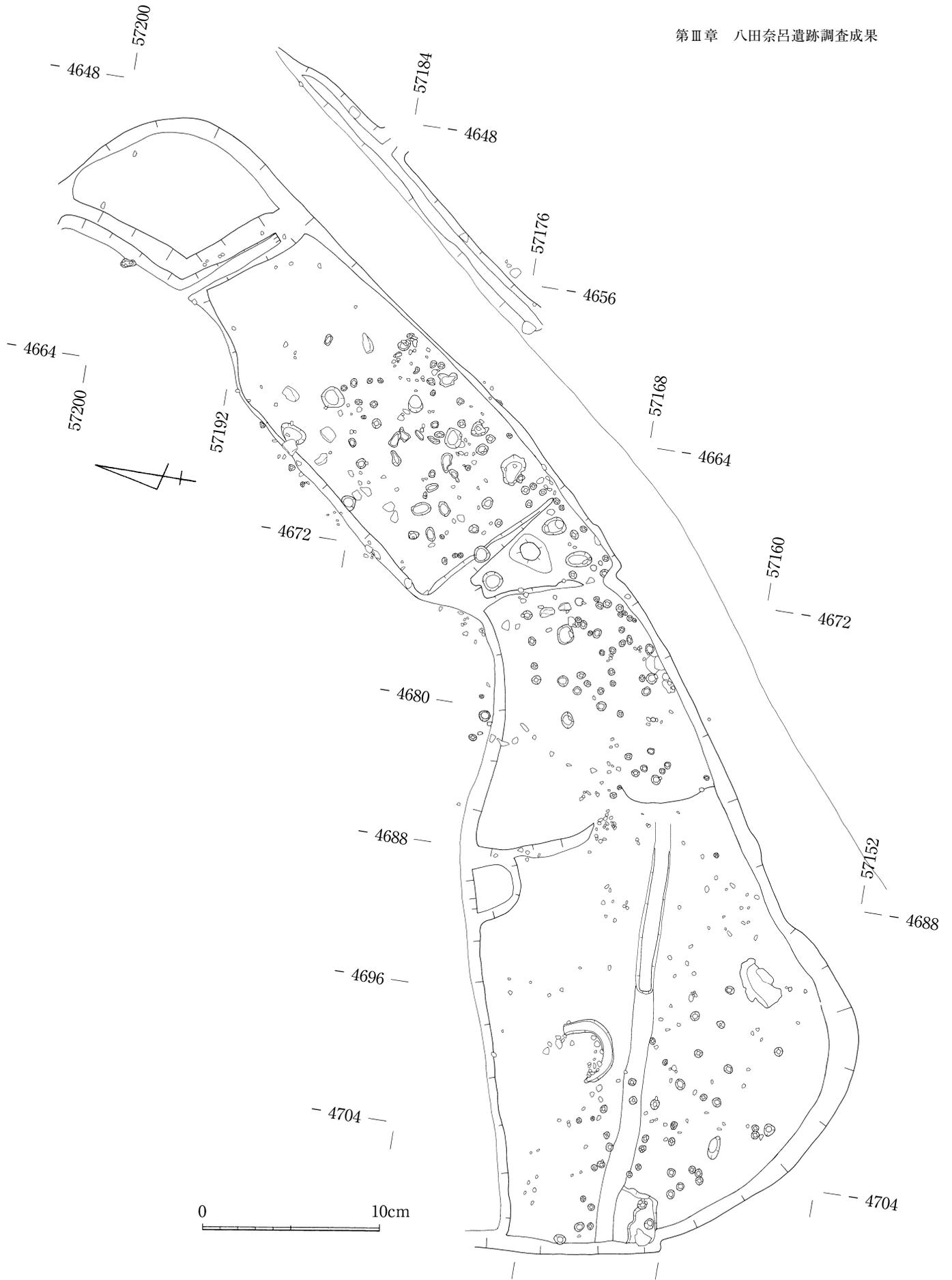


图 3-26 八田奈呂遺跡 19・20区 (第3検出面) 平面図



图 3-27 八田奈吕遗迹22区 (第3 検出面) 部分平面图



图 3-29 八田奈吕遗迹 23·24·25区 (第3 検出面) 平面图

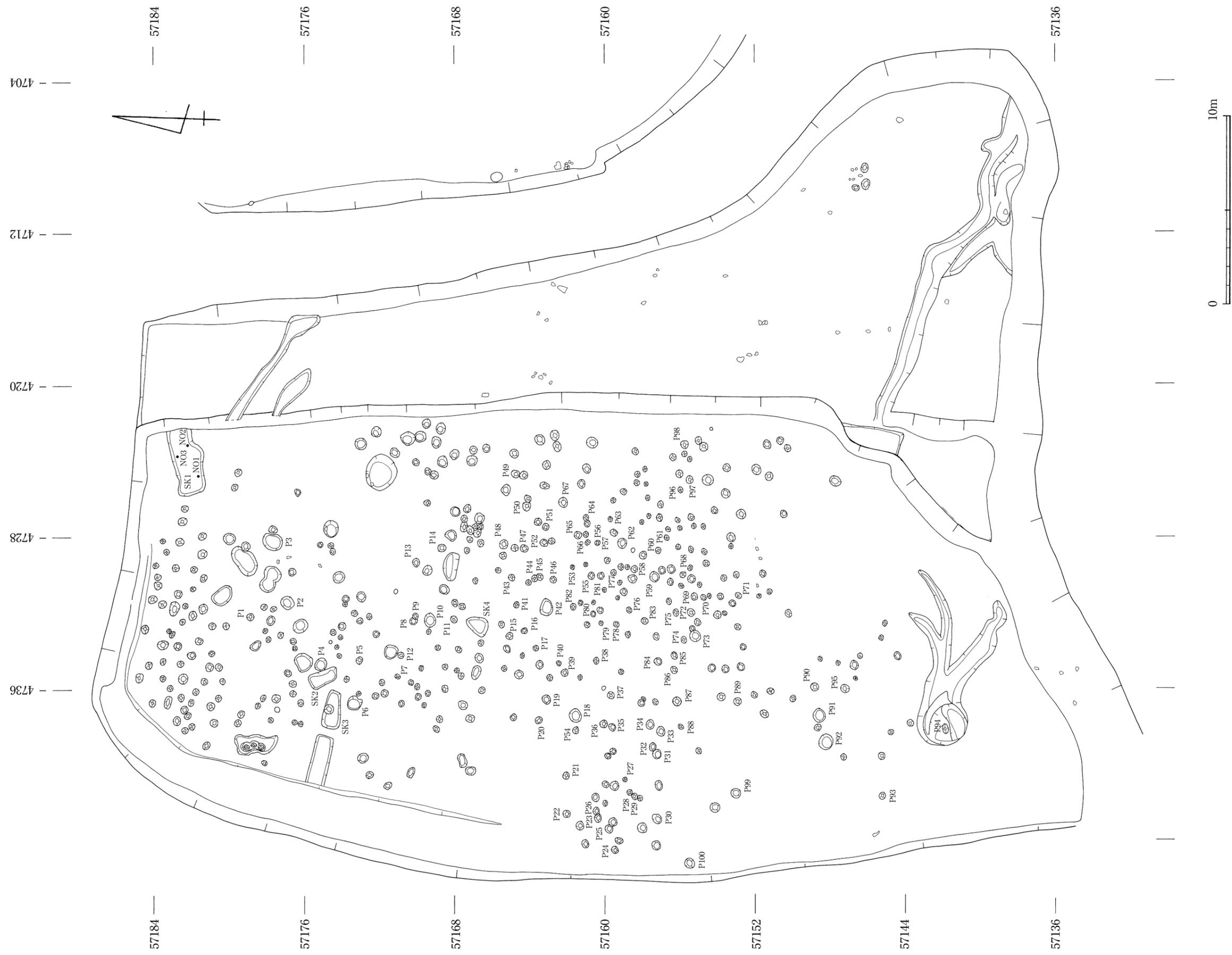


图 3-28 八田奈呂遺跡 21・22区平面图



### 3. 八田奈呂遺跡出土遺物観察表

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
1	22S・P33	土師器小杯	7.9	1.8		4.5	内面は橙色、外面断面はにぶい黄橙色。チャート他の粗粒砂を多く含む。糸切り。内外面共に横ナデ。	
2	22S・P34	土師器杯		(1.6)		7.9	内外面共に明赤褐色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
3	22S・P35	土師器杯		(2.3)		6.5	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。内底にロクロ目。糸切り。	
4	22S・P35	土師器杯		(1.9)		7.1	内外面断面共ににぶい橙色。石英、長石粒を含む。糸切り。	
5	22S・P35	瓦質土器鍋	19.2	(2.9)			内外面共に灰色。雲母を多く含む。内外面共丁寧な横ナデ。	
6	22S・P36	土師器杯		(3.2)		6.1	内外面断面共に浅黄橙色。チャートその他の細・粗粒砂を多く含む。糸切り。内外面共横ナデ。	
7	22S・P40	土師器杯	7.8	(2.0)			内面は浅黄橙色、外面はにぶい橙色。チャート他の細粒砂を含む。糸切り。	
8	22S・P40	土師器杯		(1.3)		6.2	内外面断面共に橙色。砂粒をほとんど含まず。糸切り。	
9	22S・P40	土師器小皿	6.4	1.6		5.6	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
10	22S・P42	土師器杯		(1.4)		6.4	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。内面のロクロ目が顕著。	
11	22S・P42	土師器杯		(1.5)		6.2	内外面断面共ににぶい橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
12	22S・P42	土師器杯		(2.6)		7.1	内外面共ににぶい橙色。チャート他の細粒砂を含む。糸切り。外面にロクロ目が顕著。	
13	22S・P43	土師器小皿	6.7	1.4		4.8	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。横ナデ。一部被熱により海綿状を呈す。	
14	22S・P47	土師器杯		(1.4)		6.3	内外面断面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。	
15	22S・P47	土師器小皿	6.7	1.7		4.4	内外面共に橙色。赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。糸切り。	
16	22S・P48	土師器杯		(2.2)		6.0	内面断面は橙色、外面はにぶい黄橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
17	22S・P54	土師器杯		(1.7)		7.2	内外面共に黄橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
18	22S・P56	土師器杯		(2.0)		5.6	内外面断面共ににぶい黄橙色。チャートの細粒砂を含む。糸切り。	
19	22S・P58	土師器杯		(2.0)		7.0	内外面断面共ににぶい橙色。チャート他の細粒砂を含む。糸切り。	
20	22S・P58	土師器杯	12.0	3.7		6.7	内外面断面共ににぶい橙色。チャートの細粒砂、雲母を含む。糸切り。外面にわずかにロクロ目。	
21	22S・P58	土師器杯	11.8	3.7		6.8	内外面共に浅黄橙色。石英、雲母粒を含む。ロクロ成形。糸切り。底部の円盤の一部が剥落。	
22	22S・P58	土師器杯	12.7	3.9		7.7	内外面共に浅黄橙色。チャートの細粒砂を含む。糸切り。内外面共横ナデ。	
23	22S・P58	土師器杯		(2.2)		6.0	内外面共に浅黄橙色。雲母、チャート他の細粒砂を含む。糸切り。	
24	22S・P58	土師器杯	11.0	3.7		3.1	内面断面はにぶい黄橙色、外面は灰黄褐色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。内外面共横ナデ。	
25	22S・P58	土師器杯	13.1	3.5		8.7	内外面共ににぶい橙色。チャートその他の細粒を含む。糸切り。内外面共横ナデ。	
26	22S・P58	土師器杯		(2.6)		7.0	内外面共に浅黄橙色。石英、チャート他の細粒砂を含む。糸切り。横ナデ。	
27	22S・P58	陶器徳利		(3.8)			内外面断面共に灰白色。灰色精緻な胎土。	
28	22S・P58	板状鉄片	全長13.6	全幅1.8	全厚0.4	重量(kg) 9.1		
29	22S・P67	土師器杯	12.0	4.7		5.8	内外面は橙色。長石、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。糸切り。内外面共にロクロ目が顕著。	
30	22S・P67	土師器小杯	6.4	1.9		4.4	内外面断面共に橙色。砂粒はほとんど含まず。糸切り。	
31	22S・P69	土師器杯	8.0	(3.0)		8.2	内外面断面共ににぶい黄橙色。砂粒を含まず。糸切り。内面にロクロ目。	
32	22S・P69	土師器杯		(2.4)		7.0	内外面断面共ににぶい黄橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
33	22S・P73	土師器小皿	6.8	1.3		5.4	内外面断面共に橙色。砂粒を含まず。摩擦が激しい。	
34	22S・P74	土師器杯		(1.8)		4.8	内外面共に橙色。赤色風化礫の粗・細粒砂を含む。糸切り。	
35	22S・P74	土師器杯	10.8	4.3		6.9	内外面共に黄橙色。長石他の細粒を少量含む。糸切り。	

八田奈呂遺跡出土遺物観察表 1

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
36	22S・P82	土師器杯		(2.7)		8.0	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
37	22S・P83	土師器小皿	6.1	1.6		5.0	内外面断面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
38	22S・P86	土師器杯		(2.0)		8.4	内外面共に黄橙色。赤色風化礫の粒砂を含む。糸切り。	
39	22S・P87	土師器杯		(0.8)		6.4	内面はにぶい橙色、外面断面は橙色。砂粒を含まない。糸切り。	
40	22S・P94	土師質円盤			全厚0.5		内外面共に橙色。土器底部の円盤。長石細粒を含む。	
41	22S・P94	石器	全長12.9	全幅4.3	全厚3.2	重量(g) 246.3		
42	22S・P99	土師器杯		(2.0)		5.8	内外面共ににぶい黄橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。高台状の底部。	
43	22N・SK1・NO.1	土師器杯		(1.8)		8.6	内外面共に浅黄橙色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。糸切り。内外面共横ナデ。	
44	22N・SK1・NO.3	土師器杯		(0.9)		5.1	内面は浅黄橙色、外面はにぶい橙色、断面は淡橙色。チャートの粗・細粒砂を多く含む。糸切り。	
45	22N・SK1・NO.1	土師器杯		(2.8)		7.6	内外面共に黄橙色。チャートの細粒砂を含む。糸切り。内外面にロクロ目が顕著。	
46	22N・SK1・NO.1	土師器杯	15.8	(4.2)			内外面断面共に浅黄橙色。石英他の細粒を含む。糸切り。	
47	22N・SK1・NO.2	土師器杯	14.6	(3.9)			チャートの細粒砂を含む。口縁がわずかに肥厚、外反。	
48	22N・SK1・NO.2	土師器杯	18.2	3.8		10.0	内外面共に浅黄橙色。チャート他の細粒を多く含む。糸切り。	
49	22N・SK1・NO.2	土師器杯	7.0	(4.1)			内面は明黄褐色、外面は橙色、断面は暗灰色。チャートの細粒を含む。口縁は外反。	
50	22N・SK1・NO.2	土師器杯	15.0	(3.1)			内外面は浅黄橙色、断面は灰色。石英、チャートの細粒砂を含む。	
51	22N・SK1・NO.3	土師器皿		(2.1)		7.5	内外面共に浅黄橙色。糸切り。細粒砂を多く含む。	
52	22N・SK1・NO.1	土師器碗		(1.9)		4.2	内外面共に淡黄色。長石粒を多く、チャート粗粒砂を含む。断面が三角の微隆起を貼付。	
53	22N・SK1・NO.1	瓦器小皿	8.6	1.4			内外面共に灰色。石英の細粒を含む。口縁は内外面共丁寧な横ナデ。底部外面に指圧痕。	
54	22N・SK4	土師器杯		(3.4)		8.1	内外面断面共ににぶい橙色。砂粒をほとんど含まず。糸切り。内外面共横ナデ。	
55	22N・SK4	土師器杯		(2.2)		7.0	内外面断面共ににぶい黄橙色。長石他の細粒砂を含む。糸切り。	
56	22N・P5	土師器小杯	6.1	1.9		4.2	内外面断面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
57	22N・P11	土師器杯		(1.9)		7.0	内外面断面共ににぶい黄橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
58	12	備前揃り鉢	28.6	(8.9)			内外面共に灰褐色。石英粗粒砂を含む。口縁が肥厚、外面に2条の大小の凹線。内面に1条の凹線。横ナデ調整。	
59	21E	土師質鍋		(3.0)			内外面共に黄橙色。石英、長石の細粒、シャームットを含む。口縁は外反。口縁部下に三角突帯。	
60	12	染付皿	10.2	2.7		5.0	内外面断面共に灰白色。胎土は白色堅緻。内底は蛇ノ目に釉剥ぎ。中国製。	
61	12	染付皿	10.2	2.6		3.8	内外面断面共に灰白色。白色堅緻の胎土。白色の釉。見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎ。	
62	12	肥前系染付皿	10.1	(1.7)			白色堅緻な胎土。	
63	12	肥前系染付		(2.4)		3.6	内外面共に灰白色。灰色堅緻な胎土。透明釉を全面施釉。高台内面に胎土目付着。	
64	12	瀬戸・美濃系陶胎染付碗		(3.8)		6.0	広東茶碗。全面透明釉。見込みにスタンプ文。	
65	12	瀬戸・美濃系陶胎染付碗		(2.4)		6.4	黄白色の胎土。透明釉。貫入あり。見込みにスタンプ文。	
66	14	丹波 甕		(7.7)		20.0	内面はオリーブ黄色(釉)、外面は灰赤色。石英他の粗粒を含む。内面・外面に自然釉。	
67	14	丹波 甕		(6.3)		20.0	内面は灰オリーブ色、外面は暗褐色、断面は灰白色。底部に胎土目が付着。	
68	14	磁器 皿		(1.3)		6.4	コバルトによる着色。近代。	
69	15	土師器杯		(1.1)		6.2	内外面断面共ににぶい黄橙色。赤色風化礫の細粒を含む。糸切り。	

八田奈呂遺跡出土遺物観察表 2

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
70	20SE	備前播り鉢	32.0	(13.9)			灰褐色堅緻な胎土。口唇は2条の弱い凹線が走る。内外面共に横ナデ。内面は5条を単位とする条線。外面には自然釉が付着。14C後半～15C前半。	
71	15	染付皿		(2.4)			白色堅緻な胎土。見込みは蛇ノ目釉剥ぎ。中国産か。	
72	15	肥前系染付皿		(3.1)		7.2	白色堅緻な胎土。畳付に目あと付着。	
73	15	肥前(波佐見)染付皿	14.0	1.4		7.3	灰色堅緻な胎土。釉は白色透明。内底は外縁を1.7cm幅で蛇ノ目状に掻き取る。	
74	15	肥前系陶器皿		(18.0)		4.6	灰釉。淡黄褐色のやや粗い胎土。高台外面の一部にまで施釉。見込みは蛇ノ目釉剥ぎ。見込みに胎土目痕跡。	
75	15	肥前系染付皿		(2.5)		4.0	内外面共に灰白色。白色堅緻な胎土。見込みは蛇ノ目状に釉剥ぎ。高台に目あと付着。	
76	15	肥前系呉器形碗		(4.0)		4.6	内外面共にオリーブ黄色。黄褐色のやや粗い胎土。釉は鉛色で全面に貫入。畳付のみ露胎。	
77	15	京焼風陶器碗		(3.8)		5.0	内外面はにぶい黄色、黄白色のやや粗い胎土。釉は鉛色で全面に貫入。畳付のみ露胎。	
78	15	灰釉陶器碗		(3.0)		4.1	内外面共にオリーブ黄色。全面施釉、貫入。	
79	15	肥前系鉢		(2.2)		8.0	内外面共ににぶい赤褐色。精選された胎土。内面は鉄釉。高台はしっかりした方形で、畳付外縁を斜めに面取り。	
80	15	陶器皿		(1.3)		7.4	内外面共に灰白色。灰褐色の胎土。透明釉。外面下半まで施釉。	
81	15	軒平瓦					内面断面は浅黄色。精選された胎土。二次的に被熱。	
82	16	肥前(波佐見)皿)		(2.4)		7.1	内面は灰白色。白色堅緻な胎土。釉は白色透明。畳付に目跡。内底中央にコンニャク版。呉須はややうすい。18C後半。	
83	16	堺 播鉢	27.2	(3.8)			内外面共ににぶい赤褐色。口縁を拡張し、2条の凹線をもつ。内外面共横ナデ。	
84	16	京焼風陶器碗		(3.4)		4.8	内面はオリーブ褐色、外面はにぶい黄色。淡茶色のやや粗い胎土。鉛釉を全面施釉。底部が極めて薄くつくられている。	
85	17W	土師器小皿	5.8	1.2		4.0	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
86	17W	土師器鍋	26.2	(2.7)			内外面断面共に橙色。長石、雲母の細粒を多く含む。内外面共横ナデ。外面は煤けている。	
87	17	白磁杯		(1.8)		2.4	内面は白色。白色堅緻な胎土。透明釉。内面に菊花文。	
88	17	備前播り鉢	33.8	(4.5)			内外面は灰褐色、断面は褐色。口縁外面に2条の凹線。内面の条線は細く、一部口縁より施される。18C頃。	
89	17	肥前系染付		(2.5)		4.0	内面は灰色、外面断面は灰白色。寿のくずしの文様。素焼きはしていない。1650～1660。	
90	17	肥前(波佐見)染付碗	15.4	(5.3)		重量(g) 291.6	灰白色で堅緻な胎土。釉は透明。やや薄い呉須。18C後半。	
91	17W	肥前系碗	9.2	(3.0)			白色堅緻な胎土。透明釉で貫入。口縁内面に6条の堺線。	
92	17	陶器 鉢		(2.6)		6.0	内外面共に橙色。精選された胎土。	
93	17W	京焼風陶器碗	11.4	(5.5)			内外面はオリーブ黄色、断面は灰白色。灰褐色のやや粗い胎土。灰釉。貫入あり。	
94	17W	石器	全長11.9	全幅5.0	全厚3.3			
95	18NW	土師器小皿	7.6	1.6		4.2	内外面共に橙色。精選された胎土。内外面共横ナデ。底部は糸切り。灯明皿に利用したのか口縁の一部に煤が付着。	
96	18	備前播り鉢	32.6	5.5			内外面共に橙色。長石その他の細・粗粒砂を含む。内外面共横ナデ。	
97	18	能茶焼陶胎染付					内面は灰褐色、外面は灰白色。黒色堅緻な胎土。外面は下地に白色釉、その上にコバルトで絵付け。内面は鉄釉。19C。	
98	19SE	肥前系ソバ猪口		(3.2)		6.0	内外面共に灰白色。白色堅緻な胎土。透明釉。	
99	19SE	福建省漳州窯陶胎染付小皿		(1.9)		6.2	灰白色で堅緻な胎土。釉は白濁色。呉須は濃い。内底を蛇ノ目状に掻き取る。露胎部は茶色に発色。内底、高台脇に1条の界線。外面は花文。16C末～17C初頭。	
100	20E	土師器杯		(1.9)		3.8	内外面共ににぶい黄褐色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。外面ロクロ目。	
101	20SE	土師器杯		(1.5)		6.2	内外面共に橙色。赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。糸切り。粗粒砂を含む。摩耗が激しい。	

八田奈呂遺跡出土遺物観察表 3

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
102	20SE	土師器杯		(2.1)		7.4	内外面共ににぶい黄橙色。チャートの細粒砂を多く含む。糸切り。	
103	20E	土師器杯		(2.3)		6.5	内外面断面共に橙色。砂粒をほとんど含まず。糸切り。器表の荒れが激しい。	
104	20E	土師器杯		(1.9)		7.4	内外面断面共ににぶい黄橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
105	20SW	土師器杯		(1.6)		6.0	内外面共に黄橙色。チャート他の細粒砂を含む。糸切り。	
106	20SE	土師器杯		(2.2)		6.1	内外面共に橙色。チャートその他の細粒砂を含む。糸切り。	
107	20E	土師器杯		(2.1)		5.8	内外面断面共に橙色。赤色風化礫を含む。	
108	20W	土師器杯		(1.4)		6.0	内外面共に橙色。チャート、赤色風化礫の細粒を多く含む。	
109	20W	土師器杯	11.4	3.1		6.9	内面は橙色。外面は浅黄褐色。チャートの細粒、雲母、赤色風化礫の細粒を含む。糸切り。	
110	20SW	土師器小皿	8.0	1.3		5.8	内外面共に灰色。チャートの細粒砂を含む。糸切り。内外面共に横ナデ。	
111	20W	土師器小皿	5.6	1.7		2.4	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まず。	
112	20SW	瓦器碗	16.9	(2.5)			内外面共に灰白色。砂粒をほとんど含まない。口縁下は強い横ナデ。	
113	20SW	土師器鍋	25.2	(6.2)			内面は褐灰色、外面断面はにぶい黄褐色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。口縁は、外面に粘土帯を貼付、太いツバ状を呈す。外面は横ナデ、内面は横ハケ。	
114	20E	土師器鍋	22.3	(5.7)			内面断面は淡黄色、外面はにぶい黄褐色。チャート他の細粒砂を多く含む。内傾して立ち上がる。口唇は丸味を帯びる。端部より1.5cm下に偏平な突帯が上向きにつく。内外面共ナデ。胴部中位に指頭圧痕。外面は煤ける。	
115	20SE	土師器鍋	22.0	(3.2)			内外面共に橙色。長石、石英粒を含む。内外面共横ナデ。	
116	20W	土師器鍋	25.8	(3.1)			内外面断面共に橙色。長石、石英細粒を含む。	
117	20W	土師器鍋	28.0	(3.0)			内外面共ににぶい赤褐色。チャート、石英粒を含む。口縁を上方につまみ上げている。	
118	20SW	土師器鍋足	全長 (10.2)	全幅2.4	全厚2.6		内外面共ににぶい黄褐色。石英を多く含む。ナデ調整。	
119	20W	土師器鍋足	全長 (9.5)	全幅2.1	全厚1.9		内外面共に浅黄褐色。石英の粗・細粒砂を多く含む。ナデ調整。	
120	20SW	瓦質鍋足	全長 (12.6)	全幅2.2	全厚2.3		内外面断面共に灰白色。足端部がわかる好例。チャートの細・粗粒砂を多く含む。端部に向かって細まり、先端は外方に反る。	
121	20W	瓦質鍋足	全長 (4.0)	全幅1.8	全厚2.0		内外面は灰白色。断面は灰色。チャート他の粗・細粒砂を多く含む。	
122	20W	瓦質鍋足	全長 (6.3)	全幅2.4	全厚2.4		内外面共に灰白色。チャート小礫、細・粗粒砂を多く含む。	
123	20W	土師器鍋足	全長(2.3)	全幅1.2	全厚1.1		内外面共に橙色。長石、石英粒を含む。	
124	20W	瓦質鍋	23.1	(4.0)			内外面共に灰白色。チャート、長石の細粒砂を含む。内湾して立ち上がる。口唇は丸い、1.5cm下に断面がカマボコ状のしっかりした突帯を貼付。外面は横ナデ、内面は横ハケ。	
125	20SW	瓦質鍋	19.4	(4.2)			内外面共に灰色。チャートの細粒砂を含む。偏平な三角突帯。口唇丸味。	
126	20SE	瓦質鍋	21.4	(2.6)			内外面共に灰色。口縁は内湾気味。鏝はやや下向きにつく。	
127	20W	瓦質鍋	19.0	(5.2)			内外面共に灰色。チャート、長石他の細粒砂を含む。口唇は丸味。断面が三角の突帯。内面は横ハケ。	
128	20SW	土師器鉢	22.0	(3.8)			内外面共に淡黄色。チャートの細・粗粒砂を含む。東播系鉢の模倣。	
129	20SW	須恵器壺		(2.8)		15.0	内外面共に灰色。細・粗粒砂を少量含む。	
130	20SW	須恵器壺		(0.7)		9.8	内面は灰色、外面断面は灰白色。チャート他の細・粗粒砂を含む。	
131	20W	瓦質火鉢		(4.7)		15.2	内面は浅黄色、外面は灰黄色、断面は黒褐色。精選された胎土。内外面共丁寧なナデ。	
132	20SW	東播系須恵器コネ鉢		(4.5)		11.2	内外面共に灰オリーブ色。長石、石英粒を含む。内面は摩耗している。	
133	20SW	東播系須恵器コネ鉢		(3.6)		9.8	内外面断面共に灰白色。長石他の細・粗粒砂を含む。	

八田奈呂遺跡出土遺物観察表 4

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
134	20SW	須恵器壺		(6.9)		5.1	内外面共に灰黄色。長石その他の細粒砂を含む。口縁下に2条の凹線。壺頸部。	
135	20E	東播系須恵器 コネ鉢	20.4	(4.4)			内外面共に灰色。長石他の細・粗粒砂を含む。	
136	20W	東播系須恵器 コネ鉢	30.6	(5.4)			内面は杯黄色、外面は灰白色、断面は灰色。石英他の粗粒砂を含む。内外面共ナデ。	
137	20SE	東播系須恵器 コネ鉢	26.8	(3.3)			内外面共に灰色。石英他の粗粒砂を含む。内外面共ナデ調整。	
138	20SE	播り鉢	31.8	(5.3)			内外面は灰黄褐色、断面はにぶい橙色。長石他の粗粒砂を含む。内外面共に横ナデ。産地不明。	
139	20SW	備前播り鉢	22.3	(4.3)			内外面は橙色。長石、石英砂を含む。内外面共横ナデ。二次的に被熱。	
140	20SW	甕		(4.3)			内外面共ににぶい橙色。石英その他の砂粒を多く含む。二次的に被熱赤変。外面は格子叩き。産地は不明。	
141	20SE	備前甕		(5.7)		14.5	内面は黄褐色、外面は褐灰色、断面は黄灰色。内底に自然釉。石英、長石粒を含む。	
142	20SW	甕	27.4	(4.3)			内外面共ににぶい橙色。石英その他の砂粒を多く含む。二次的に被熱赤変。外面は格子叩き。産地は不明。	
143	20SE	龍泉窯青磁碗	15.6	(3.8)			内外面はオリーブ灰色。灰白色の粗い胎土。釉は透明度のあるうす緑色。貫入。幅の広い鑄連弁文。	
144	20SE	龍泉窯青磁碗	14.6	(3.7)			内外面共にオリーブ灰色。灰色堅緻な胎土。釉は透明度のある灰緑色。	
145	20E	龍泉窯青磁碗		(1.8)		6.7	内外面はオリーブ灰色。灰白色でやや粗い胎土。釉はやや濁りのあるうす緑色、薄く施釉。内底にスタンプ文。外底の一部まで施釉、外底露胎部は褐色。底部が厚い。	
146	20W	龍泉窯青磁碗	16.0	(2.7)			濁りのある釉。灰色でやや粗い胎土。外面に鑄連弁。	
147	20W	龍泉窯青磁碗		(3.8)		5.2	内外面はオリーブ灰色。灰色で堅緻な胎土。釉は濁りのある緑色。鑄連弁は均整がとれている。高台は、断面が方形でしっかりしている。畳付けまで施釉。	
148	20W	龍泉窯青磁碗	14.2	(3.3)			内外面はオリーブ灰色。灰色で堅緻な胎土。釉はうすい緑色。やや幅の狭い鑄連弁を施し、口縁は直線的に立ち上がる。	
149	20W	龍泉窯青磁碗		(2.8)		5.2	内外面は浅黄色。灰褐色の堅緻な胎土。褐色風の釉が、畳付けの一部にまでかかる。貫入あり。	
150	20SE	龍泉窯青磁碗		(2.6)		5.1	灰色で堅緻な胎土。釉は透明度があり、一部畳付けにまでかかる。	
151	20SW	龍泉窯青磁碗		(1.8)		6.0	内外面はオリーブ灰色。釉は透明度があり、畳付けの一部にまで施釉。	
152	20	龍泉窯青磁碗					灰色で堅緻な胎土。外面に鑄連弁文。	
153	20W	龍泉窯青磁碗		(3.2)		6.0	内外面は灰オリーブ色。灰色で堅緻な胎土。釉は透明度があり、貫入あり。一部、畳付け、高台内まで施釉。	
154	20SW	白磁皿		(1.0)		6.4	白色でやや粗い胎土。全面施釉。Ⅸ類か。	
155	20SE	肥前系染付皿	13.2	(3.6)		7.0	内外面は灰白色。白色で堅緻な胎土。	
156	20SE	能茶焼き播り鉢	29.8	(8.3)			内面は灰褐色、外面は黒褐色、断面は褐灰色。濃茶色の堅緻な胎土。釉は鉄釉。外面及び口縁内面に施釉。内面口縁下に1条の細い沈線を巡らす。沈線より下にやや浅い多条線。	
157	20E	陶器甕	27.4	(5.0)			内面は灰黄褐色、外面は灰褐色、断面は灰黄色。チャートの小礫、他の細粒砂を含む。口縁は直角に短く屈曲、端部は上方につまみ上げ横ナデ。	
158	21NE	土師器杯		(1.3)		4.4	内外面共に橙色。赤色風化礫の砂粒を含む。摩耗が激しい。	
159	21S	土師器杯	7.0	(2.3)			内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。器表のいたみが激しい。	
160	21	土師器杯		(1.8)		3.0	内面は浅黄褐色、外面は橙色。砂粒をほとんど含まない。摩耗が激しい。糸切り。	
161	21SE	土師器杯		(2.5)		7.7	内外面共に浅黄褐色。チャートの細粒砂を含む。摩耗が激しい。糸切り。	
162	21E	土師器杯		(1.5)		6.4	内外面共に浅黄褐色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。内外面共ロクロ目が顕著。	
163	21SE	土師器杯		(2.2)		5.6	内外面断面共に浅黄褐色。赤色風化礫の砂粒を含む。摩耗が激しい。内面にロクロ目。	

八田奈呂遺跡出土遺物観察表 5

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
164	21NE	土師器杯		(1.8)		6.6	内外面共に黄橙色。砂粒をほとんど含まない。摩耗が激しい。	
165	21NE	土師器杯		(1.8)		6.0	内外面共ににぶい橙色。赤色風化礫の砂粒を含む。	
166	21NE	土師器杯		(2.4)		10.2	内外面共に橙色。砂粒を含まない。摩耗が激しい。	
167	21E	土師器杯	11.0	(3.7)		7.0	内外面共に浅黄橙色。チャートの細粒を少量含む。糸切り。器表の荒れが激しい。	
168	21E	土師器小皿	5.7	1.3		5.2	内外面共に黄橙色。砂粒を含まず。摩耗が激しい。	
169	21S	土師器小皿	5.9	2.6		5.0	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。器表の荒れが激しい。	
170	21E	土師器小皿	6.4	1.7		4.3	内外面共に灰黄色。チャートの粗粒砂をわずかに含む。摩耗が激しい。	
171	21E	土師器小皿	6.6	1.8		5.8	内外面共に橙色。砂粒を含まない。摩耗が激しい。	
172	21E	土師器小皿	7.0	1.5		5.0	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。器表の荒れが激しい。糸切り。	
173	21NE	龍泉窯青磁碗	17.0	(2.4)			内外面は灰オリーブ色。灰色で堅緻な胎土。外面は鎬連弁文。	
174	21E	龍泉窯青磁稜花皿	17.6	(2.3)			灰色でやや粗い胎土。貫入。	
175	21NE	龍泉窯青磁碗		(1.6)		7.4	内外面共にオリーブ灰色。灰色でやや粗い胎土。透明度のある釉。貫入。内底に界線、印花文。外底まで全面施釉後、蛇ノ目に釉剥ぎ。	
176	21E	肥前系碗	11.6	(2.8)			白色で堅緻な胎土。釉は透明。	
177	21SE	土師器鍋		(3.6)			内面は橙色、外面は浅黄橙色。石英、長石、赤色風化礫の細粒を多く含む。口唇面取り。口縁下に三角突帯。	
178	21SE	土師器鍋	20.9	(8.1)			内外面共に灰白色。チャートの小礫の細・粗粒砂を含む。口唇は丸味。断面は三角の鏝。	
179	21SE	瓦質鍋	20.3	(5.2)			内面は灰白色、外面は暗灰黄色。チャートの細・粗粒砂を含む。内湾気味に立ち上がり、口唇は面をなす。端部から1.7cm下に断面が台形状の粘土帯を貼付。外面は激しく煤ける。調整は不明。	
180	21SE	瓦質鍋	25.4	(5.7)			内面は灰黄色、外面断面は灰白色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。内湾して立ち上がる。口唇は内傾する面。端部より1.5cm下に断面が三角の突帯を貼付。突帯、口縁部内外面共横ナデ。胴部中位は指ナデ。	
181	21SE	瓦質鍋	20.4	(3.6)			内外面共に黄灰色。砂粒をほとんど含まない。わずかに内湾して立ち上がり口唇は面。端部より1.5cm下に断面が台形状の突帯を貼付。調整は不明。外面は煤けている。	
182	21E	瓦質鍋	16.0	(3.6)			内外面共に浅黄色。石英、雲母他の細粒砂を含む。口縁は肥厚。口唇は凹状。	
183	21E	瓦質鍋足	全長 (6.7)	全幅2.7	全厚2.8		外面は灰白色、断面は灰色。チャートの細・粗粒砂を含む。	
184	21NE	備前甕		(7.4)		24.0	内面は灰黄色、外面はにぶい褐色。石英、長石の粗粒砂を多く含む。外面は縦ハケ。	
185	21NE	肥前産鉢	24.2	(4.4)			内面はにぶい黄橙色、外面は灰黄褐色、断面はにぶい褐色。茶色でやや粗い胎土。玉縁口縁。刷毛目。17C後半～18C前半。	
186	21E	堺播り鉢		(2.8)		14.0	内外面共に橙色。石英、長石他の粗粒砂を含む。	
187	21NE	肥前系皿		(3.7)		21.6	釉下彩。内外面共に灰白色。白色で堅緻な胎土。明治～大正。	
188	22W	土師器杯		(1.2)		4.3	内外面断面共ににぶい黄橙色。赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。糸切り。摩耗が激しい。	
189	22NW	土師器小杯	5.6	1.7		4.8	内外面断面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。	
190	22N・SE	土師器小杯	6.1	1.6		4.9	内外面共に橙色。砂粒を含まない。糸切り。内外面共強い横ナデ。	
191	22N・W	土師器杯		(1.4)		6.1	内面は橙色、外面は明褐色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
192	22NW	土師器杯	9.0	2.2		6.6	内面断面はにぶい橙色。外面は橙色。砂粒を含まない。摩耗が激しい。	
193	22N	土師器杯		(2.3)		6.6	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。摩耗が激しい。	
194	22W	土師器杯		(1.6)		7.8	内面は黄灰色、外面は黒褐色。チャートの細粒砂を含む。糸切り。外面は繊維束状の原体で横ナデ。	
195	22NW	土師器杯		(2.1)		7.0	内外面共に黄橙色。赤色風化礫の細粒を少し含む。	

八田奈呂遺跡出土遺物観察表 6

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
196	22NW	土師器杯		(1.7)		7.0	内外面共ににぶい黄橙色。砂粒をほとんど含まない。内面はロクロ目が顕著。糸切り。	
197	22N	土師器杯	9.2	2.0		6.8	内外面断面共ににぶい黄橙色。チャート、雲母の細粒を少し含む。糸切り。	
198	22N・SE	土師器杯		(2.1)		6.3	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
199	22N	土師器杯		(1.1)		6.4	内外面断面共ににぶい黄橙色。チャート他の細粒砂を含む。	
200	22N・W	土師器杯		(2.0)		8.6	内外面共に浅黄橙色。チャートの細粒砂を含む。糸切り。内底にロクロ目。	
201	22N	土師器杯		(1.8)		7.0	内外面断面共に浅黄橙色。チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。	
202	22NW	土師器杯		(2.5)		6.1	内外面断面共ににぶい黄橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
203	22NE	土師器杯		(2.2)		6.9	内外面共ににぶい黄橙色。チャートの細粒砂を含む。赤色風化礫の細粒を含む。糸切り。内面にロクロ目。	
204	22N	土師器杯		(1.4)		6.6	内外面共に橙色。砂粒を含まず。摩耗が激しい。	
205	22N	土師器杯		(2.9)		6.8	内外面共に橙色。赤色風化礫の細粒を含む。	
206	22N	土師器杯		(2.6)		6.8	内外面共ににぶい黄橙色。チャート、長石の細粒を多く含む。糸切り。	
207	22N・W	土師器杯		(2.2)		6.4	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。摩耗が激しい。	
208	22N	土師器杯	10.4	3.3		6.6	内外面共ににぶい黄橙色。赤色風化礫の細粒を少し含む。摩耗が激しい。	
209	22N	土師器杯	11.2	3.6		6.5	内外面断面共に浅黄橙色。砂粒をほとんど含まない。ロクロ成形。内外面共器表の荒れが激しい。	
210	22N	土師器杯	12.4	(1.9)			内面は灰オリーブ色、外面は灰黄色。精選された胎土。内外面共横ナデ。うす手。	
211	22N・SE	土師器杯	10.0	3.5		7.0	内外面共ににぶい黄橙色。赤色風化礫の細粒を少し含む。	
212	22W	土師器杯	10.0	3.9		6.2	内外面共に浅黄橙色。赤色風化礫を含む。糸切り。	
213	22NW	土師器杯		(2.3)		7.6	内面は黄橙色、外面は浅黄橙色。砂粒をほとんど含まず。内面はロクロ目。摩耗が激しい。	
214	22NW	土師器杯	12.9	3.5		7.5	内外面断面共に橙色。砂粒をほとんど含まず。糸切り。	
215	22N・SE	土師器杯	11.4	4.5		7.6	内外面共ににぶい橙色。赤色風化礫、長石の細粒・粗粒砂を含む。糸切り。	
216	22N	土師器杯	13.4	3.4		8.8	内外面断面共ににぶい黄橙色。チャート、長石の細粒砂を含む。外面にロクロ目。	
217	22NW	土師器小皿	5.8	1.5		4.5	内外面断面共ににぶい橙色。砂粒を含まない。摩耗が激しい。	
218	22N	土師器小皿	5.8	1.5		4.5	内外面断面共に橙色。赤色風化礫の細粒を少量含む。摩耗が激しい。	
219	22NW	土師器小皿	7.0	(1.7)		6.0	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。	
220	22NW	土師器小皿	6.2	1.5		4.8	内外面断面共に橙色。砂粒をほとんど含まない。	
221	22NW	土師器小皿	3.3	1.5		5.0	内外面共ににぶい黄橙色。砂粒を含まない。糸切り。	
222	22N	土師器小皿	7.0	1.7		4.9	内外面共に橙色。赤色風化礫の細粒砂を多く含む。糸切り。	
223	22NW	土師器小皿	5.9	1.6		4.8	内外面共に橙色。砂粒を含まず。摩耗が激しい。	
224	22N	土師器小皿	6.6	1.5		5.4	内外面共に橙色。チャートの粗粒砂を少量含む。摩耗が激しい。	
225	22N	土師器小皿	6.6	1.8		4.9	内外面共に橙色。赤色風化礫の細粒砂を含む。糸切り。摩耗が激しい。	
226	22NW	土師器小皿	5.9	1.4		4.4	内外面共に明黄褐色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
227	22N・SE	土師器小皿	5.9	2.0		4.8	内外面共に明黄褐色。チャートの小礫を少し含む。糸切り。	
228	22NW	土師器鍋	31.0	(5.9)			内外面共ににぶい橙色。石英、長石の細・粗粒砂を含む。外面は煤けている。口縁外面に断面がカマボコ状の突帯を貼付。	
229	22N・SE	土師器羽釜	18.0	(5.2)			内面はにぶい黄褐色。外面は灰黄褐色。石英他の細粒砂を多く含む。口縁は内傾。外面に3条の弱い凹線。幅の広い鑊が上向きにつく。内面はハケ+横ナデ。外面は煤けている。	
230	22W	土師器鍋	23.2	(4.5)			内外面共に橙色。長石、石英の細粒を多く含む。口縁に三角形の鑊。胴部外面に叩き。外面は煤けている。内面及び口縁部内外面は横ナデ。	

八田奈呂遺跡出土遺物観察表 7

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
231	22W	瓦質鍋	24.0	(3.0)			内外面共に灰白色。細粒砂を多く含む。口唇は面取り。断面は台形状のしっかりした罫。	
232	22W	瓦質鍋	24.4	(4.6)			内面はにぶい黄褐色。外面は灰黄色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。内湾気味に立ち上がる。口唇は面取り。端部より1.5cm下に断面がコマボコ状の粘土帯を貼付。外面は横ナデ、内面は横ハケ。	
233	22W	瓦質鍋	18.8	(3.8)			内面は灰オリーブ色、外面は灰色、断面は灰白色。チャート他の細粒砂を含む。口唇は面。断面が三角の罫。	
234	22W	瓦質鍋	17.0	(6.0)			内外面共に浅黄色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。口唇は丸くおさめる。口唇より1.7cm下に断面が三角の罫を貼付。調整は不明。	
235	22N	須恵器甕	20.4	(4.4)			内外面共に灰色。長石他の細粒を含む。口縁内外面は横ナデ。口唇は内傾する。	
236	22SW	備前播り鉢	28.0	(3.7)			内面は黄灰色、外面はにぶい赤褐色。長石他の小礫、細粒を含む。内外面共横ナデ。	
237	22W	東播系須恵器 コネ鉢	17.6	(3.0)			内外面共に灰黄色。細・粗粒砂を含む。内外面共ナデ。	
238	22NW	龍泉窯青磁碗	17.8	(4.8)			灰白色で粗い胎土。釉は濁りのあるうす緑色。鎬蓮弁を有するが、蓮弁の形、単位はかなり不揃い。	
239	22N・SE	龍泉窯青磁碗		(5.0)			内外面共に灰オリーブ色。灰色でやや粗い胎土。釉はやや濁った濃緑色。	
240	22N	青磁稜花皿	9.2	(1.1)			内外面はオリーブ灰色。灰色で堅緻な胎土。釉はうす緑色。貫入。	
241	22NW	龍泉窯青磁稜 花皿	12.4	(1.0)			灰色でやや粗い胎土。貫入あり。	
242	22NW	龍泉窯青磁碗	16.0	(2.3)			灰色で堅緻な胎土。釉はやや濁りがある。外面に鎬蓮弁文。	
243	22N	龍泉窯青磁碗	17.6	(4.5)			内面は灰オリーブ色、外面はオリーブ灰色。灰色で堅緻な胎土。釉はやや濁りがある。外面に鎬蓮弁文。	
244	22NW	龍泉窯青磁碗		(3.2)		4.2	灰色で堅緻な胎土。釉は透明度がある。貫入あり。	
245	22W	白磁小皿		(1.5)		3.3	内外面共ににぶい黄褐色。白色でやや粗い胎土。釉は白色で、高台脇まで施釉。高台は、断面を長方形に削り出す。	
246	22N・SE	白磁皿		(1.3)		3.6	白色で堅緻な胎土。外面は削り、露胎。	
247	22NW	備前甕		(4.2)		14.3	内面はにぶい黄褐色、外面はにぶい赤褐色、断面は灰黄色。石英の砂粒を含む。内底はゴマフリ。外面は縦ハケのあとがよくわかる。	
248	22W	石鍋		(2.7)		15.2	骨石。底部の厚さは1.4cm。底部付近に0.5cmの円孔がある。	
249	22NM	陶器甕					内面はにぶい橙色、外面はにぶい赤褐色。石英、長石の粗粒を含む。内面に粘土紐の単位を認める。外面は横ハケ、内面は横ナデ。	
250	23	土師器杯		(1.5)		6.5	内外面共に橙色。赤色風化礫の粒を含む。糸切り。	
251	23SW	土師器杯		(1.4)		4.5	内外面共に橙色。赤色風化礫の細粒を多く含む。摩耗が激しい。	
252	23	土師器杯		(2.6)		8.0	内外面共に橙色。チャート他の細・粗粒砂を含む。糸切り。	
253	23M	土師器杯		(2.0)		7.4	内外面断面共に浅黄褐色。チャートの砂粒を多く含む。糸切り。	
254	23SW	土師器皿	10.4	2.4		6.0	内外面共に橙色。石英、赤色風化礫の砂粒を含む。口縁の一部にカーボンが附着。灯明皿として使用か。	
255	23N	肥前系鉢		(2.3)		8.0	内面は黒褐色、外面はにぶい褐色。内面は鉄釉。黒褐色で堅緻な胎土。高台はしっかりした方形で、外縁角を面取り。内底に目あと(胎土目)。畳付けにも目あと附着。	
256	23MS	土錘	全長4.8	全幅1.4	全厚1.2	重量(g) 6.6	内外面共に橙色。孔径は5mm。	
257	23N	土師器鍋	17.0	(2.3)			内外面断面共ににぶい橙色。石英、長石、雲母の細粒を含む。内外面共横ナデ。	
258	23SW	土師器鍋	18.6	(5.8)			内面は橙色、外面は黒褐色、断面は褐色。石英、長石、雲母の細粒砂を多く含む。口縁下に断面が三角の太い罫。胴部外面に右上がりの叩き。内面は横ハケ+ナデ。	
259	23MS	須恵器壺		(4.2)		17.7	内外面共にオリーブ灰色。チャート他の細・粗粒砂を含む。底部。	

八田奈呂遺跡出土遺物観察表 8

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
260	24	土師器杯	13.7	4.2		7.7	内外面はにぶい黄橙色、断面は黄灰色。石英、チャートの細・粗粒砂を多く含む。糸切り。内外面共横ナデ。口縁の一部に煤附着。	
261		土師器小皿	7.5	1.2		3.2	赤色風化礫の細粒砂を含む。淡茶色。摩耗が激しい。	
262		瀬戸・美濃系碗	6.6	3.0		2.6	内外面共に灰白色。白色で堅緻な胎土。釉は透明。	
263		備前壺	8.6	(9.4)			内面はにぶい黄褐色、外面はにぶい赤褐色、断面はにぶい赤褐色。口唇は外傾の面をなす。内外面は横ナデ。外面の一部にゴマフリ。	
264		龍泉窯青磁碗		(1.4)		5.0	内外面共にオリブ黄色。灰色で堅緻な胎土。釉は鉛色。畳付けの一部、外底は露胎。内底に印花文。	
265		肥前系皿		(1.6)		7.0	白色で堅緻な胎土。釉は透明。ややうすい呉須。内底に目あと。外底は蛇ノ目状に掻き取る。	
266		須恵器甕		(5.7)			内面は灰色、外面は灰オリブ色。長石他の細・粗粒砂を含む。外面は叩き。自然釉。	
267		石臼	全長 23.1	全幅 12.4	全厚 7.3			
268		石臼	全長 15.8	全幅 12.5	全厚 5.1	1.7		
269		石臼	全長 27.0	全幅 12.6	全厚 5.4			
270		石臼	全長 26.0	全幅 28.0	全厚 7.5			
271		古銭					寛永通宝	
272	31・Ⅲ層	土師器小杯		(1.3)		2.2	内外面断面共ににぶい橙色。粗粒砂を含む。内外面共にナデ。	
273	31・Ⅲ層	土師器杯	7.3	(1.9)		5.3	内外面共ににぶい黄橙色。	
274	31・Ⅲ層	土師器杯		(1.4)		6.2	内外面共に浅黄橙色。	
275	31・Ⅲ層	土師器杯		(2.2)		6.8	内外面共に橙色。	
276	31・Ⅲ層	土師器杯	13.3	(1.7)			内外面断面共に橙色。	
277	31・Ⅲ層	土師器杯		(2.4)		5.9	内外面断面共に橙色。	
278	31・Ⅲ層	土師器小皿		(1.3)		5.3	内外面共ににぶい黄褐色。	
279	31・Ⅲ層	土師器小皿	5.0	1.5		4.8	内面はにぶい黄褐色、外面は明黄褐色。	
280	31・Ⅲ層	土師器小皿		(1.1)		4.0	内外面共ににぶい橙色。	
281	31・Ⅲ層	土師器小皿		(1.4)		2.3	内外面断面共に橙色。粗粒砂を含む。内外面共にナデ。	
282	31・Ⅲ層	土師器小皿	6.3	1.4		5.2	内外面共に橙色。	
283	31・Ⅲ層	土師器小皿		(1.2)		6.7	内外面断面共に橙色。	
284	31・Ⅲ層	土師器小皿	7.4	(1.2)			内外面共に橙色。	
285	31・Ⅲ層	土師器小皿	7.5	(1.2)			内外面共に明黄褐色。	
286	31・Ⅲ層	土師器皿		(1.7)		10.0	内外面は浅黄褐色、断面は灰色。	
287	31・Ⅲ層	土師器小皿	10.0	1.5		7.4	内外面共に浅黄褐色。	
288	31・Ⅲ層	土師器小皿	7.2	1.6		4.9	内外面断面共に褐灰色。精選された胎土。内外面共ナデ。	
289	31・Ⅲ層	土師器小皿		(1.8)		5.4	内外面共に橙色。	
290	31・Ⅲ層	土師器小皿		(1.8)		6.0	内外面共ににぶい橙色。	
291	31・Ⅲ層	土師器皿		(2.0)		6.5	内外面共に明黄褐色。	
292	31・Ⅲ層	土師器皿		(0.9)		6.5	内外面断面共ににぶい橙色。	
293	31・Ⅲ層	土師器皿		(1.3)		7.0	内面は明黄褐色、外面は橙色。	
294	31・Ⅲ層	土師器小皿		(1.7)		5.0	内外面共に黄褐色。	
295	31・Ⅲ層	土師器碗	11.6	(2.0)			内外面共に浅黄色。	
296	31・Ⅲ層	土師器鉢	29.4	4.2			内面はにぶい橙色、外面はにぶい橙色～黒褐色、断面はにぶい橙色。精選された胎土。内外面共に横ナデ。	
297	31・Ⅲ層	陶器碗	12.6	(5.3)			内外面共に灰白色。	
298	31・Ⅲ層	土師器鉢	22.3	(3.3)			内外面共に灰白色。	
299	31・Ⅲ層	東播系須恵器鉢	19.6	(2.7)			内外面共に灰色。	
300	31・Ⅲ層	龍泉窯青磁碗	15.5	(2.2)			内外面は明オリブ灰色。灰色で堅緻な胎土。外面に鎬連弁文。	
301	31・Ⅲ層	龍泉窯青磁碗	16.0	(1.4)			内外面は明オリブ灰色。灰色で堅緻な胎土。外面に鎬連弁文。	
302	31・Ⅲ層	磁器碗		(1.5)		5.0	内外面共に灰白色。	

八田奈呂遺跡出土遺物観察表 9

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
303	31・Ⅲ層	瓦質鍋足	全長4.4	全幅1.6	全厚1.5		内外面共に灰白色。	
304	31・Ⅲ層	鉄	全長5.8	全幅4.1	全厚1.4	重量(g) 74.5		
305	31・Ⅲ層	鉄釘	全長3.3	全幅0.8	全厚0.4	重量(g) 2.8		
306	TR20・Ⅲ層	土師器杯		(1.7)		7.6	内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まず。糸切り。	
307	TR23・Ⅴ層	須恵器壺		(5.2)			内外面断面共に灰色。チャート他の細粒砂を多く含む。内外面共丁寧な横ナデ。内外面共に灰白色。	
308	TR23・Ⅴ層	須恵器壺		(6.9)		10.0	チャート、長石の細粒砂を含む。内外面共横ナデ。しっかりした高台を有す。	
309	TR23・Ⅵ層	弥生土器甕		(2.3)		3.5	内面は灰色、外面は灰黄色、断面は灰色。チャートの粗粒砂を多く含む。外面は叩き+ハケ。外底にも叩き目。弥生後期。	
310	TR23・Ⅵ層	古式土師器甕	25.6	(1.7)			内外面共に橙色。チャートの小礫、粗粒砂を含む。内面はヘラ削り(左←右)。	
311	TR23・Ⅶ層	弥生土器甕	11.0	(4.7)			内面はにぶい橙色。外面は橙色。チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。外面は叩き。内外面共摩擦している。弥生後期。	
312	TR25・Ⅲ層	土師器杯		(1.4)		7.7	内外面共に浅黄橙色。断面は黄灰色。砂粒をほとんど含まない。内外面共にロクロ目。外底に糸切り。	
313	TR25・Ⅲ層	土師器杯		(2.6)		5.8	内面は橙色、外面はにぶい橙色。砂粒をほとんど含まず。内外面共にロクロ目。糸切り。外底に平行圧痕あり。	
314	TR25・Ⅲ層	土師器小皿		(1.2)		4.6	灯明皿。内外面共に橙色。砂粒をほとんど含まず。内面に煤が付着。	
315	TR25・Ⅲ層	土師器小皿	6.6	1.6		4.4	内外面断面共ににぶい橙色。石英、チャートの細粒砂を含む。糸切り。	
316	TR25・Ⅲ層	土師器小皿	7.6	1.6		5.6	内外面共に橙色。砂粒を含まない。糸切り。	
317	TR25・Ⅲ層	土師器小皿	8.5	(1.9)		6.2	内外面共ににぶい黄橙色。砂粒をほとんど含まない。糸切り。	
318	TR25・Ⅲ層	瓦質鍋		(4.1)			内外面断面共に灰黄色。細・粗粒砂を含む。口縁下に断面が三角の突帯。	
319	TR25・Ⅲ層	白磁皿	9.3	(1.7)			内外面断面共に灰白色。	
320	TR25・Ⅲ層	陶器蓋		(1.9)			内面はにぶい黄橙色、外面は灰オリーブ色、断面は灰白色。	
321	TR29・Ⅰ層	器種不明		(5.0)			内外面は灰黄色、断面はにぶい黄色。粗い砂粒を多く含む。下胴部外面に左←右の荒い削り。外底は左→右の荒い削り。	
322	TR34・Ⅳ層	土師器杯		(2.1)		5.1	内外面共に明黄褐色。チャート、赤色風化礫の細粒を含む。糸切り。	
323	TR36・Ⅱ層	台付灯明皿	6.8	3.7		4.4	内外面共に黒褐色。黒褐色のやや粗い胎土。外面は鉄釉。外底に糸切り。	

八田奈呂遺跡出土遺物観察表10

### 4. 八田奈呂遺跡出土遺物実測図

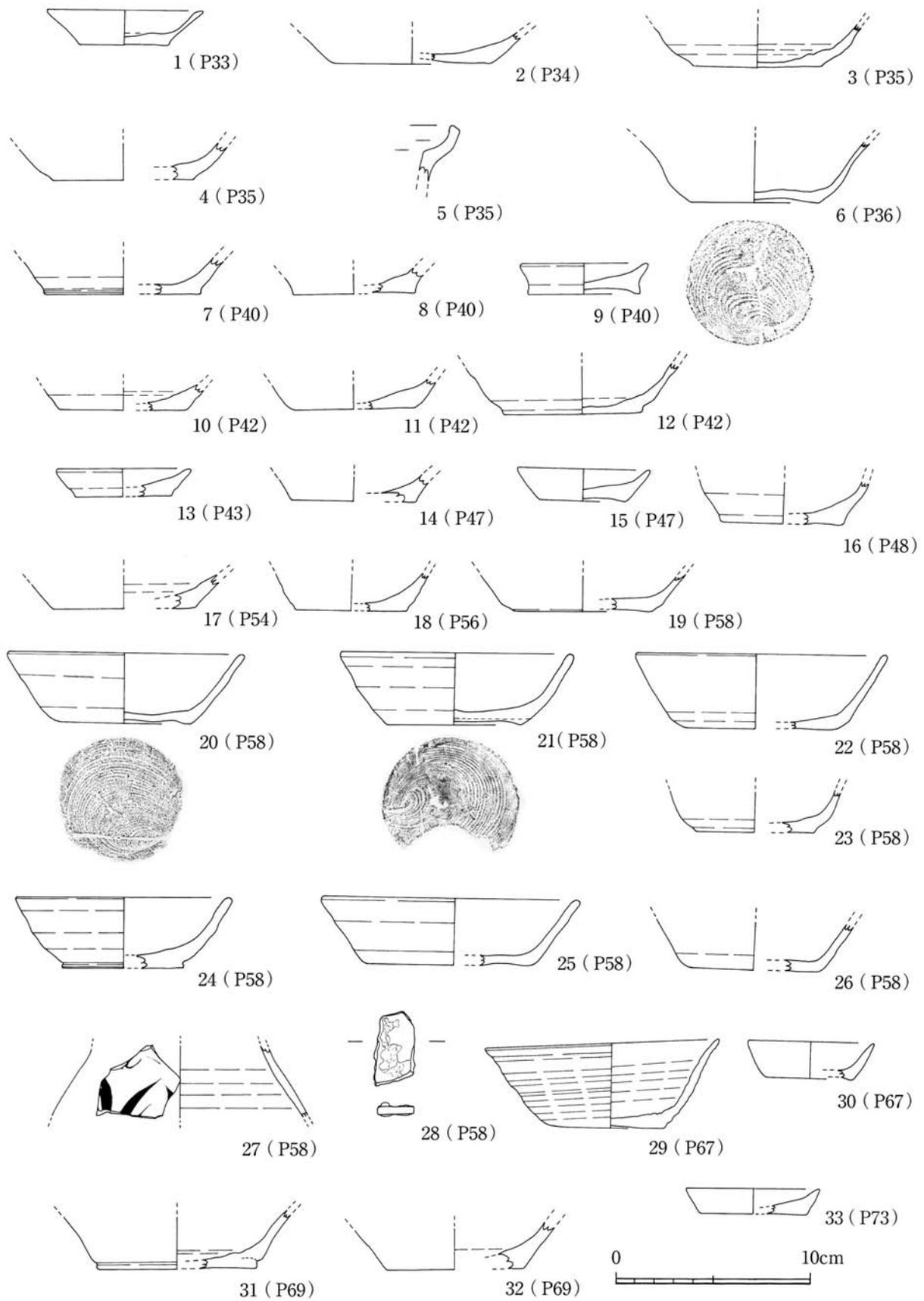


図 3—30 八田奈呂遺跡遺構出土遺物

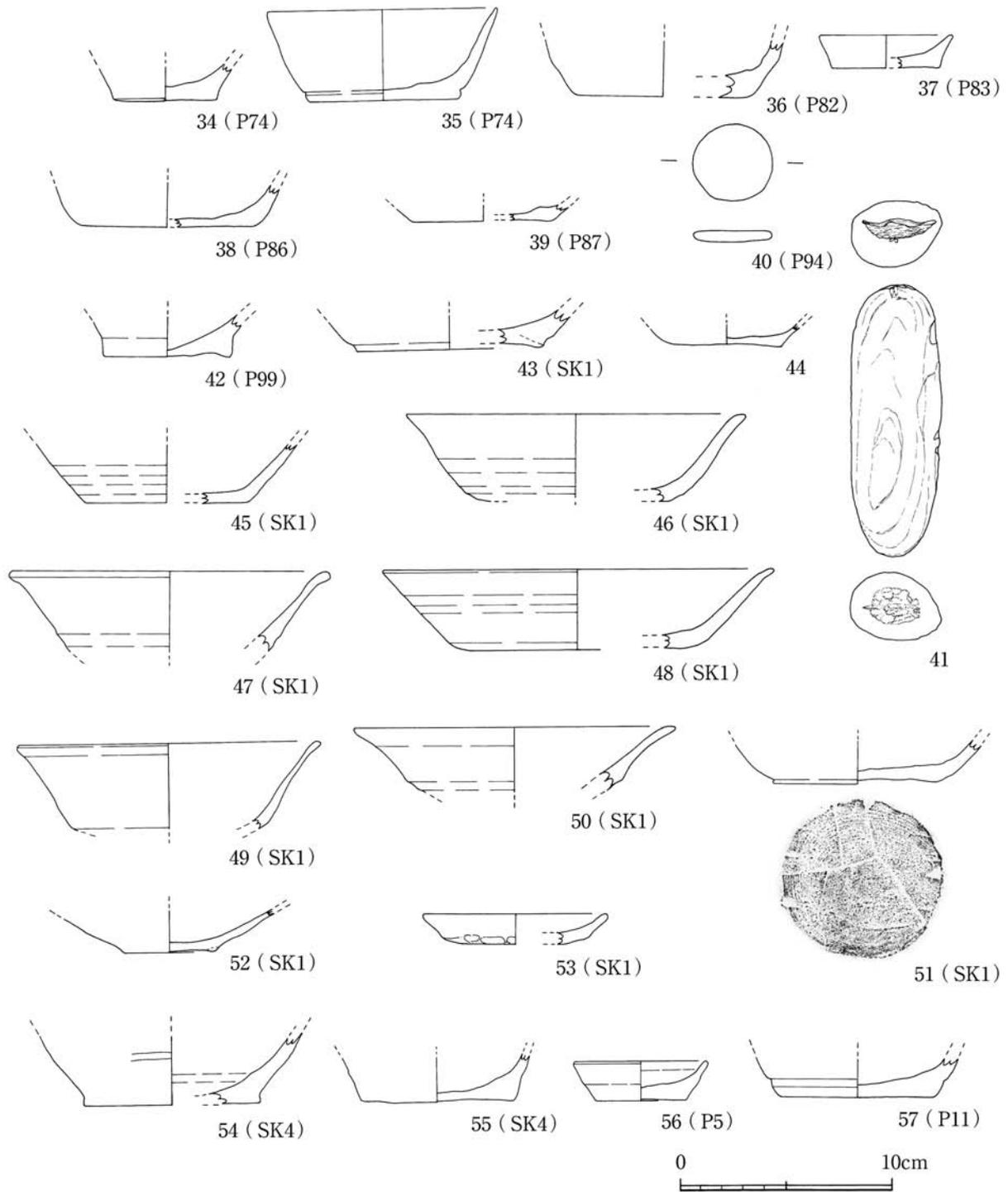


图 3-31 八田奈呂遺跡遺構出土遺物

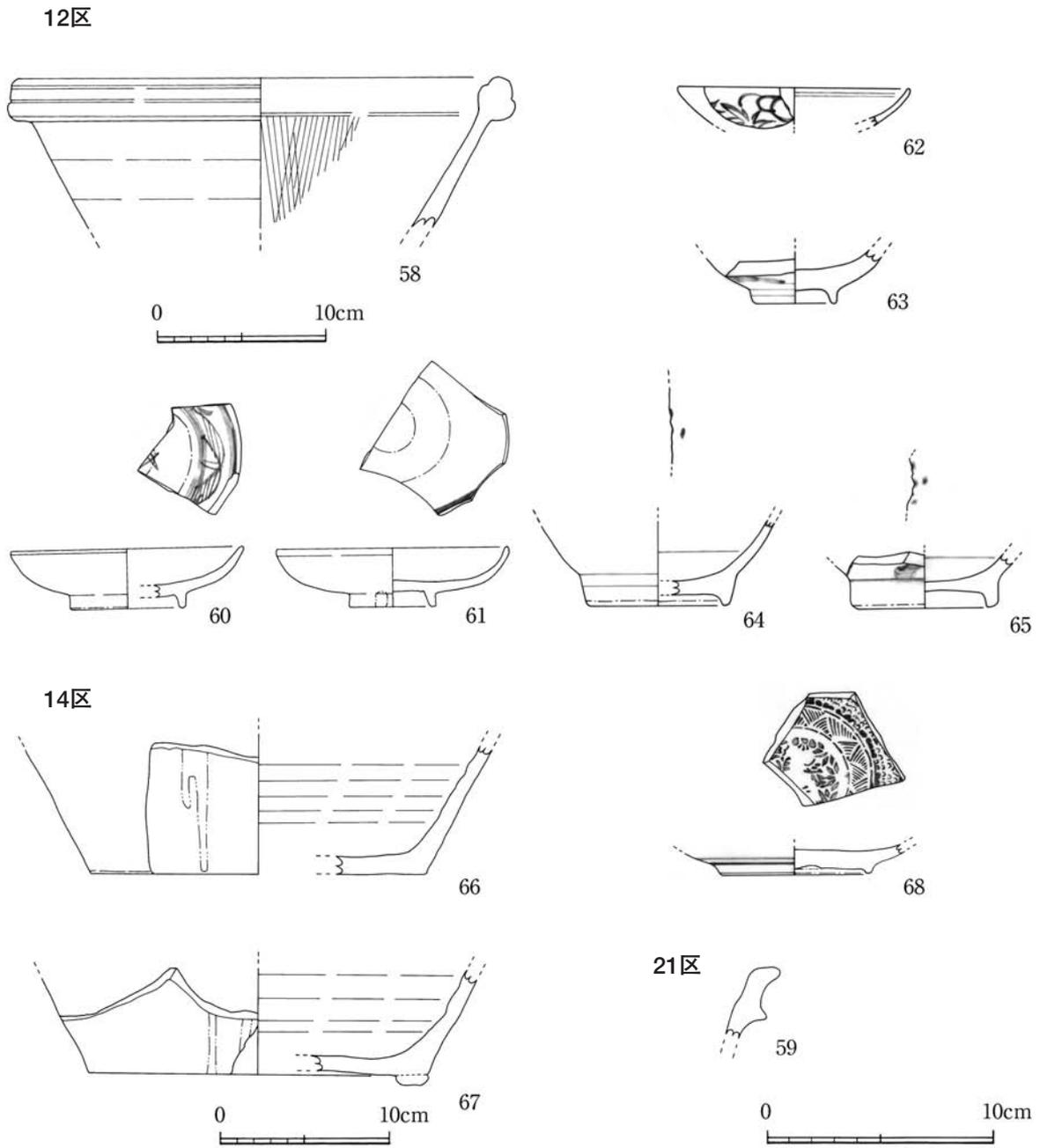
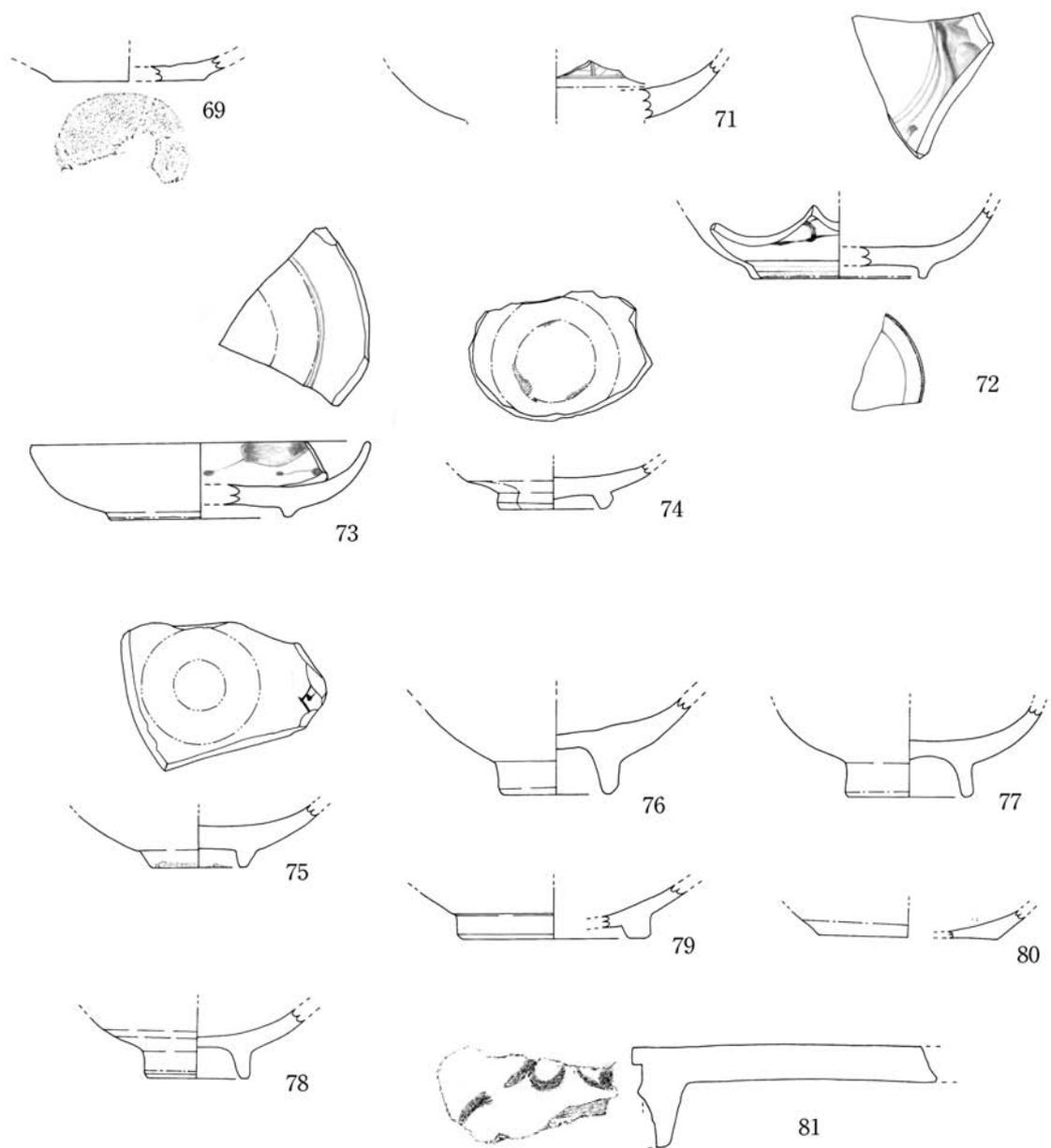


図 3-32 八田奈呂遺跡 12・14・21調査区出土遺物

15区



20区

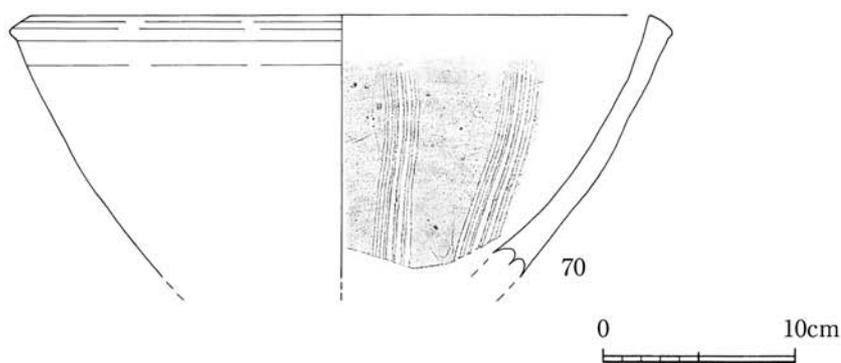
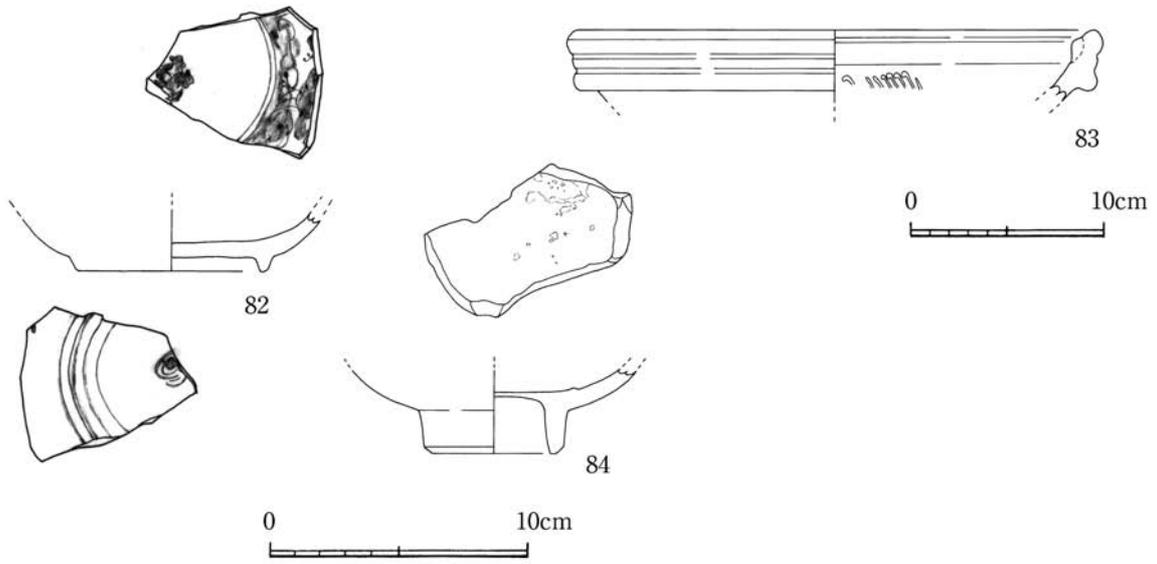


图 3-33 八田奈呂遺跡 15・20調査区出土遺物

16区



17区

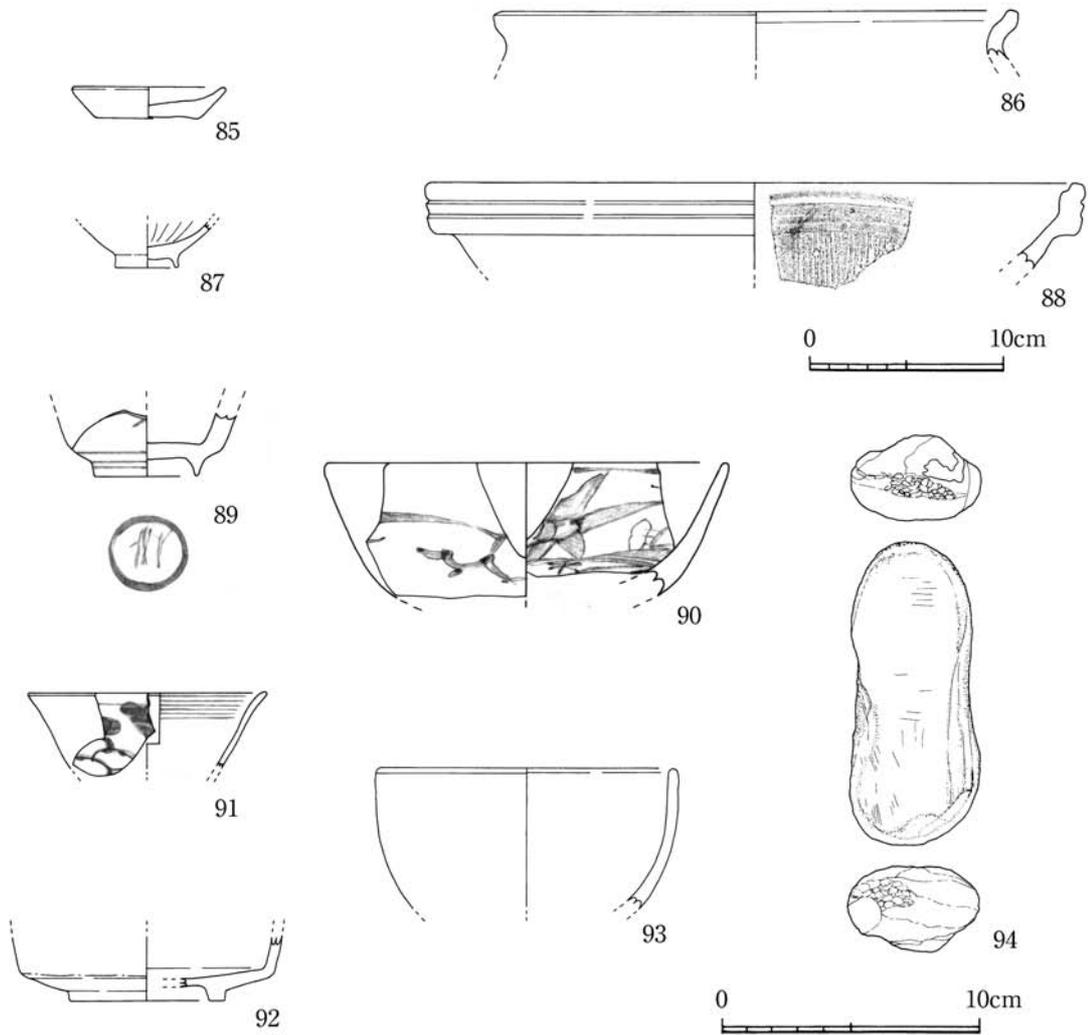


図3-34 八田奈呂遺跡 16・17調査区出土遺物

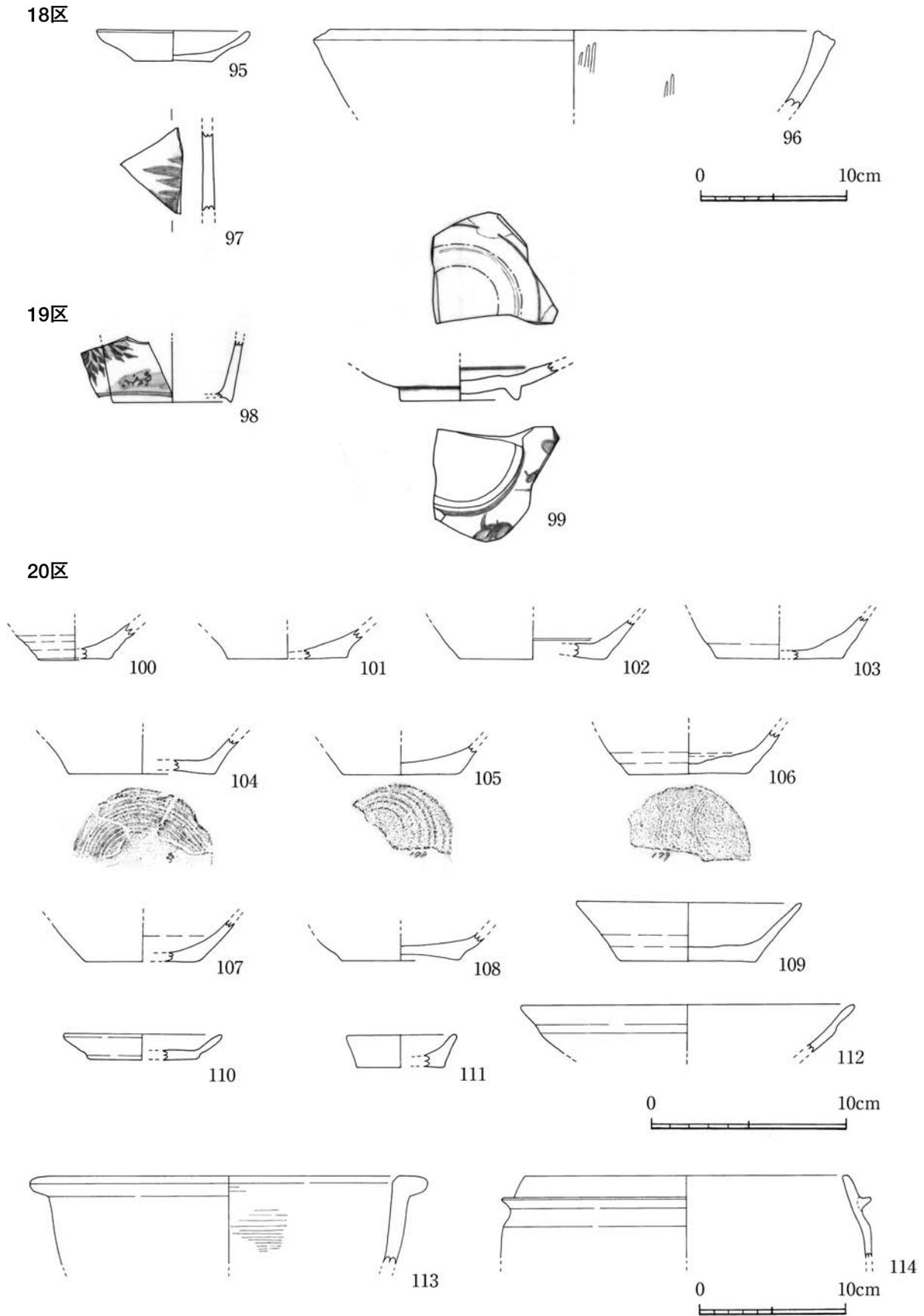


图 3-35 八田奈呂遺跡 18・19・20調査区出土遺物

20区

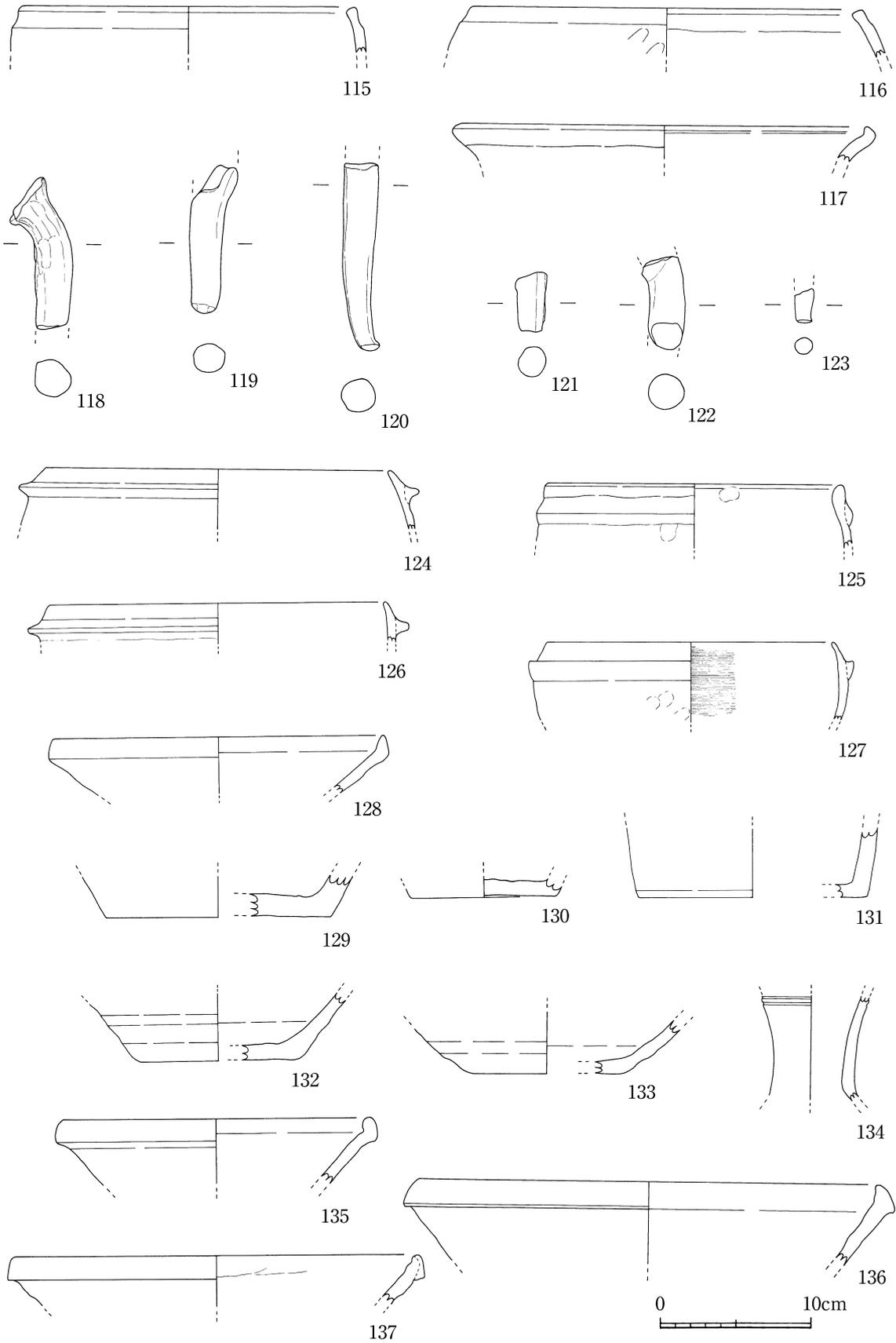


图 3-36 八田奈呂遺跡 20調査区出土遺物

20区

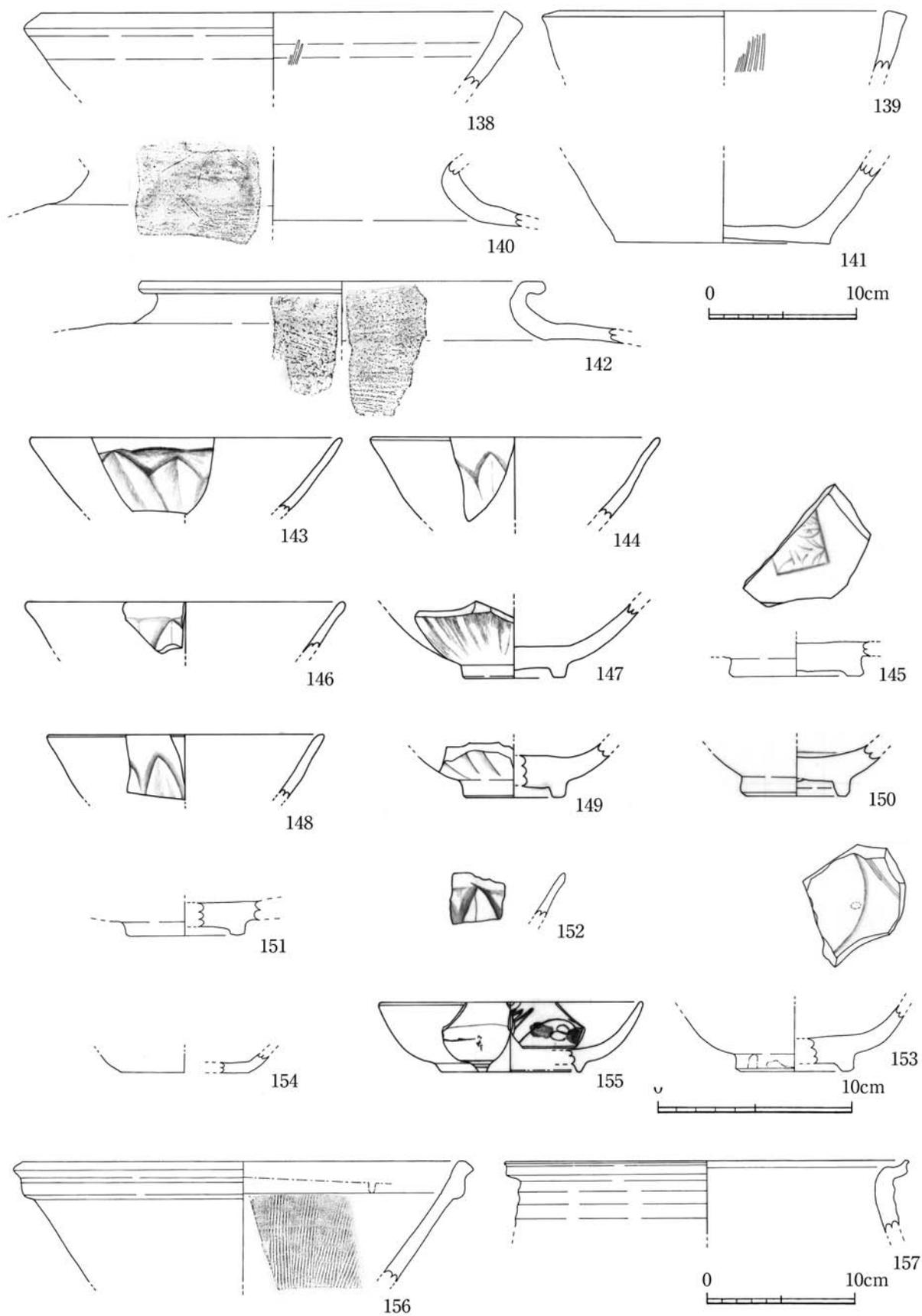


图 3-37 八田奈呂遺跡 20調査区出土遺物

21区

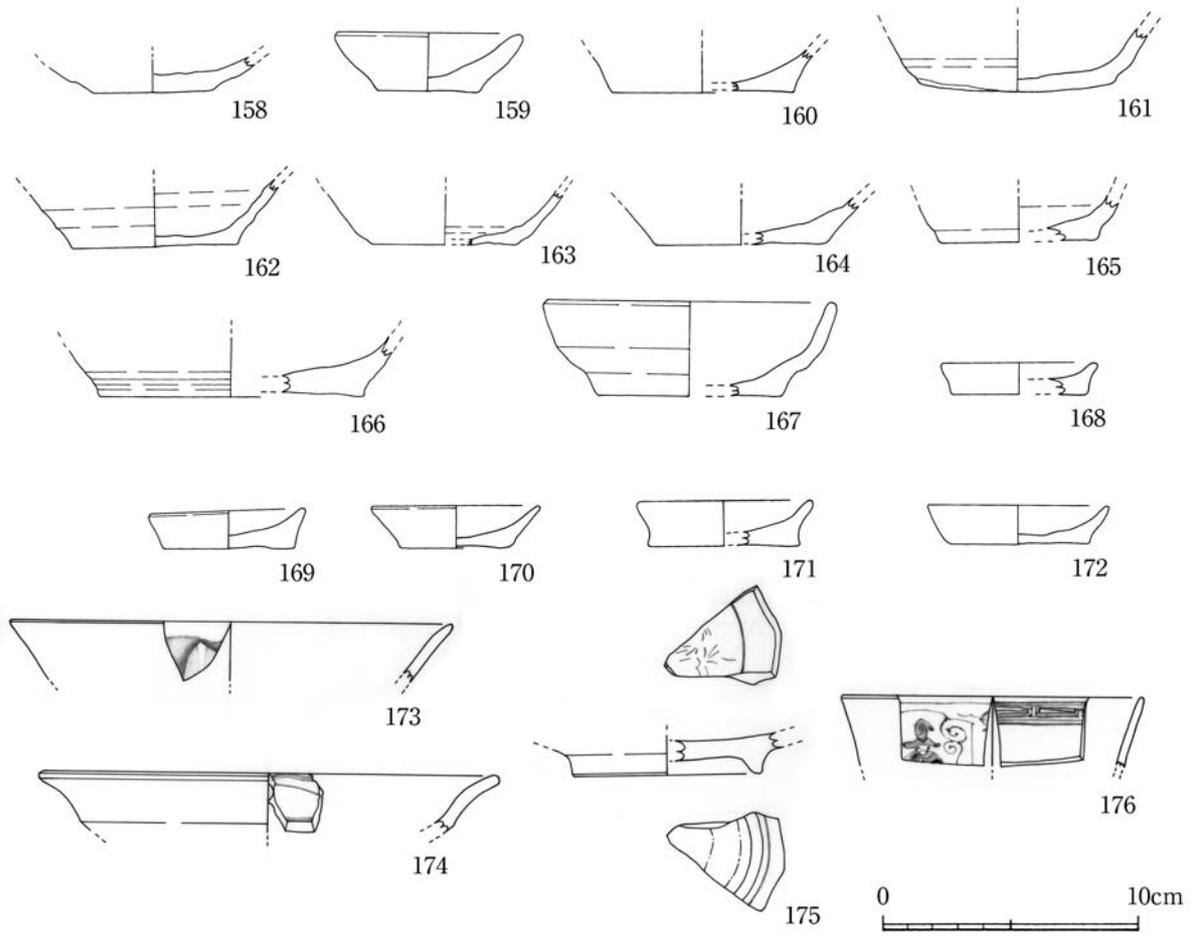


图 3-38 八田奈呂遺跡 21調査区出土遺物

21区

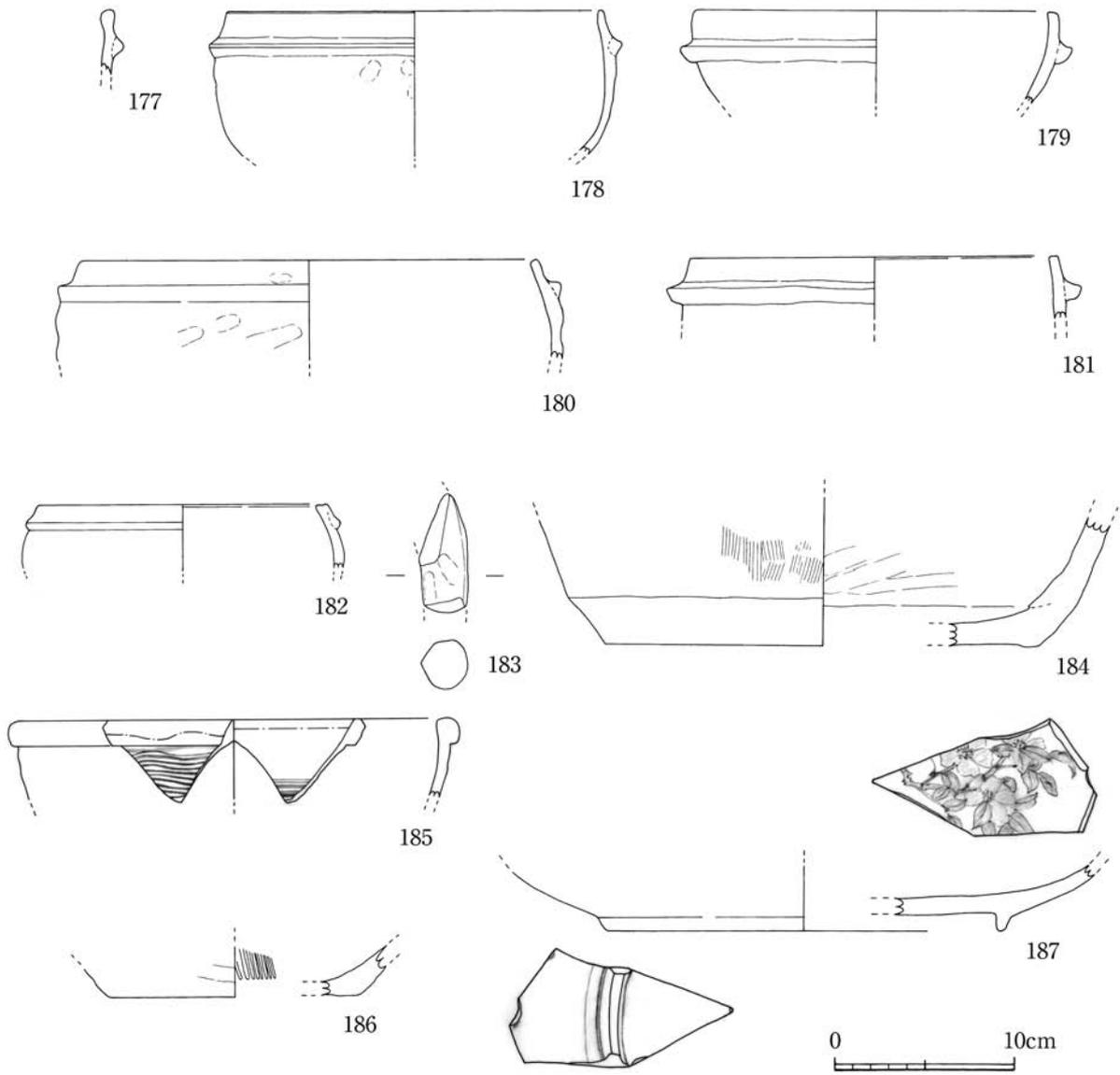


图 3-39 八田奈呂遺跡 21調査区出土遺物

22区

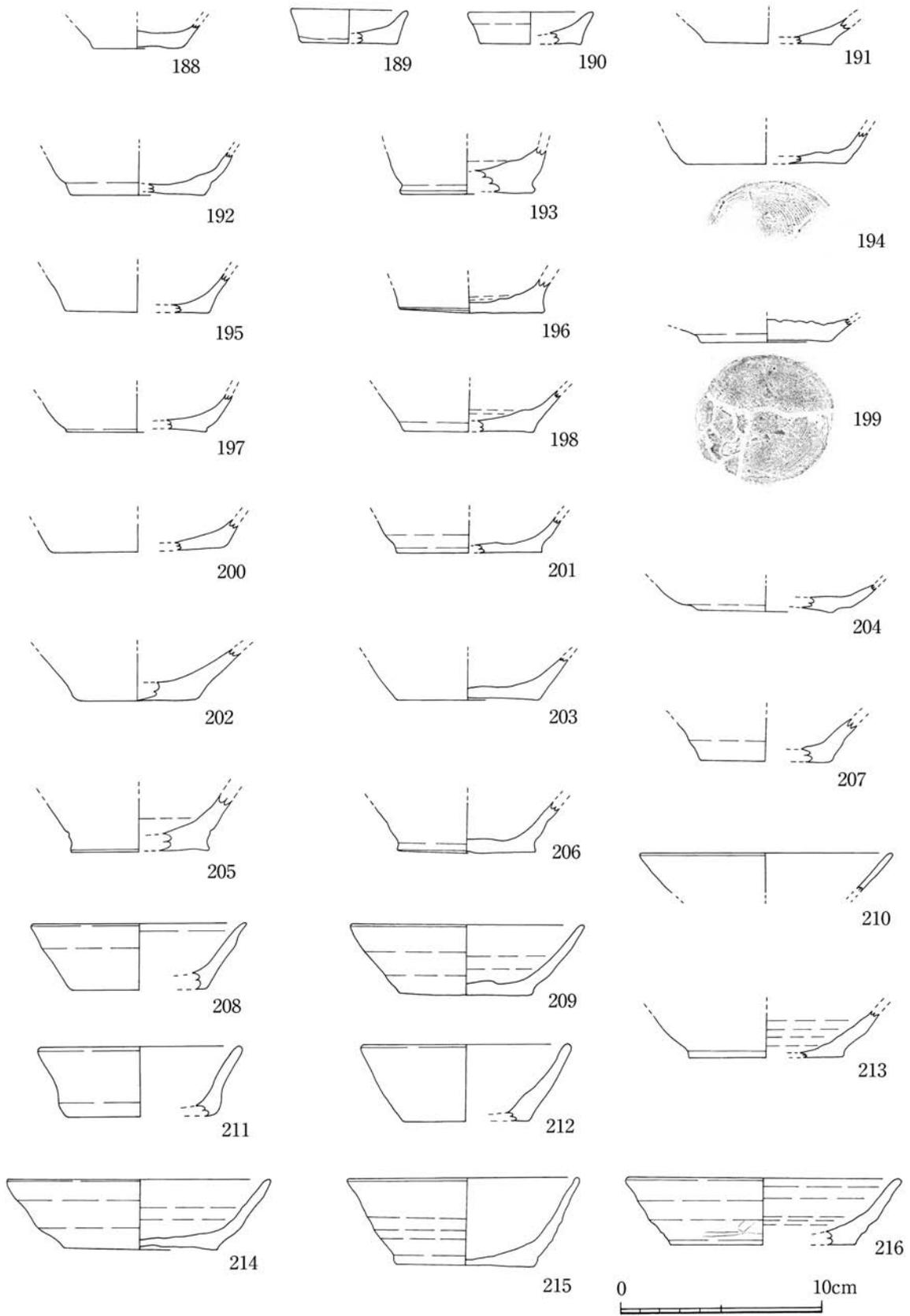


图 3-40 八田奈呂遺跡 22調査区出土遺物

22区

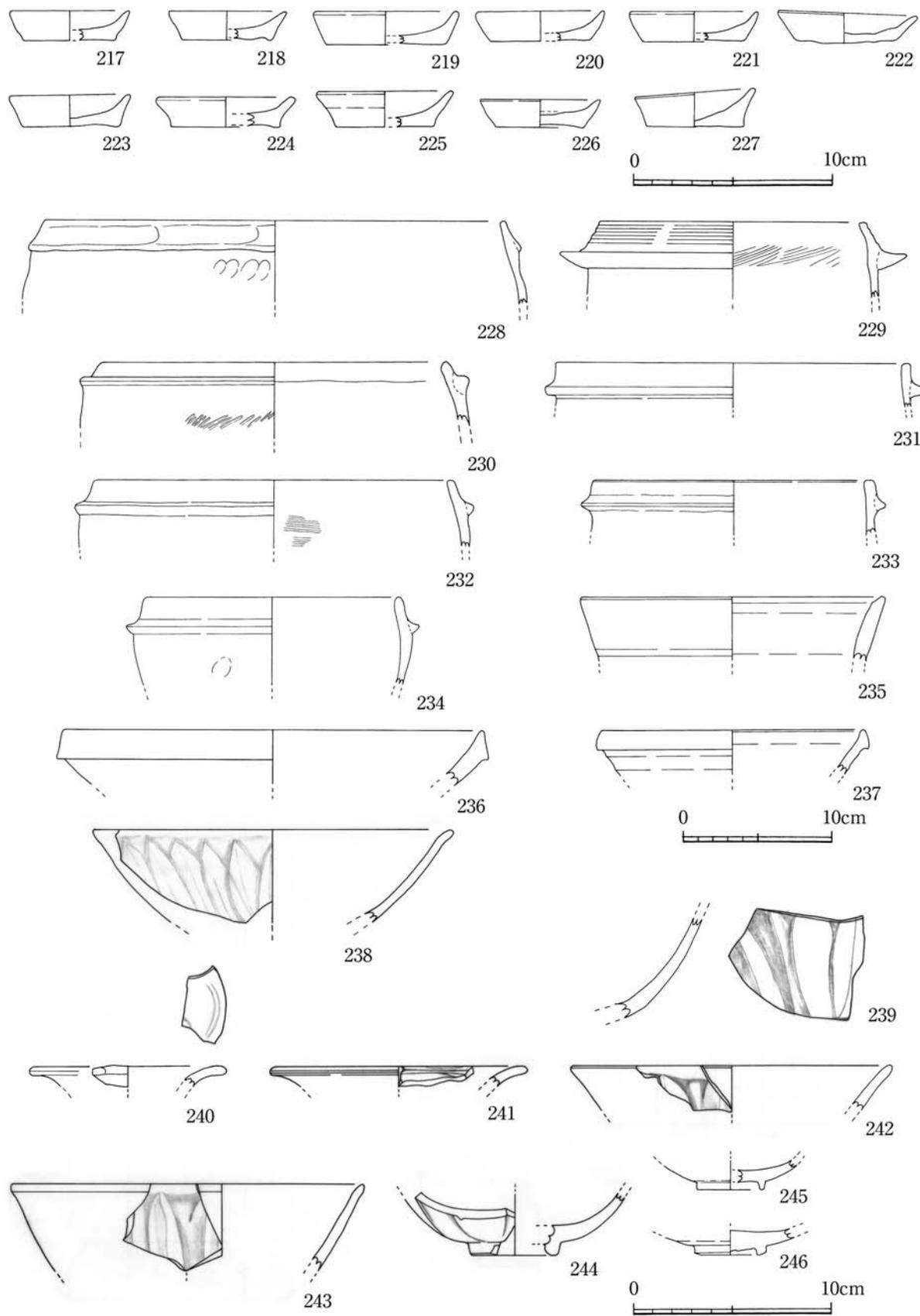


图 3-41 八田奈呂遺跡 22調査区出土遺物

22区

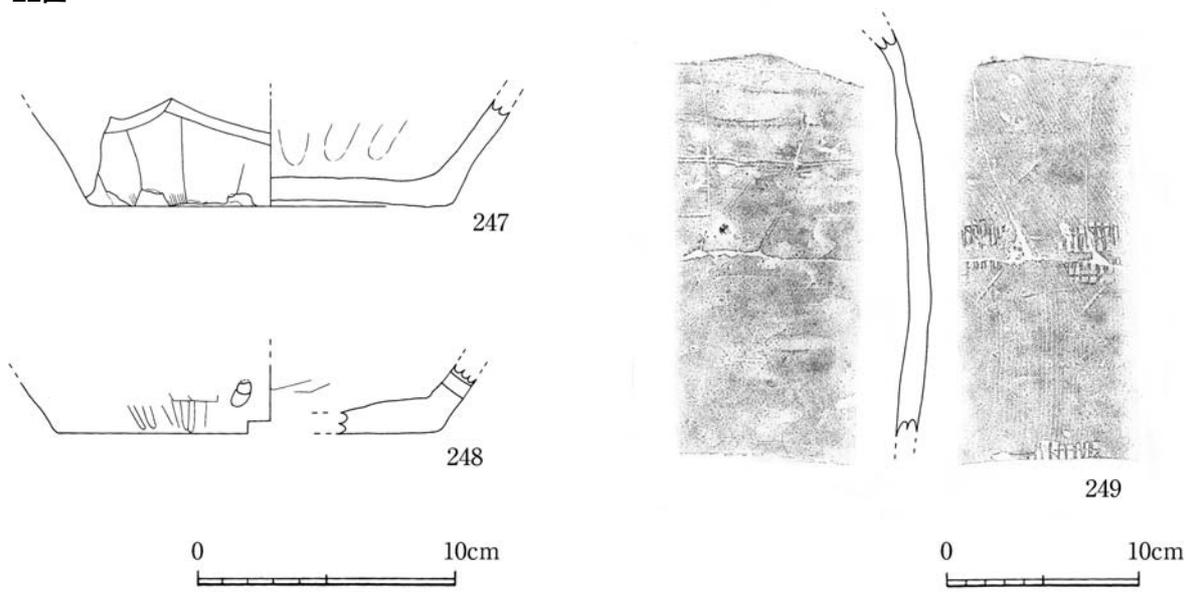
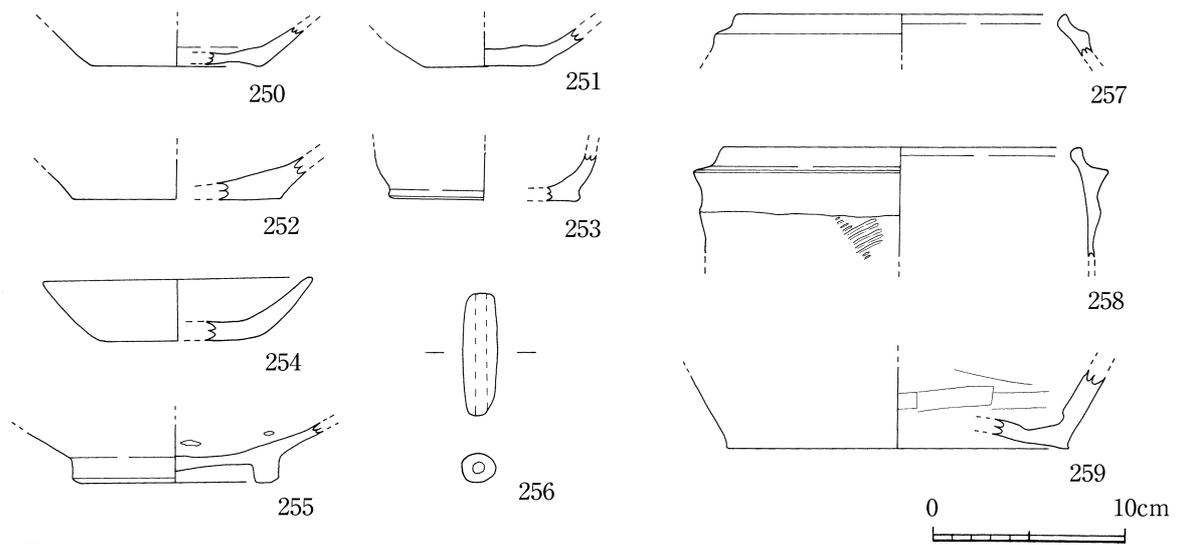


図3-42 八田奈呂遺跡 22調査区出土遺物

23区



24区

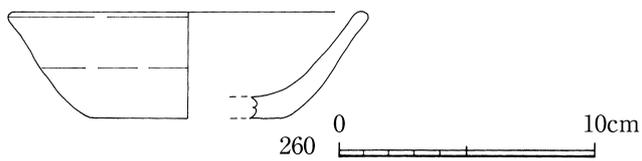


図3-43 八田奈呂遺跡 23・24調査区出土遺物

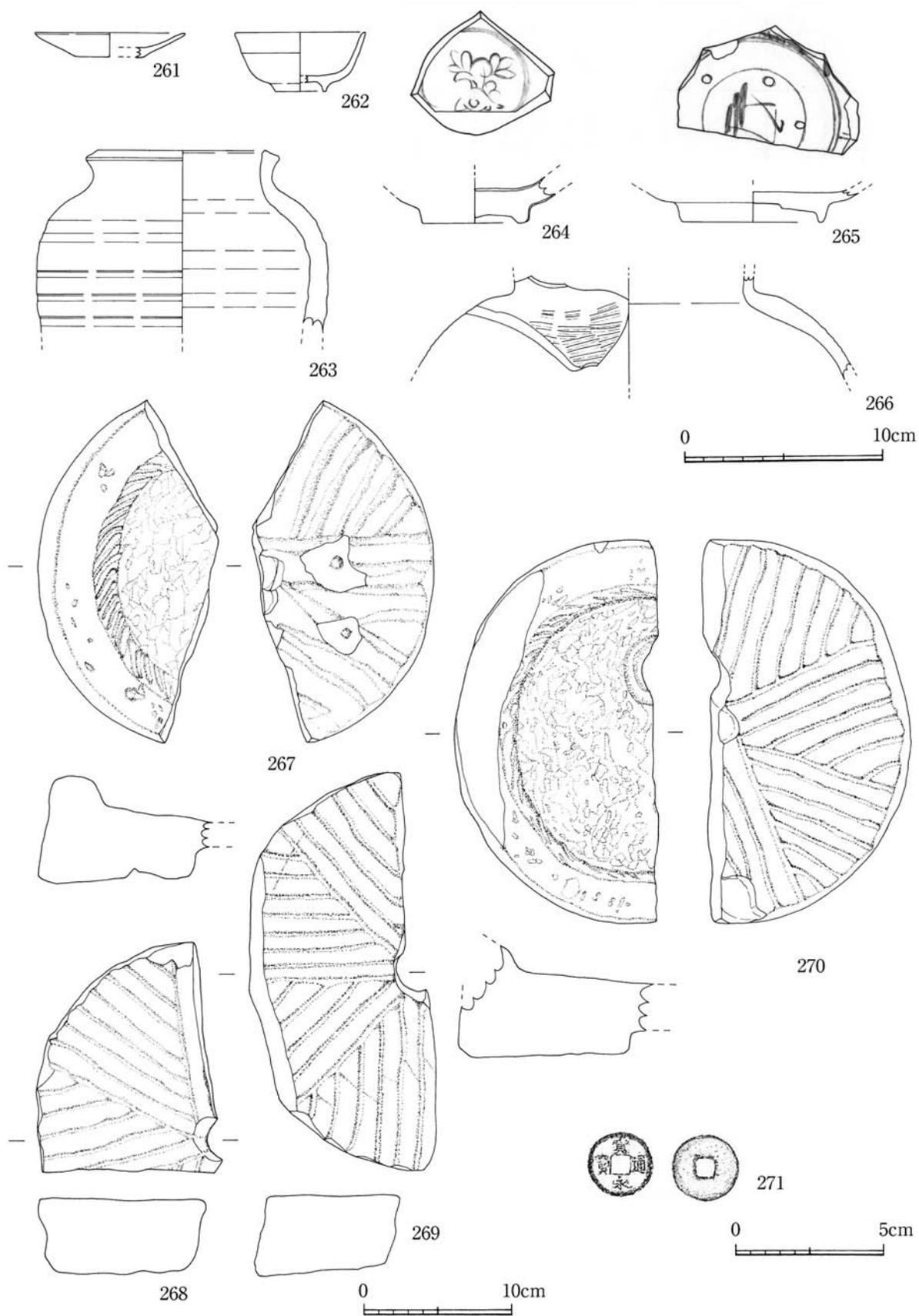


図3-44 八田奈呂遺跡 その他出土遺物

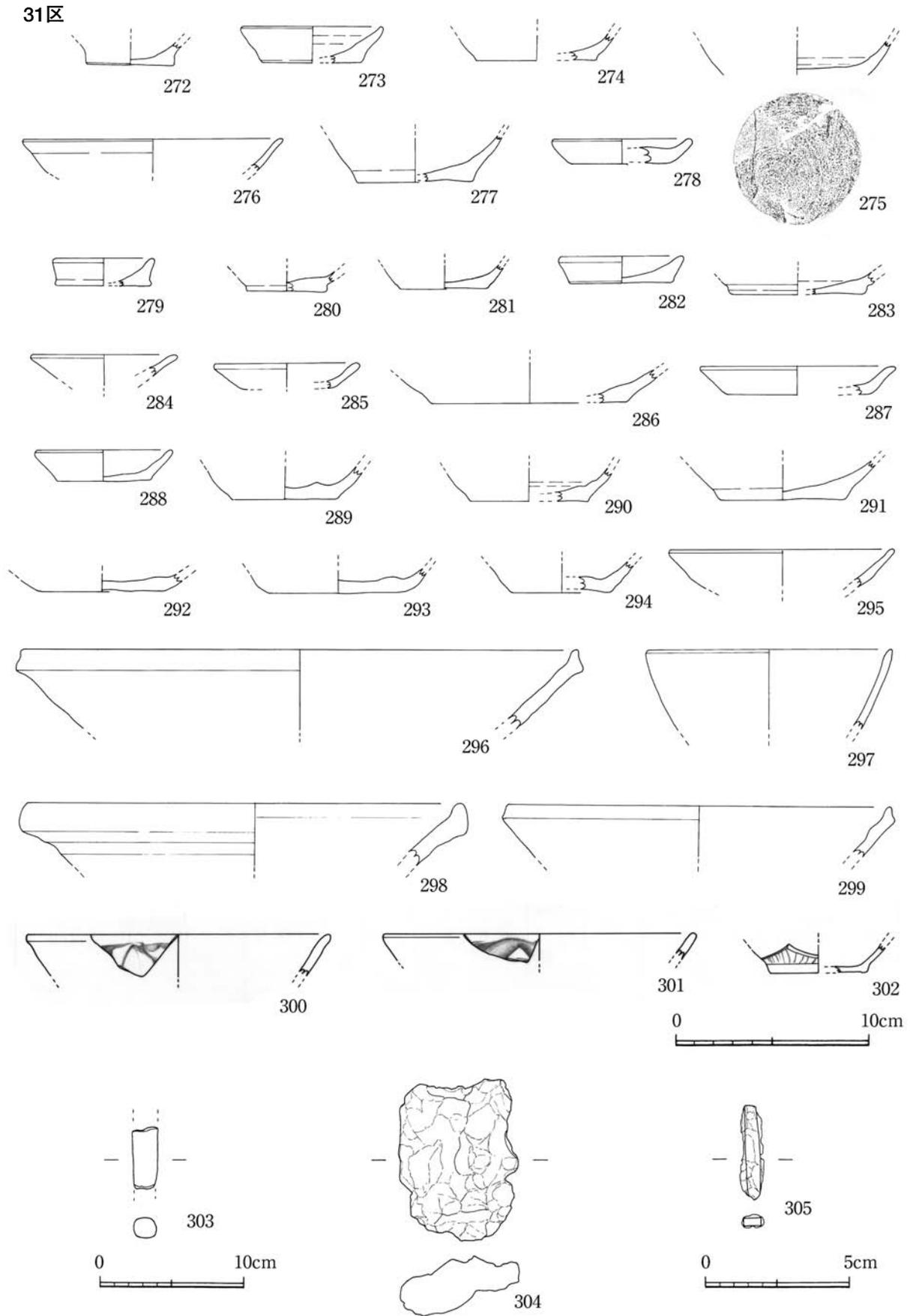
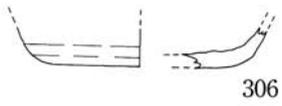
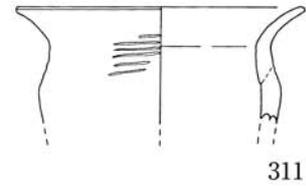
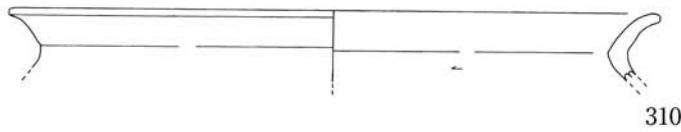
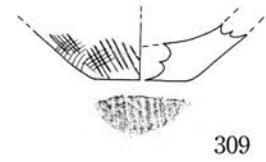
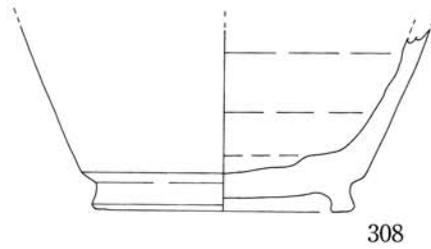
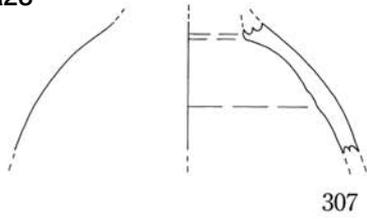


图 3-45 八田奈呂遺跡 31調査区出土遺物

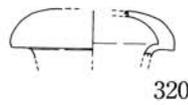
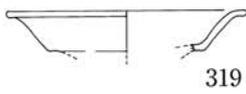
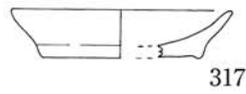
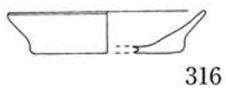
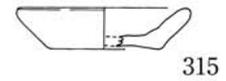
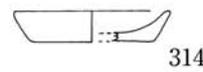
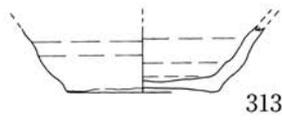
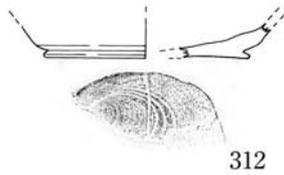
TR20



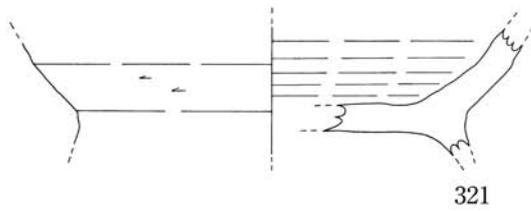
TR23



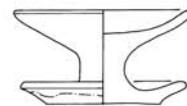
TR25



TR29



TR36



TR34



図 3-46 八田奈呂遺跡試掘 TR20・23・25・29・34・36出土遺物

5. 八田奈呂遺跡写真図版

PL 5



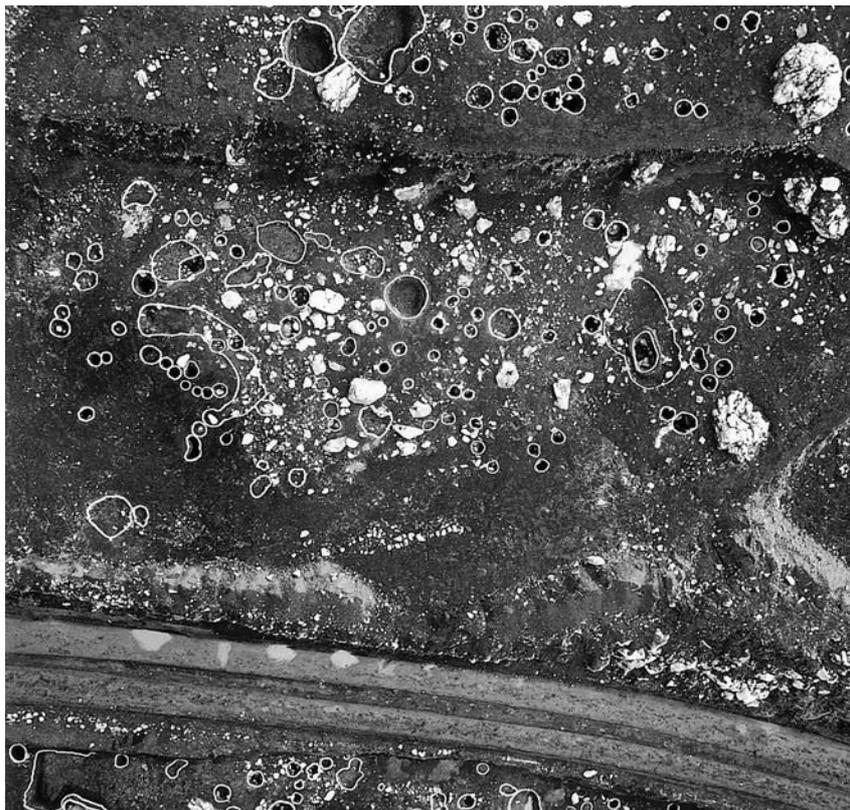
八田奈呂遺跡完掘状況全景



八田奈呂遺跡完掘状況全景



八田奈呂遺跡11区～17区完掘状況



八田奈呂遺跡17区完掘状況

PL 7



八田奈呂遺跡16区～20区完掘状況



八田奈呂遺跡20区～22区完掘状況



八田奈呂遺跡22区完掘状況



八田奈呂遺跡19区・23区～26区完掘状況

PL 9



11区 下側



12区 下側



13区 下側



14区 下側



15区 下側



16区 下側



17区 下側



19区・23区 北側

八田奈呂遺跡土層断面



19区 柱穴等



20区 道路状遺構等



21区 流路跡等



22区 柱穴・土坑等



22区 柱穴



23区 柱穴等



22区 作業風景



調査に従事した人々

八田奈呂遺跡

PL 11



22区



22区



22区



22区



TR22



TR22



TR23



TR23

八田奈呂遺跡出土状況



12 (P42)



20 (P58)



21 (P58)



29 (P67)



35 (P74)



63 (12区)



65 (12区)



66 (14区)

八田奈呂遺跡出土遺物

PL 13



70 (15区)



75 (15区)



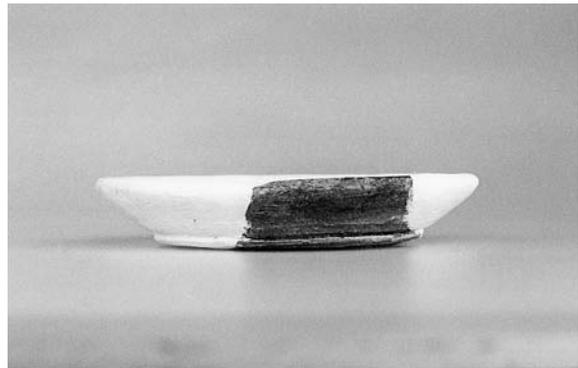
77 (15区)



81 (15区)



87 (17区)



110 (20区)



136 (20区)



159 (21区)

八田奈呂遺跡出土遺物



169 (21区)



172 (21区)



181 (21区)



184 (21区)



209 (22区)



212 (22区)



215 (22区)



222 (22区)

八田奈呂遺跡出土遺物

PL 15



227 (22区)



247 (22区)



248 (22区)



261



262



263

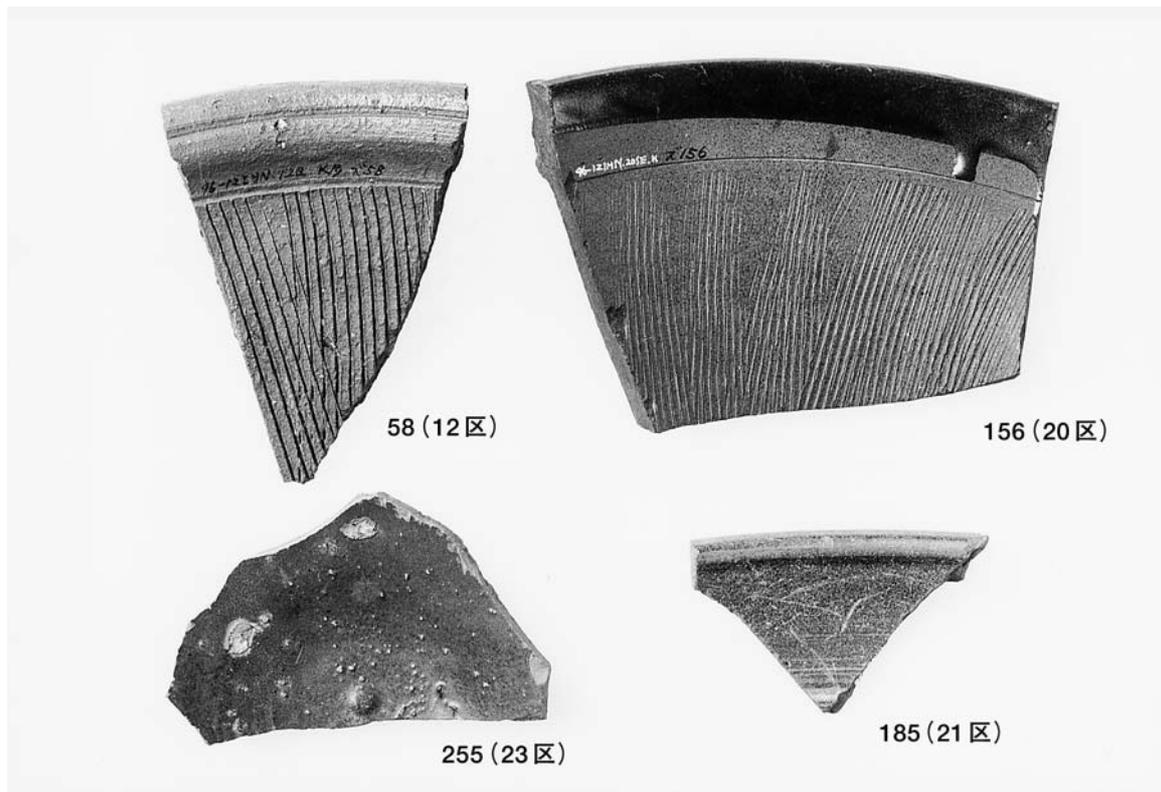


308 (TR23)

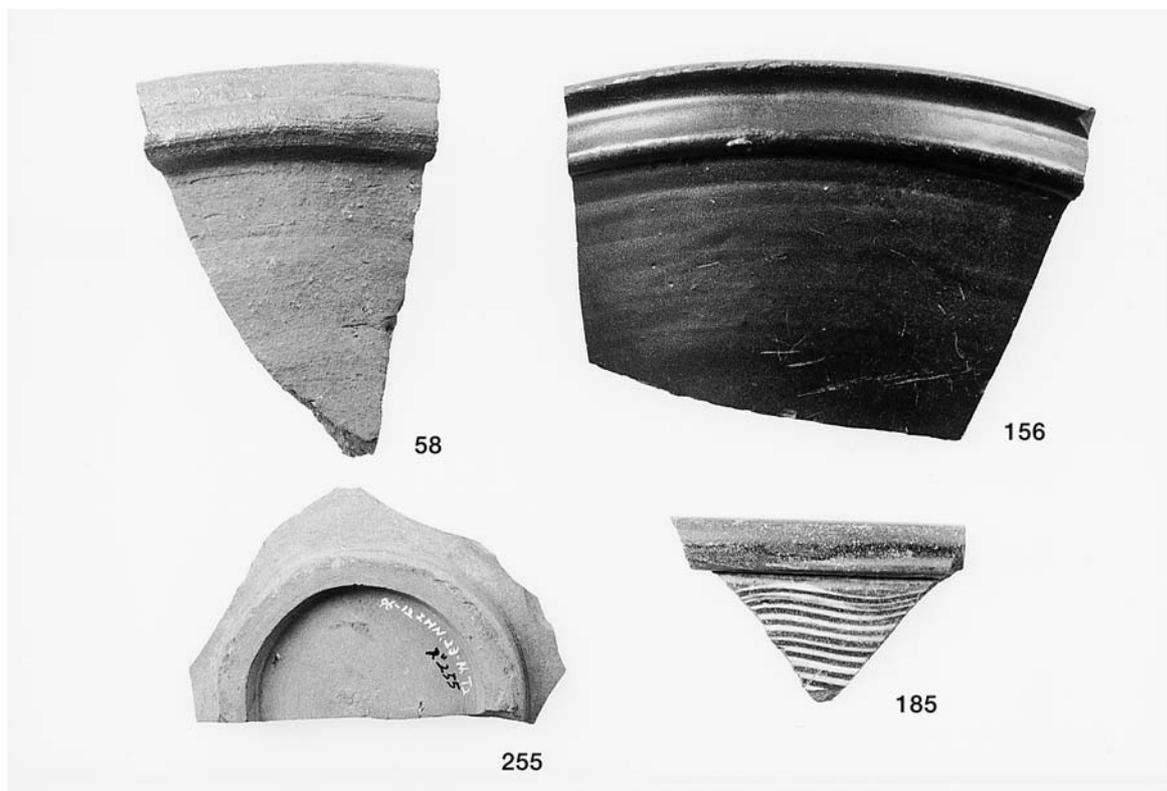


271

八田奈呂遺跡出土遺物



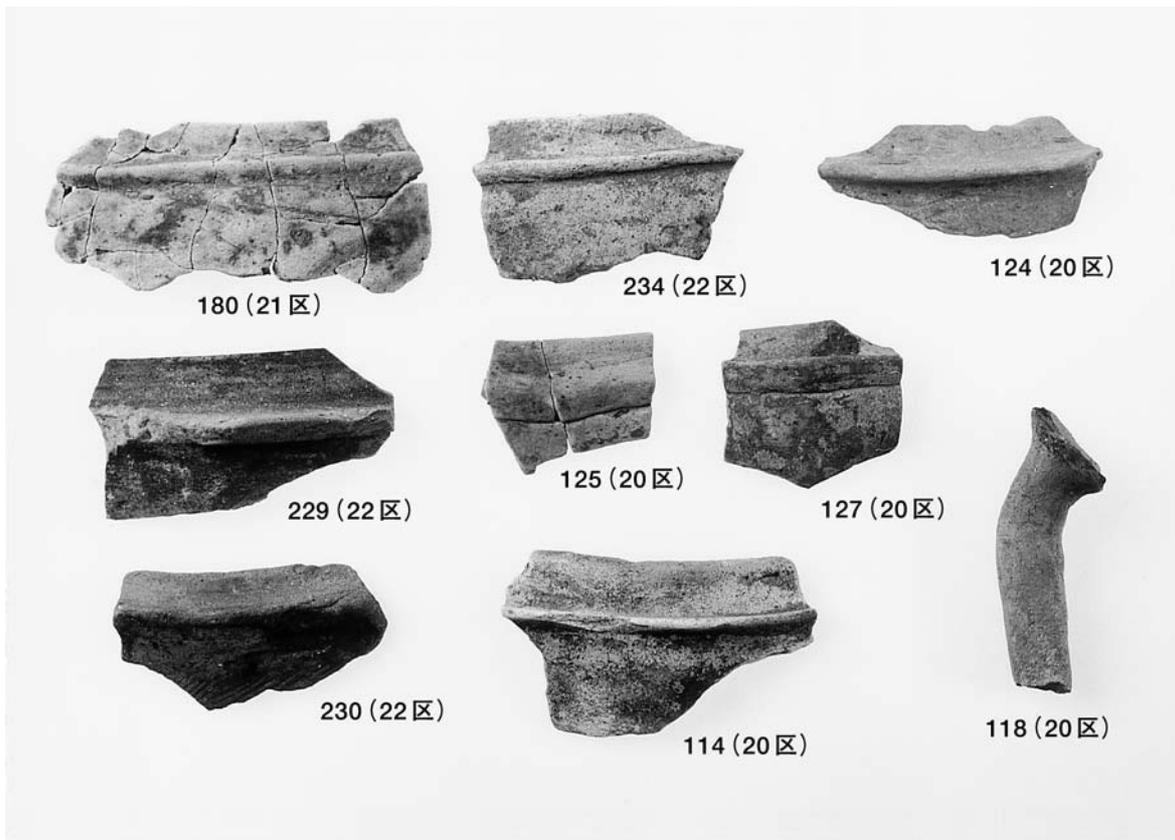
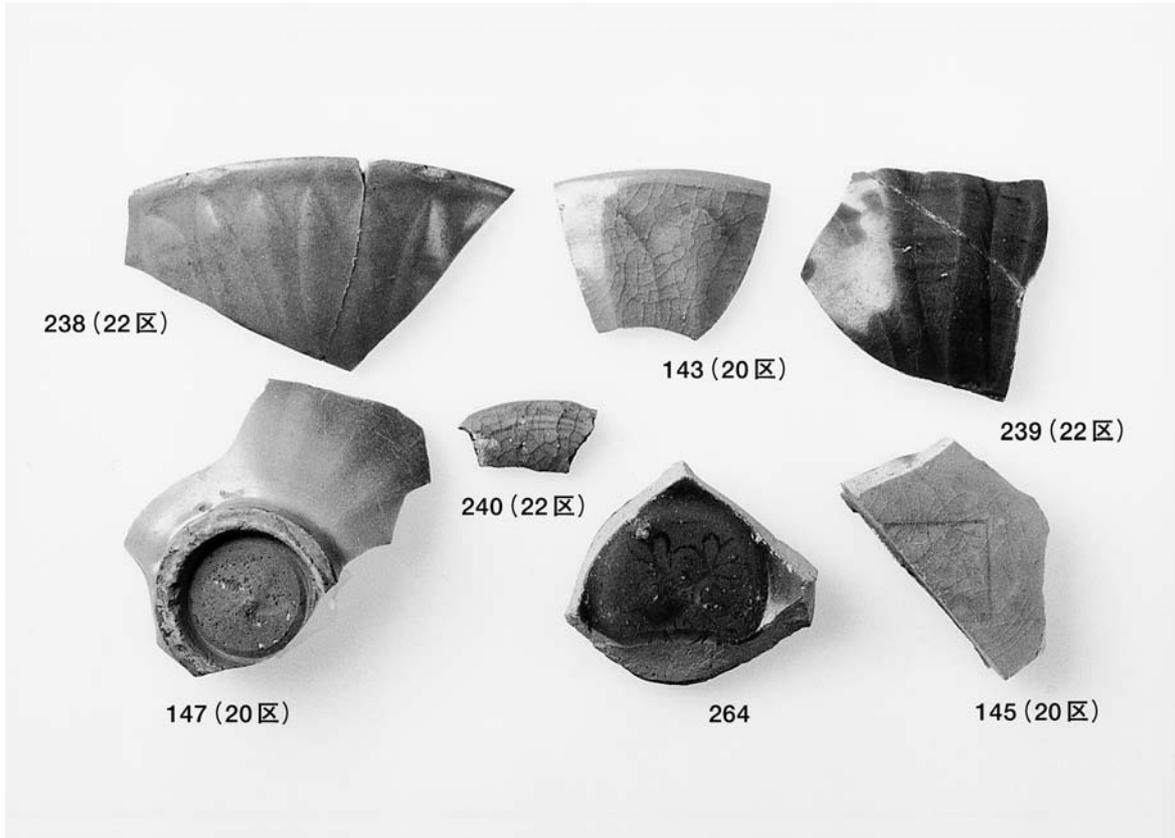
表



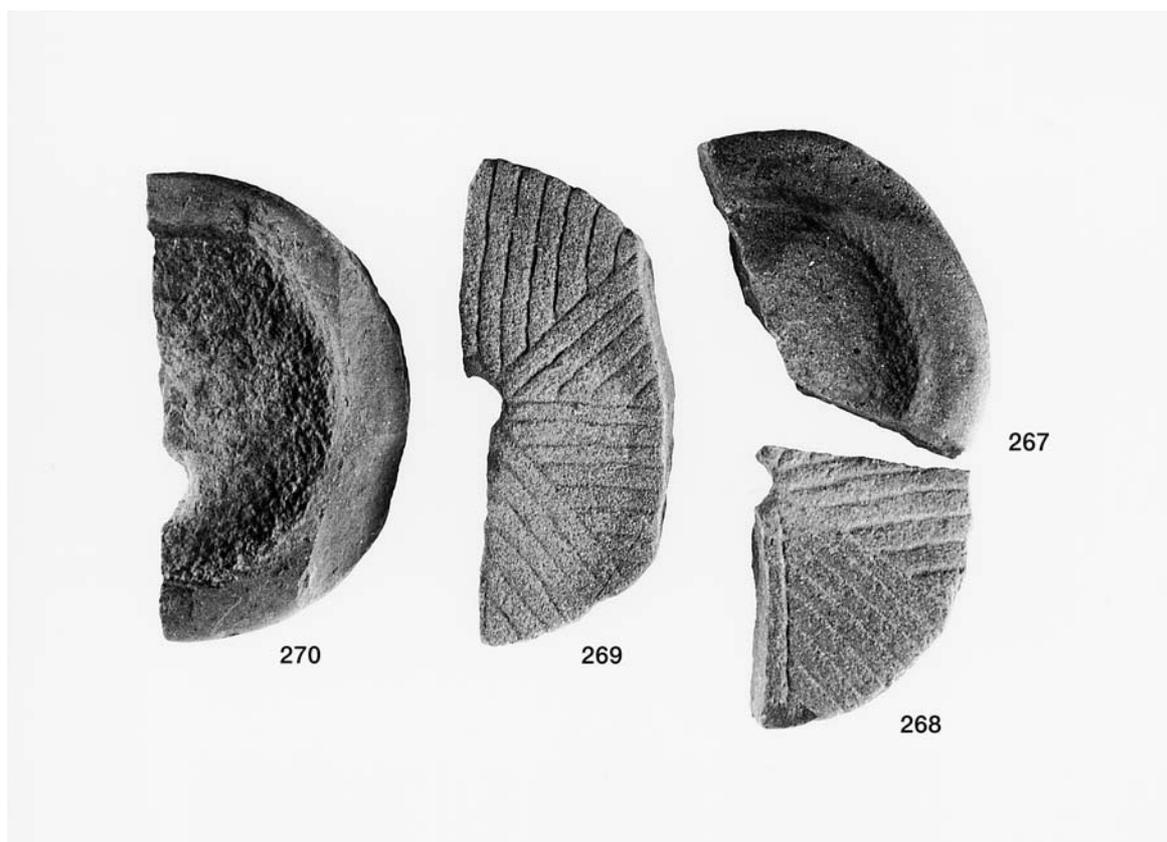
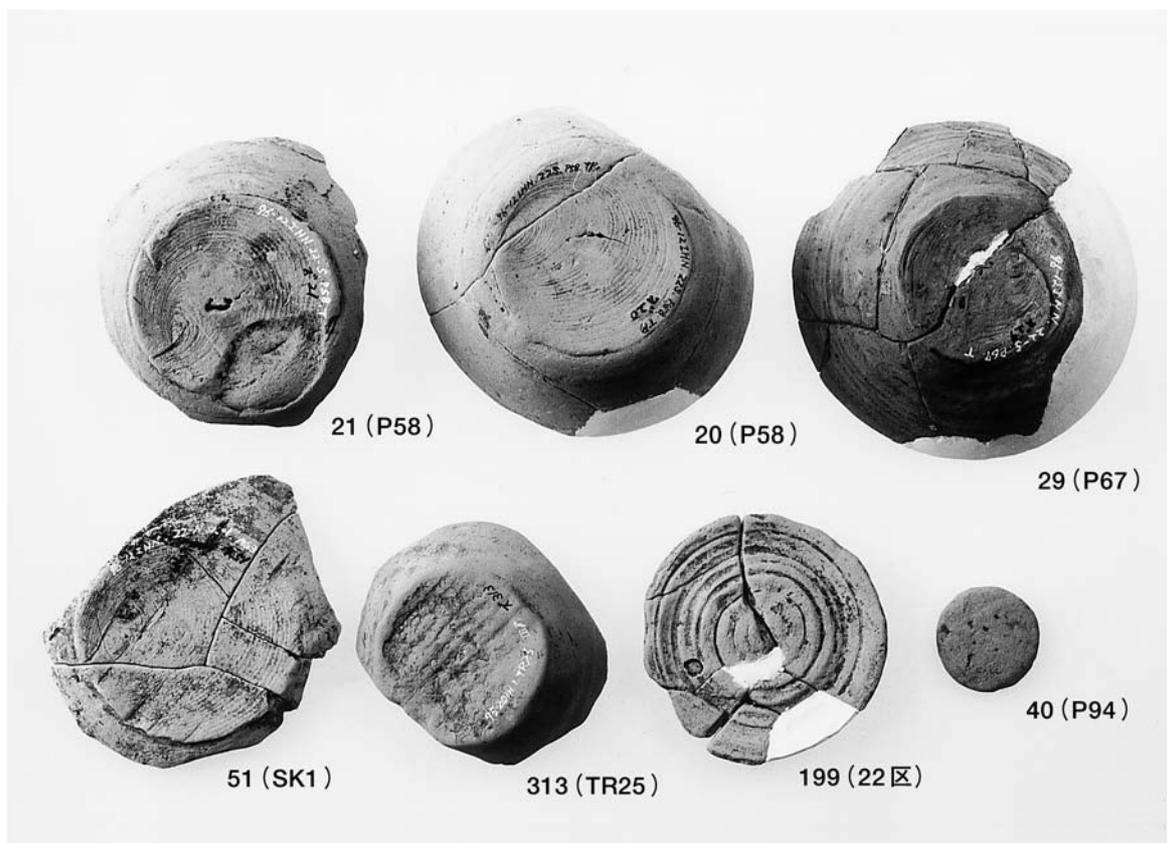
裏

八田奈呂遺跡出土遺物

PL 17



八田奈呂遺跡出土遺物



八田奈呂遺跡出土遺物

## 第Ⅳ章 八田枋谷遺跡調査成果



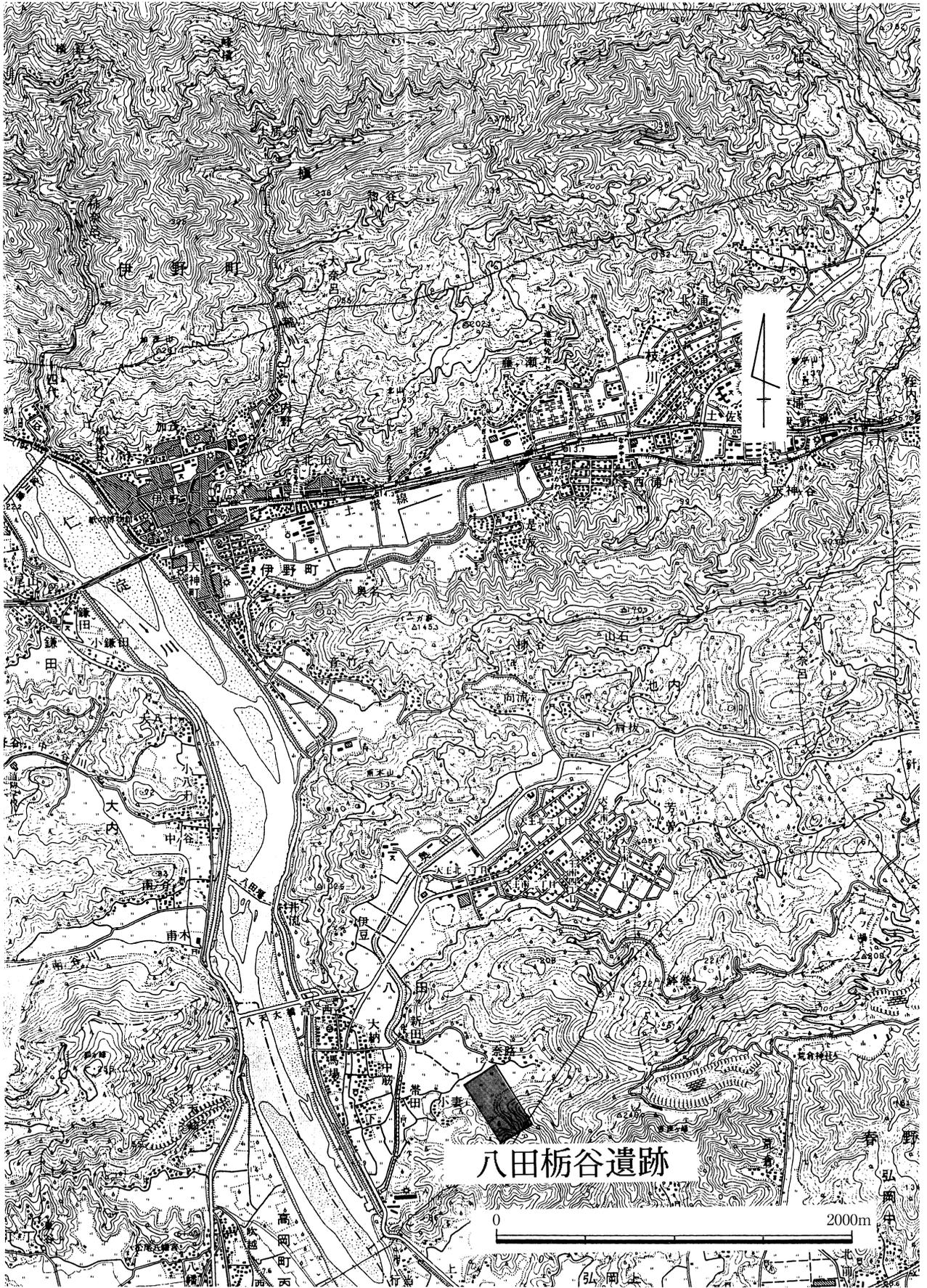


图 4-1 八田栃谷遺跡位置图

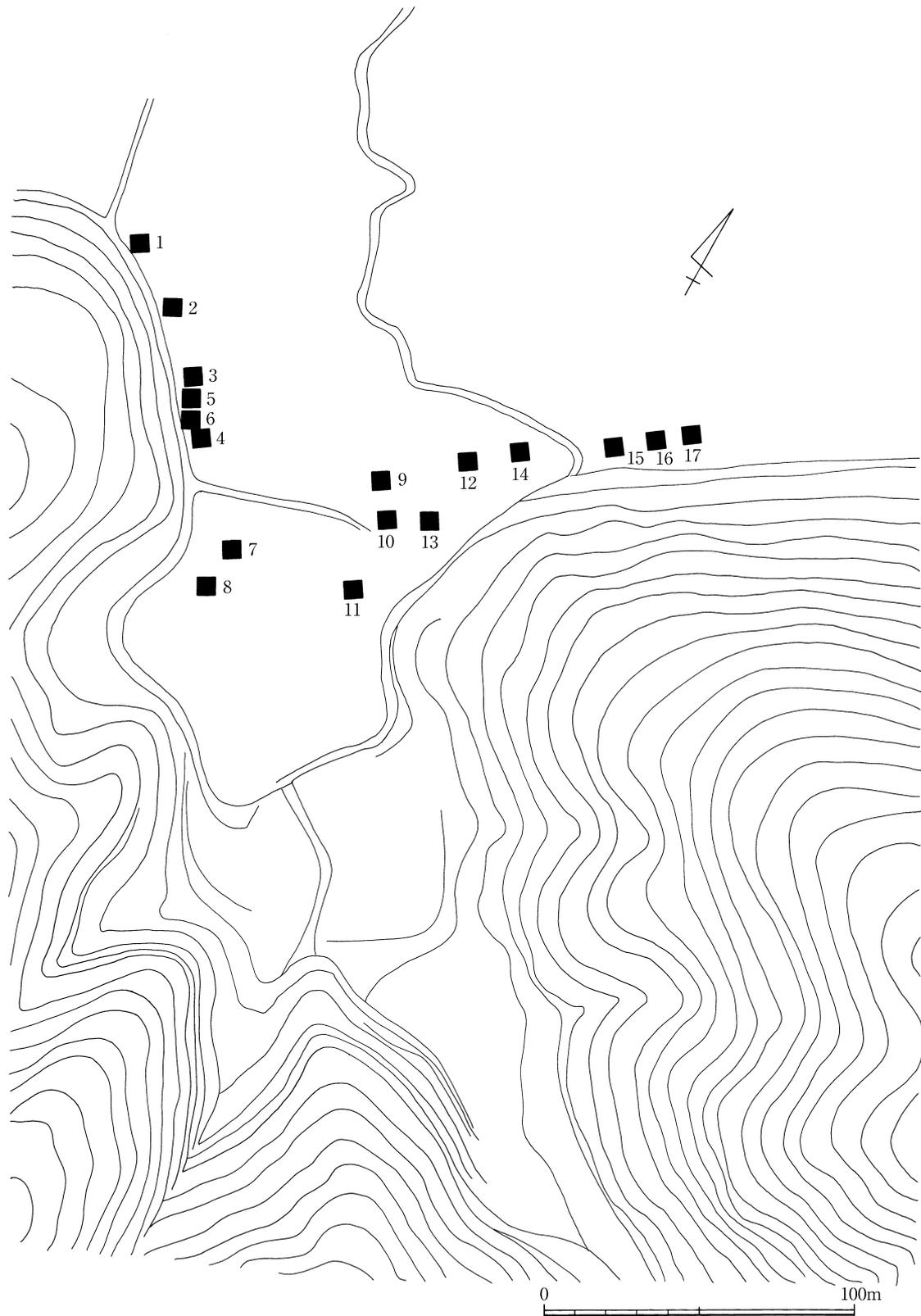


図4-2 八田栃谷遺跡トレンチ位置図

## 第Ⅳ章 八田栃谷遺跡調査成果

### 1. 調査区の概要

八田栃谷遺跡は八田地区1区・2区試掘調査の中の八田地区2区試掘調査で発見された遺跡である。仁淀川の東岸で、吾川郡伊野町と春野町の町境に位置する山の北側の尾根が続いた丘陵部分、その北東側の谷部分及び低湿地に所在している。ここはちょうど八田神母谷遺跡の東側の尾根を越えたふもとにあたる。八田栃谷遺跡の調査の経過と方法であるが、高速道路工事用道路の工事時期との関係があり、試掘調査で遺跡の存在が確認されたが、継続して試掘調査発掘区を拡張して遺跡の広がりの特徴・性質を確認する形で大部分の調査を実施した。遺跡の南側の山地から北側に向かって流れ広がる谷を中心に展開し、遺跡の内容の中心となる弥生時代中期から古墳時代初頭の祭祀遺跡と思われる部分はその谷の西岸に位置する。

### 2. 検出遺構と出土遺物

八田栃谷遺跡について、主な検出遺構は、古墳時代初頭の祭祀遺構で他には確認されていない。遺物は幾つかの時期のものが出土しているが、確認できた遺構はこれだけである。

主な出土遺物は、もっともここで多いもので古墳時代初頭の土師器（古式土師器）が約1,000点で内容は高杯、甕、壺、鉢等である。そして弥生時代中期から後期の弥生土器が約500点で内容は甕等である。それと古代～近世の遺物が約200点出土した。

次に各調査区（試掘トレンチ及び拡張区）ごとに見てみる。まず遺構についてはTR3・TR5で祭祀遺構と思われる遺物の出土状況が検出され遺構の範囲を確認するためにTR6部分を拡張設定した。遺物が特に集中して出土したのはこの3箇所の調査区である。

次に出土遺物について各調査区ごとに、実測したものについて記しておく。

TR1からは、古式土師器の高杯、古式土師器の椀、古式土師器の二重口縁壺、古式土師器の甕、弥生時代後期の甕等が出土。

TR2からは、古式土師器の高杯、弥生時代中期の壺、古式土師器の壺、古式土師器の甕、古式土師器の椀、古式土師器の鉢等が出土。

TR3からは、古式土師器の高杯、弥生時代中期前半の壺、弥生時代中期の壺、弥生時代後期の壺、弥生時代後期の鉢、古式土師器の壺、古式土師器の甕、須恵器の椀、土師器の椀、土師器の杯、土師器の鉢、土師器の甑、ノミ状石器、石斧等が出土。

TR4からは、古式土師器の高杯等が出土。

TR5からは、古式土師器の高杯、古式土師器の壺、古式土師器の小型丸底壺、弥生時代の壺、古式土師器の甕、弥生時代後期の甕、弥生時代中期の甕、古式土師器の鉢等が出土。

TR6からは、古式土師器の高杯、弥生時代中期の壺、古式土師器の壺、古式土師器の二重口縁

壺、古式土師器の小型丸底壺、手捏ね土器、弥生時代の甕、古式土師器の甕、古式土師器の鉢等が出土。

TR 7からは、古式土師器の高杯等が出土。

TR 8からは同安窯の青磁の小皿等が出土。

TR 11からは古式土師器の壺、古式土師器の甕等が出土。

その他弥生時代中期の壺等が出土。

以上のように遺物が出土しており、中でも古墳時代初頭の高杯が特に多量に出土しており、また同時期の小型丸底壺や手捏ねのミニチュア土器等も出土している。また、弥生時代中期から後期にかけての甕、壺、そして古墳時代初頭の古式土師器の甕等と同時期の他の種類の土器も集中して出土していた。

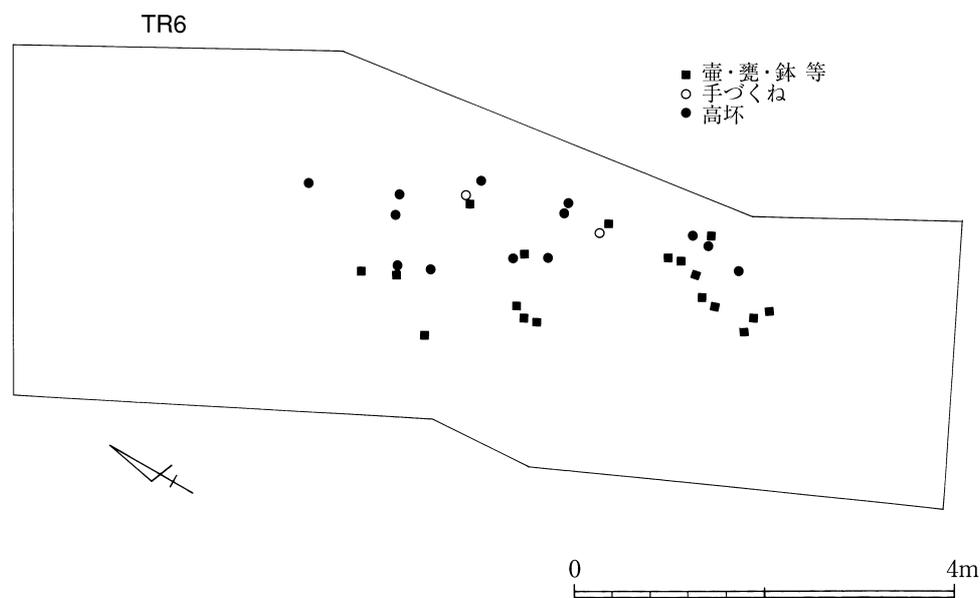


図 4 - 6 八田栃谷遺跡出土位置状況図

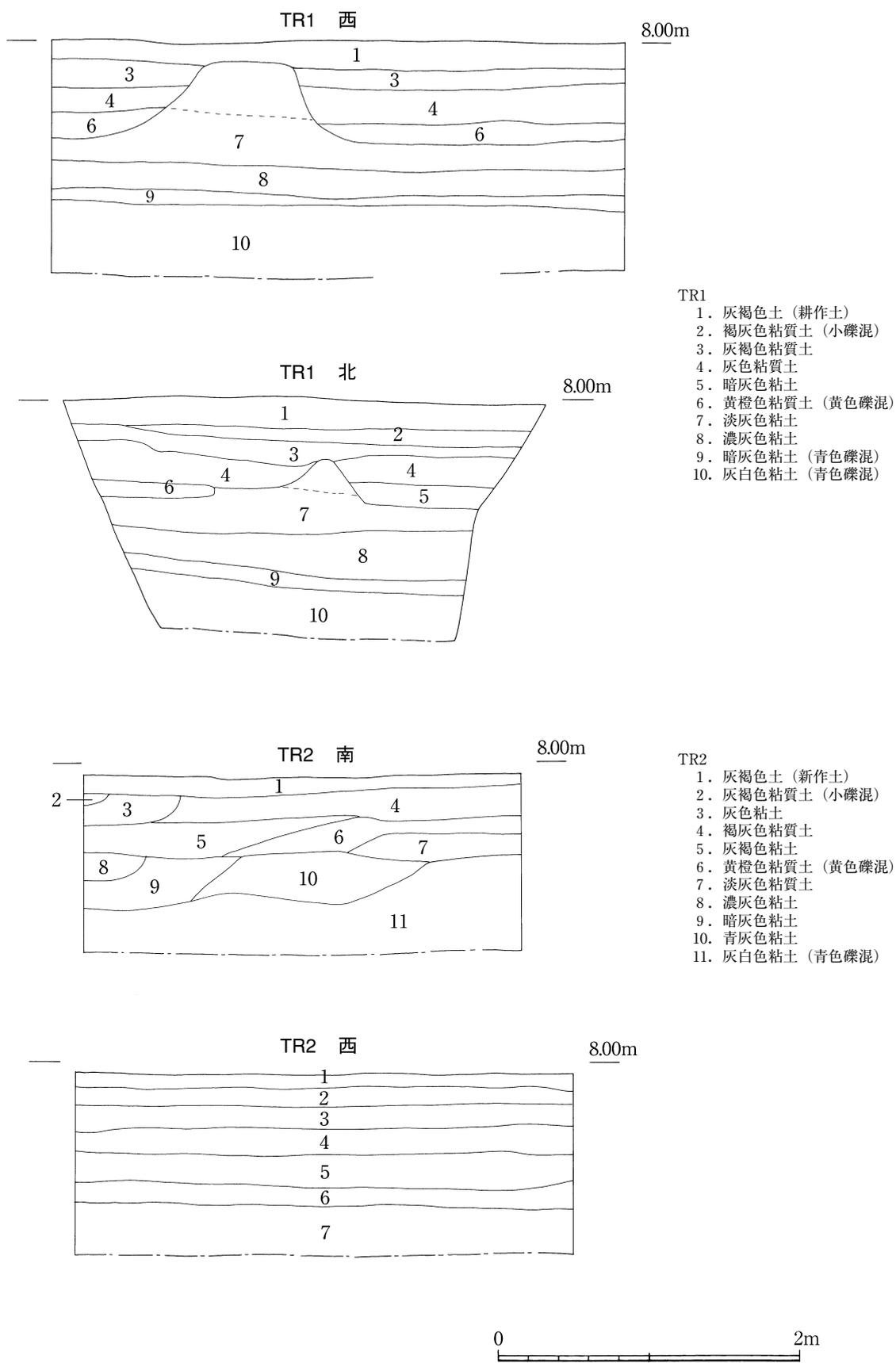


图 4-3 八田栢谷遺跡 TR1・2 土層断面图

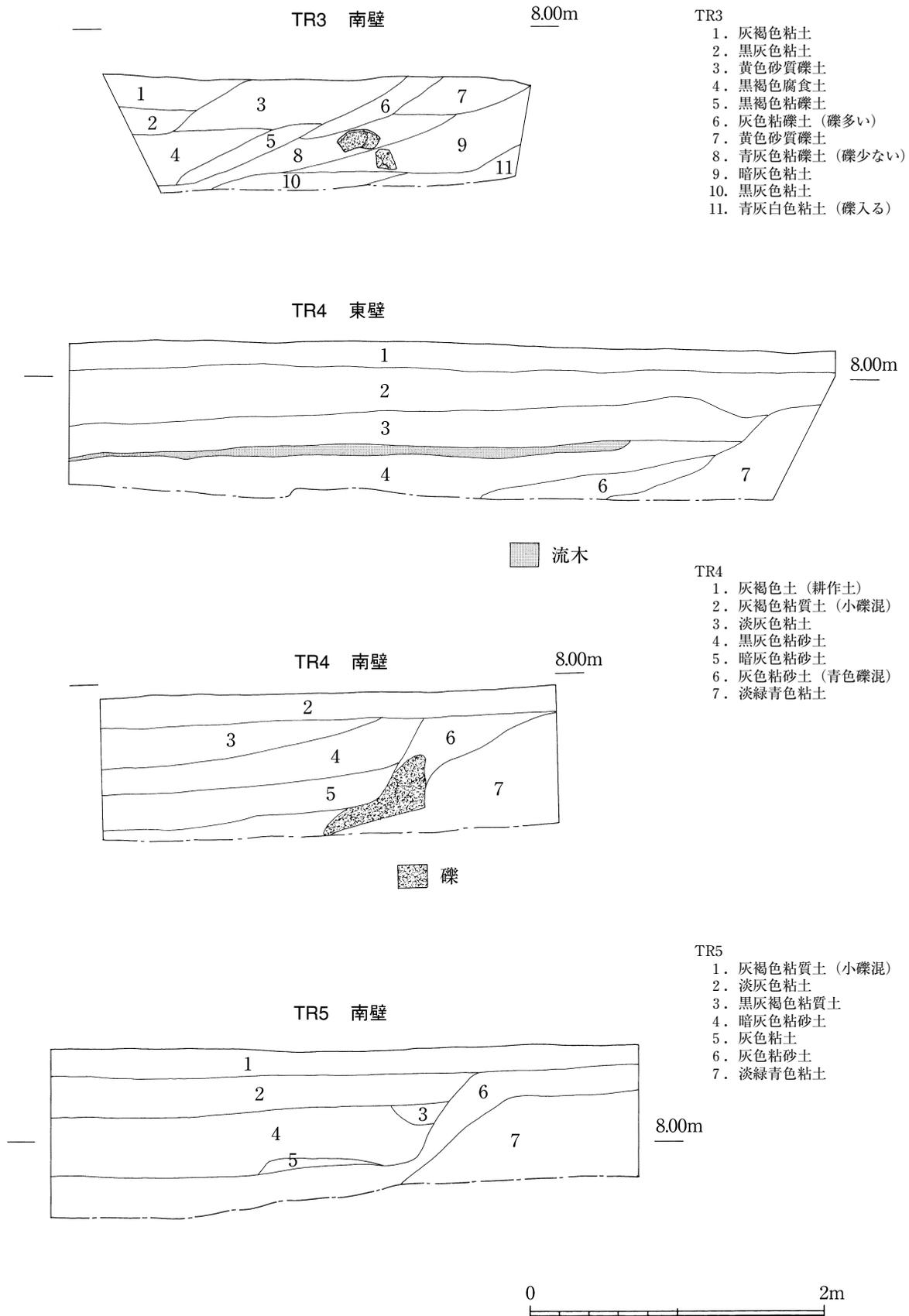


図4-4 八田栃谷遺跡 TR3~5土層断面図

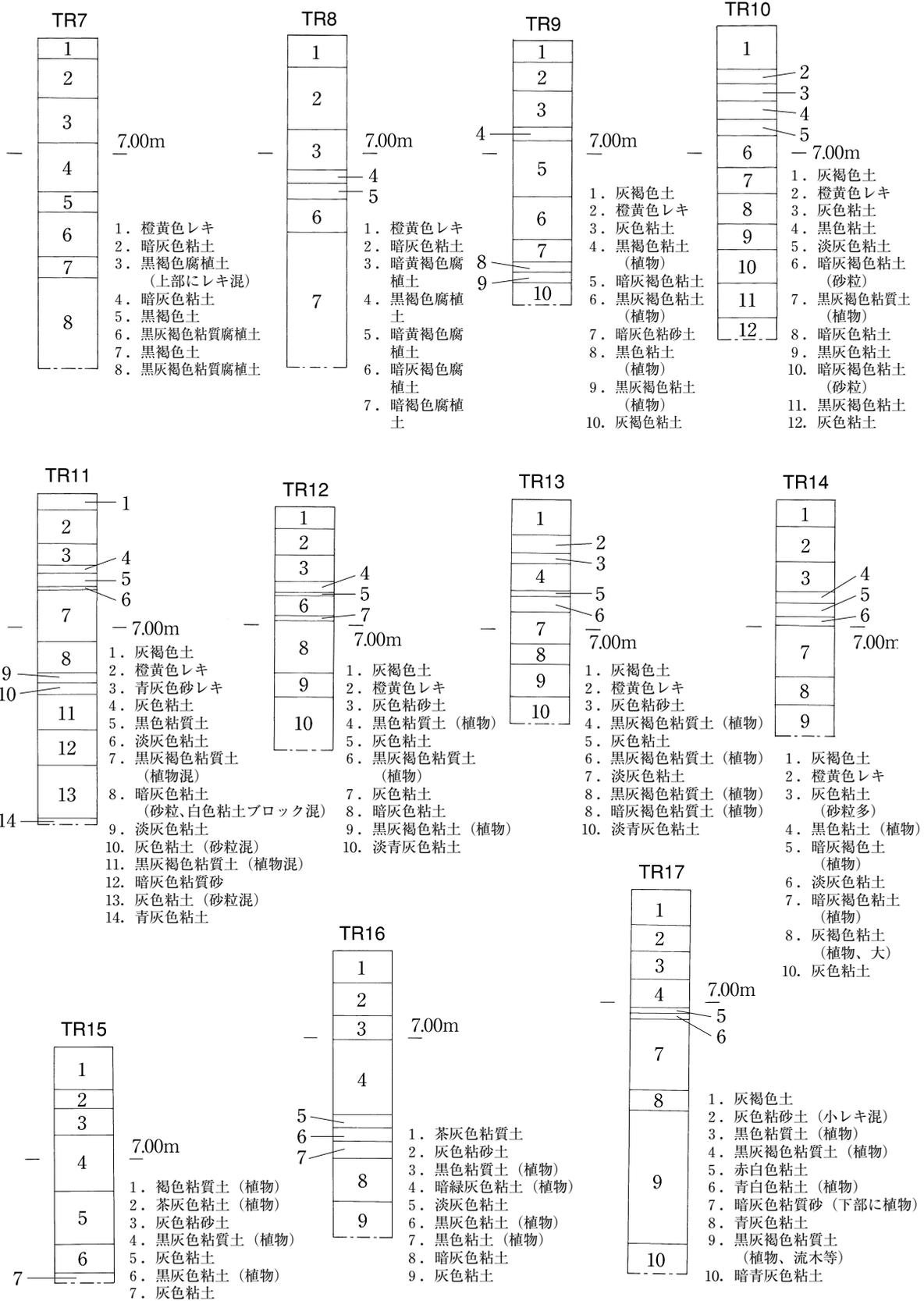


図 4-5 八田栃谷遺跡 TR7~17土層断面図

### 3. 八田栃谷遺跡出土遺物観察表

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
1	TR1・VI層	土師器高杯	15.4	(4.2)			内面は橙色、外面は淡橙色、断面は淡い橙色～橙色。頁岩、赤色風化礫の細粒砂を含む。内外面共にナデ。	
2	TR1・III層	土師器高杯		(2.1)			内面は橙色、外面はにぶい橙色。赤色風化礫、チャートの粗細粒砂を含む。脚部、杯体部共に接合部より剥離欠損。調整不明。	
3	TR1・VI層	土師器高杯		(7.1)		11.8	内面外面断面共に灰白色。長石の細粒砂、チャートの細・粗粒砂を含む。裾部に強い横ナデ。	
4	TR1・III層	土師器高杯		(7.3)		12.6	内外面共ににぶい橙色。チャート、頁岩の砂粒、内面断面はにぶい橙色、外面は橙色。水鏡した胎土。丁寧なつくり。口縁は強い横ナデ、内面に沈線。内面にはヘラ磨きあり。	
5	TR1・VI層	土師器椀	19.4	(2.9)			内面は橙色、外面はにぶい橙色～明赤褐色、断面は褐色。チャート、長石、赤色風化礫の細粒砂を含む。擬口縁で剥離。内外面共に横ナデ。二重口縁壺。	
6	TR1・III層	土師器壺	18.2	(3.5)			内面断面は褐色、外面は橙色。チャート、他の粗粒砂を含む。二重口縁壺。	
7	TR1・VI層	土師器壺	10.8	(4.9)			内面は橙色～明褐色、外面は褐色、断面は黒褐色。チャートの粗粒砂を含む。口縁端部に面取り。口縁内側上方に指頭圧痕、ハケ調整。	
8	TR1・VII層	土師器甕	10.4	(4.2)			内外面共に黄灰色。チャートの粗粒砂を多く含む。内外面共に荒いナデ。	
9	TR1・VI層	土師器甕	15.0	(4.6)			内外面は明褐色、断面は褐色。チャートの細・粗粒砂を含む。内外面共にナデ。	
10	TR1・VI層	土師器甕	(12.0)	(4.1)			内面断面は褐色、外面はにぶい褐色。チャートの粗粒砂、赤色風化礫を多く含む。弥生後期。	
11	TR1・VI層	弥生土器甕		(1.5)		(3.8)	内外面断面共に褐色。チャート、風化礫の細・粗粒砂を含む。口縁部内外面共に横ナデ。	
12	TR1・VI層	土師器甕	23.0	(4.1)			内外面共ににぶい黄褐色～褐色、断面は黄灰色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。外面は横ナデ。内面上部にしぼり痕。内面に指頭圧痕。	
13	TR2・III層	土師器高杯	(5.0)			10.9	内外面は褐色、断面は灰色。チャート・赤色風化礫の細粒砂を含む。口縁に2cm幅の粘土帯を貼付。弥生中期。	
14	TR2・III層	弥生土器壺	19.1	(2.2)			内面は褐色、外面は黒色、断面は黒褐色。チャート・雲母の細粒砂を多く含む。外面に微隆帯を貼付、櫛描波状文。弥生中期。	
15	TR2・VI層	弥生土器壺					内外面共ににぶい黄褐色。チャート・長石の細粒砂を含む。内面下半分は左→右のヘラ削り。上半分は指ナデ。外面はヘラ磨きが施されていたと思う。	
16	TR2・VI層	土師器壺		(6.5)			内面は赤褐色、外面は明褐色～赤褐色、断面は灰色。胴部内面は左→右の強いヘラ削り。口縁部は内外面ともにナデ。被熱赤変。	
17	TR2・III層	土師器甕	8.0	(5.3)			内面はにぶい赤褐色～褐色、外面は褐色、断面は明赤褐色。チャートの小礫・粗粒砂を含む。口縁内面は横ハケ+ナデ。口縁外面はナデ。胴部外面は水平の叩き、内面はナデ。	
18	TR2・VI層	土師器甕	10.6	(4.8)			内面はにぶい黄褐色、外面は褐色。赤色風化礫、チャートの粗粒砂を含む。外面は叩き、内面はナデ。	
19	TR2・II層	土師器甕		(4.5)			内面断面は黄灰色、外面は灰黄色。石英その他の細・粗粒砂を含む。外面はナデ、内面はヘラ削り+ナデ。強い熱を受けている。	
20	TR2・II層	土師器甕		(4.8)			内面はにぶい赤色、外面は極暗赤褐色、断面はにぶい赤～極暗赤褐色。チャート、風化礫の小礫、粗粒砂を含む。熱を受けて赤変している。	
21	TR2・VI層	土師器甕	8.8	(3.8)			内外面共に褐色。チャートの粗粒砂、小礫を多く含む。外面は叩き、内面はナデか。	
22	TR2・VI層	土師器椀	16.0	6.6		3.8	内外面共ににぶい褐色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。外面はナデ、内面はハケ状原体による圧痕が見られる。底部付近に黒斑。	
23	TR2・III層	土師器鉢	13.8	(5.9)		4.4	内面は灰色、外面はにぶい褐色、断面は灰白色。チャートその他の粗粒砂を含む。外面は縦ハケ、叩き+ハケ、内面はナデ。熱を受けている。	
24	TR2・III層	土師器鉢		(3.7)		2.7	内外面共に褐色。赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。	
25	TR3・II層	土師器高杯	16.4	(3.7)			内外面共に明赤褐色。赤色風化礫を多く含む。摩耗激しい。	
26	TR3・IV層	土師器高杯	18.0	(3.9)			内外面共に浅黄褐色。チャートの細・粗粒砂を含む。	
27	TR3・IV層	土師器高杯	21.0	(5.3)			内外面共に横ナデ。杯部外面に黒斑。杯部に弱い段を持つ。	

八田栃谷遺跡出土遺物観察表 1

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
28	TR3	土師器高杯	16.4	(5.1)			内外面共ににぶい黄橙色。チャートの小礫・粗粒砂を含む。	
29	TR3・IV層	土師器高杯	14.5	(4.0)			内外面断面共に橙色。チャートの粗粒砂を含む。内外面共に横ナデ。	
30	TR3・IV層	土師器高杯	19.6	(4.1)			内面はにぶい橙色、外面は灰黄色、断面はオリブ黒色。チャートの細粒砂を多く含む。摩耗が激しい。	
31	TR3・III層	土師器高杯		(6.4)			内外面共に灰白色。チャートの粗粒砂を多く含む。上下開口の柱状部を作り、ヘラ削りで内面を整え、杯部を押し、下からは粘土を充填していることがわかる。裾は内面に稜を有し、外反。内面は削り+ナデ。外面はナデ。	
32	TR3・II層	土師器高杯					内面は浅黄色、外面断面はにぶい黄橙色。チャートの細粒砂を含む。柱状部上が充実。内面は削り+ナデ。外面はナデ。	
33	TR3・III層	土師器高杯		(6.8)			内面は灰白色、外面は灰黄褐色。チャート、赤色風化礫を多く含む。柱状部内面はヘラ削り+ナデ。外面はナデ。	
34	TR3・III層	土師器高杯		(7.2)			内外面断面共に灰黄色。チャートの粗・細粒砂を多く含む。内外面共にナデ。	
35	TR3・III層	土師器高杯		(7.3)		12.6	内面は浅黄褐色、外面はにぶい黄褐色。チャート・頁岩の粗粒砂を多く含む。柱状部は直線的に下降、内面は左→右の丁寧なヘラ削り、裾内面は稜をなして屈曲、ナデ調整。裾端部に黒斑。	
36	TR3・II層	土師器高杯		(5.4)		12.2	内面は浅黄褐色、外面は橙色。チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。柱状部内面は右→左のヘラ削り。裾は内面に稜をなして屈曲。外面はナデ。	
37	TR3・III層	土師器高杯		(7.7)		12.4	内外面共に明赤褐色。チャートの粗粒砂を多く含む。押し入部で剥離。裾は内面に稜をもって屈曲。柱状部内面は左→右のヘラ削り、外面はナデ。	
38	TR3・III層	土師器高杯		(6.8)		9.6	内外面共に橙色。チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。柱状部内面はヘラ削り+ナデ。裾は内面に丸味を持って外反。杯部底部は、ドーナツ状の輪をつくっている。これに粘土を貼り付けて杯部下半を成形するのか。	
39	TR3・III層	土師器高杯		(5.6)		8.8	内面は浅黄色、外面はにぶい黄褐色。赤色風化礫、チャートの細粒砂を多く含む。裾は内面に稜をなして外反。	
40	TR3・II層	土師器高杯		(11.2)		11.6	内面はにぶい橙色、外面は浅黄色。チャート粗粒砂少々、赤色風化礫の細・粗粒砂を多く含む。柱状部は直線的、内面ヘラ削り。裾は内面に稜をもって屈曲、端部に黒斑がある。柱状部外面に縦方向ヘラ磨きをわずかに認める。	
41	TR3・II層	土師器高杯	18.6	12.8		12.2	内外面共に明赤褐色。チャートの粗・細粒砂を多く含む。柱状部内面はヘラ削り+ナデ。他の部位は器表の荒れが極めて激しい。	
42	TR3・II層	弥生土器壺	19.8	(2.0)			内面はにぶい黄褐色、外面はにぶい褐色。頁岩の粗粒砂を多く含む。口縁外面に粘土帯貼付。口縁に山形文。弥生中期前半。	
43	TR3・III層	弥生土器壺		(4.6)		8.0	内面は黒色、外面は橙色。チャートの粗粒砂を含む。内外面共に器の荒れがひどい。弥生中期。	
44	TR3・IV層	弥生土器壺	14.0	(4.6)			内面は浅黄色、外面は灰黄色。チャートの粗粒砂を含む。口唇部は強い横ナデ。口縁外面は指頭押圧+ハケ。弥生後期。	
45	TR3・II層	土師器壺		(10.1)			内外面共に橙色。チャートの小礫、粗粒砂、長石の細粒砂を多く含む。外面は丁寧なナデ。内面は指頭のナデによる凹凸が残る。	
46	TR3・III層	土師器壺		(11.7)			内面は黒褐色、外面は橙色。チャート、頁岩、砂岩の粗粒砂を含む。内外面共にナデを基調。	
47	TR3・IV層	土師器甕	15.4	(3.4)			内面は黄灰色、外面は灰黄色。長石、チャートの細粒砂を含む。胴部内面に頸部直下より左→右のヘラ削り。口縁部は内外面共に横ナデ。外面は煤けている。	
48	TR3・IV層	土師器甕	13.6	(6.8)			内面は明褐色、外面はにぶい橙色、断面は黒色。チャートを中心とする小礫を多く含む。胴部内面の頸部より少し下がったところから左→右の強いヘラ削り。口縁内面はハケ。外面はナデが基調。	
49	TR3・IV層	土師器甕	15.4	(6.4)			内外面共に浅黄褐色。風化礫の小礫、雲母を含む。口唇部は丁寧な面取り。口縁部内面は右下がりのハケ、外面は指頭押圧。胴部外面は叩き、内面は右下がりハケ。頸部外面は接合とは別に薄い粘土を貼り付けて押さえてある。	

八田栃谷遺跡出土遺物観察表 2

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
50	TR3・II層	土師器甕	11.0	(2.8)			内面はにぶい橙色、外面断面は橙色。チャートの小礫、粗粒砂を含む。外面は指頭による押圧。	
51	TR3・IV層	土師器甕	19.2	(4.7)			内面はにぶい黄褐色、外面は灰黄色、断面は灰色。チャートの粗粒砂を多く含む。口縁端部を折り曲げ、強い横ナデ。胴部外面は縦ハケ、内面は部分的に頸部直下より左→右のヘラ削り。	
52	TR3・IV層	土師器甕		(7.5)			内面はにぶい黄褐色、外面は橙色。チャート、赤色風化礫他の粒砂を含む。内面は頸部直下より強いヘラ削り、部分的に削り+ハケ。強い熱を受けており、内外表面は海綿状を呈す。	
53	TR3・III層	土師器甕		(2.1)			内外面共に浅黄褐色。頁岩、チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を多く含む。叩き。尖底。	
54	TR3・II層	土師器甕		(5.1)			内外面はにぶい橙色、断面は黄灰色。チャートの粗粒砂を多く含む。内面はハケ、外面はナデ。尖底。	
55	TR3・III層	土師器甕		(4.6)			内外面共ににぶい橙色。チャート他の粗粒砂を含む。内面はハケ、外面は叩き+ナデ。外底に繊維状痕。	
56	TR3・II層	土師器甕		(16.0)		4.0	内面は黄灰色、外面は橙色。チャートの小礫、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。外面は叩き+ナデ、内面はハケ+ナデ。	
57	TR3・IV層	土師器甕	16.0	(20.4)	19.6		内外面共ににぶい橙色。チャート、他の細・粗粒砂を含む。口縁部内外面は横ナデ。胴部外面は上部は水平、中位は右下がり、下半は右下がり+右上がりの叩き。内面はナデ。	
58	TR3・III層	土師器甕		(22.8)		7.0	内面はオリブ黒色、外面はにぶい黄褐色。チャートの粗粒砂、長石の細粒砂を含む。外面は細い叩き原体による叩き+ハケ。内面はナデ。	
59	TR3・II層	須恵器椀		(1.2)		6.4	内外面共に灰白色。断面がカマボコ状の高台を有す。調整は不明。	
60	TR3・II層	土師器椀	15.4	4.8		5.4	にぶい黄褐色。精選された胎土を含むが、わずかにチャートの小礫が入る。高台は貼付後、内面を強くナデている。外面はコテ状の原体で調整。切り離しは、ヘラか糸か不明。	
61	TR3・II層	土師器椀	15.0	5.2		6.0	内外面共ににぶい黄褐色。全体に精選された胎土(チャート、長石の細粒)。内外面共に器表の荒れがひどい。断面が三角の貼り付け高台。外面の高台直上部に弱い削り。	
62	TR3・	弥生土器鉢		(3.2)		3.9	内外面断面共に灰黄色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。底部に黒斑をもつ。内面は強いナデ、外面はナデ。弥生後期。	
63	TR3・II層	弥生土器鉢	16.6	(6.5)			内外面共ににぶい橙色、断面は黄灰色。チャートの粗粒砂を少量含む。外面は水平の叩き、内面はナデ。弥生後期。	
64	TR3・	土師器杯	15.5	4.6		6.2		
65	TR3・II層	土師器鉢	20.2	(5.4)			内外面共に橙色。風化礫の粗粒を多く含む。外面は叩き、内面はナデ。口唇部には面取りが見られる。	
66	TR3・II層	土師器杯		(1.1)		7.4	内外面断面共ににぶい橙色。精選された胎土。調整不明。	
67	TR3・II層	土師器杯		(1.8)		7.8	内外面共に浅黄褐色。赤色風化礫の粗粒砂を含むが全体に精選された胎土。糸切り。	
68	TR3・II層	土師器杯		(1.3)		8.1	内外面断面共に灰黄色。チャートの細粒砂を少量、赤色風化礫粒を多く含む。糸切り。	
69	TR3・II層	土師器杯		(1.0)		10.0	内外面断面共に浅黄褐色。赤色風化礫の粒砂を含む。全体に精選された胎土。調整は不明。	
70	TR3・II層	土師器杯		(1.2)		5.0	内外面共ににぶい黄褐色。精選された胎土。表面の荒れがひどい。	
71	TR3・II層	土師器甌		(2.3)		4.9	内面は灰黄褐色、外面断面はにぶい黄褐色。石英、角閃石等の細粒砂を含む。底部に粘土の剥離が見られる。搬入品か。	
72	TR3・III層	ノミ状石器	全長3.8	全幅1.6	全厚0.9	重量(g) 7.3	両刃。みかぶ緑色岩。	
73	TR3・II層	石器	全長9.2	全幅4.1	全厚1.2	重量(g) 54.0		
74	TR4・III層	土師器高杯		(5.5)			内外面共に橙色。チャートの細粒砂を含む。内外面共にナデ。裾部に5mm前後の円孔が3ある。杯部は剥離している。	
75	TR5・III層	土師器高杯		(7.8)		9.7	内面は橙色、外面はにぶい橙色。チャートの粗粒砂を多く含む。裾は丸味をもって外反。柱状部内面は左←右のヘラ削り。杯部との接合がよくわかる例。調整は不明。	

八田栃谷遺跡出土遺物観察表 3

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
76	TR5・II層	土師器高杯		(7.1)		9.8	内面は橙色、外面はにぶい黄橙色。チャート、頁岩の粗粒砂を含む。押入部で欠損。柱状部内面はヘラ削り。内外面共器表の荒れが激しい。	
77	TR5・II層	土師器高杯		(6.8)			内外面共に灰白色。チャートの細粗粒砂を多く含む。裾内面は稜をなして屈曲外反。柱状部内面はヘラ削り+ナデ。内外面共にナデ。	
78	TR5・III層	土師器高杯	22.8	(6.5)			内外面共ににぶい橙色、断面は黄灰色。チャート、頁岩、長石の粗細粒砂を含む。調整は不明。	
79	TR5・II層	土師器壺		(6.6)		1.8	内面は灰黄色、外面はにぶい黄橙色。チャート他の細・粗粒砂を含む。外面はハケ+ナデ。内面は指頭圧痕が顕著。外底に黒斑あり。	
80	TR5・III層	土師器 小型丸底壺		(5.9)	6.0		内面はにぶい赤褐色、外面はにぶい褐色。チャート及び頁岩の粗粒砂を含む。内面は指頭圧痕。外面はナデ。	
81	TR5・II層	弥生土器壺		(3.7)		13.4	内面は灰色、外面は橙色、断面はにぶい黄橙色。チャートの粗粒砂を多く含む。内面は指ナデ。	
82	TR5・IV層	弥生土器壺		(4.0)		7.0	内面は灰白色、外面は灰黄色。チャートの粗粒砂を多く、長石の細粒砂を含む。内面は指ナデ。外面は調整不明。	
83	TR5・III層	土師器甕	17.4	(8.3)			内面断面は灰色、外面は橙色。風化礫の粗・細粒砂を含む。胴外面は叩き、内面には接合痕を明瞭にとどめる。内面はナデ。	
84	TR5・III層	土師器甕	16.0	(2.6)			内外面共に橙色。頁岩、チャートの粗粒砂を含む。口縁内外面は右下がりのハケ。	
85	TR5・III層	土師器甕	16.2	(4.3)			内外断面共に灰黄色。チャートの細・粗粒砂を含む。口縁部内外面共強い横ナデ。胴部内面は、頸部直下よりヘラ削り。外面はナデ。	
86	TR5・V層	土師器甕	14.0	(5.5)			内面はにぶい橙色、外面は橙色。チャートの細・粗粒砂を含む。口縁はわずかに内湾気味。胴部内面はハケ。外面はナデ。口縁端部は上方につまみ上げている。外面は激しく煤ける。	
87	TR5・III層	土師器甕		(7.7)			内面は灰黄色、外面は灰白色、断面は灰色。チャートその他の粗粒砂を含む。胴部内面(左→右)ヘラ削り。外面はナデ。特に頸部は強い横ナデ。	
88	TR5・III層	土師器甕	14.0	(2.7)			内面はにぶい黄橙色、外面は灰黄褐色。チャート・頁岩の粗粒砂を含む。内外面共ナデ。口唇は面取り、端部を軽くつまみ上げる。	
89	TR5・II層	弥生土器甕					内面は橙色、外面はにぶい橙色。チャートの粗粒砂を含む。外面は叩き、内面はナデ。弥生後期。	
90	TR5・VI層	弥生土器甕	19.4	(24.1)			内外面共に黄灰色。チャート・頁岩の細・粗粒砂を含む。上胴部に刺突を施した浮文を貼付。その下に2条の微隆起帯を貼付、その間に御描直線文。その下に幅の狭い指頭圧痕列を配す。口唇は厚く、下端に細い刻み。外面に煤け。弥生中期Ⅲ。	
91	TR5・III層	土師器甕		(4.1)		2.9	内外面共ににぶい橙色。チャート粗粒砂、長石細粒砂を多く含む。外面の調整は不明、内面はハケ。下胴～底部に黒斑あり。	
92	TR5・II層	土師器鉢	17.6	(4.4)			内外面共に橙色。チャート細粒を少量含む。外面は叩き、内面は右下がりハケ。口唇面取り。	
93	TR6・III層	土師器高杯	15.0	(6.6)			内面は明赤褐色、外面はにぶい橙色。チャート、長石他の粗・細粒砂を多く含む。杯部下半で段状を呈す。調整は不明。脚が接合部より欠損している。	
94	TR6・III層	土師器高杯	23.0	(5.3)			内外面共に橙色。チャートの粗粒砂を少量、赤色風化礫粒砂を多く含む。杯は屈曲して立ち上がる。内外面共丁寧な横ナデ。	
95	TR6・III層	土師器高杯	16.0	(3.2)			内外面共に橙色。チャート・赤色風化礫を多く含む。内外面共にナデ。	
96	TR6・III層	土師器高杯	15.8	(3.5)			内外面共に橙色。チャート、長石、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。内外面共に器表の荒れがひどい。杯部は底部との接合部で剥離している。	
97	TR6・II層	土師器高杯	16.0	(6.8)			内面は浅黄褐色、外面はにぶい橙色、断面は黄灰色。チャートの粗粒砂を少量含む。内外面共にナデ。碗状の杯部をもった高杯。	
98	TR6・III層	土師器高杯		(2.0)			内面はにぶい黄褐色。石英、チャート、長石の粗・細粒砂が多い。内外面共に調整は不明。柱状部との接合部で剥離。	
99	TR6・III層	土師器高杯	18.6	(5.5)			内外面共に橙色。チャートの粗粒砂を少量、赤色風化礫粒砂を多く含む。杯部は外面に弱い段を有す。内外面共にナデ。	

八田栃谷遺跡出土遺物観察表 4

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
100	TR6・II層	土師器高杯		(2.6)			内面はにぶい黄橙色、外面断面は橙色。チャート、風化礫の小礫、粗粒砂を多く含む。内外面共に器表の荒れがひどい。杯部と柱状部との接合部で剥離。	
101	TR6・III層	土師器高杯		(2.9)			内外面共に浅黄橙色。チャート他の細粒砂を多く含む。調整は不明。	
102	TR6・III層	土師器高杯		(2.8)			内外面は橙色、断面は黄灰色。赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。接合部で剥離している。	
103	TR6・III層	土師器高杯		(5.0)			内外面共ににぶい黄橙色。チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。柱状部はふくらみをもつ、内面は左→右のヘラ削り。裾内面は稜をなして屈曲。外面はナデ。	
104	TR6・III層	土師器高杯		(6.8)			内面はにぶい橙色、外面は橙色。チャート、頁岩の粗粒砂を多く含む。柱状部は直線的に下降、裾内面に稜をもって屈曲。柱状部内面は右←→左でヘラ削り。	
105	TR6・III層	土師器高杯		(7.0)			内面は浅黄橙色、外面は灰白色。チャートの粗粒砂を多く含む。柱状部は直線的に下降、裾内面は稜をなして屈曲。柱状部内面は削り+ナデ。	
106	TR6・III層	土師器高杯		(7.3)			内面は黄灰色、外面は灰白色。チャートの粗粒砂を多く含む。柱状部は直線的に下降、裾は内面に稜をなして屈曲。柱状部内面は左←右のヘラ削り、外面はナデ。	
107	TR6・III層	土師器高杯		(6.1)			内外面共ににぶい橙色。チャートの細粒砂を多く含む。柱状部は直線的に下降。裾内面は稜をなして屈曲。柱状部内面は削り、方向は不明。	
108	TR6・III層	土師器高杯		(7.2)		10.6	内外面共に灰黄色。チャートの粗・細粒砂を多く含む。柱状部は直線的に下降、内面は左←右のヘラ削り、裾は内面に稜をなして屈曲。	
109	TR6・III層	土師器高杯		(7.0)		11.0	内外面共に橙色。チャートの粗粒砂を含む。接合部で剥離。柱状部はふくらみをもつ。内面の絞り目が顕著、裾は内面に稜をなして外反。内外面共に器表に荒れ。	
110	TR6・III層	土師器高杯		(8.6)		11.8	内外面共ににぶい橙色。チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。柱状部は直線的に下降、裾部は稜をなして屈曲。外面はナデ。裾部内面に黒斑。	
111	TR6・III層	土師器高杯		(7.2)		11.6	内外面共ににぶい黄橙色。接合部で剥離。チャートの細・粗粒砂を多く含む。柱状部は直線的で、内面は削り+ナデ、裾内面は稜をもって屈曲、ナデ。	
112	TR6・II層	土師器高杯		(7.1)		11.0	内外面共ににぶい黄橙色。チャートの小礫が少し、赤色風化礫の粗・細粒砂を多く含む。柱状部は直線的、内面は削り+ナデ。裾内面は稜をもって屈曲、ナデ調整。	
113	TR6・III層	土師器高杯		(6.0)			内外面共に灰白色。赤色風化礫、チャートの粗粒砂、小礫を多く含む。内外面共器表の荒れがひどい、調整はナデ。	
114	TR6・III層	土師器高杯		(3.0)		11.2	内外面共に橙色。チャートの粗粒砂を多く、長石粒を少々含む。裾は内面に丸味をもって外反。	
115	TR6・III層	土師器高杯		(7.9)		11.6	内面は明黄褐色、外面は橙色。チャート・頁岩の粗・細粒砂を含む。押入部で欠損。裾内面は稜をなして屈曲。柱状部内面はヘラ削り+ナデ。	
116	TR6・III層	土師器高杯		(7.2)			内外面共ににぶい橙色。チャート他の細・粗粒砂を多く含む。杯接合部で剥離。柱状部内面は左←右のヘラ削り。	
117	TR6・II層	弥生土器壺	20.4	(6.4)			内外面共に浅黄橙色。チャート、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。口縁外面の貼付口縁が剥離。弥生中期。	
118	TR6・II層	弥生土器壺	17.0	(4.9)			内面は灰黄色、外面はにぶい橙色。チャートの粗粒砂を多く含む。口唇は厚く面取りがなされている。弥生中期。	
119	TR6・II層	弥生土器壺	(1.7)			8.0	内面断面は灰色、外面は橙色。チャート、頁岩の細・粗粒砂を含む。調整は不明。弥生中期。	
120	TR6・II層	弥生土器壺	19.0	(3.3)			内面はオリブ黒色。外面は浅黄褐色。チャート、頁岩の細・粗粒砂を多く含む。口縁外面に1.7cm幅の粘土帯を貼付、口唇下端に刻み。弥生中期。	
121	TR6・II層	弥生土器壺		(3.9)		12.8	内面は灰黄褐色、外面はにぶい橙色。チャート、長石の細粒砂を多く含む。調整は不明。弥生中期。	
122	TR6・III層	弥生土器壺		(4.0)		11.2	内面は黒色、外面は橙色。チャートの粗粒砂を多く含む。外底に黒斑。	
123	TR6・II層	弥生土器壺	16.8	(1.9)			内面断面は黄灰色、外面は灰黄褐色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。口唇下端に刻み。煤けている。弥生中期。	

八田栃谷遺跡出土遺物観察表 5

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
124	TR6・Ⅲ層	土師器壺		(5.6)	8.7		内面は灰黄色、外面はにぶい橙色。チャート、赤色風化礫の細・粗粒砂を含む。内外面共ナデ。	
125	TR6・Ⅲ層	土師器壺		(5.5)	9.4		内面は灰黄褐色、外面はにぶい橙色。長石、チャート他の粗・細粒砂を含む。胴部内面に指頭圧痕、内底は指ナデ、外面はナデ。	
126	TR6・Ⅱ層	土師器壺	15.6	(5.2)			内面は黒色、外面はにぶい橙色。頁岩、チャートの粗・細粒砂を多く含む。内外面共器表の荒れが激しい。	
127	TR6・Ⅱ層	土師器壺	17.0	(5.9)			内面はにぶい黄褐色。外面は橙色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。幅広い口縁外面に竹管刺突。調整は不明。	
128	TR6・Ⅱ層	土師器壺		(6.8)			内外面共に橙色。石英、長石、チャートの細・粗粒砂を含む。調整は不明。二重口縁壺。	
129	TR6・Ⅱ層	土師器壺		(1.9)			内外面共に灰色。頁岩、チャートの細・粗粒砂を多く含む。口縁外面を肥厚させ刻みを施す。	
130	TR6・Ⅲ層	土師器壺		(4.5)			内面はにぶい黄褐色、外面はにぶい黄褐色。チャート、頁岩の小礫、粗粒砂を多く含む。内面はヘラ削り、外面はナデ。	
131	TR6・Ⅲ層	土師器壺		(3.1)			内外面共に浅黄褐色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。調整は不明。	
132	TR6・Ⅲ層	土師器壺					内面は灰黄色、外面はにぶい黄色。長石、石英、他の細粒砂を含む。内面下半はヘラ削り、外面は調整不明。外面下胴部に黒斑。搬入品の可能性。	
133	TR6・Ⅲ層	土師器壺		(7.6)			内面はにぶい黄褐色、外面は橙色。チャート、頁岩、赤色風化礫の小礫、粗粒砂を多く含む。頸部外面は縦ハケ、胴部外面は叩き+縦ハケ、内面は指ナデ+ハケ。	
134	TR6・Ⅲ層	土師器 小型丸底壺	7.3	9.8		2.0	内面はにぶい黄褐色、外面はにぶい橙色。チャート、赤色風化礫の粗粒砂を含む。胴部～底にかけて大きな黒斑がある。内外面共にナデ調整。	
135	TR6・Ⅲ層	土師器 小型丸底壺	6.6	8.4		1.2	内外面共ににぶい黄褐色。チャート、頁岩、赤色風化礫の粗粒砂を多く含む。胴～底に大きな黒斑がある。胴部内外面に指頭圧痕が顕著。口縁内外面は横ナデ。外面は被熱。	
136	TR6・Ⅲ層	土師器 小型丸底壺	7.2	7.9		3.6	内外面共に橙色。チャートをほとんど含まない、長石の細粒砂、赤色風化礫の粗粒砂を含む。内底に凹凸が激しい。内外面共にナデ。	
137	TR6・Ⅲ層	手捏ね土器	4.5	3.7			内外面共ににぶい橙色。チャート、頁岩の細・粗粒砂を含む。熱を受けている。	
138	TR6・Ⅲ層	弥生土器甕		(7.5)		4.0	内外面共ににぶい黄褐色。チャート、赤色風化礫の小礫、粗粒砂を多く含む。内面はナデ、外面は縦ハケ。外底付近に黒斑。	
139	TR6・Ⅱ層	土師器甕	14.4	(5.5)			内面はにぶい黄褐色、外面は橙色、断面は黄灰色。チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。胴部外面は叩き、内面は右下がりのハケ。	
140	TR6・Ⅱ層	土師器甕	10.4	(6.2)			内外面断面共ににぶい橙色。チャートの細・粗粒砂を含む。胴部外面は右上がりの叩き、内面に粘土紐接合部を明瞭に残す。口縁部内外面共ナデ。	
141	TR6・Ⅱ層	土師器甕	17.4	(6.4)			内外面共ににぶい橙色。チャートの細・粗粒砂を含む。外面は口縁まで叩き、しかし、叩き出し口縁ではない。内面はハケ。	
142	TR6・Ⅱ層	土師器甕	13.8	(3.0)			内面はにぶい橙色、外面は橙色。風化礫、その他の小礫、粗粒砂を含む。口縁部外面は叩き+縦ハケ、内面は右下がりハケ。胴部外面は水平叩き、内面は右下がりハケ。口唇部は面取り。	
143	TR6・Ⅱ層	土師器甕	17.0	(5.0)			内面は褐灰色、外面はにぶい黄褐色。チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。口縁部外面は叩き+ナデ、指頭圧痕あり。胴部は叩き、内面は右下がりハケ。	
144	TR6・Ⅲ層	土師器甕	20.0	(4.0)			内外面共ににぶい黄褐色。風化礫他の小礫、粗粒砂を含む。口縁部外面は叩き+縦ハケ、内面は右下がりハケ。胴部外面は水平叩き、内面は右下がりハケ。口唇部は面取り。	
145	TR6・Ⅱ層	土師器甕	11.6	(6.2)			内外面共ににぶい橙色。チャート他の粗粒砂を含む。口縁部外面は縦ハケ、内面はナデ。胴部外面は水平叩き、内面はナデ。内面に1.5cm幅の粘土帯の接合部を認める。	
146	TR6・Ⅲ層	土師器甕	13.8	(4.2)			内外面断面共ににぶい黄褐色。チャートその他の粗粒砂を含む。口縁部内外面はナデ。	
147	TR6・Ⅱ層	土師器甕	18.4	(3.6)			内外面共ににぶい橙色。頁岩の粗粒砂を含む。口縁部内外面は横ナデ。胴部外面は叩き、煤けている。	

八田栃谷遺跡出土遺物観察表 6

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
148	TR6・Ⅲ層	土師器甕	16.4	(6.7)			内面はにぶい橙色、外面は橙色。チャートの小礫、粗粒砂を多く含む。口縁部内外面共横ナデ。胴部外面は叩き、内面は右下がりハケ。	
149	TR6・Ⅱ層	土師器甕		(4.4)			内面は黒色、外面はにぶい赤褐色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。内外面共ナデ。	
150	TR6・Ⅲ層	土師器甕		(5.6)			内外面共ににぶい黄橙色。チャート小礫・粗粒砂、頁岩、長石の細粒砂を含む。口縁は「く」字状に外反。内面は右下がりハケ、外面はハケ+ナデ。	
151	TR6・Ⅱ層	土師器甕		(5.4)			内外面共に橙色。頁岩他の粗粒砂を多く含む。胴部外面は叩き、内面はナデ、接合痕あり。口縁内外面はナデ。	
152	TR6・Ⅲ層	土師器甕		(4.5)			内面は灰色、外面はにぶい黄橙色。チャートの小礫、粗粒砂を含む。外面は叩き、内面は木目の粗い原体による右下がりのハケ。外面は煤けている。	
153	TR6・Ⅲ層	土師器甕		(4.7)			内面は暗灰色。外面は橙色。赤色風化礫の小礫を含む。外面は叩き、内面は右下がりハケ。	
154	TR6・Ⅳ層	土師器甕		(5.0)			内面はにぶい黄橙色、外面は暗灰色。チャートの小礫・粗粒砂を含む。外面は叩き。口縁部、胴部内面は右下がりハケ。	
155	TR6・Ⅲ層	土師器甕		(4.3)			内面断面は灰色、外面はにぶい黄橙色。チャート他の小礫、粗粒砂を含む。外面は叩き、内面は右下がりハケ。	
156	TR6・Ⅲ層	土師器甕		(5.3)			内外面共に灰黄色、断面はオリーブ黒色。粗粒砂を含む。外面は叩き。口縁部内面は右下がり。上胴部内面は右下がりのハケ、中位以下はナデ。外面は煤ける。	
157	TR6・Ⅲ層	土師器甕		(3.9)			内面はにぶい黄橙色。外面は灰白色。チャートの粗粒砂を多く含む。外面は右上がりの叩き。口縁部内面は右下がりハケ。	
158	TR6・Ⅲ層	土師器甕	4.6	(2.4)			内面は黒色、外面は灰白色。チャートの小礫を多く含む。内外面共器表の荒れが激しい。	
159	TR6・Ⅲ層	土師器甕		(2.0)		2.5	内面は黄灰色、外面はにぶい橙色。頁岩の粗粒砂を多く含む。調整は不明。	
160	TR6・Ⅲ層	土師器甕		(4.9)		5.0	内外面共に浅黄橙色。チャート、赤色風化礫の細粒砂を多く含む。外面は叩き、内面はナデ。	
161	TR6・Ⅲ層	土師器鉢		(3.0)		2.8	内面は灰黄褐色、外面はにぶい橙色。チャート、赤色風化礫の細粒砂を含む。外面は叩き、内面はナデ。	
162	TR6・Ⅲ層	土師器鉢	17.8	6.9		2.0	内面は橙色、外面はにぶい橙色。チャート、長石、頁岩の小礫、細・粗粒砂を含む。内面は右下がりハケ、外面は叩き+ハケ。尖底。	
163	TR6・Ⅱ層	土師器甕		(9.4)			内外面共ににぶい褐色。頁岩の粗粒砂を多く含む。外面は目の細い叩き目、内面は右下がりのハケ。	
164	TR6・Ⅲ層	土師器高杯		(6.4)			内外面共ににぶい橙色。チャート、赤色風化礫の粗粒砂、雲母粒を含む。接合部で剥離。柱状部内面は右→左のヘラ削り。柱状部は直線的。裾部は内外面共ナデ。裾部は内面に稜をなして屈曲。	
165	TR11・V層	土師器壺	16.8	(5.5)				
166	TR8・Ⅲ層	青磁小皿		(1.2)		7.2		
167	TR11・V層	土師器甕	15.2	(3.5)				
168		弥生土器壺	18.6	(5.0)				

八田栃谷遺跡出土遺物観察表 7

#### 4. 八田栢谷遺跡出土遺物実測図

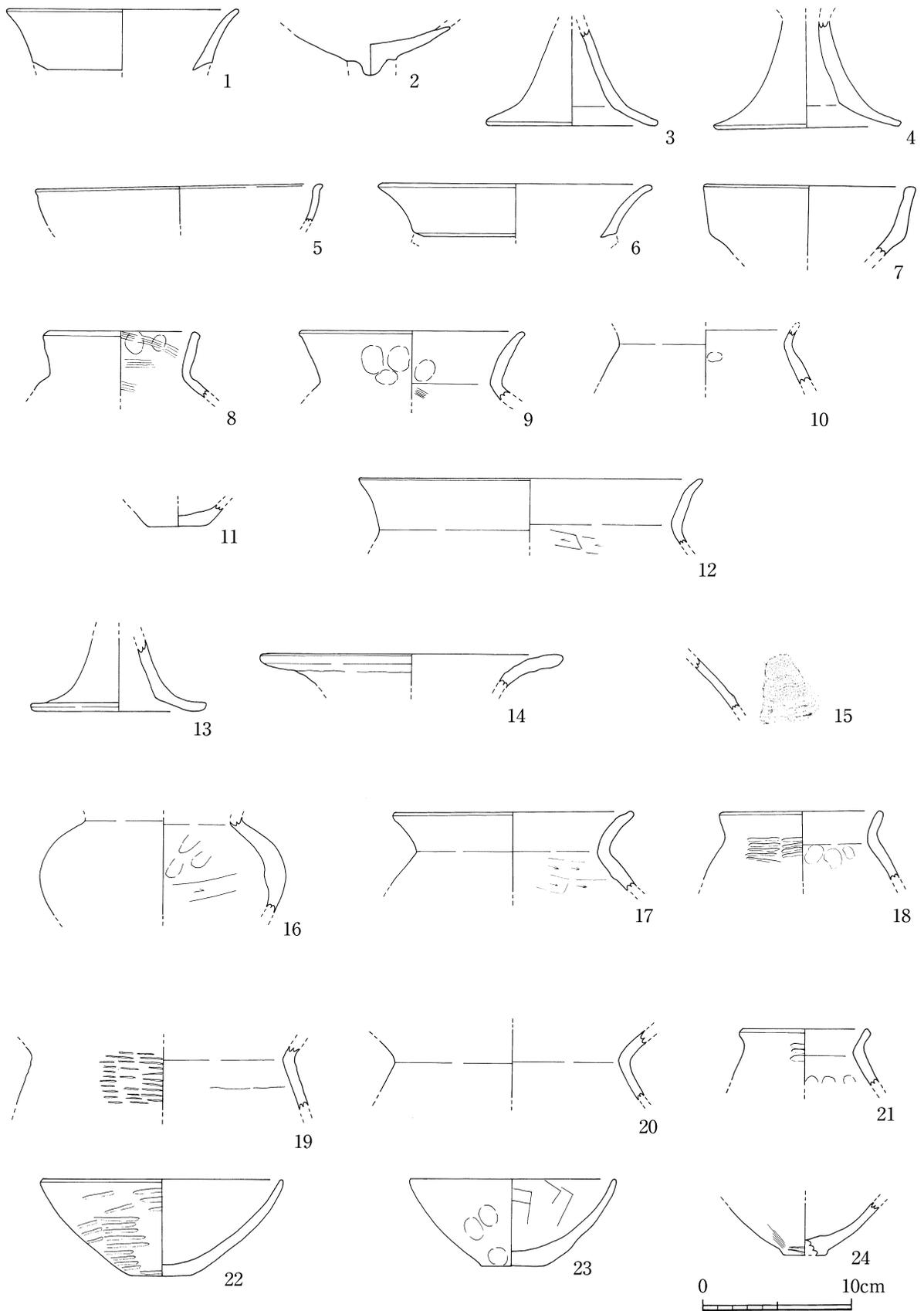


图 4-7 八田栢谷遺跡出土遺物 1

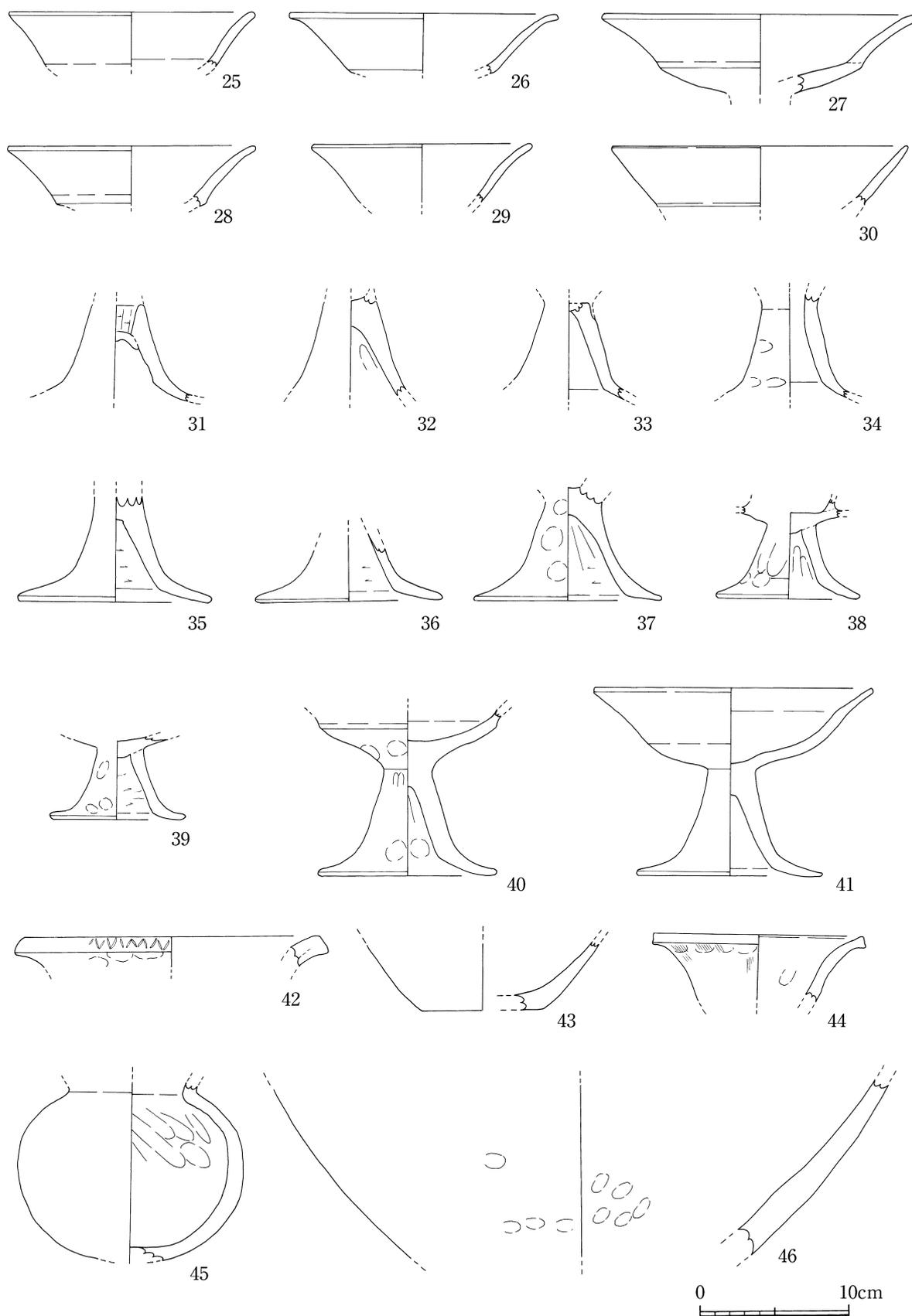


图 4-8 八田栃谷遺跡出土遺物 2

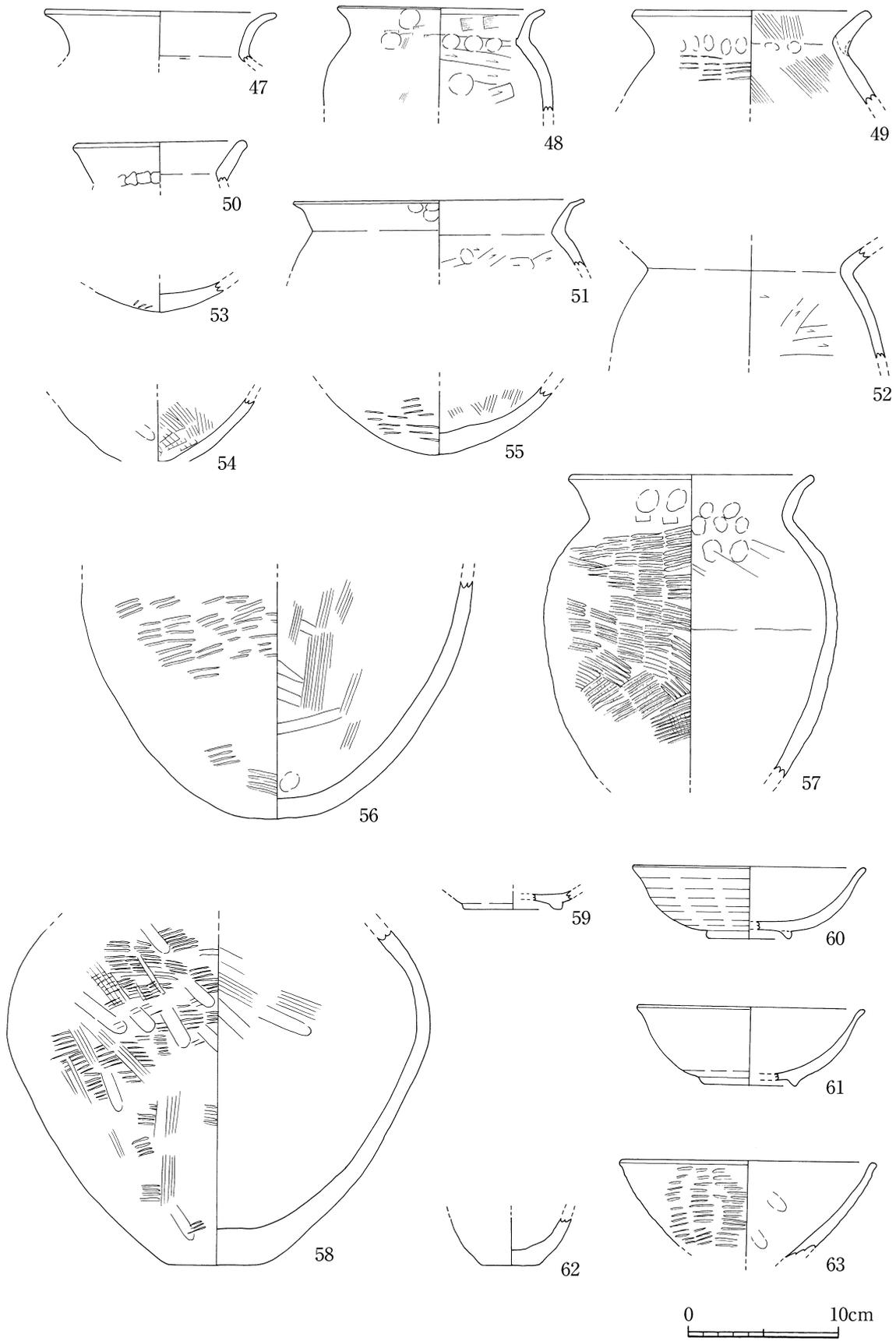


图 4-9 八田栃谷遺跡出土遺物 3

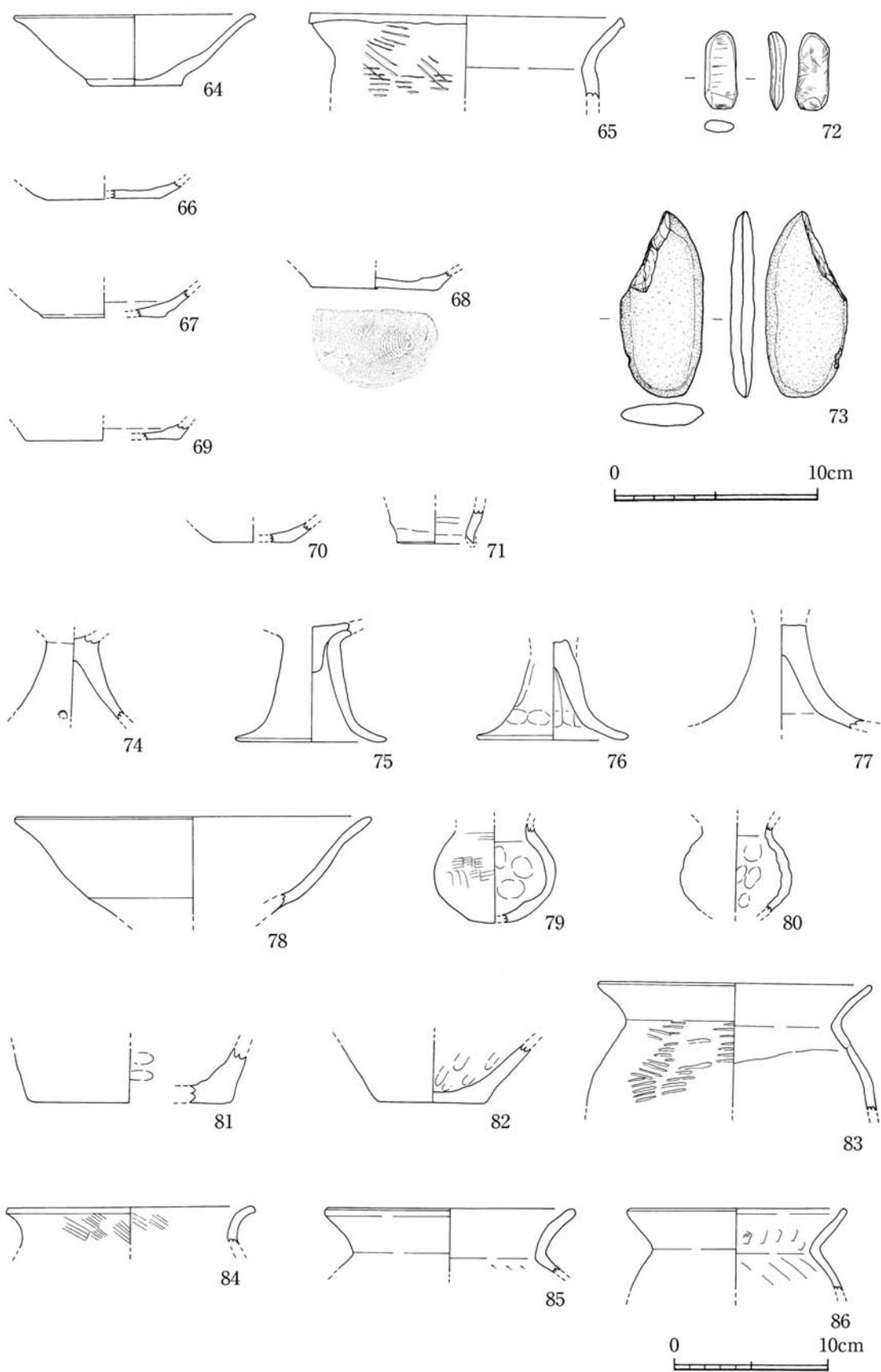


图 4 - 10 八田栃谷遺跡出土遺物 4

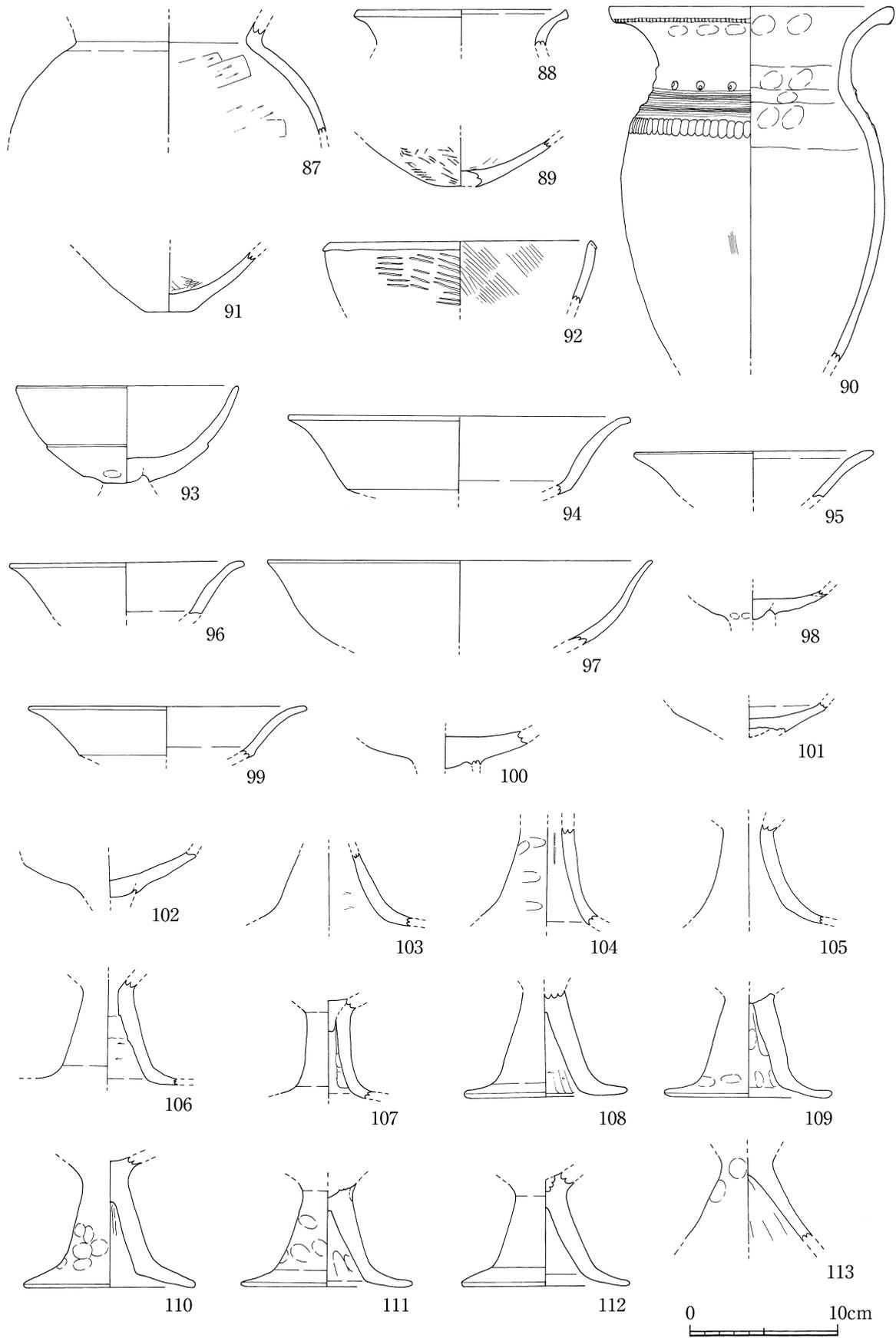


图 4-11 八田栢谷遺跡出土遺物 5

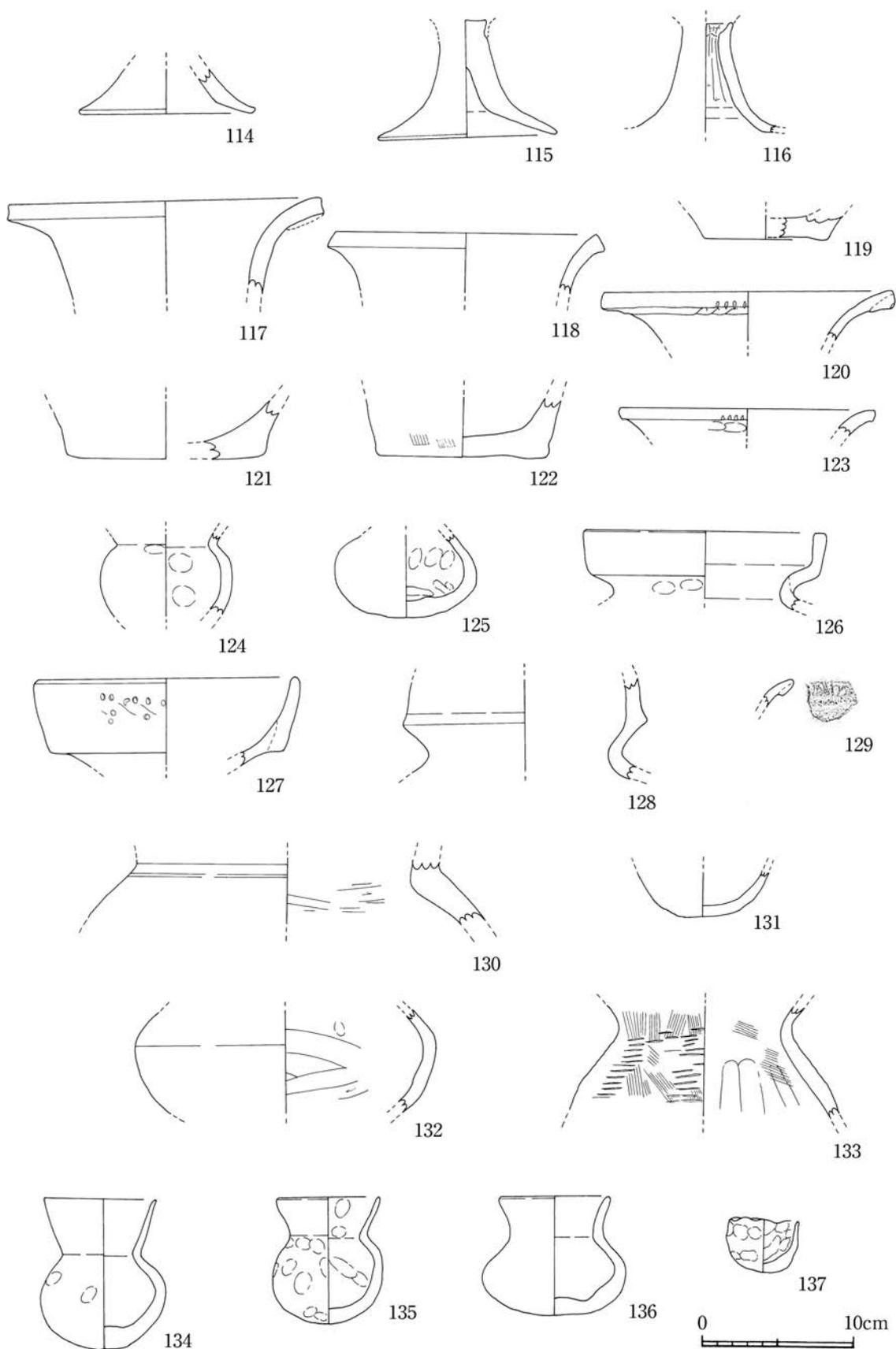


图 4 - 12 八田栃谷遺跡出土遺物 6

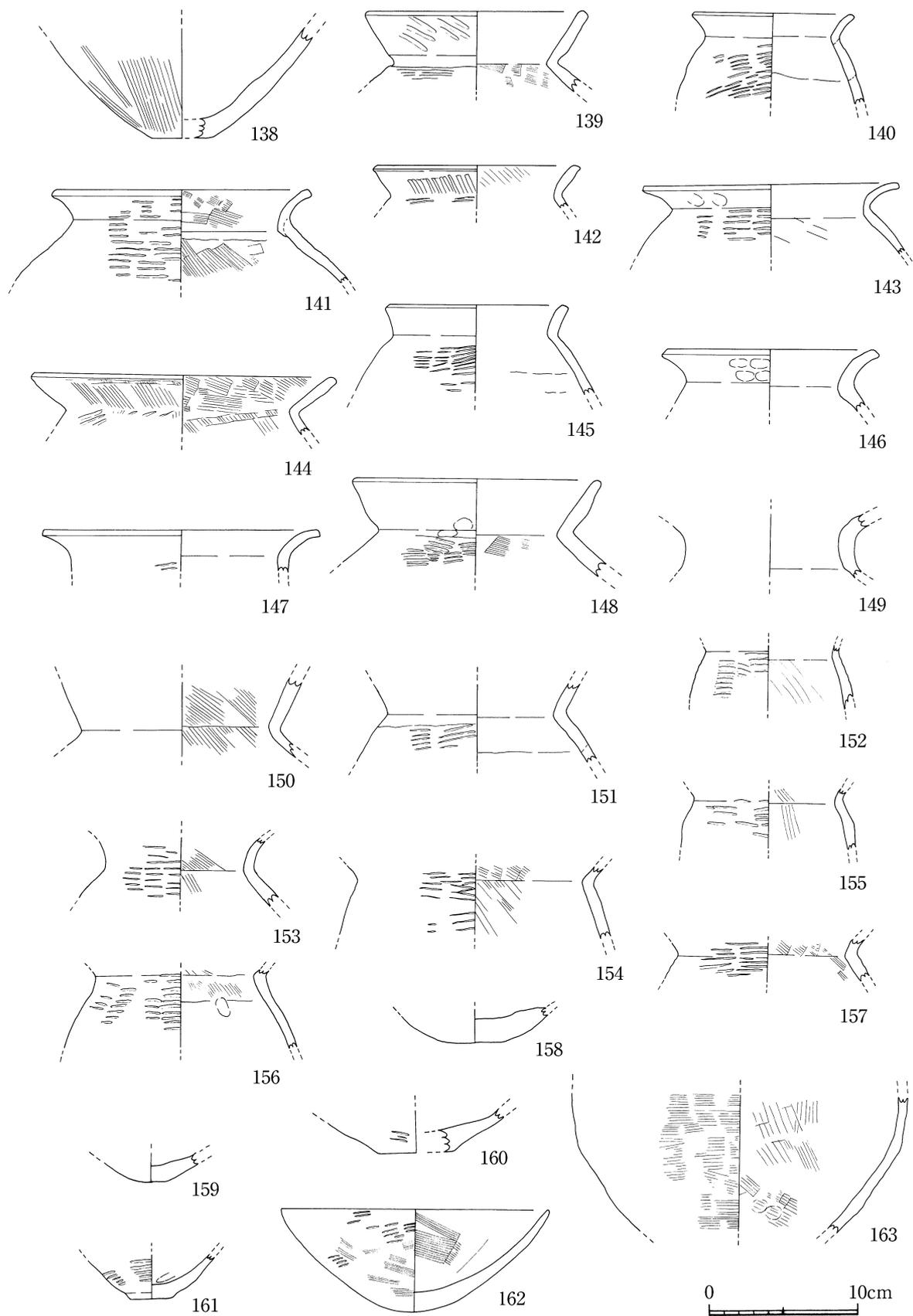


图 4-13 八田栢谷遺跡出土遺物 7

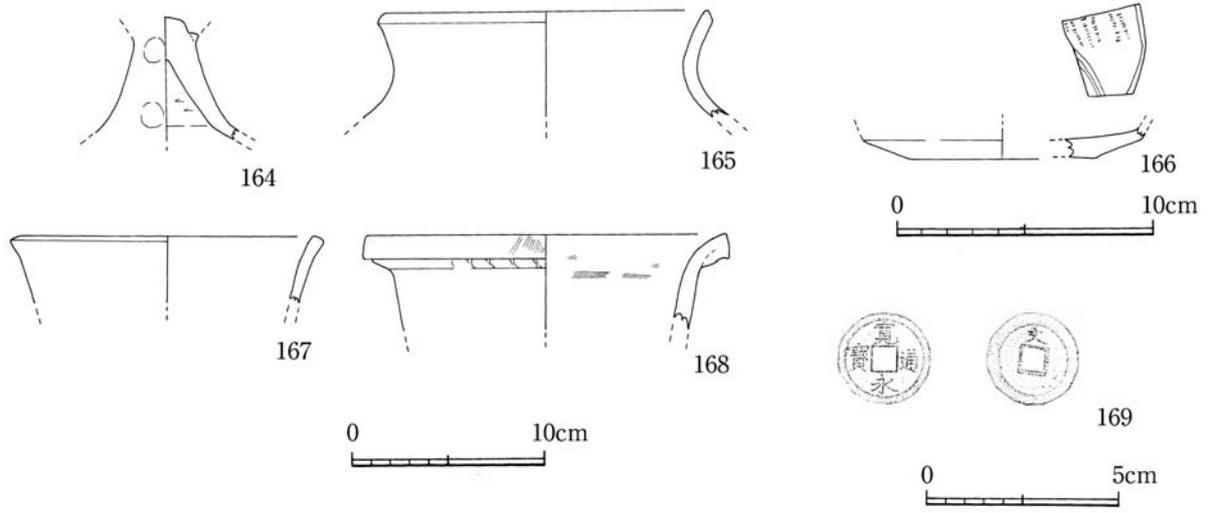
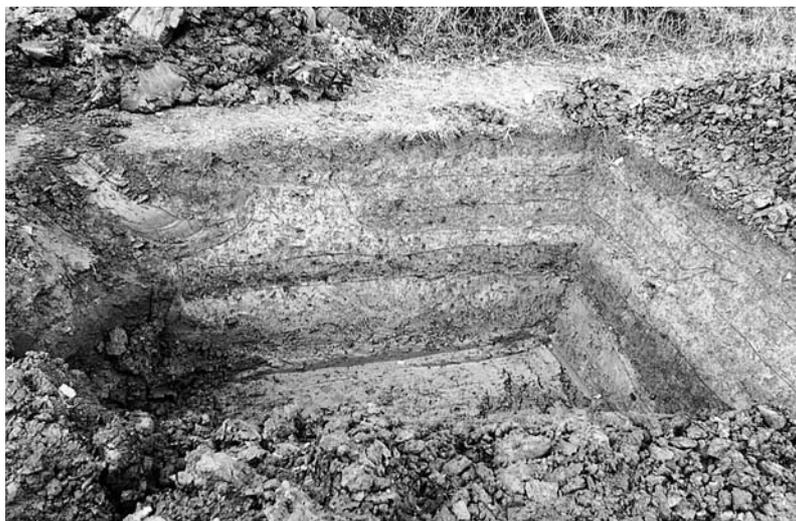


图 4 - 14 八田栃谷遺跡出土遺物 8



5. 八田栃谷遺跡写真図版

PL 19



八田栃谷遺跡 TR1



八田栃谷遺跡 TR2



八田栃谷遺跡 TR6 完掘



TR1



TR2



TR3



TR3



TR3



TR3



TR5



TR5

八田栃谷遺跡遺物出土状況

PL 21



TR6



TR6



TR6



TR6



TR6



TR6

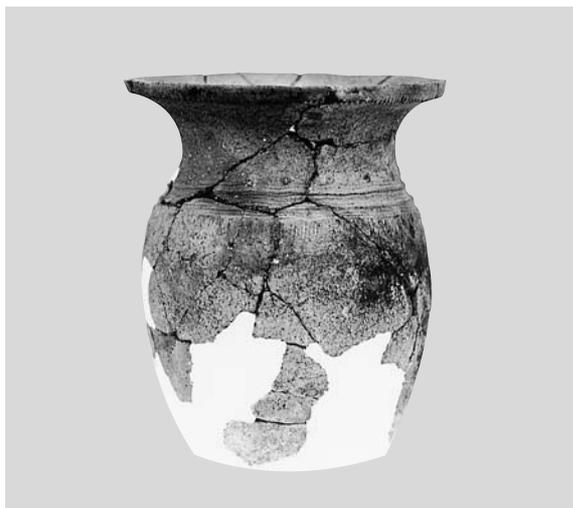


TR6

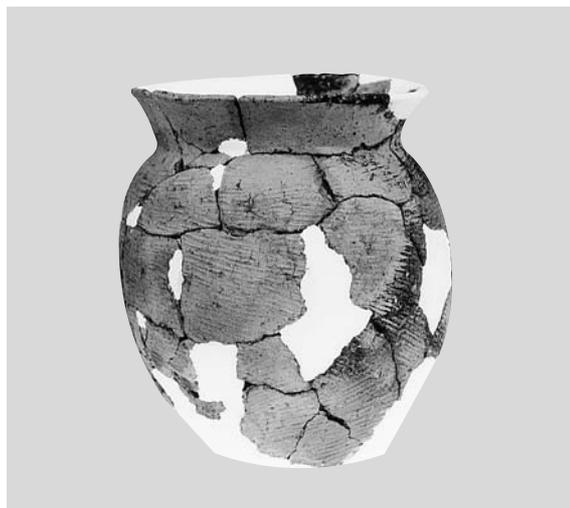


TR6

八田栃谷遺跡遺物出土状況



90



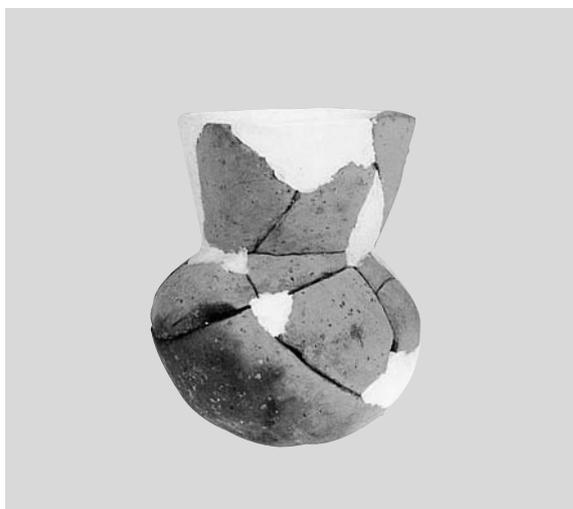
57



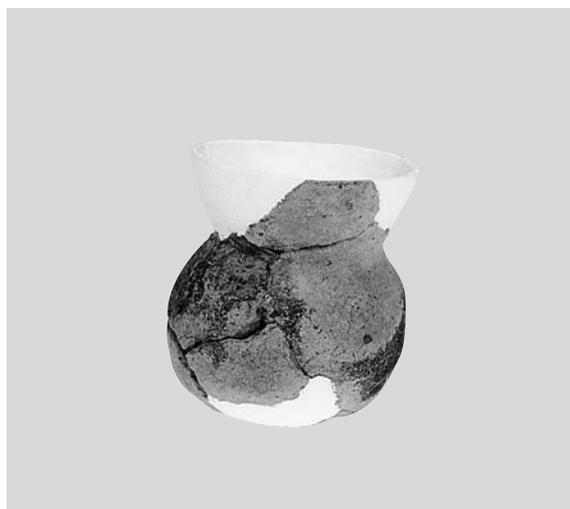
45



41



134



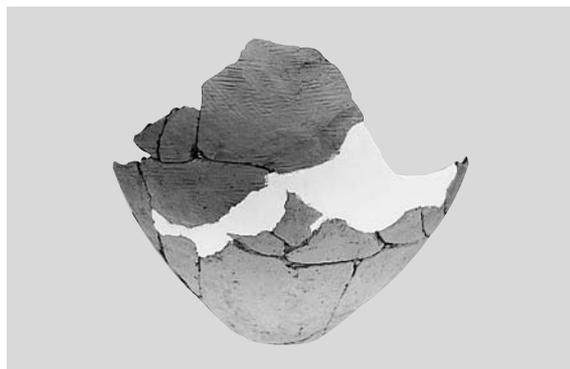
135

八田栃谷遺跡遺物出土状況

PL 23



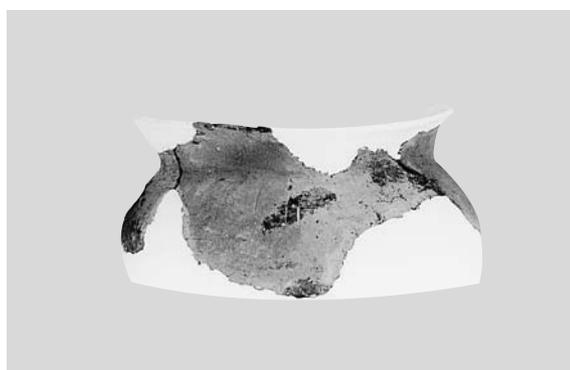
23



58



9



48



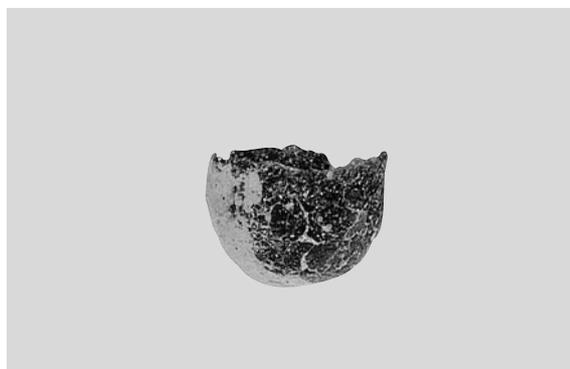
82



125



136



137

八田栃谷遺跡出土遺物



38



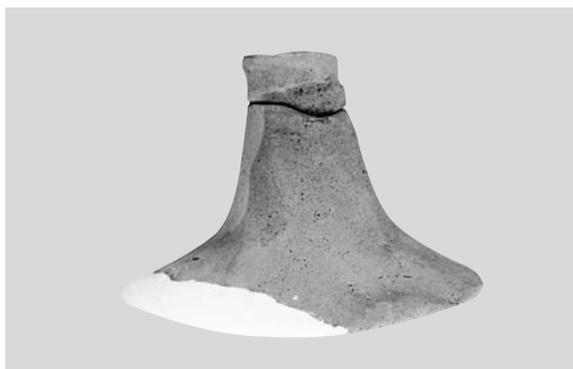
75



77



110



115



61



60

八田栃谷遺跡出土遺物

## 第V章 八田地区3区試掘調査成果



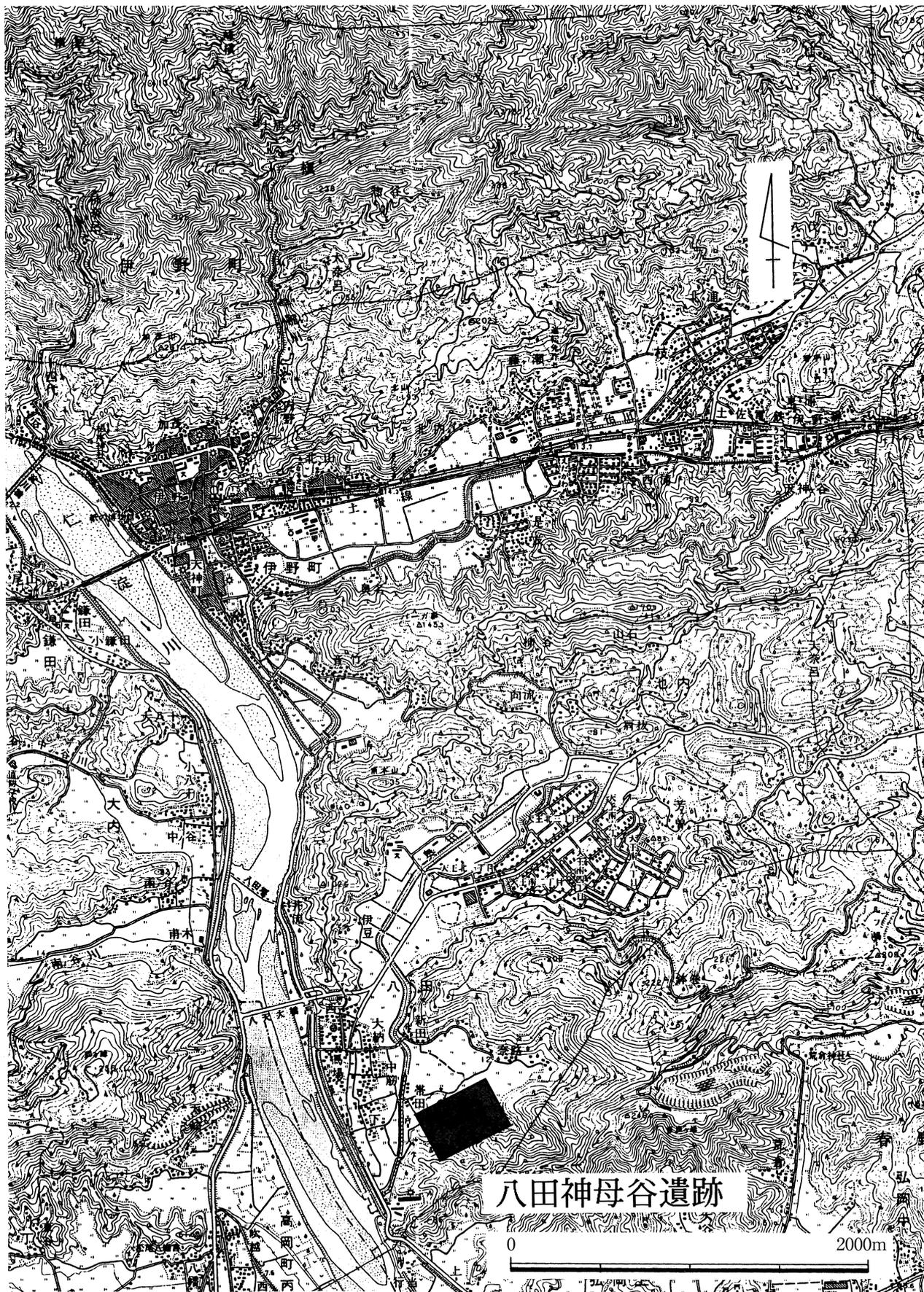


图 5-1 八田神母谷遺跡位置图

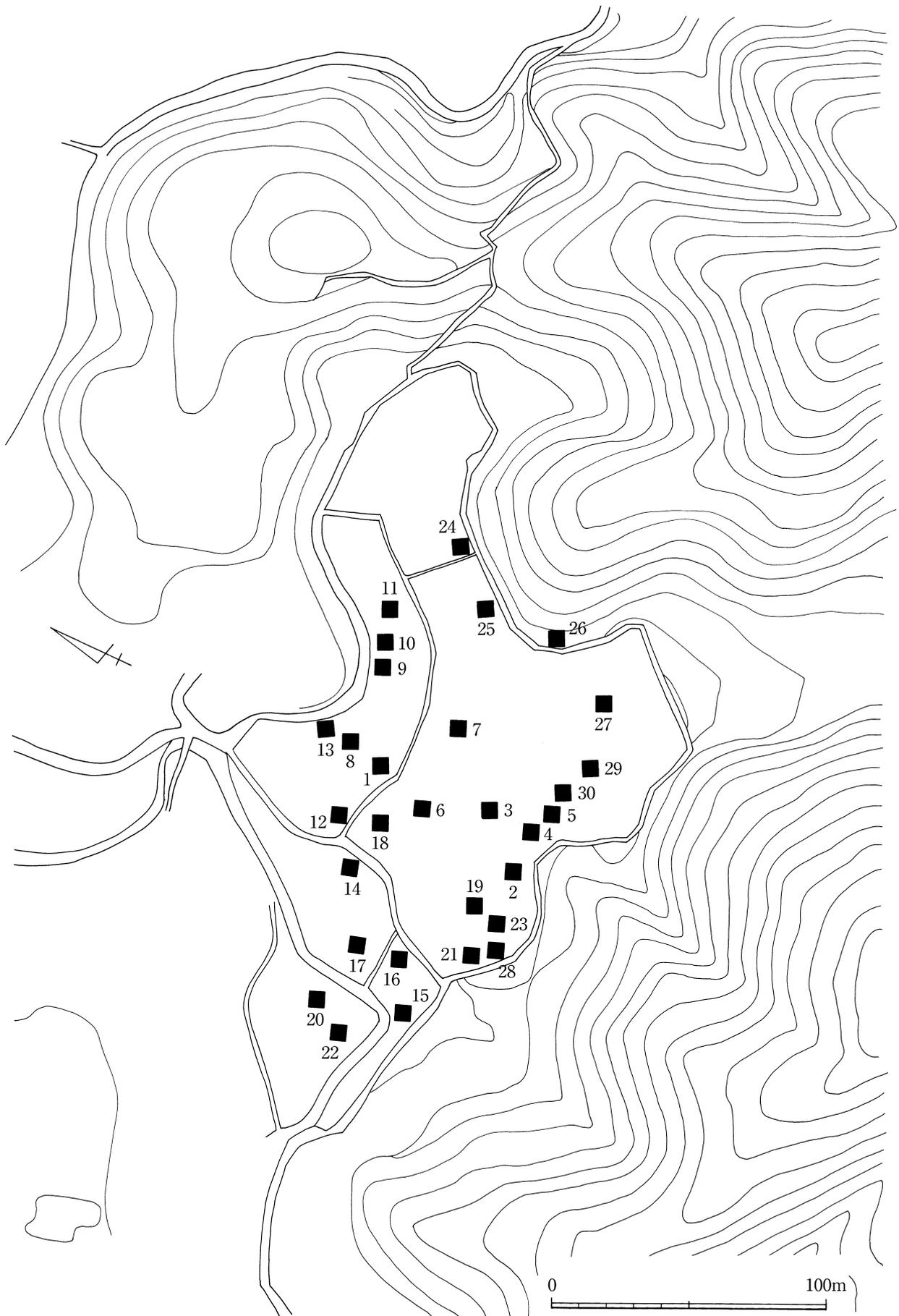


図5-2 八田神母谷遺跡（八田地区3区）試掘トレンチ位置図

# 第V章 八田地区3区試掘調査成果

## 1. 調査区の概要

この章は八田地区3区（後の本調査の段階から八田神母谷遺跡という名称になる）の試掘調査についての記録である。八田地区3区は、八田地区の全調査区の中でも、道路建設工事の計画との関係上最初に試掘調査を実施した調査区である。調査対象地の地形等諸条件を考慮しながら、基本的に5m×5mの試掘トレンチを30箇所設定し調査を進めた。ほぼすべてのトレンチから遺物の出土が見られ、遺構についても幾つかのトレンチで検出された。各トレンチにおける測量は、ここでは高速道路工事に設置されている公共座標を利用し、試掘トレンチの位置・土層等の平面図・断面図の作成を行った。

三方を山に囲まれた谷状の地形部分が調査範囲にあたるが、やはり谷の中央部分は昔から生活可能な安定した地形はなかったようで遺物の出土量も比較的少なかったようである。北側・南側の山裾に沿った比較的地山の検出が浅い部分で可能な場所については、その時代の生活面であったと思われる検出面より多くの遺物の出土が見られた。調査範囲の東側になる谷の奥にあたる部分は湧水があり、堆積状況も腐葉土と砂を繰り返す状態で昔より現在と同様の低湿地状態であったと思われる。

## 2. 検出遺構と出土遺物

試掘調査の成果であるので、ここでは、遺物の出土等の見られた試掘トレンチの土層断面図と出土遺物の報告を中心にしたい。遺構については、TR13で標高7mほどの地点に直径約50cm・深さ30cmの土坑が検出された。埋土には炭化物、焼土が多く含まれ、中に礫が一つ入っていた。この検出面はちょうど縄文時代の遺物が出土していた層にあたる。TR16では標高7.5mほどの地点で流路と思われる遺構を検出した。幅は約2mで深さは約1.5mであった。

遺物の出土については、八田神母谷遺跡試掘トレンチ出土遺物観察表に記しているが、ここで各試掘トレンチ毎に簡単に述べておく。（実測を行った遺物についてのみ記載。）

TR1からは砥石が出土。

TR2からは土師器の杯・白磁の碗が出土。

TR4からは古式土師器の甕・古式土師器の高杯・白磁の碗が出土。

TR5からは弥生時代後期の甕・弥生時代後期の鉢・古式土師器の甕が出土。

TR6からは縄文時代ではと思われる石器（刃器）・打製石包丁が出土。

TR8からは縄文時代晩期の深鉢・弥生時代後期の壺が出土。

TR12からは古式土師器の高杯が出土。

TR13からは縄文時代後期（伊吹町式）の鉢・縄文時代晩期の深鉢・弥生時代中期の壺・磨製石斧等が出土。

T R 14からは弥生時代後期の壺が出土。

T R 16からは須恵器の杯・須恵器の長頸壺が出土。

T R 18からは弥生時代前期の壺が出土。

T R 19からは磁器の碗が出土。

T R 21からは弥生時代中期の甕・須恵器の杯・須恵器の蓋が出土。

T R 23からは土師器の杯・土師質の羽釜・須恵器の杯・須恵器の碗・須恵器の蓋・須恵器の皿・須恵器のコネ鉢・瓦器の碗・黒色土器の碗・青磁の碗・用途は断定できないが石器等が出土。

T R 24からは磁器の皿が出土。

T R 28からは須恵器の杯・須恵器の鉢が出土。

T R 29からは肥前系の皿が出土。

T R 30からは古銭（元豊通寶）が出土。

その他八田地区3区試掘調査において実測しているものとして瓦器の碗が出土。

以上のように実測しているものだけでも各時代の遺物が多量に出土した。ここに載せていないトレンチからも同様に多量に多くの時代の遺物が出土した。出土した土層については八田神母谷遺跡（八田地区3区）試掘トレンチ土層断面図及び八田神母谷遺跡試掘調査出土遺物観察表を参照していただきたい。

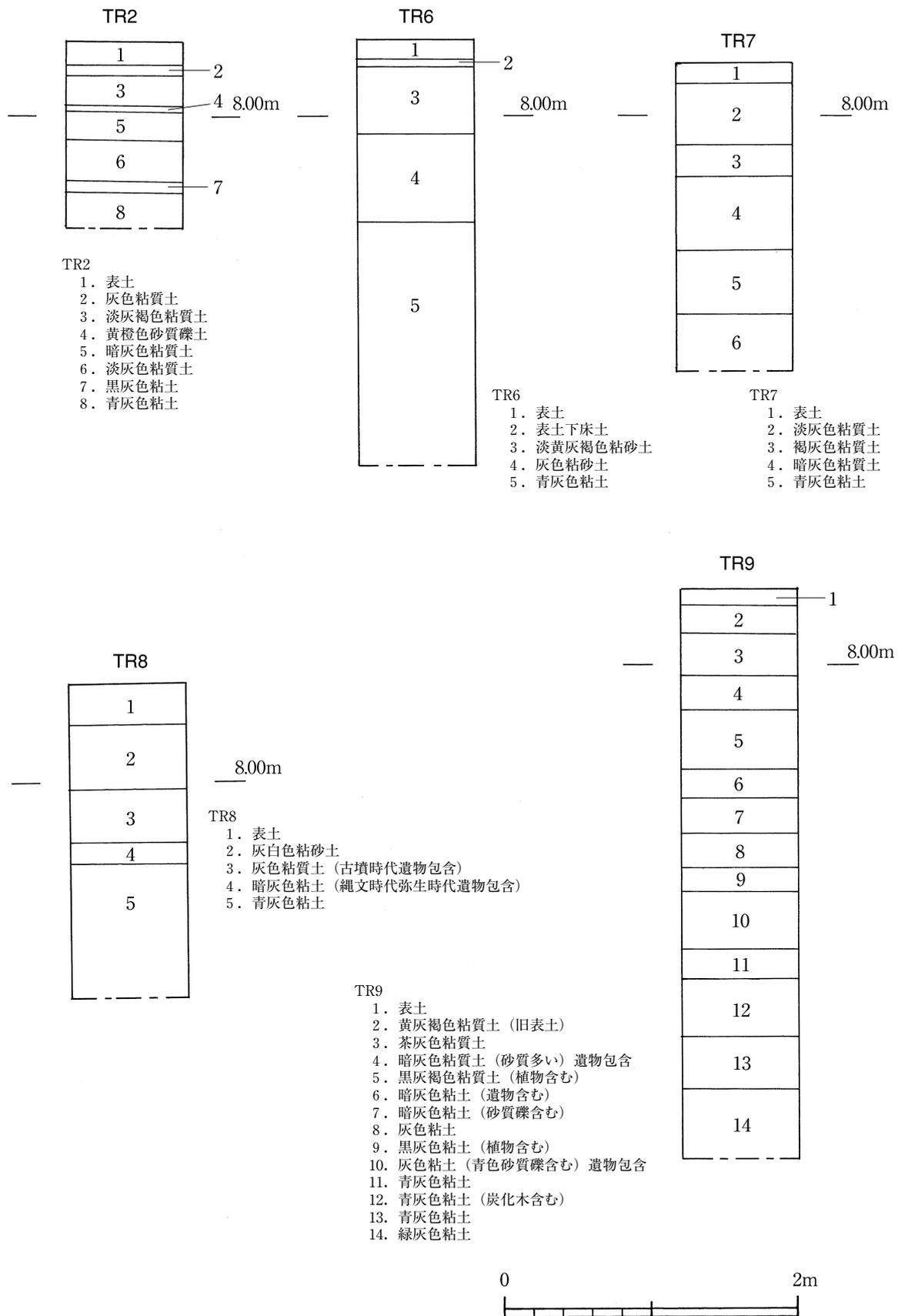


図5-3 八田神母谷遺跡 (八田地区3区) 試掘トレンチ土層断面図1

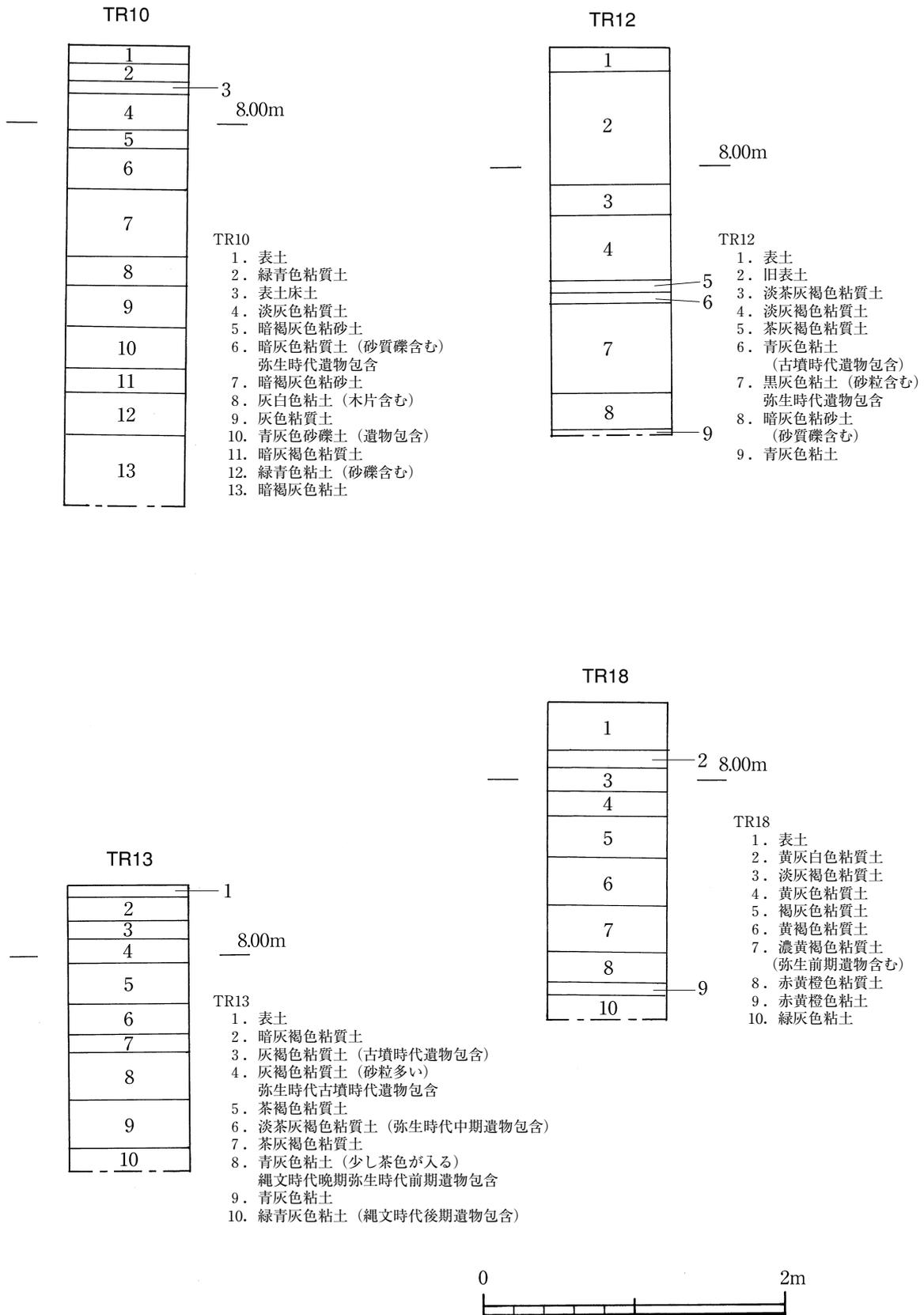


図5-4 八田神母谷遺跡 (八田地区3区) 試掘トレンチ土層断面図2

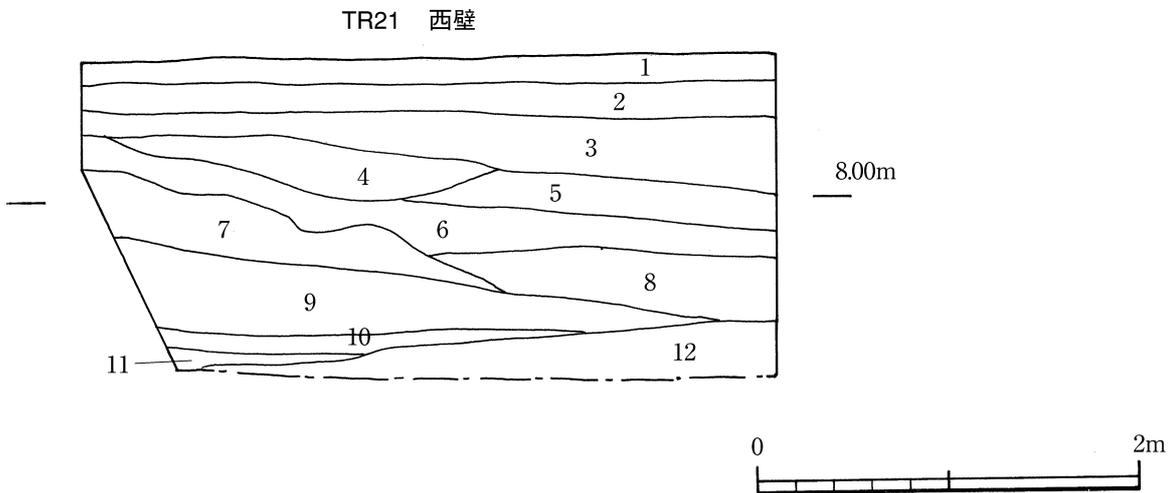
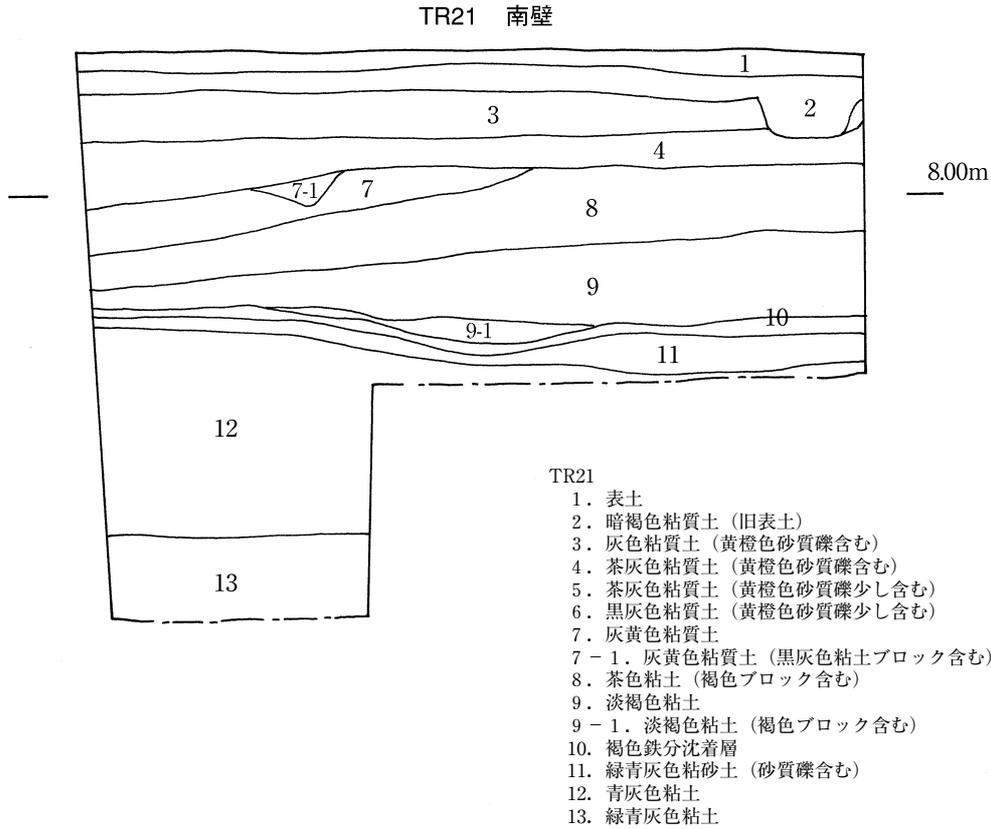
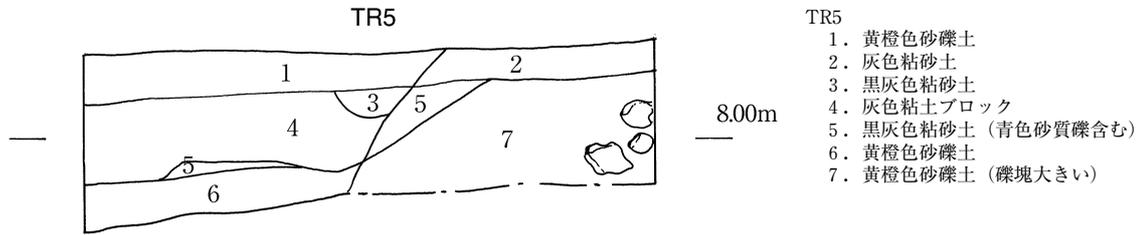


図5-5 八田神母谷遺跡 (八田地区3区) 試掘トレンチ土層断面図3

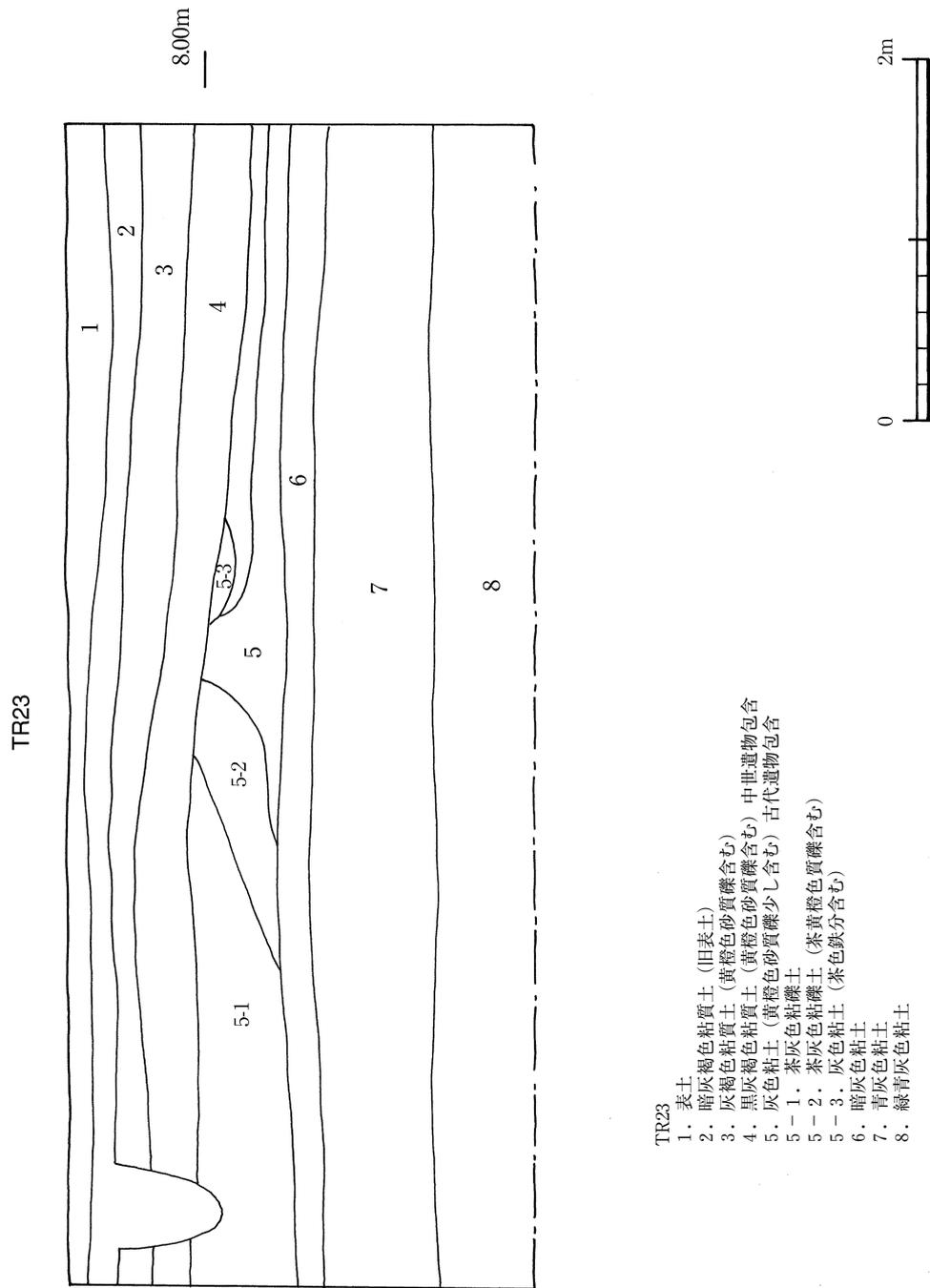


図5-6 八田神母谷遺跡 (八田地区3区) 試掘トレンチ土層断面図4

### 3. 八田地区3区試掘調査出土遺物観察表

図版番号	出土場所	器種	法量 (cm)				特徴	備考
			口径	器高	胴径	底径		
1	TR1・II層	砥石	全長10.6	全幅7.0	全厚3.7	重量(g) 384.2	石英粗面岩。5面使用。	
2	TR2・	土師器杯		(1.8)		7.3	内外面断面共ににぶい橙色。精選された胎土。内面にロクロ目。外底に弧状のにぶい沈線が数条走る。	
3	TR2・III層	白磁碗	17.2	(4.5)			内外面は灰黄色。IV類。黄白色で精緻な胎土。釉は鉛色。外面上位に施釉。	
4	TR4・IV層	土師器甕	13.9	(3.6)			内外面共ににぶい橙色。チャート他の細・粗粒砂を含む。内外面共ナデ。	
5	TR4・IV層	土師器甕	14.2	(4.0)			内面はにぶい黄褐色、外面は褐色。チャートの粗粒砂を含む。口縁内外面は縦ハケ+横ハケ。胴部外面は叩き。口縁外面は煤ける。	
6	TR4・IV層	土師器甕	17.2	(7.6)			内外面共に浅黄褐色。チャートの細・粗粒砂を含む。口唇は丸味。外面はハケ+ナデ。上胴部の粘土帯接合部より剥離。	
7	TR4・IV層	土師器甕	21.9	(7.1)			内面は褐色、外面はにぶい褐色。チャート、石英粒を含む。口縁部内外面共横ナデ。胴部外面は叩き+縦ハケ。	
8	TR4・IV層	土師器甕	18.6	(16.9)			チャートの粗粒砂を多く含む。口縁内外面共に横ハケ。胴部外面はナデ、内面は下→上の荒いヘラ削り。頸部直下に指頭圧痕が顕著。外面は激しく煤ける。	
9	TR4・IV層	土師器高杯	18.4	(6.1)			内外面共に褐色。チャートの細・粗粒砂、小礫を多く含む。杯底部との接合部で剥離。内外面共にハケ。	
10	TR4・III層	白磁碗	15.5	(4.5)			内外面は灰黄色。IV類。黄白色の胎土。外面は体部中位まで施釉。貫入あり。	
11	TR4・III層	白磁碗	17.8	(4.7)			内外面共に灰白色。白色精緻な胎土。口縁はわずかに外反。	
12	TR5・V層	弥生土器甕		(2.9)		4.8	内面は黒褐色、外面はにぶい褐色。チャートの粗粒砂を多く含む。外面は叩き、内面はハケ。底部に木葉圧痕。弥生末。	
13	TR5・V層	弥生土器甕		(7.0)		5.0	内面は黒色、外面はにぶい褐色。チャートの小礫、細・粗粒砂、雲母粒を含む。叩き+ナデ。内外面は煤けている。弥生末。	
14	TR5・V層	弥生土器甕		(4.0)		3.0	内外面共に灰褐色。チャート他の粗粒砂を含む。丸底。内底に指頭圧痕。外面は煤けている。弥生末。	
15	TR5・V層	弥生土器甕		(10.0)		3.6	内面は褐色、外面はにぶい褐色。チャートの粗粒砂を含む。外面は叩き、内面はナデ。内底は指頭圧痕が顕著。弥生末。	
16	TR5・VI層	弥生土器甕	14.2	(7.1)			内面は灰褐色、外面はにぶい褐色。チャートの細・粗粒砂を含む。外面は叩き、内面はナデ。弥生末。	
17	TR5・V層	弥生土器甕	13.6	(10.2)			内外面共に灰黄色。チャートの細・粗粒砂を含む。口唇部は面取り。口縁部外面は縦ハケ。胴部外面は叩き+縦ハケ。胴部内面は下→上のヘラ削り+縦ハケ。外面は煤ける。弥生末。	
18	TR5・IV層	弥生土器鉢	11.0	(4.4)			内外面共に褐色。チャート、風化礫の粗粒砂を含む。外面は叩き+ナデ、内面はナデ。	
19	TR5・IV層	土師器甕		(8.3)			内外面共ににぶい褐色。角閃石、長石、石英粒を多く含む。胴部内面は左→右削り。上胴部外面は縦ハケ。下半外面は擦痕。搬入品(讃岐か)。	
20	TR5・IV層	土師器甕		(3.4)		6.0	内面は褐色、外面はにぶい褐色。チャートの細・粗粒砂を含む。内外面共にナデ。外面は煤けている。	
21	TR5・V層	土師器甕	11.6	(10.6)			内面はにぶい褐色、外面はにぶい赤褐色。チャート他の粗粒砂を含む。外面は叩き+ナデ。口縁内面はハケ+ナデ。二次的に被熱。	
22	TR5・IV層	土師器甕	10.0	13.5	11.8	1.5	内面は褐色、外面は褐色。チャートの粗・細粒砂を含む。胴部外面は叩き+ナデ。内面はナデ。外面は激しく煤けている。	
23	TR5・V層	土師器甕	13.0	(14.6)			内面はにぶい褐色、外面は褐色。チャートの細・粗粒砂を含む。外面は叩き。内面はナデ。二次的に被熱赤変。	
24	TR5・IV層	土師器甕	17.1	(8.9)			内面はにぶい黄褐色、外面は黒褐色。口縁部内外は横ナデ。胴部内外面はハケ。胴部外面に大きな黒斑あり。外面は煤けている。	
25	TR5・V層	土師器甕	17.0	(3.5)			内面は黒褐色、外面は灰黄褐色。石英、雲母、角閃石を含む。外面が激しく煤けている。口縁上部を強く折り返し、端部をつまみ上げる。	
26	TR5・IV層	土師器甕	25.2	(7.2)			内面は褐色、外面はにぶい褐色。チャートの粗粒砂を多く含む。口縁内外面は横ナデ。胴部外面は叩き、内面はナデ。口唇はやや肥厚。	

八田神母谷遺跡出土遺物観察表 1

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
27	TR5・IV層	土師器甕	13.8	(10.0)			内外面共ににぶい橙色。チャートの粗粒、長石の細粒を含む。外面は叩き+ナデ。胴部内面は中位以下は左→右のヘラ削り。	
28	TR6・V層	石器・刃器	全長7.3	全幅4.0	全厚0.7	重量(g) 23.8	頁岩。主面の一部を研磨。刃部は両面から押圧剥離。縄文か。	
29	TR6・II層	石器・打製石 包丁	全長5.2	全幅9.3	全厚9.5	重量(g) 62.5	頁岩。片面に自然面を残す。	
30	TR8・IV層	縄文土器深鉢	22.2	(4.2)			内面は灰黄褐色、外面はにぶい黄褐色、断面は褐灰色。チャート他の細粒砂を含む。口縁外面は半裁竹状工具の刺突文。内外面に条痕。内外面に煤け。縄文晩期。	
31	TR8・IV層	弥生土器壺	20.0	(7.5)			内外面共に橙色。チャート他の細・粗粒砂を含む。内外面共横ナデ調整。弥生後期。	
32	TR12・	土師器高杯		(9.4)		11.8	内外面共に橙色。チャート他の細・粗粒砂を多く含む。内外面共ナデ。	
33	TR12・	土師器高杯	16.0	(5.8)			内外面共に橙色。長石チャートの粗・細粒砂を含む。外面は縦ハケ+横ナデ、内面は横ハケ+ナデ。	
34	TR14・V層	弥生土器壺		(13.0)			内面は灰白色、外面はにぶい黄褐色。石英、長石の粗・細粒砂を含む。内外面共ハケ+ナデ。底部付近に大きな黒斑あり。弥生後期。	
35	TR16・IV層	須恵器杯		(1.9)		11.3	内外面共に灰白色。長石の細・粗粒砂を含む。豊付けが凹状。外底は削り+ナデ。内外面共横ナデ。	
36	TR16・III層	須恵器長頸壺		(9.4)			内外面共に灰白色。精選された胎土。口縁下に2条の浅い凹線。	
37	TR18・VII層	弥生土器壺	5.6	9.6		5.8	内面は橙色、灰黄褐色。チャート他の細・粗粒砂を含む。外面はハケ+ナデ。上底。弥生前期。	
38	TR18・VII層	弥生土器壺		(6.0)			内面は浅黄褐色、外面はにぶい橙色。チャートの粗粒、長石の細粒を含む。外面はハケ+ヘラ磨き。内面は指頭圧痕。外面に3条の横位沈線、沈線帯の上に縦の沈線帯。弥生前期。	
39	TR13・X層	縄文土器鉢	35.3	(9.3)			内面は明褐色、外面は黒褐色。長石、石英粒を多く含む。口縁に4条の沈線、各沈線は連結せず端部に縦の短沈線。上から2段目の沈線に刺突、文様集約部の下端にRの短沈線を巡らす。LRの縄文。胴部外面はヘラ磨き。胴部は激しく煤けている。縄文後期、伊吹町式。	
40	TR13・X層	縄文土器深鉢	33.4	(14.0)			内面は黄灰色、外面は灰黄褐色。チャートの細・粗粒砂を含む。外面は条痕、内面はナデ。外面は煤けている。縄文晩期。	
41	TR13・VIII層	縄文土器深鉢					内面は褐灰色、外面はにぶい黄褐色。チャートの粗粒砂を含む。外面に条痕。口縁には刻目突帯。縄文晩期。	
42	TR13・VIII層	縄文土器深鉢					チャートの粗粒砂を含む。内外面共に横位削痕+ナデ。口縁には刻目突帯。縄文晩期。	
43	TR13・VIII層	縄文土器深鉢					内面は黄灰色、外面はにぶい黄色。チャートの粗粒砂を含む。内外面共ナデ。口縁には刻目突帯。口唇に刻み。	
44	TR13・VIII層	縄文土器深鉢					内面は黄灰色、外面はにぶい黄色。石英、長石、金雲母を含む。口唇は刻。外面は複線山形文。内外面共ナデ。縄文晩期。	
45	TR13・VIII層	縄文土器深鉢	16.5	(4.7)			内外面共に黒色。チャートの粗粒・小礫を含む。内外面共擦痕+ナデ。内外面共煤けている。縄文晩期。	
46	TR13・IV層	弥生土器壺	16.6	(4.7)			内外面共ににぶい橙色。長石、チャートの細・粗粒砂を多く含む。外面に4条の隆帯、口縁外に短沈線。弥生中期末。	
47	TR13・IV層	弥生土器壺	15.0	(3.3)			内外面は灰白色、断面は灰色。長石、チャートの細・粗粒砂を含む。外面に隆帯3条、口縁外面に短沈線。弥生中期末。	
48	TR13・VI層	弥生土器壺	10.0	(3.5)			内外面共に浅黄褐色。チャートの細・粗粒を多く含む。外面は櫛描直線文+隆帯、口縁外面に短沈線。弥生中期末。	
49	TR13・V層	磨製石斧	全長14.2	全幅5.5	全厚2.1	重量(g) 307.4	伐採斧。結晶片岩。基部欠損、刃部も大部分欠損。円基、刃部に向かってそれほど幅は広がらない。	
50	TR13・V層	磨製石斧	全長13.6	全幅6.4	全厚3.2	重量(g) 348.7	伐採斧。結晶片岩。円基、刃部に向かって幅を増す。敲打痕が顕著にみられる。	
51	TR19・II層	磁器碗	11.4	(4.0)			灰白色で堅緻な胎土。釉は透明で、貫入がある。	
52	TR21・III層	須恵器杯	16.0	(4.1)			内外面断面共に灰白色。精選された胎土。内外面共横ナデ。	
53	TR21・III層	須恵器杯		(2.4)		10.2	内外面断面共に灰白色。精選された胎土。しっかりした高台を有す。内外面共横ナデ。外底が煤けている。	

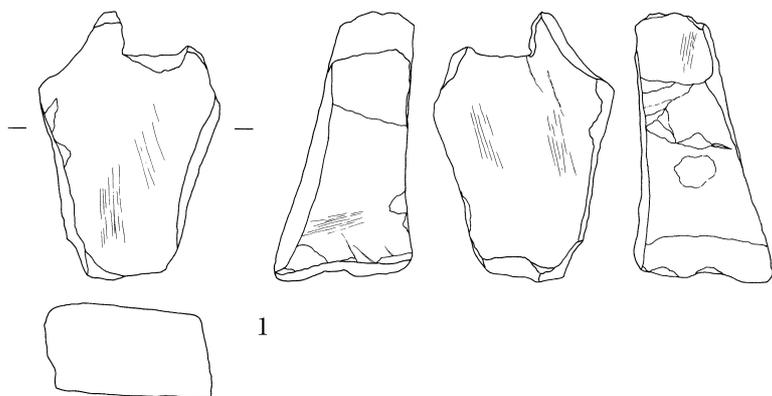
八田神母谷遺跡出土遺物観察表2

図版 番号	出土場所	器 種	法 量 (cm)				特 徴	備考
			口 径	器 高	胴 径	底 径		
54	TR21・Ⅲ層	須恵器蓋		(1.3)		13.4	内外面断面共に灰白色。精選された胎土。内外面共に横ナデ。つまみが付くタイプ。	
55	TR21・Ⅵ層	弥生土器甕		(18.9)		4.2	内面は灰色、外面はにぶい橙色。チャートの細・粗粒砂を多く含む。外面はハケ、内面はヘラ削り+ナデ。外面は煤けている。	
56	TR23・Ⅳ層	土師器杯		(1.5)		4.2	内面は浅黄橙色、外面は灰白色。精選された胎土。糸切り。	
57	TR23・Ⅳ層	土師器杯		(2.4)		6.5	内外面断面共ににぶい橙色。赤色風化礫の細・粗粒砂を多く含む。糸切り。高台脇が面をなす。内面のロクロ目をナデ消している。	
58	TR23・Ⅲ層	土師器杯		(1.8)		7.2	内外面共に浅黄橙色。石英の細・粗粒砂を多く含む。糸切り。外底に平行圧痕あり。内外面共器表の荒れが激しい。	
59	TR23・Ⅴ層	土師器杯		(3.0)		6.4	内外面共に浅黄橙色。砂粒をほとんど含まない。外底に平行圧痕あり。	
60	TR23・Ⅳ層	須恵器杯		(1.9)		7.5	精選された胎土。内外面共横ナデ。畳付けが凹状の低い高台。	
61	TR23・Ⅳ層	須恵器杯	12.0	(2.9)			内外面共に灰色。精選された胎土。内外面共横ナデ。	
62	TR23・Ⅳ層	須恵器杯	15.4	(4.3)			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共横ナデ。	
63	TR23・Ⅳ層	須恵器椀	14.5	(2.7)			内外面共に灰色。長石の細粒砂を含む。内外面共横ナデ。	
64	TR23・Ⅳ層	土師器羽釜	30.2	(5.3)			内面はにぶい黄橙色、外面は淡黄色。石英粗粒砂を多く含む。鏝の上下は横ナデ。胴部外面は縦ハケ。	
65	TR23・Ⅳ層	土師器羽釜	17.0	(6.3)			内面は灰白色、外面はにぶい黄橙色。長石、石英、雲母粒を多く含む。搬入。	
66	TR23・Ⅳ層	須恵器蓋	12.3	(1.7)			内外面共に灰色。精選された胎土。内外面共横ナデ。	
67	TR23・Ⅳ層	須恵器皿	14.0	(2.0)			内外面共に灰白色。精選された胎土。内外面共横ナデ。丁寧なつくり。	
68	TR23・Ⅳ層	須恵器コネ鉢		(6.6)		10.7	内外面断面共に灰色。長石他の細・粗粒砂を含む。内外面共横ナデ。	
69	TR23・Ⅴ層	須恵器皿		(2.5)		18.0	内外面断面共に灰白色。精選された胎土。内外面共横ナデ。	
70	TR23・Ⅴ層	瓦器椀		(1.0)		7.5	内面は黄灰色、外面断面はにぶい黄橙色。精選された胎土。内面はヘラ磨き。しっかりした高台。	
71	TR23・Ⅴ層	瓦器椀	15.2	3.9		4.0	内面は灰白色、外面は褐灰色。チャート他の細・粗粒砂を含む。口縁内外は横ナデ。外面は指頭圧痕。断面が三角形のしっかりした高台。	
72	TR23・Ⅳ層	瓦器椀	15.4	4.8		4.5	内外面共に黒褐色。細粒砂を含む。外面上部は水平方向に磨き、外面に指頭圧痕。内面は少々斜めに磨き。見込みには荒い平行線状の暗文。高台は断面が半円形。口縁端部は丸く。和泉型。	
73	TR23・Ⅳ層	瓦器椀	16.0	(5.1)			内外面共に暗灰色。チャートの細・粗粒砂、長石の細粒砂を多く含む。口縁内外は横ナデ。体部外面は指頭圧痕が顕著、体部内面はヘラ磨き。	
74	TR23・Ⅳ層	黒色土器椀	14.3	(4.2)			内面は灰色、外面はにぶい橙色。精選された胎土。内黒。内面はヘラ磨き、外面は指頭圧痕が顕著。	
75	TR23・Ⅳ層	同安窯青磁碗		(4.2)		5.0	内外面共にオリーブ黄色。灰色で堅緻な胎土。釉は鉛色で、高台脇付近まで施釉。内外面共轍目。	
76	TR23・Ⅴ層	石器	全長25.5	全幅7.1	全厚2.0	重量(g) 593.0	両側縁に2箇所ずつ大小の敲打による狭まりがある。	
77	TR24・	磁器皿	20.8	(3.2)			内外面はオリーブ黄色、断面は灰白色。灰色で堅緻な胎土。釉は鉛色で、貫入あり。	
78	TR28・Ⅳ層	須恵器杯	12.7	4.5		9.2	内外面共に灰色。精選された胎土。内外面共横ナデ。	
79	TR28・Ⅲ層	須恵器鉢	17.0	(2.5)			内外面断面共に灰白色。精選された胎土。内外面共横ナデ。	
80	TR29・Ⅲ層	肥前系皿		(1.6)		4.7	内外面共に灰白色。灰色で堅緻な胎土。断面が方形のしっかりした削り出し高台。内面は銅緑釉。見込みは蛇ノ目状に剥ぎ取る。畳付けに目跡が付着。	
81	TR30・	古銭					元豊通宝	
82		瓦器椀		(1.0)		5.0	内外面は灰色、断面は灰黄色。精選された胎土。しっかりした高台。	
83		瓦器椀		(1.4)		5.1	内面は灰色、外面断面は浅黄色。チャート他の細・粗粒砂を含む。断面が三角形の細い高台。	
84		瓦器椀		(0.8)		5.0	内面は灰白色、外面は灰色。精選された胎土。内面に暗文。断面が台形のしっかりした高台。	

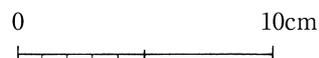
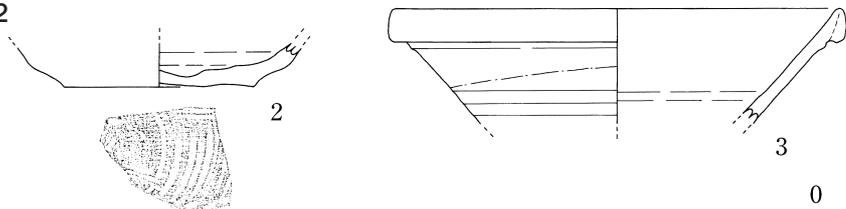
八田神母谷遺跡出土遺物観察表 3

### 4. 八田地区3区試掘調査出土遺物実測図

TR1



TR2



TR4

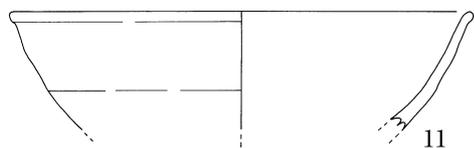
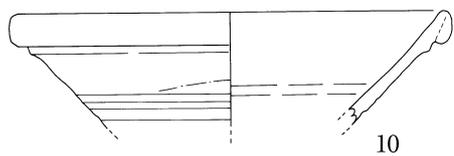
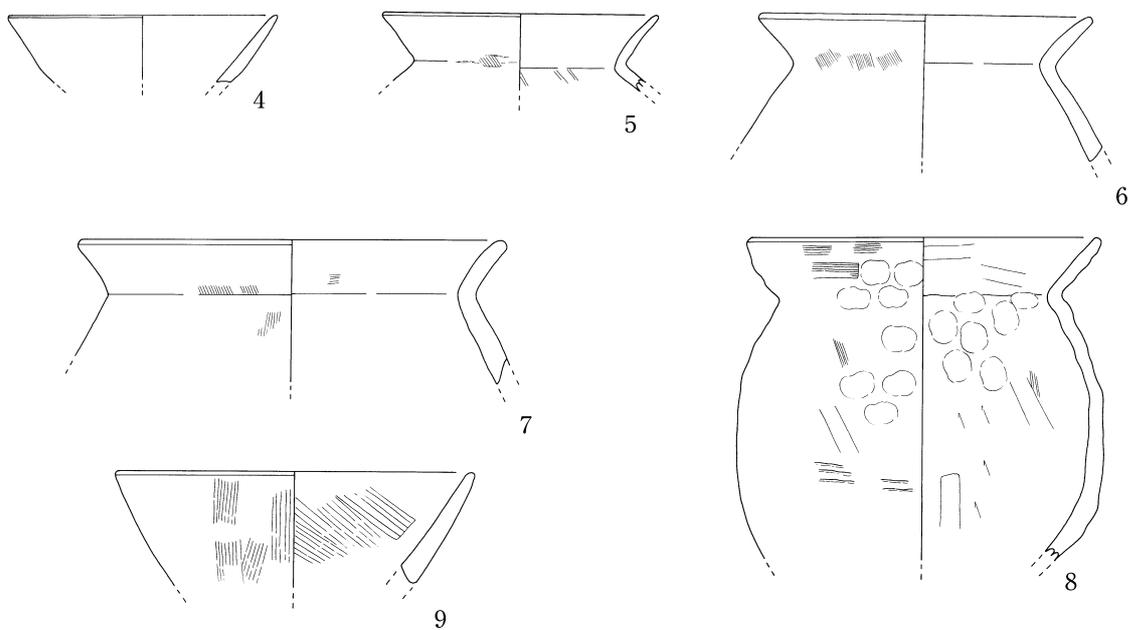


図5-7 八田地区3区試掘 TR1・2出土遺物

TR5

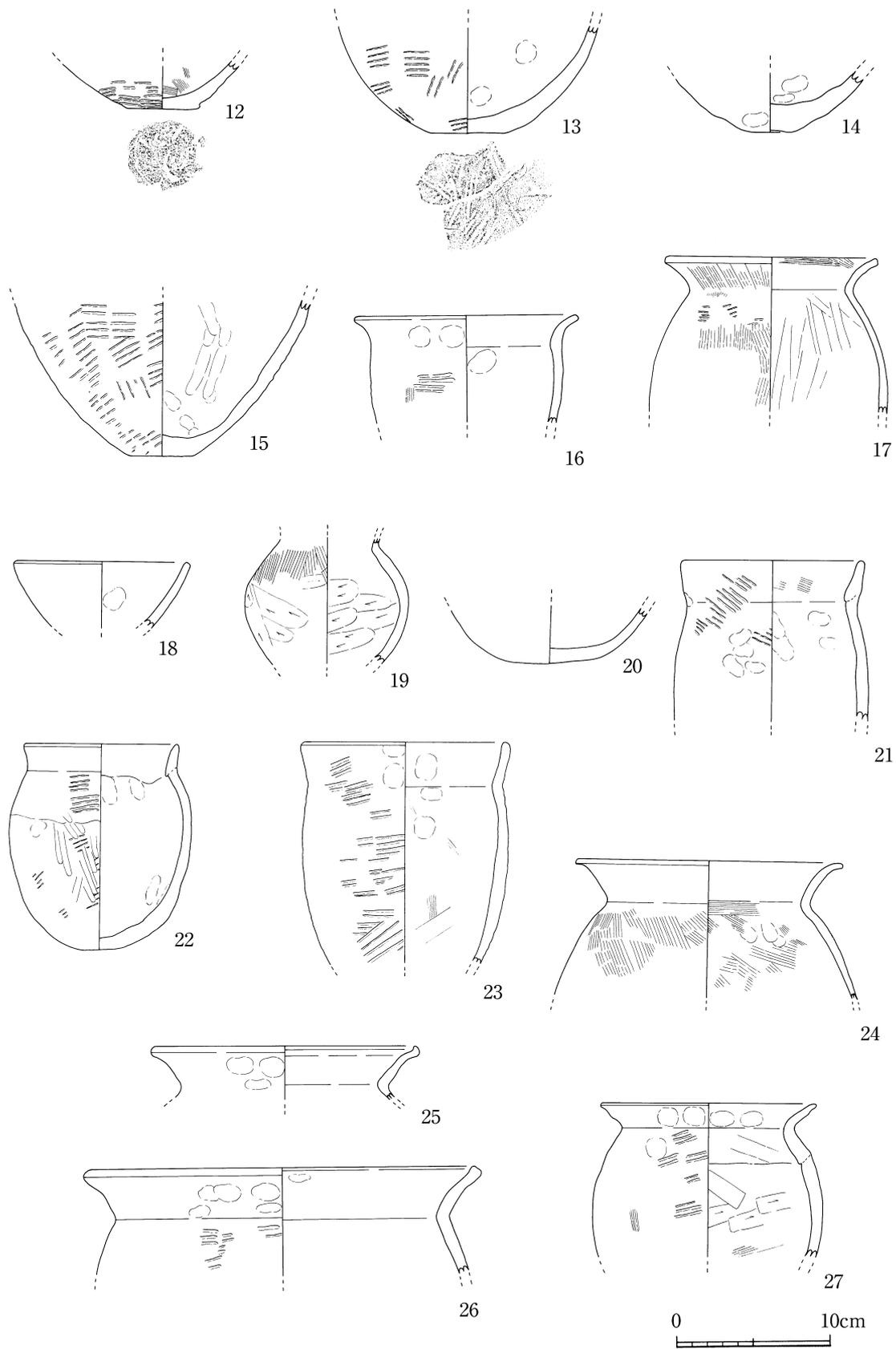
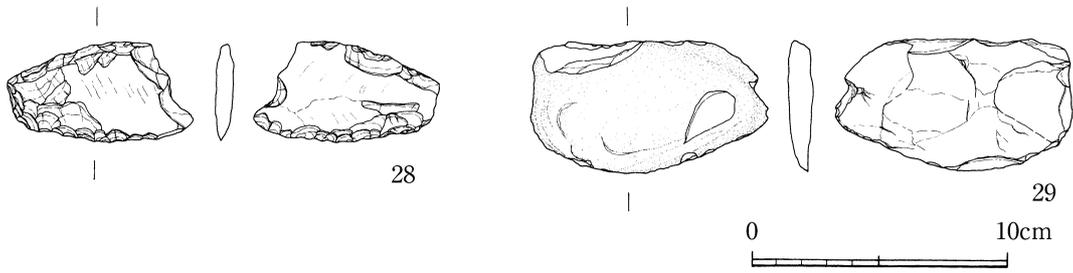
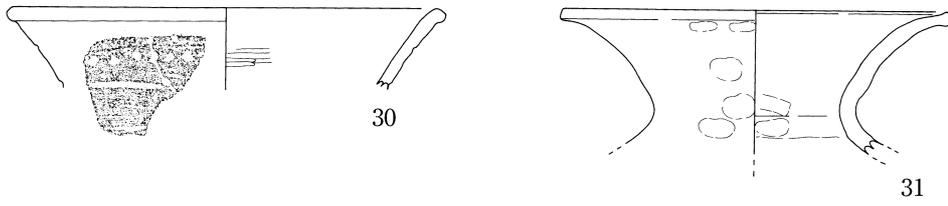


図5-8 八田地区3区試掘 TR5出土遺物

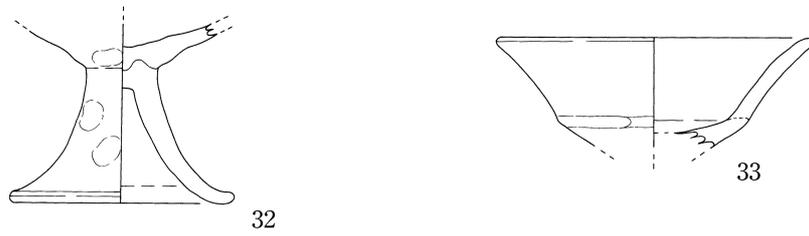
TR6



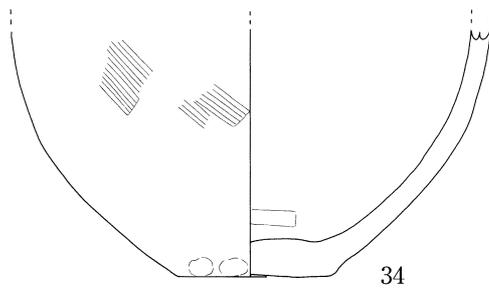
TR8



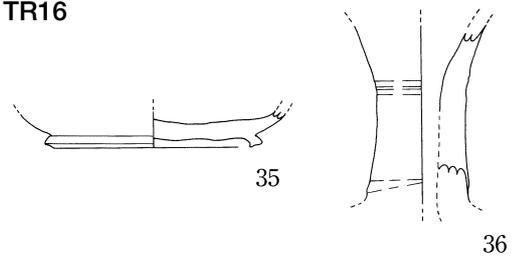
TR12



TR14



TR16



TR18

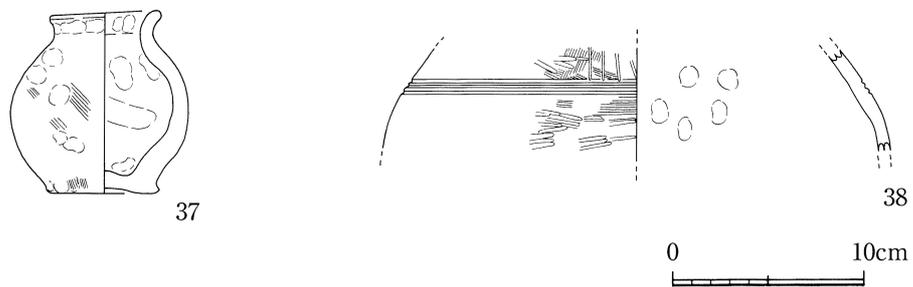


図5-9 八田地区3区試掘 TR6・8・12・14・16・18出土遺物

TR13

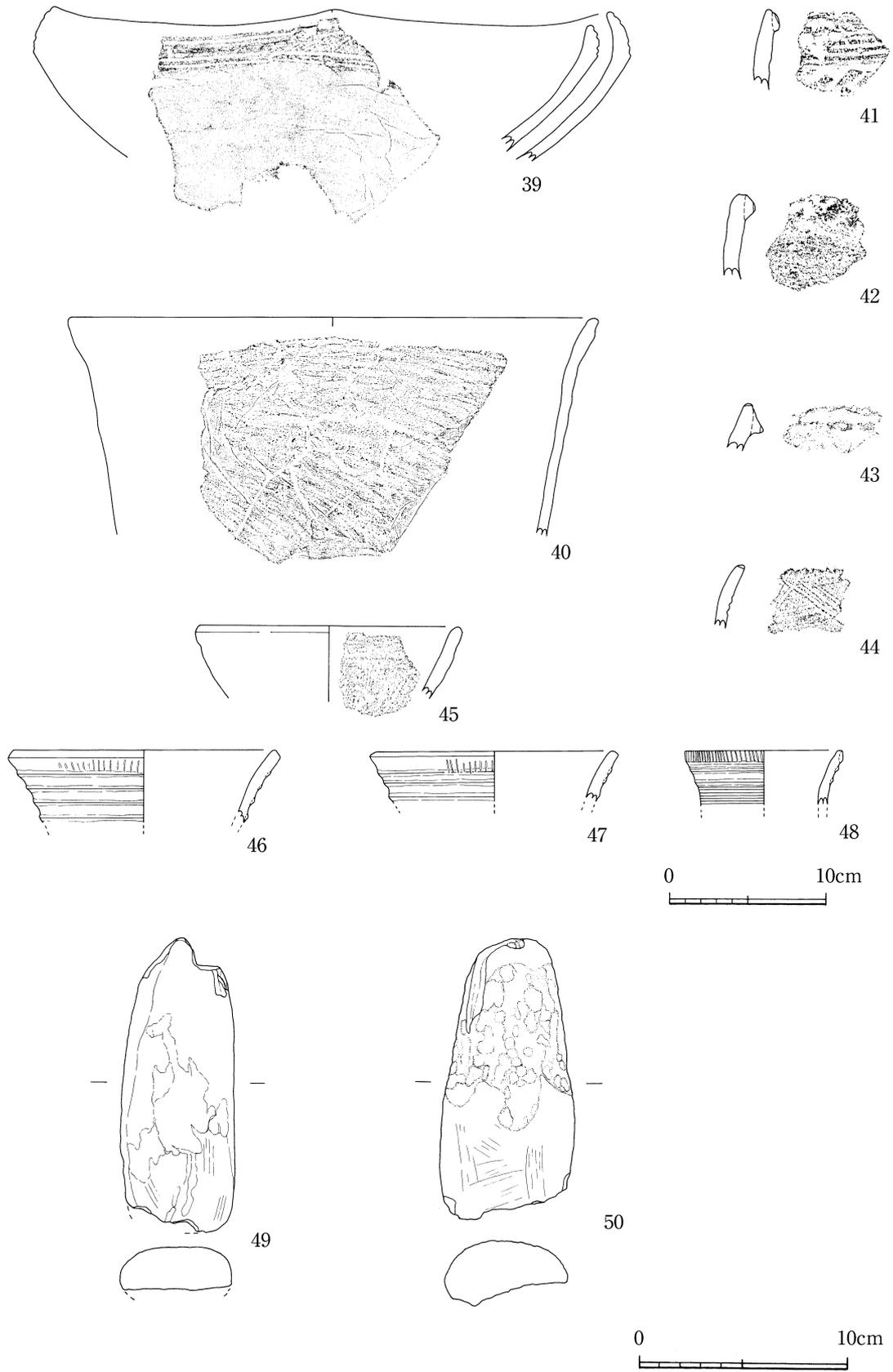


图 5-10 八田地区 3 区试掘 TR13 出土遗物

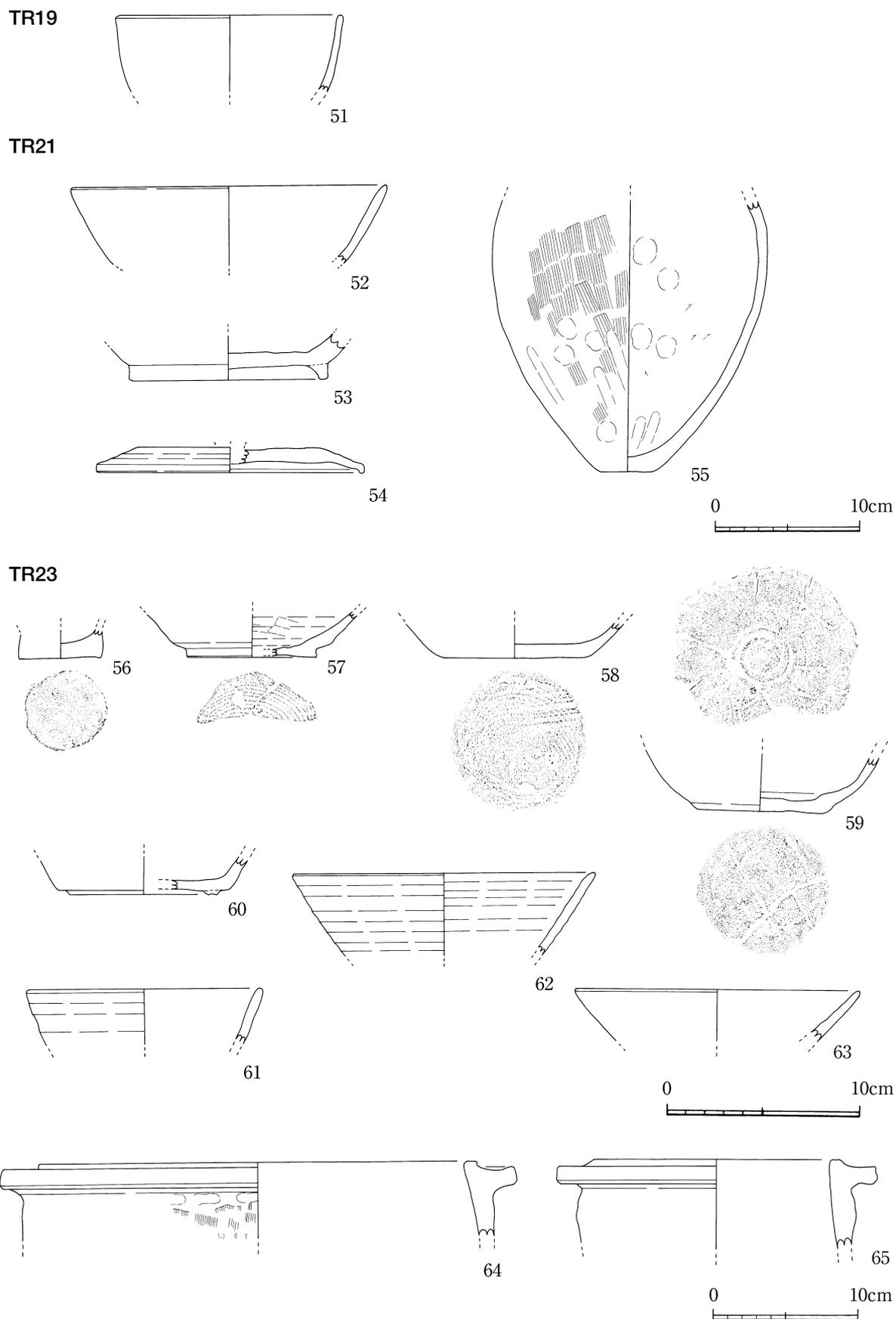


図5-11 八田地区3区試掘 TR19・21・23出土遺物

TR23

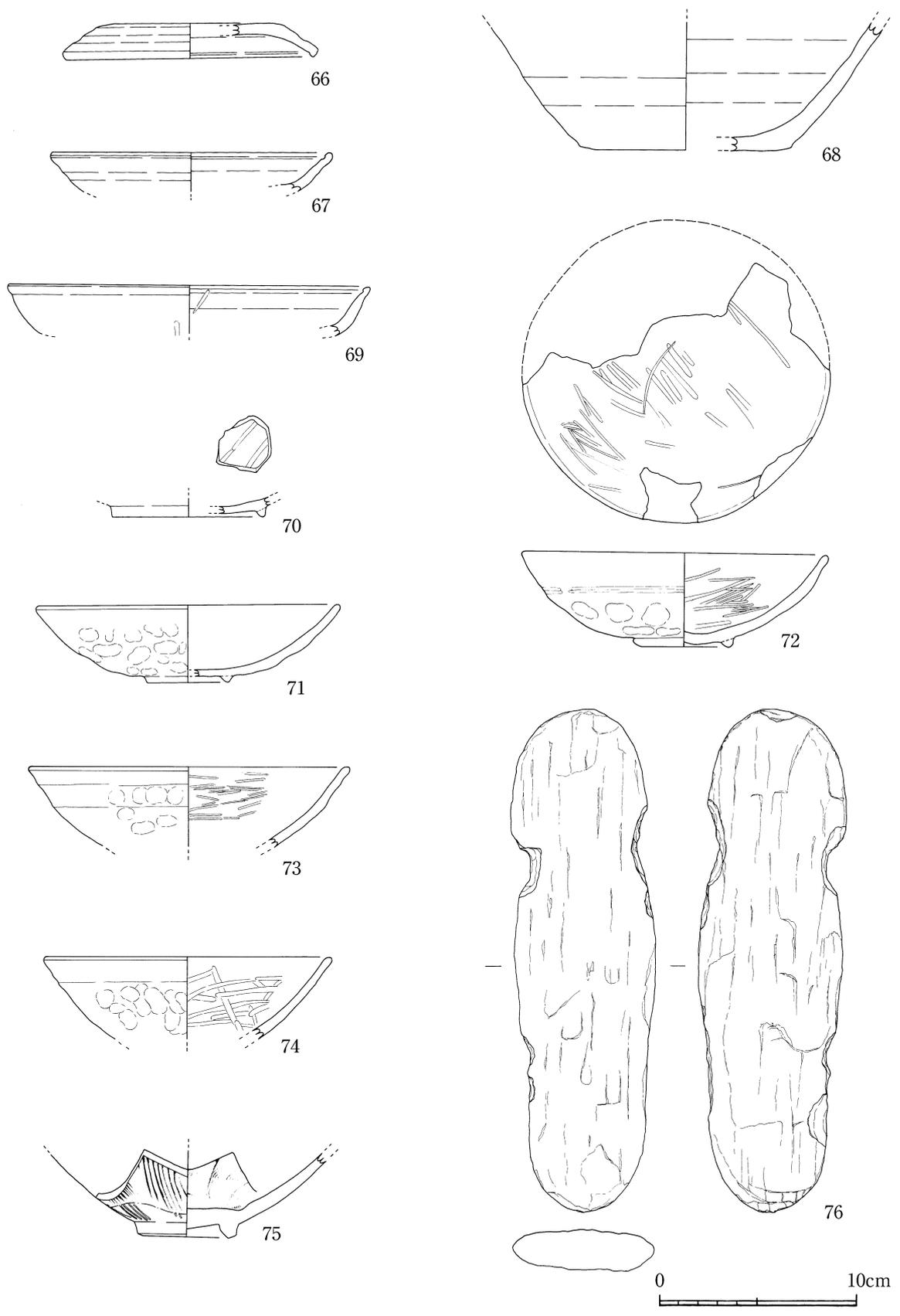
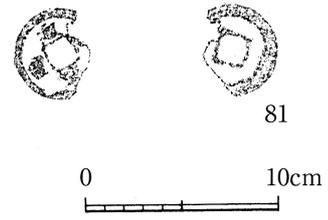
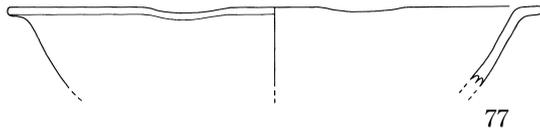
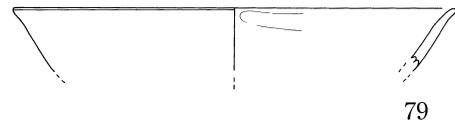
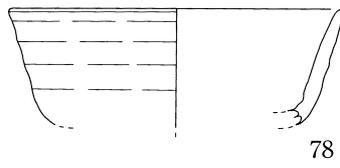


图 5-12 八田地区 3 区试掘 TR23 出土遗物

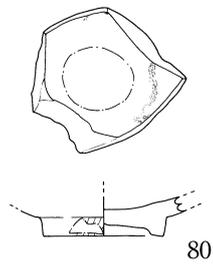
TR24



TR28



TR29



その他

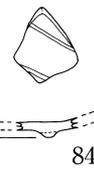
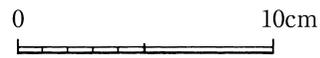
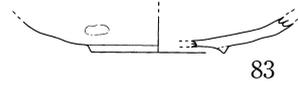
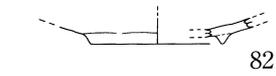


図5-13 八田地区3区試掘 TR24・28・29・その他出土遺物



## 5. 八田地区3区試掘調査写真図版

PL 25



八田地区3区試掘調査前風景



八田地区3区試掘調査前風景



八田地区 3区試掘作業風景 TR2

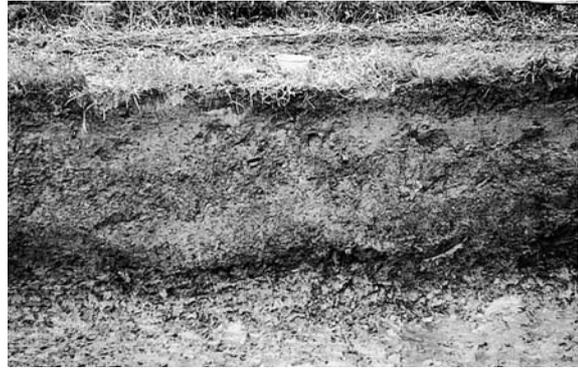


八田地区 3区試掘作業風景 TR5

PL27



TR2



TR4



TR5



TR6



TR7



TR8



TR10



TR12

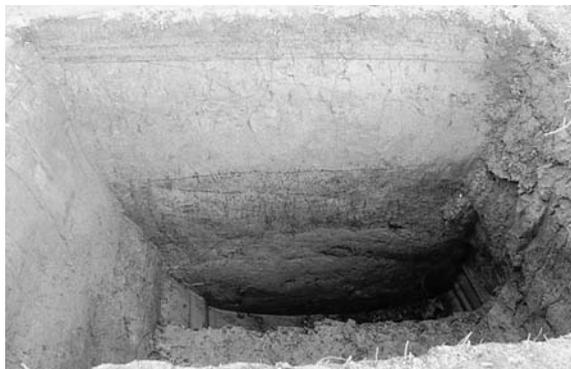
八田地区3区試掘



TR13



TR18



TR20



TR21



TR23



TR28



TR29



TR30

八田地区 3 区試掘

PL 29



TR5

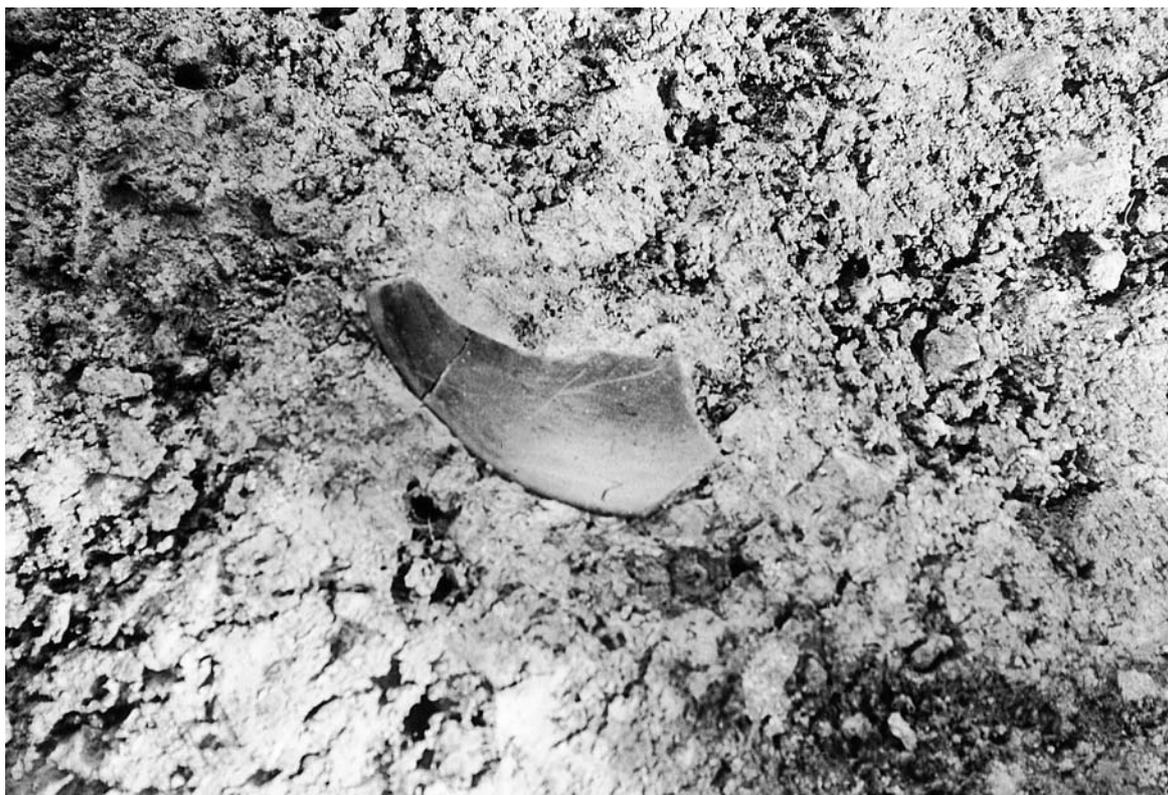


TR18

八田地区3区試掘遺物出土状況



TR21



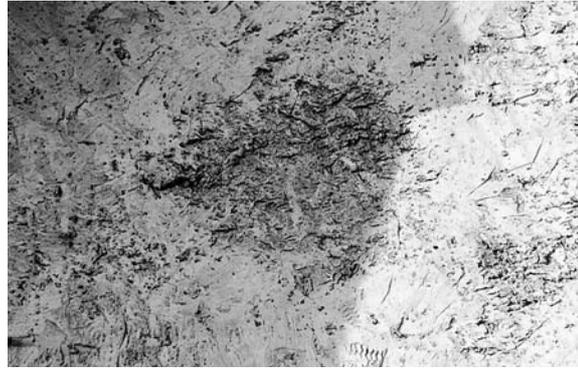
TR23

八田地区 3 区試掘遺物出土状況

PL 31



TR4



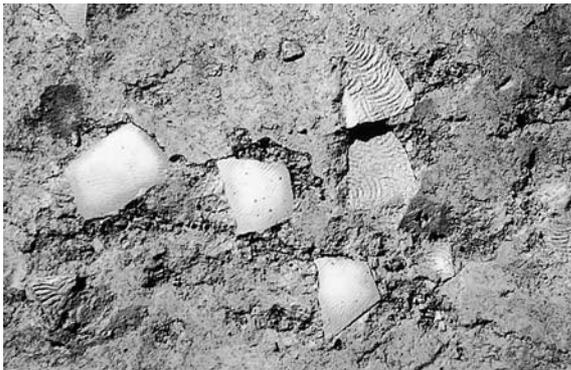
TR13



TR13



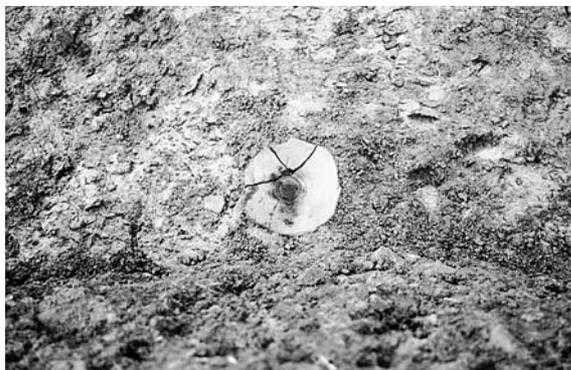
TR13



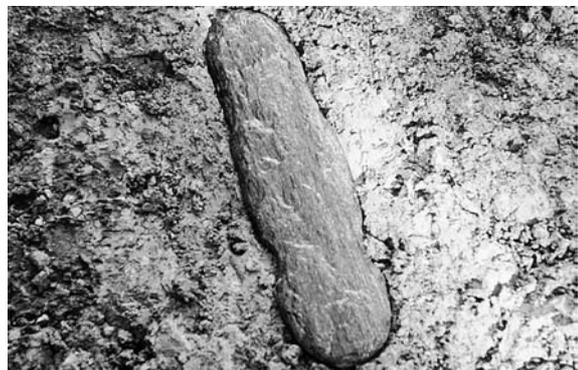
TR13



TR13



TR23



TR23

八田地区3区試掘遺物出土・遺構検出状況



8 (TR4)



13 (TR5)



15 (TR5)



19 (TR5)



22 (TR5)



24 (TR5)

八田地区 3区試掘出土遺物

PL 33



31 (TR8)



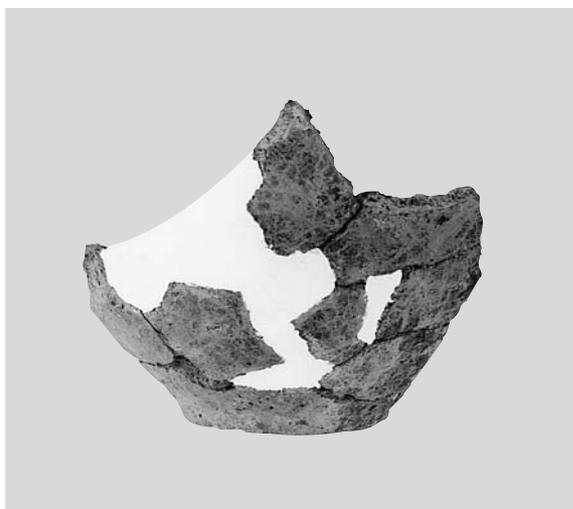
32 (TR12)



33 (TR12)



55 (TR21)



34 (TR14)



37 (TR18)

八田地区3区試掘出土遺物



71 (TR23)



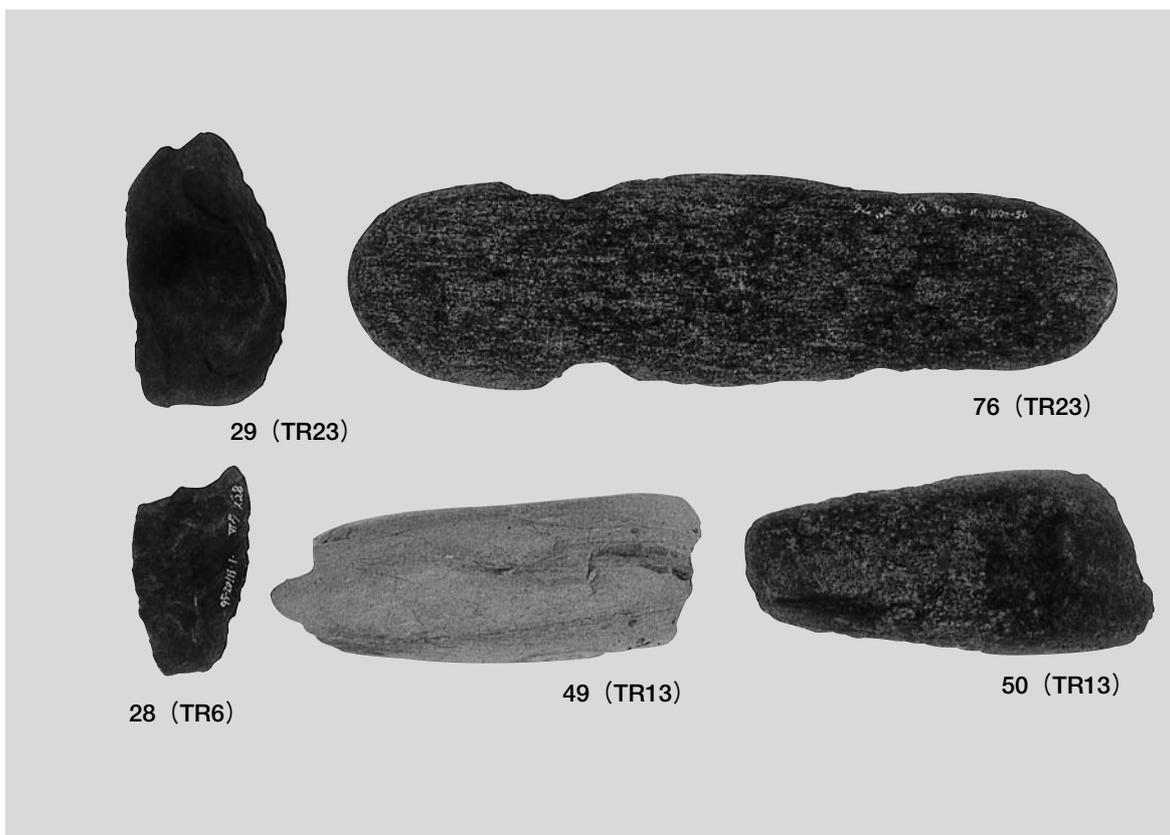
38 (TR18)



75 (TR23)



81 (TR30)



29 (TR23)

76 (TR23)

28 (TR6)

49 (TR13)

50 (TR13)

八田地区 3 区試掘出土遺物

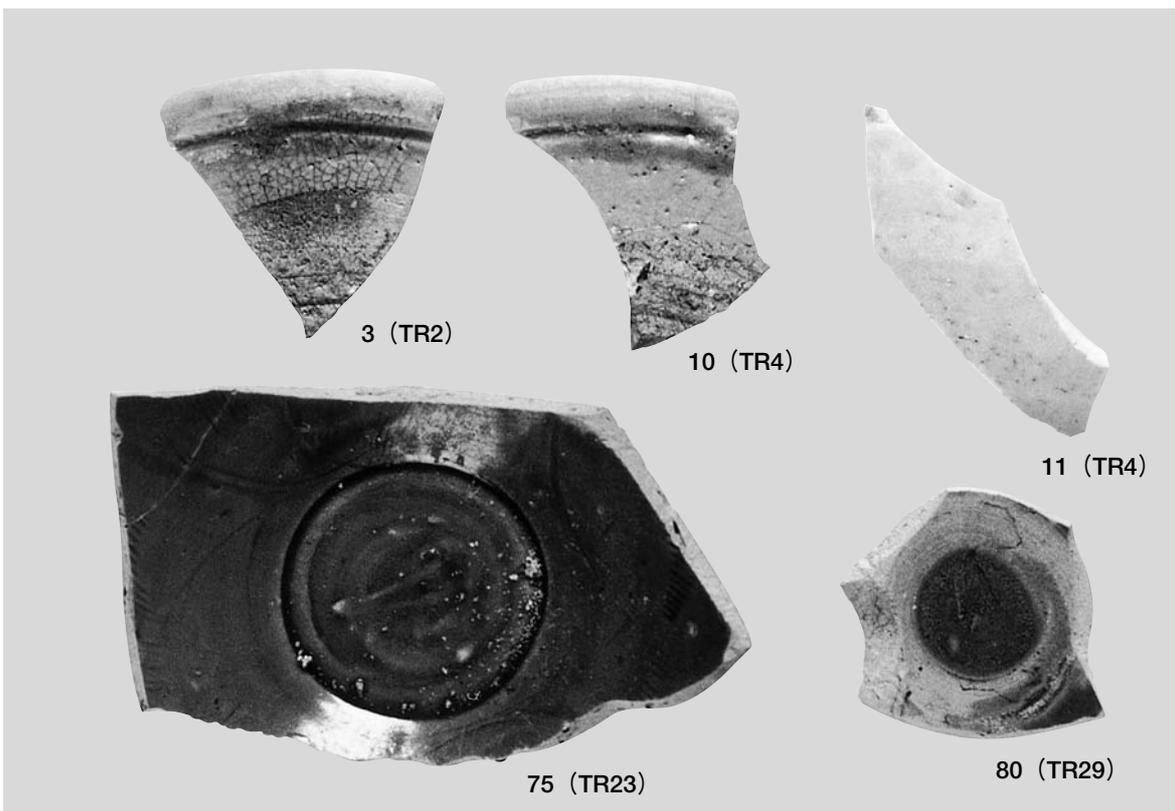
PL 35



39 (TR13)



40 (TR13)



3 (TR2)

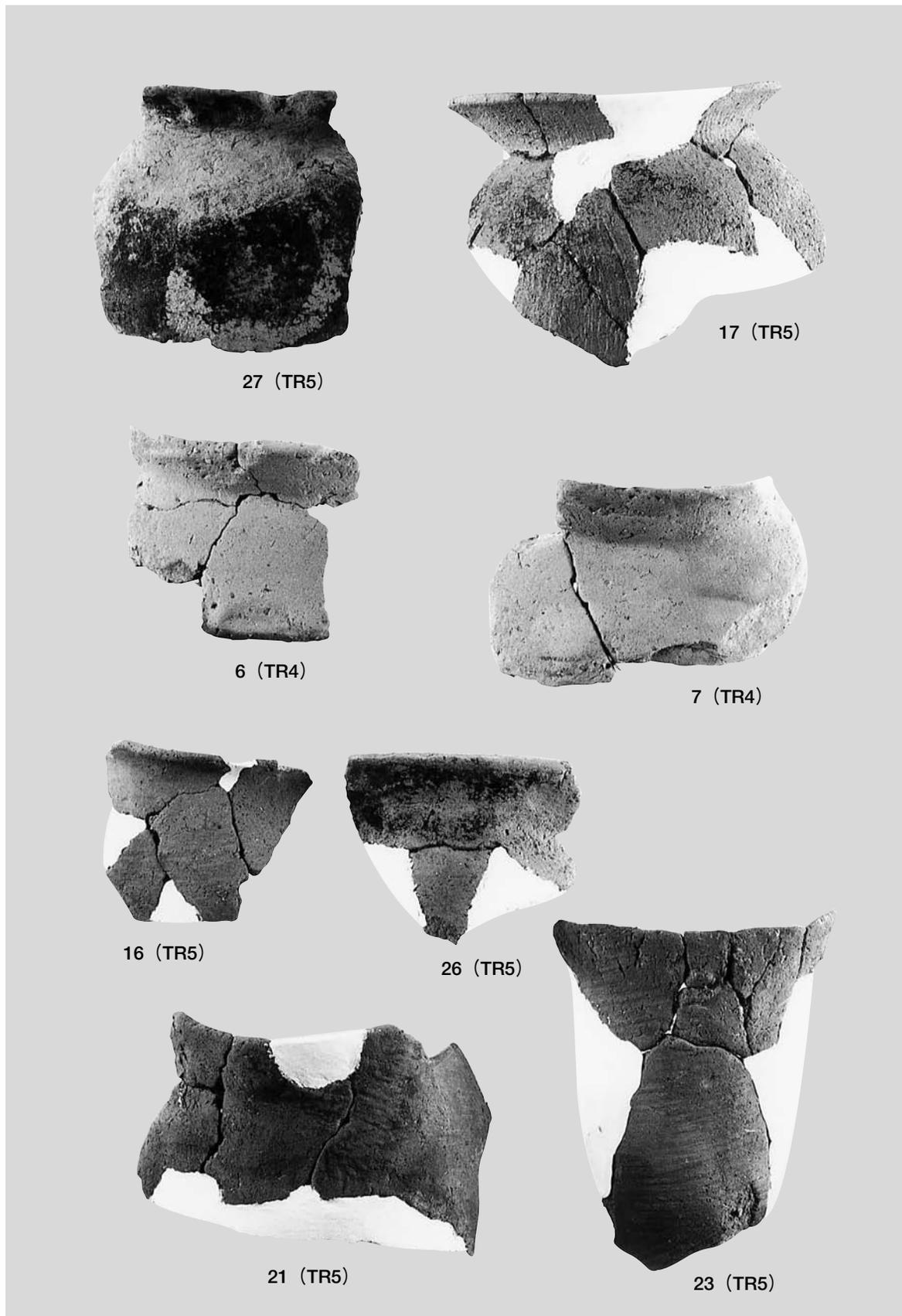
10 (TR4)

11 (TR4)

75 (TR23)

80 (TR29)

八田地区3区試掘出土遺物



八田地区 3 区試掘出土遺物

## 第Ⅵ章 考 察

### 1. 八田奈呂遺跡について中世・近世における状況

八田奈呂遺跡の調査成果の中心である時代とも言える中世・近世についてであるが、それぞれの時代の検出された遺構、出土した遺物から見て、この地で人々の生活が着実に、精力的に営まれていたことが断定できる。遺構については八田奈呂遺跡調査成果で述べたとおりであり多くの掘っ建て柱建物が存在したものと考えられる。遺物についてだが、まず19区から出土している福建省漳州窯産の陶胎染付けの小皿であるが、この時期の中国の状況等も原因として流通量が多くなく、高知県でも出土例があまり聞かれない。高級品ではないということはあるにしても、珍しい物がこの八田奈呂の地において使用されていたという事実は存在するわけである。また、景德鎮の染付け等高級品の出土や、国内産各種の陶磁器の出土もあり、中身の濃い生活が伺えるわけである。龍泉窯の青磁や、白磁の出土も多く中世から近世への充実した生活内容が推測できる。ただ、中世から近世へ移り変わる時期に、八田奈呂において、この地の有力者の移り変わりがあったことは、他の文献等の記録により知ることができる。これは高知の他の地域、この周辺でも言えることだが、戦国の世で支配領域の大きな変化、流れが、ここでも影響して、ある程度の力を持っていた一領具足が盛衰をたどり、近世の安定した世の中を迎えこの八田でも状況が大きく変化しているようである。この時代の内容については、『八田奈呂遺跡Ⅱ』において、文献等記録を参考に再度考察していく予定である。

また、今回検出した道路状遺構と、その近くに存在していたとされる御堂についても、それらの関連性を文献等参考に『八田奈呂遺跡Ⅱ』において考えてみたいと思っている。

八田奈呂遺跡が長い年月延々と続いた集落であったことは間違いのない事実であり、そこでの人々の生活は今回の調査により部分的ではあるが目にする事ができたと思われる。

### 2. 八田栃谷遺跡における祭祀の位置づけ

八田栃谷遺跡において祭祀が行われていたことはほぼ間違いのないと思われるが、それは何のために行われていたのかということだが、それを断定することはできないので、幾つかの考えられることを挙げてみたい。

まず一つは、このすぐ近くに年間を通して常に水が安定して湧いている場所があり、それにより小川が形成され現在では水稲栽培が行われている。この遺跡の周辺には生活可能な場所も存在し、当時も現在でも欠かすことのできない水に対する思いを形に表したものの。

次に、上でもあるように稲作が行われていた可能性が高く、それに関する豊作を願うといったような意味を持つもの。

そして次に、ここは仁淀川の東岸であり、支流奥田川が仁淀川に流れ込むすぐそばである。弥生

時代、古墳時代の仁淀川の水位、川底の標高は現在と差があったにせよ、その川の影響は大きかったと考えられる。現在河川は改修、整備され土手も築かれ、奥田川からの水門、排水用のポンプも備えられているが、それでも発掘調査の終了した年にも大雨の際にこの周辺は完全に水面下になってしまったことがあった。他の河川も同様であろうが、仁淀川の場合もここで雨が多く降らなくとも、上流域で雨が降った場合短時間の内に水位が上がり川は見違えるような激流となり土手から土手までを完全に水で覆って進んでいる。そういうことが時々ある。当時川の姿が自然であった頃は影響を顕著に受けていたことは間違い無いであろう。そういう川への畏敬、また自然災害に対する思い等から祭祀が行われたということが考えられる。

他にも色々考えられるが以上のような点を挙げてみた。

### 3. 八田地区3区の試掘による概況

八田地区3区では試掘の際に幅広い時代の遺物の出土がみられた。時代は縄文時代後期から新しくは近世までである。縄文時代、弥生時代、古墳時代...と現在との地形の差は、低地についてはある程度見られたようだが、やはり人々の生活の主となる場所は現在でも家屋が建っている、八田神母谷地区に沿っている丘陵地の小妻地区になるのではないだろうか。また出土遺物の中には人形あるいは岩偶とも思われるような石製品もありこれは祭祀の可能性も考えられる。

### 4. 八田地区の3遺跡の関連性

(八田奈呂遺跡・八田栃谷遺跡・八田神母谷遺跡の関係)

八田奈呂遺跡、八田栃谷遺跡、八田地区3区(八田神母谷遺跡)共にそれぞれ異なる特色を持つ隣接する遺跡である。各遺跡の立地場所に応じた内容があり、当時のそれぞれの役割といったようなものが見えてきた。周辺では過去にも幾つもの発見があり、時代により人々が場所を変えながら移り住んでいる状況というものも考えることができる。

報告書抄録

ふりがな	は た な ろ い せ き I							
書 名	八 田 奈 呂 遺 跡 I							
副 書 名	四国横断自動車道(伊野～須崎)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書							
シ リ ー ズ 番 号	第38集							
編 著 者 名	江 戸 秀 輝							
編 集 機 関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター							
所 在 地	〒783-0006 高知県南国市篠原南泉1437-1 TEL (0888-64-0671)							
発 行 年 月 日	1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 。 / 〃	東 経 。 / 〃	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市 町 村	遺跡番号					
は た な ろ 八田奈呂 い せ き 遺跡	こうちけん 高知県 あがわぐんい 吾川郡伊 のちようは た 野町八田 1464他	39381	320044	33° 30′ 57″	133° 27′ 00″	平成8年 1月 } 平成9年 5月	33,525m <sup>2</sup>	四国横断 自動車道 (伊野～ 須崎)建 設工事に 伴う事前 の発掘調 査
は た と ち だ に 八田栃谷 い せ き 遺跡	こうちけん 高知県 あがわぐんい 吾川郡伊 のちようは た 野町八田 1410他	39381	320043	33° 30′ 50″	133° 26′ 45″	平成7年 12月 } 平成8年 1月	425m <sup>2</sup>	
は た い げ 八田神母 だに い せ き 谷遺跡	こうちけん 高知県 あがわぐんい 吾川郡伊 のちようは た 野町八田 1161-1他	39381	320042	33° 30′ 45″	133° 26′ 37″	平成7年 9月 } 平成8年 12月 (3区試掘)	750m <sup>2</sup> (3区試掘)	
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特記事項			
八田奈呂遺跡	集 落	弥生時代 古代～ 近世	中世；掘立柱建物跡、 柱穴、土坑、溝状遺構、 道路状遺構 弥生時代；流路、土坑	弥生土器片、石器、 土師器、須恵器、 陶磁器、その他				
八田栃谷遺跡	祭 祀	弥生時代 ～近世	弥生時代～古墳時代祭 祀跡	弥生土器、土師器、 その他				
八田神母谷遺跡	集落・祭祀	縄文時代 ～近世	各時代の土坑・柱穴等 (試掘のため)	縄文土器、弥生土 器、石器、土師器、 須恵器、陶磁器、 その他				

## 八 田 奈 呂 遺 跡 Ⅰ

四国横断自動車道(伊野～須崎)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

---

1 9 9 9 年 3 月

発 行 (財)高知県文化財団埋蔵文化財センター  
高知県南国市篠原南泉1437-1  
Tel. 0888-64-0671

印 刷 (株) 飛 鳥  
高知市本宮町65-6  
Tel. 0888-50-0588